

とうぜんじ                      くろやま  
東禅寺・黒山遺跡

ひがしおおえん      かみとくだ  
(東大円・上徳田地区)

2003

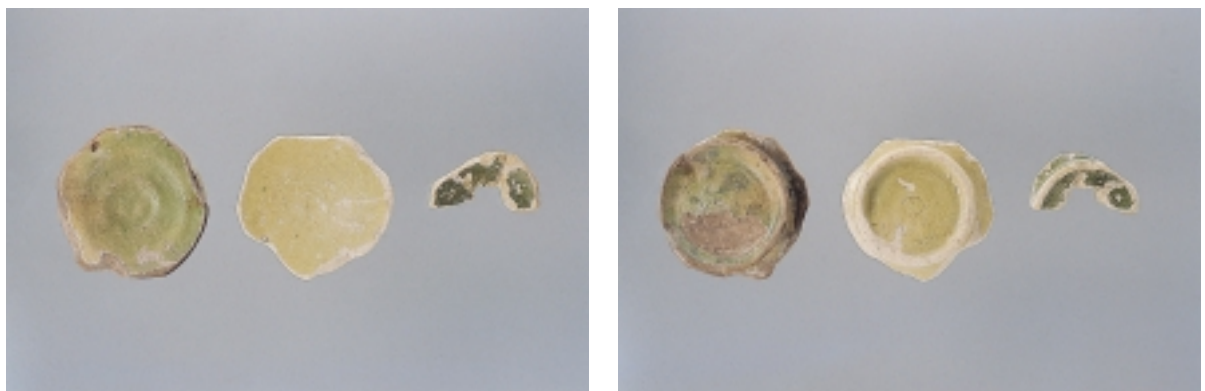
財団法人 山口県教育財団  
山口県埋蔵文化財センター



遺跡全景（東から）



出土した埋甕



出土した緑釉陶器（左 内面 右 外面）

## 序

東禅寺・黒山遺跡の所在する山口市鑄銭司地区には、国指定史跡となっ  
てい  
る古代の周防鑄銭司跡をはじめ、中世・近世の歴史を物語る遺跡が点在してい  
ます。

このたびの調査の結果、古代および中世・近世の集落跡が確認され、当時の  
人々の生活ぶりを示す遺構や遺物が見つかりました。古代の周防鑄銭司跡との  
つながりを示すような緑釉陶器などの関連資料が一部見つかるとともに、近世  
の埋甕遺構群は、集落遺跡からの出土としては県内有数の発見数であり、この  
遺跡を特徴づける資料となりました。

本書が、文化財保護に対する理解を深め、教育並びに学術研究の資料や郷土  
の歴史を学ぶ資料として、幅広く活用されることを願うものであります。

最後に、発掘調査の実施にあたり、ご指導・ご協力いただきました関係各位  
に対し、深くお礼申し上げます。

平成15年3月

財団法人山口県教育財団

理事長 牛見正彦

## 例 言

- 1 本書は、山口県山口市大字<sup>すぜんじ ひがしおえん</sup>鑄銭司<sup>かみとくだ</sup>東大円・上徳田<sup>とうぜんじ くるやま</sup>に所在する東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、一般県道山口秋穂線単独道路改良（ふるさと）工事に伴い、財団法人山口県教育財団が山口県山口土木建築事務所の委託を受け、実施したものである。
- 3 調査組織は、次の通りである。

調査主体	財団法人山口県教育財団	山口県埋蔵文化財センター
調査担当	指導主事 上山佳彦	
	指導主事 林修司	
	調査員 池山正	
- 4 調査にあたっては、山口県土木建築部道路建設課、山口県山口土木建築事務所、山口市教育委員会並びに地元関係各位から協力・援助を得た。
- 5 本書の第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「小郡」・「台道」を複製使用したものである。第2図は、山口県山口土木建築事務所提供の500分の1地形図を複製使用したものである。
- 6 本書に使用した方位は、国土座標（第3座標系）で示し、標高は海拔標高（m）である。
- 7 出土遺物のうち、石製品の石材（表面観察による）については、山口県立山口博物館専門学芸員亀谷敦氏の助言を得た。
- 8 本書に使用した土色の色調表記はMunsell方式による。

農林水産省農林水産技術会議事務局（監修）	『新版標準土色帖』
----------------------	-----------
- 9 図版中の遺物番号は、実測図の遺物番号と対応する。
- 10 出土遺物実測図中の土器の断面は、白抜きが土師器・瓦質土器・陶器、黒塗りが須恵器、粗く薄い網掛けが磁器を表す。また、内外面の密で濃い網掛けは緑釉陶器を表す。
- 11 本書で使用した遺構略号は、次の通りである。

S B：住居跡・建物跡	S K：土坑・埋甕遺構	S T：墓	S E：井戸
S D：溝状遺構	S P：柱穴		
- 12 本書の作成・執筆は、上山・林・池山が共同で行い、編集は上山が行った。なお、本文の執筆分担は、次のとおりである。

上山	- 1 ~ 2	池山	上山
林	- 3 ~ 9	林	上山

付篇 応用地質株式会社委託

# 本文目次

<b>遺跡の位置と環境</b> .....	1
1 地理的環境 .....	1
2 歴史的環境 .....	1
<b>調査の経緯と概要</b> .....	4
1 調査に至る経緯 .....	4
2 調査の経過と概要 .....	4
<b>遺 構</b> .....	11
1 掘立柱建物跡 .....	11
2 埋甕遺構 .....	20
3 土坑 .....	27
4 墓 .....	29
5 井戸 .....	30
6 溝状遺構 .....	30
7 柱穴 .....	32
8 粘土採掘坑 .....	32
9 遺物包含層 .....	33
<b>遺 物</b> .....	45
1 土器・陶磁器 .....	45
(1) 掘立柱建物跡出土遺物 .....	45
(2) 埋甕遺構出土遺物 .....	45
(3) 土坑出土遺物 .....	53
(4) 墓出土遺物 .....	55
(5) 井戸出土遺物 .....	55
(6) 溝状遺構出土遺物 .....	56
(7) 柱穴出土遺物 .....	58
(8) 遺物包含層出土遺物 .....	58
(9) 表面採集遺物 .....	61
2 土製品 .....	62
3 石製品 .....	62
4 金属製品(錢貨) .....	62
5 木製品 .....	62

<b>まとめ</b> .....	69
1 調査成果の概要 .....	69
2 遺構について .....	69
(1) 掘立柱建物跡 .....	69
(2) 溝状遺構 .....	69
(3) 井戸 .....	70
(4) 足鍋・茶釜の埋納遺構 .....	70
(5) 粘土採掘坑 .....	70
3 遺物について .....	71
(1) 土師器 .....	71
(2) 緑釉陶器 .....	71
(3) その他 .....	71
4 埋甕遺構について .....	72
(1) 東禅寺・黒山遺跡の埋甕遺構 .....	72
(2) 山口県内の中世・近世の埋甕遺構 .....	72
(3) 山口県内の中世・近世の埋甕型式分類および編年試案 .....	73
埋甕の型式分類 .....	73
年代観 .....	76
5 遺跡の歴史的変遷について .....	76
<b>付篇 東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）出土の植物遺体同定および土壌化学分析</b> .....	79
1 はじめに .....	79
2 分析試料 .....	79
3 分析方法 .....	80
4 分析結果 .....	81
5 考察 .....	84

# 図 版 目 次

巻頭図版 1 遺跡全景（東から）

巻頭図版 2 出土した埋嚢

出土した緑釉陶器（左 内面 右 外面）

- 図版 1 1 調査区遠景（南から）  
2 調査区遠景（南から）
- 図版 2 1 調査区全景  
2 1 地区全景
- 図版 3 1 1 A 地区遺構群  
2 1 B 地区遺構群
- 図版 4 1 2 地区全景  
2 2 C 地区遺構群
- 図版 5 1 A 地区掘立柱建物跡群
- 図版 6 1 2 C 地区掘立柱建物跡群（SB20、21、22）  
（北から）  
2 SB20完掘状況（北から）
- 図版 7 1 1 B 地区埋嚢群（北から）  
2 1 B 地区埋嚢群（西から）  
3 1 B 地区SK1441埋嚢出土状況（北から）  
4 1 B 地区SK1441埋嚢埋置状況（西から）  
5 1 A 地区SK1300埋嚢埋置状況（西から）  
6 1 A 地区SK1300埋嚢埋置状況（西から）  
7 1 B 地区SK1425埋嚢埋置状況（西から）  
8 1 A 地区SK1310埋嚢埋置状況（南から）
- 図版 8 1 1 A 地区SK1301埋嚢出土状況（北から）  
2 1 A 地区SK1301埋嚢埋置状況（東から）  
3 1 A 地区SK1306埋嚢出土状況（南から）  
4 1 A 地区SK1306埋嚢埋置状況（東から）  
5 1 B 地区SK1402埋嚢出土状況（南から）  
6 1 B 地区SK1402埋嚢埋置状況（北から）  
7 1 B 地区SK1418埋嚢出土状況（南から）  
8 1 B 地区SK1418埋嚢埋置状況（西から）
- 図版 9 1 1 B 地区SK1420埋嚢出土状況（北から）  
2 1 B 地区SK1420埋嚢埋置状況（北から）  
3 1 B 地区SK1426埋嚢出土状況（西から）  
4 1 B 地区SK1426埋嚢埋置状況（北から）  
5 1 B 地区SK1492埋嚢出土状況（南から）  
6 1 B 地区SK1492埋嚢埋置状況（南から）  
7 1 B 地区SK1530埋嚢出土状況（南から）  
8 1 B 地区SK1530埋嚢埋置状況（南から）
- 図版 10 1 1 A 地区SK1289埋嚢埋置状況（北から）  
2 1 B 地区SK1419遺物出土状況（北から）  
3 1 B 地区SK1453遺物出土状況（北から）  
4 1 B 地区SK1506遺物出土状況（北から）  
5 1 B 地区SK1620遺物出土状況（南から）  
6 1 B 地区SK1620風呂釜出土状況（西から）  
7 1 A 地区SK1319遺物出土状況（南から）  
8 1 B 地区ST1400遺物出土状況（北から）
- 図版 11 1 1 A 地区SE1186遺物出土状況（南から）  
2 1 A 地区SE1186完掘状況（西から）  
3 1 B 地区SE1403木杭出土状況（西から）
- 4 1 B 地区SE1403完掘状況（南から）  
5 1 A 地区SD1473完掘状況（西から）  
6 1 B 地区SD1473完掘状況（東から）  
7 1 B 地区SD1411完掘状況（北から）  
8 1 B 地区SD1411石積み遺構検出状況（西から）
- 図版 12 1 1 A 地区SP1136遺物出土状況（北から）  
2 1 A 地区SP1075遺物出土状況（北から）  
3 1 B 地区SP1479遺物出土状況（南から）  
4 1 B 地区SP1389遺物出土状況（南から）  
5 2 C 地区SP2112遺物出土状況（西から）  
6 2 C 地区SP2136遺物出土状況（北から）  
7 2 C 地区粘土採掘坑 5 トレンチ確認状況（北から）  
8 2 C 地区粘土採掘坑 2 トレンチ確認状況（東から）
- 図版 13 1 1 B 地区南側遺物包含層掘り込み状況（東から）  
2 1 B 地区南側遺物包含層土層断面(東から)  
3 1 B 地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）  
4 1 B 地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）
- 図版 14 1 2 C 地区南側遺物包含層掘り込み状況（南から）  
2 2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）  
3 2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況（西から）  
4 2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）  
5 2 C 地区南側遺物包含層遺物出土状況（南から）
- 図版 15 埋嚢遺構出土遺物（上 SK1418 下 SK1492）  
図版 16 埋嚢遺構出土遺物（上 SK1420 下 SK1441）  
図版 17 埋嚢遺構出土遺物（上 SK1301 下 SK1426）  
図版 18 埋嚢遺構出土遺物  
図版 19 埋嚢遺構出土遺物  
図版 20 埋嚢遺構出土遺物・土坑出土遺物  
図版 21 墓・井戸・溝状遺構出土遺物  
図版 22 掘立柱建物跡・柱穴出土遺物  
図版 23 1 B 地区南側遺物包含層出土遺物  
図版 24 2 C 地区南側遺物包含層出土遺物  
図版 25 2 A 地区第 1 面掘り下げ層出土遺物・表面採集遺物・土製品  
図版 26 石製品・金属製品（銅銭）・木製品



## 挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	第24図	埋甕遺構出土遺物実測図
第2図	調査区設定図	第25図	埋甕遺構出土遺物実測図
第3図	遺構配置図(1地区)	第26図	埋甕遺構出土遺物実測図
第4図	遺構配置図(2地区)	第27図	埋甕遺構出土遺物実測図
第5図	掘立柱建物跡実測図	第28図	埋甕遺構出土遺物実測図
第6図	掘立柱建物跡実測図	第29図	埋甕遺構出土遺物実測図
第7図	掘立柱建物跡実測図	第30図	埋甕遺構出土遺物実測図
第8図	掘立柱建物跡実測図	第31図	埋甕遺構出土遺物実測図
第9図	掘立柱建物跡実測図	第32図	土坑出土遺物実測図
第10図	掘立柱建物跡実測図	第33図	墓出土遺物実測図
第11図	埋甕遺構実測図	第34図	井戸出土遺物実測図
第12図	埋甕遺構実測図	第35図	溝状遺構出土遺物実測図
第13図	埋甕遺構実測図	第36図	柱穴出土遺物実測図
第14図	埋甕遺構実測図	第37図	1 B地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第15図	埋甕遺構実測図	第38図	1 B地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第16図	土坑実測図	第39図	2 C地区南側遺物包含層出土遺物実測図
第17図	墓実測図	第40図	2 A地区第1面掘り下げ層出土遺物実測図
第18図	井戸実測図	第41図	表面採集遺物実測図
第19図	溝状遺構土層断面図	第42図	土製品実測図
第20図	柱穴実測図	第43図	石製品実測図
第21図	粘土採掘坑土層断面図	第44図	銭貨拓本
第22図	遺物包含層土層断面図	第45図	木製品実測図
第23図	掘立柱建物跡出土遺物実測図	第46図	山口県内の中世・近世の埋甕型式分類および編年試案

## 表 目 次

第1表	掘立柱建物跡一覧表
第2表	埋甕遺構一覧表
第3表	遺構一覧表
第4表	遺物観察一覧表
第5表	山口県内の中世・近世の埋甕遺構検出遺跡一覧表

# 遺跡の位置と環境

## 1 地理的環境

東禅寺・黒山遺跡は、山口市大字鑄銭司字東大円・上徳田に所在する。鑄銭司地区は、山口市の南東部にあり、黒河内山（標高424.4m）を中心とする山口山地が北から東に、福西山（標高約252m）をはじめとする秋穂山地が南に連なり、三方を山に囲まれている。これらの山々から中央部に向かっていくつもの低い洪積台地が段丘状に延びている。中央部には、陶地区から続く吉南平野と小河川が形成した沖積低地が広がっている。また、東部には慶安4年（1651年）頃に築造された鑄銭司地区最大の溜池である長沢池がひかえている。

山口山地の山麓には小丘陵が延び、それらが形成する谷に沿って3小河川が南西方向に走っている。東から高橋川、金毛川、綾木川と呼ばれ、これら河川が山麓から南方向に扇状地を形成しながら南流している。3河川は合流しながら南若川となって山口湾に注いでいる。

遺跡は、高橋川の北側、黒山から西側に張り出した標高10数mの丘陵の南麓とさらに南側の低地部に位置している。調査区は2地区に分かれ、標高9m前後の丘陵突端部（1地区）と標高8m余の低地部（2地区）に立地している。古代・中世には、標高6～7mあたりが海岸線であったと推定されており、遺跡の南側はかつて海岸に面していたものと考えられる。

現在では、遺跡の南側に国道2号と山陽本線が並行して走り、北側の山麓には山陽新幹線と山陽自動車道が東西に貫通している。また、国道2号（四辻バイパス）が高架化され、山陽自動車道の山口南インターチェンジも隣接し、工業団地が立地するなどかつて山陽道の宿駅として栄えた交通の要衝であった面影を彷彿とさせるかのように、現在の田園地帯の景観も様変わりしつつある。

## 2 歴史的環境

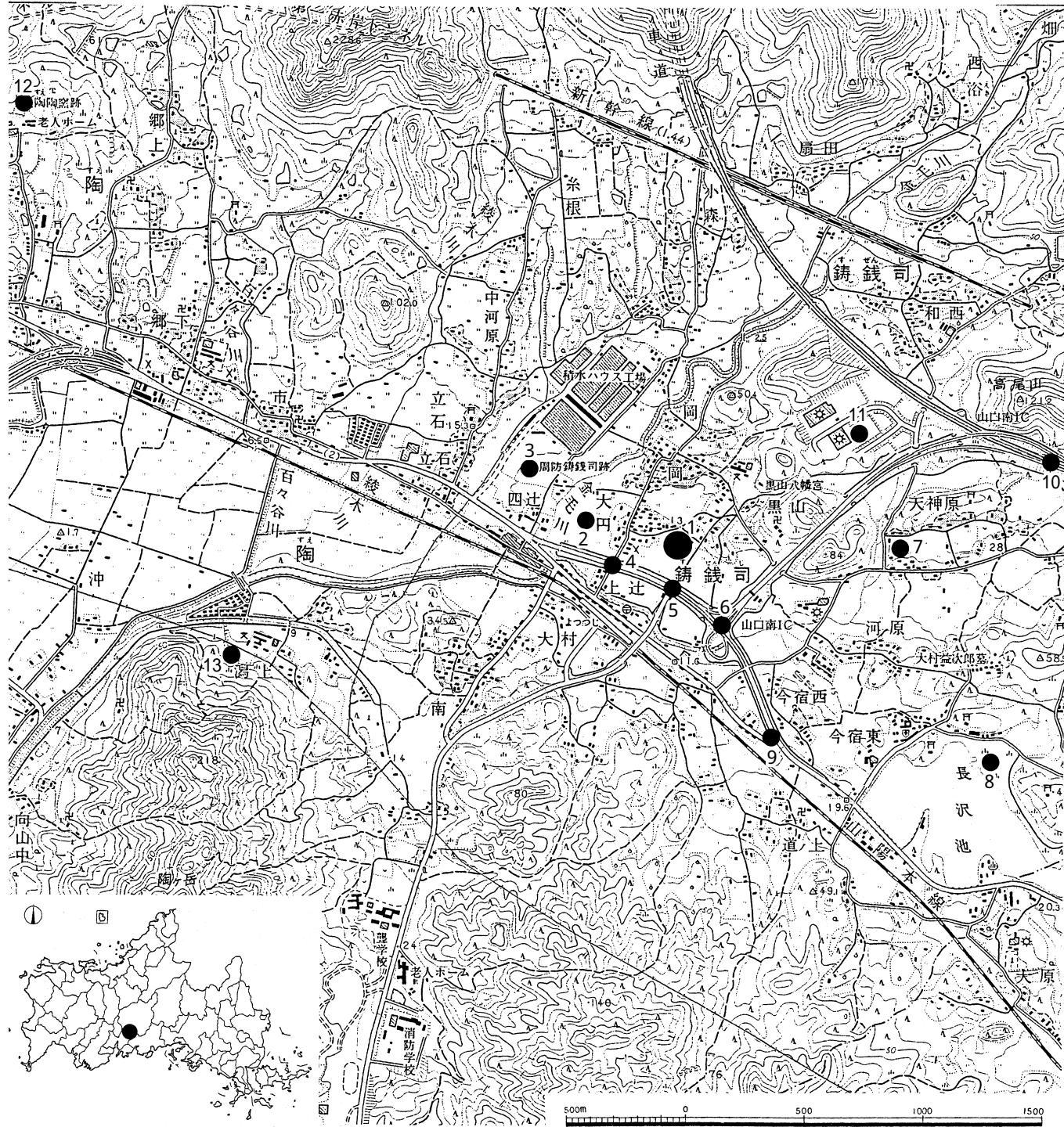
周辺の旧石器・縄文時代の遺跡としては、長沢池遺跡が知られ、縄文土器や石鏃・石斧などの遺物が表面採集されているが、詳細は不明である。

弥生・古墳時代の遺跡は少なく、古墳は見つかっていない。これは大きな河川もなく自然灌漑による水田化が困難であり、耕地化が遅れたためと考えられる。

古代には、山口県域は西の長門国と東の周防国の2か国からなり、周防国はさらに6郡に分けられていた。このうち鑄銭司地区は吉敷郡に属し、隣の陶地区とともに八千郷の領域に入っていた。

鑄銭司とは、和同開珎から乾元大宝に至る皇朝十二銭を鑄造した官司である。はじめは、天平2年（730年）に長門に鑄銭司が置かれた。その後、天長2年（825年）に長門国の鑄銭司は周防国に移され、庁所は陶地区築地字地家一帯の台地上に、工房は字大畠の綾木川と金毛川に挟まれた沖積段丘上に設置された。庁所は承和14年（847年）には湯上山に移された。周防鑄銭司では9世紀から11世紀まで200年以上にわたり8種類の銭貨鑄造が行われた。字大畠の地は、発掘調査を経て、昭和48年に「周防鑄銭司跡」として国史跡に指定された。

国指定史跡の北側、綾木川の対岸に位置する八ヶ坪遺跡では、古代から中世にかけての掘立柱建物跡・焼土坑が確認され、緑釉陶器・墨書土器・木簡などが出土している。近くの下系根遺跡では古代から中世にかけての遺物と掘立柱建物跡や墓等の遺構が検出されている。



- 1 東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）    2 東禅寺・黒山遺跡（南若川河川改修に伴う）
- 3 周防鑄銭司跡    4 上辻遺跡    5 大歳遺跡    6 今宿西遺跡    7 今宿東遺跡
- 8 長沢池遺跡    9 天神原遺跡    10 弥市原遺跡    11 桐ヶ浴・尾口山遺跡
- 12 陶窯跡    13 渦上遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

金毛川の東に広がる東禅寺・黒山遺跡（南若川河川修築事業に伴う発掘調査）では、掘立柱建物跡・井戸・土坑が検出され、緑釉陶器や窯道具の三叉トチンが見つかり、緑釉陶器がこの地で生産された可能性が高いと考えられている。今宿遺跡も周防鑄銭司に伴って営まれ始めた集落と考えられる。西隣には、奈良時代から平安時代にかけて須恵器の生産が盛んに行われた陶古窯跡群が広がっている。このように、古代の陶・鑄銭司地区は、一大工業地帯ともいべき状況にあったといえる。

中世になると、地方有力者により本格的に水田開発が進められていった。大内氏の台頭とともに、この地区は渦上荘に属したと考えられている。大内氏の時代、外港として利用された秋穂浦と拠点山口を結ぶ秋穂街道の往来が盛んとなり、山陽道との交差点であった四辻周辺はにぎわいを見せたといわれている。遺跡の近くには1470年代に大内政弘によって創建された顕孝院がかつて所在していたが、天明元年（1781年）に、鑄銭司大円から鑄銭司黒山地区に移ったと伝えられている。遺跡の北東には、鑄造に関わる黒山神を祀る黒山八幡宮が鎮座している。

この地区周辺の中世遺跡は、国道2号バイパスの建設やほ場整備などによる発掘調査によって明らかになっている。東禅寺・黒山遺跡や今宿遺跡のように低地の微高地上に立地するものと弥市原遺跡、桐ヶ浴・尾口山遺跡のように丘陵上に立地するものがある。中世の鑄銭司地区は、街道沿いの低地部の集落が耕地の拡大に伴って発展し、丘陵部でも集落が見られるようになり、一大工業地帯から農村地帯へと変遷を遂げていった時期といえる。また、平安時代から鎌倉・室町時代へと時代が下るにつれて、集落が「西から東へ、低地から微高地へ」と移動する変遷が、これまでの発掘調査によって明らかになってきている。これは、灌漑技術の向上によって低地の耕地化が進められ、より高地へと住居が移って行ったことが原因と考えられている。

近世には、毛利氏の支配下に入り、吉敷郡の小郡宰判に属して萩藩の直轄領となった。この時期、長沢池をはじめとする用水路が整えられ、水田が拡大していった。享保13年（1728年）の『地下上申絵図』によると、この地区では、集落は段丘上や山陽道沿いに集中していて、低地部は水田となっていた。これは、藩の防長三白政策（米・塩・和紙）に伴う耕地化拡大などに起因すると考えられる。このように鑄銭司地区一帯は、近世には農村集落としての性格がより一層強まっていったものと見られる。また、『風土注進案』によると、幕末の鑄銭司地区では、農業を主力産業としつつ土器・瓦・焼物などを作り販売していたという記述があり、良質な粘土採掘と燃料の木材確保という恵まれた立地条件が反映されていたものと考えられる。

近代になると、鑄銭司地区は幾多の行政区画と呼称の変更を繰り返す。明治3年に鑄銭司村から陶村と名田島村が独立し、綾木川を境に西側の陶地区と東側の鑄銭司地区に区分され、現在に続く行政区区分上の基礎が築かれた。明治4年には版籍奉還によって小郡宰判から吉敷郡に属することになった。明治12年の郡区町村編成施行時に再び鑄銭司村となり、昭和31年には山口市と合併し、山口市大字鑄銭司として今日に至っている。

（参考文献）

- 1 山口市教育委員会 『山口市内遺跡詳細分布調査 鑄銭司地区』 2000年
- 2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禅寺・黒山遺跡 . . . . .』 1996、1997、1998、1999、2000年
- 3 山口県教育委員会文化課・山口県埋蔵文化財センター 『上辻・鑄銭司・今宿西遺跡』 1984年
- 4 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 5 山口市史編纂委員会 『山口市史』 1982年

## 調査の経緯と概要

### 1 調査に至る経緯

一般県道山口秋穂線単独道路改良（ふるさと）工事に先立ち、山口県教育委員会は、平成10年度に埋蔵文化財の有無について、事前の試掘調査を行った。その結果、遺跡の埋存が確認されたため、関係機関と協議を行い、現状保存が困難な鑄銭司地内（東大円・上徳田地区）の3,100㎡の地域について、発掘調査を行うことになった。調査は、山口県山口土木建築事務所の委託により、財団法人山口県教育財団が実施することになった。

### 2 調査の経過と概要

平成14年4月上旬に、発掘調査を始めるにあたって、山口県山口土木建築事務所等、関係機関と綿密な打ち合わせを行うとともに、近隣の小中学校・警察署・消防署等に安全確保のための理解と協力を要請した。また、調査区の確認や事務所用地の借地契約、業者との打ち合わせ等諸準備をすませ、発掘調査の日程的な計画を立てた。

調査区は、大きく2つの地区に分かれていたが、北側のやや標高の高い地区を1地区、南側の低い地区を2地区とした。それぞれ農道等で分断されていることから、1地区の中を1A、1Bに、2地区の中を2A、2B、2Cと便宜上分けて本格的な発掘調査を開始した。

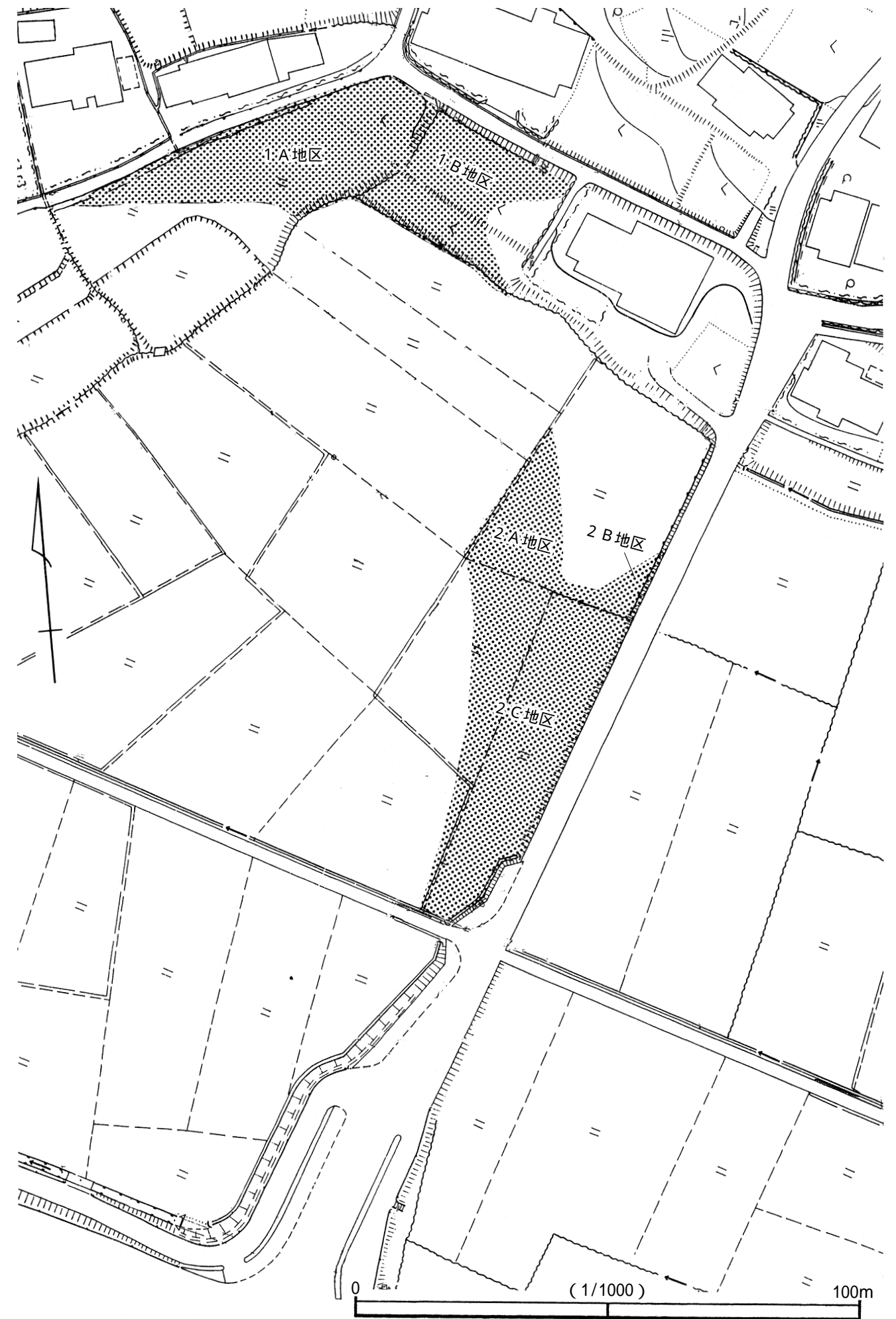
5月上旬から重機による表土除去を開始し、表土除去が終了した地区から遺構検出作業を行っていた。特に2地区の遺構検出では、遺構面の土が粘土質で、好天が続くと非常に固くなるので、こまめに撒水しながら進めていった。その結果、1地区には、東西・南北に溝状遺構が走り、北から南にかけて地山面が傾斜していた。高い所に遺構が密集し、低い所に遺物包含層があることがわかった。また、2地区の方は、ほぼ平坦面をなし、遺構の密度はやや希薄であった。南側には遺物包含層があり、粘土採掘坑と考えられるものも検出された。一方、遺構検出作業と並行して、調査区の周りに土嚢を積み上げ、土砂の流出を防いだり、転落事故の未然防止のために、道路と調査区の間には杭を打ちロープを張ったりする防災作業も行った。

5月27日～30日にかけて、国土座標杭設置業務を業者委託し、その後、調査員による平板測量を行った。掘り込み作業は、2地区遺物包含層から着手した。その結果、2地区の遺物包含層については、かつて河川の流路であった可能性も考えられた。続いて、遺構密度が高い1地区の掘り込みを展開していった。1地区には、柱穴・土坑とともに近世の埋甕遺構や埋甕の抜き穴と考えられる遺構が多数あった。

埋甕遺構の掘り込みには、特に細心の注意を払い、根気強く調査にあたった。埋甕の中には、打ち砕かれ廃棄された埋甕の破片や石が積み重なっていることが多かった。一つずつ破片を丁寧に上げていき埋甕内面を露出させ、さらに、埋甕を取り外し掘り方を確認の上、完掘した。各段階で出土状況について、図面と写真による記録を行った。作業員の中には発掘経験者も多く、手際よく丁寧に作業が



重機による表土除去作業



第2図 調査区設定図

進み、時として遺構実測のスピードが追いつかないこともあった。

6月中旬までは、順調に掘り込みが進み、1A地区と1B地区に井戸も見つかり、遺跡の全体像も明らかになってきた。6月下旬に入って、梅雨の影響で雨天の日が増えた。ひとたび雨が降ると調査区の低い所に水がたまり、2地区は完全に冠水することもあったので、農業用水路へ一度に大量の泥水が流れ込まないように配慮しながら、ポンプで水を汲み上げた。しかし、梅雨の期間が短かったこともあって、ほぼ予定通りに作業は進んでいった。



遺構掘り込み作業

7月中旬には、掘り込みもほぼ終了した。その結果、1、2地区ともに掘立柱建物跡が確認され、1地区は、中世・近世の集落跡、2地区は、古代の集落跡であることがわかった。

そして、7月25日に空中写真撮影を行い、7月27日には、現地説明会を実施した。現地説明会には、地元の方々を中心に70名を越える参加者があった。熱心に説明に耳を傾け、遺物や遺構を見学していただき、遺跡に対する関心の高さがうかがえた。



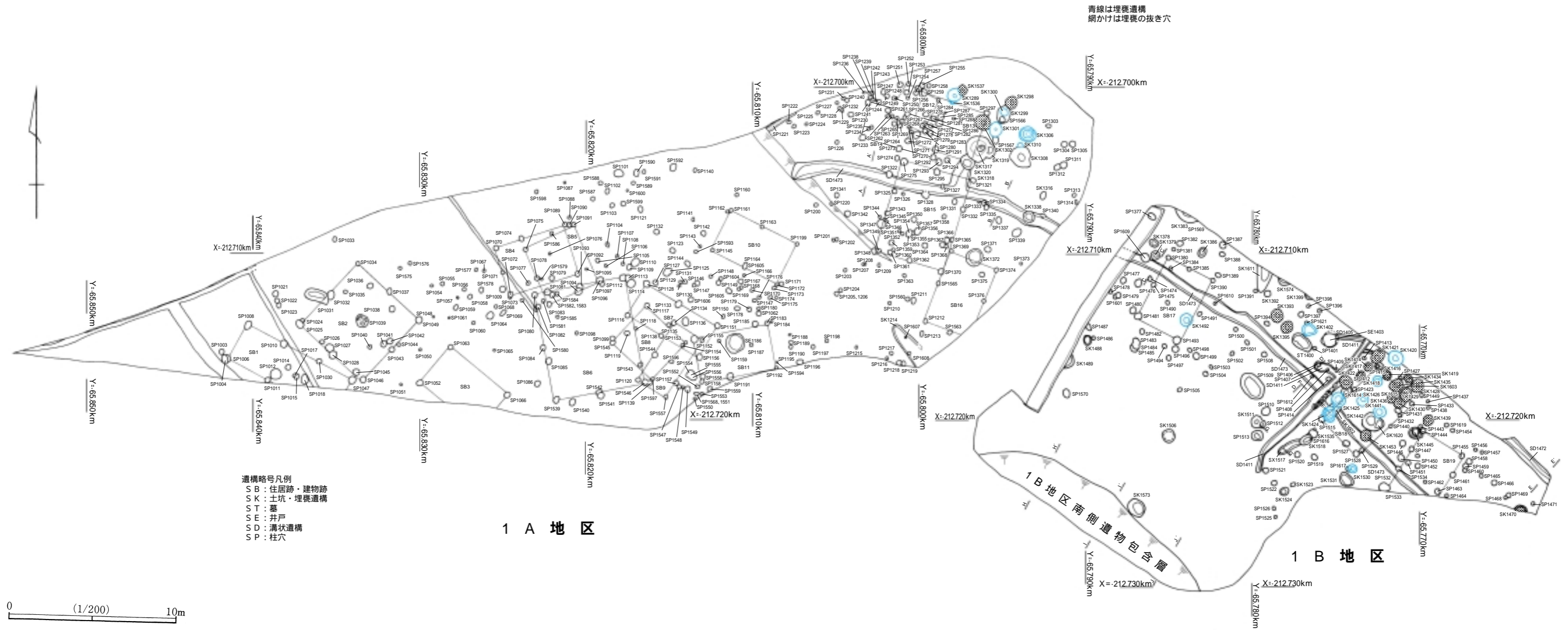
空中写真撮影

その後、完掘状況のグリッド実測を行った。1地区については、最下層の地山面が露出していなかったため、確認のため人力によるトレンチ調査を行った。重機で地山面まで掘り下げた。さらに、2A地区については、第1遺構面の下層に黒灰色粘質土がうすく堆積していたので、人力によるトレンチ調査で層序を確認し、一部、地山面まで掘り下げた。7月下旬からの猛暑では、作業員の方々の健康面への影響が心配されたので、休憩の回数を増やしたりして作業を進め、8月下旬には、掘り込みを終了した。そして、9月初旬に、現地確認の上、図面整理等も済ませ、すべての現地調査を完了した。

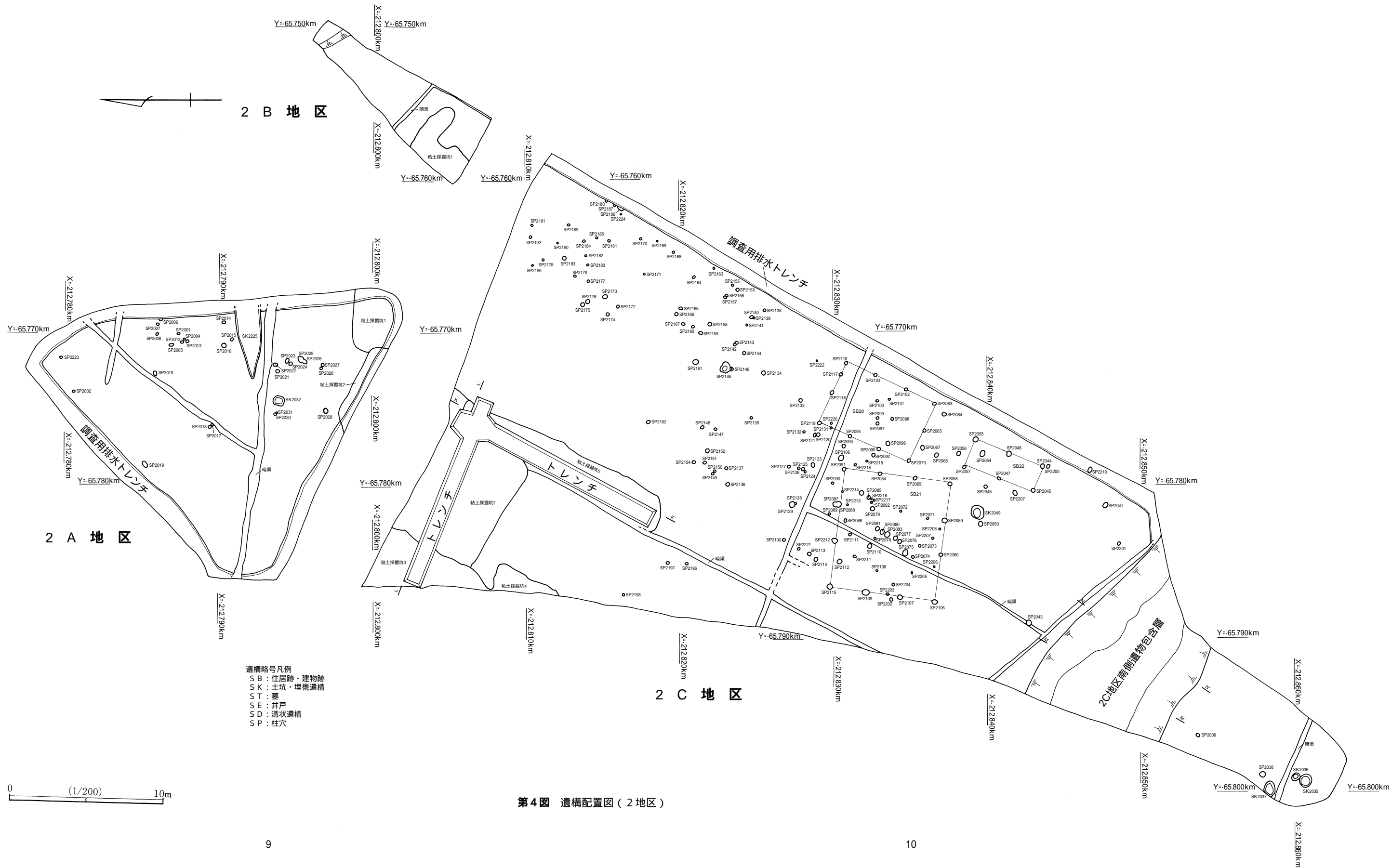
その後、山口県埋蔵文化財センターにおいて、出土遺物の洗浄・復元と実測、遺物の写真撮影を行い、資料を整理し、この報告書を刊行した。



現地説明会



第3図 遺構配置図(1地区)



## 遺 構

今回の発掘調査で検出された主な遺構は、掘立柱建物跡22棟、埋甕遺構34基、土坑41基、墓1基、井戸2基、溝状遺構6条、柱穴約700個、粘土採掘坑5基である。これらは、出土遺物などから見て、古代及び中世・近世の遺構である。特に、近世の埋甕遺構の検出数は15基（埋甕抜き穴を19基を合わせると34基）にもおよび、県内の集落遺跡の中では有数の出土数となる。

低地部（2地区）では、古代（平安時代）から中世（鎌倉時代）にかけての時期の遺構が広がり、丘陵部突端（1地区）では、中世（室町時代）から近世（江戸時代）にかけての時期の遺構が分布している。遺構の密度は1地区では後世の水田開発による削平などもあって希薄であるが、2地区では比較的密集度が高い。

### 1 掘立柱建物跡（第5～10図、図版5・6）

今回の調査で多数の柱穴が検出され、その中から掘立柱建物跡が22棟復元できた。調査区端のため一部しか確認調査できないものも含まれている。掘立柱建物跡は1A地区、1B地区、2C地区で検出された。特に1A地区で建物跡が集中している。棟方向を見ると規則性が見うけられ、北東を向くタイプ（SB9・15・16・17・18・19）、北西を向くタイプ（SB1・2・3・5・6・7など）、東西を向くタイプ（SB4・11）の3つに分類できる。北東を向くタイプのものは1地区の東側の地域に所在し、北西を向くタイプと東西を向くタイプのものは、SD1473の北側の地域と1A地区の西側の地域に位置している。1地区と2地区を比較すると1地区では1間×1間など住居プランが小規模なものが多数を占めるのに対し、2C地区では3間×3間など規模が大きい。1地区は中・近世の掘立柱建物跡、2C地区は古代の掘立柱建物跡と推定される。

**SB1（第5図、図版5）** 1A地区西側に所在する。規模は3間×1間としているが、調査区境にあるため、3間×2間などの可能性もある。棟方向はN61°E。柱間の平均は桁行2.40m、梁行2.36m。柱穴の規模は直径28～52cm、深さ16～80cm。柱穴から土師器が出土しているが、明確な時期は不明。

**SB2（第5図、図版5）** 1A地区西側に所在し、SB1に隣接する。規模は、2間×2間の総柱建物である。棟方向はN42°W。柱間の平均は桁行2.54m、梁行2.46mで正方形に近い。面積は約25㎡。柱穴の規模は直径28～50cm、深さ24～88cm。柱穴から土師器が出土しているが、明確な時期は不明である。

**SB3（第5図、図版5）** 1A地区西側に所在する。規模は1間×1間だが、これも調査区境にあるため本来のプランは異なるかもしれない。棟方向はN51°E。柱間の平均は桁行4.48m、梁行2.80m。柱穴の規模は直径32～38cm、深さ48～72cm。柱穴から土師器皿（1）、陶器碗（2）が出土。この建物は近世に比定される。

**SB4（第6図、図版5）** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB5と位置が重なる。規模は2間×2間。棟方向はN73°W。柱間は桁行1.64m、2.76mで、棟方向西側の間隔が狭い。梁行の柱間の平均は1.56mである。柱穴の規模は直径22～32cm、深さ16～56cm。柱穴より瓦質土器、土師器皿が出土。この建物は中世に比定される。



**SB 5 (第6図、図版5)** 1A地区中央部に所在し、異なる時期のSB 4、SB 6と重なった位置にある。1つの柱穴は検出されなかった。規模は、2間×1間。棟方向はN22°E。柱間の平均は桁行1.86m、梁行1.72m。柱穴の規模は直径24~42cm、深さ16~40cm。柱穴から土師器杯(6)、瓦質土器鍋(7)、足鍋(8)が出土している。この建物は中世に比定される。

**SB 6 (第6図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB 5、SB 7、SB 8、SB 9と重なり合う位置にある。1地区最大の建物である。規模は、2間×2間、棟方向N11°E。柱間の平均は桁行3.18m、梁行2.8m。柱穴の規模は直径18~42cm、深さ16~56cm。柱穴より土師器皿(3)、杯(4)、青磁碗(5)が出土している。この建物は中世に比定される。

**SB 7 (第7図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB 6、SB 8、SB 9、SB 11と重なり合う位置にある。細長い建物である。棟方向西側の間隔がやや狭い。規模は2間×1間。棟方向はN60°E。柱間の平均は桁行2.5m、梁行1.12m。柱穴の規模直径30~46cm、深さ24~64cm。建物の時期は不明である。

**SB 8 (第7図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB 6、SB 7、SB 9と重なり合う位置にある。規模は1間×1間。小屋のようなものと考えられる。棟方向はN44°E。柱間の平均は桁行3.32m、梁行3.08mで正方形に近い。柱穴の規模は直径22~38cm、深さ24~80cm。建物の時期は不明である。

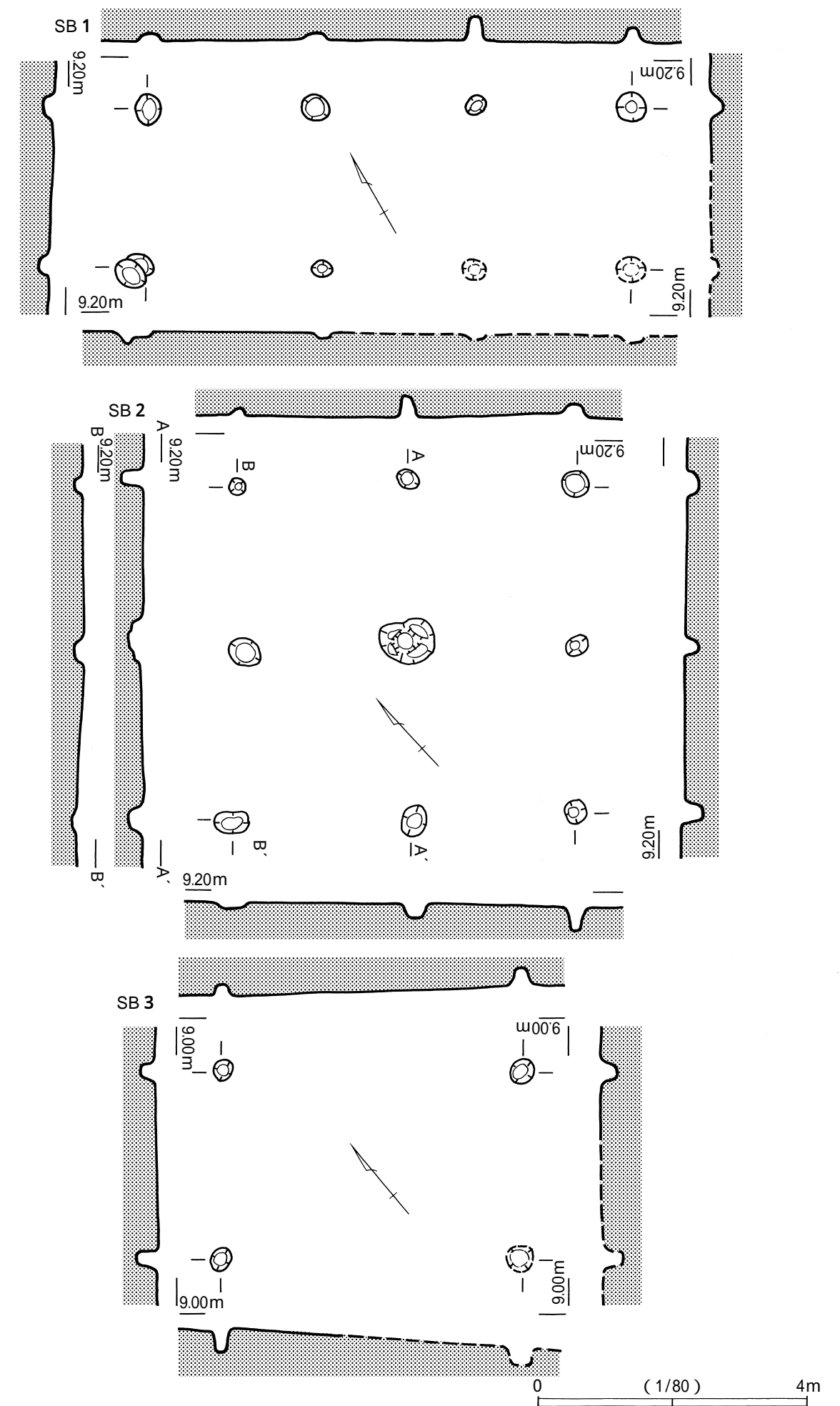
**SB 9 (第7図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB 6、SB 7、SB 8、SB 11と重なり合う位置にある。西側の棟方向の柱穴のひとつは確認されていない。規模は2間×1間。棟方向はN32°W。柱間の平均は桁行2.04m、梁行2m。柱穴の規模は直径26~34cm、深さ16~56cm。建物の時期は不明である。

**SB 11 (第7図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。異なる時期のSB 7、9と位置が重なる。規模は1間×1間。建物内にはSE 1186が含まれるが、井戸に伴うものであるかどうかは不明である。棟方向はN76°W。柱間の平均は桁行4.60m、梁行2.72m。柱穴の規模は直径20~44cm、深さ24~40cm。建物の時期は不明である。

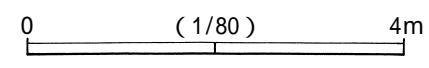
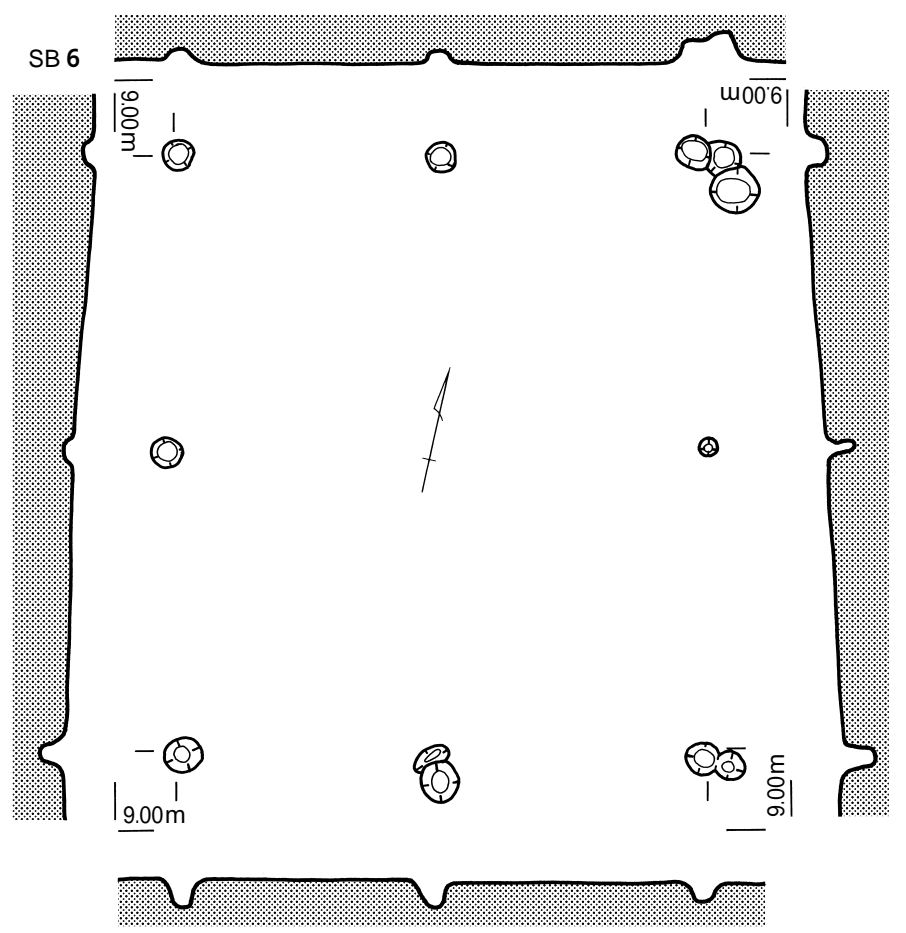
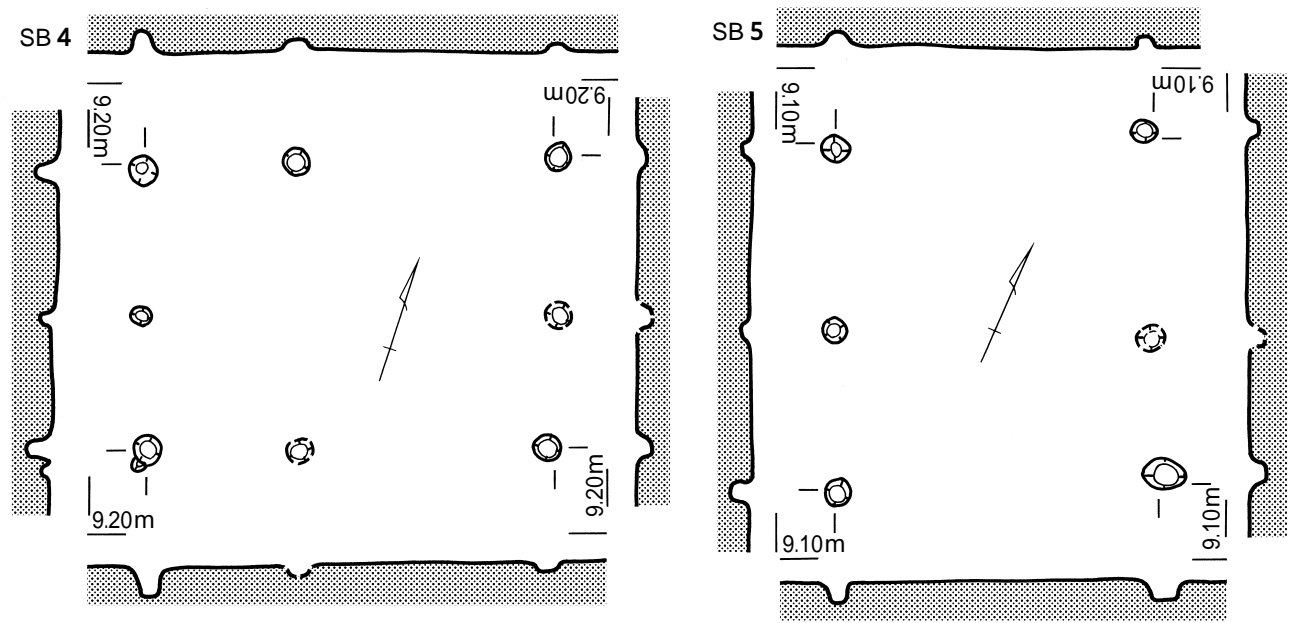
**SB 10 (第7図、図版5)** 1A地区中央部に所在する。規模は2間×1間。棟方向はN63°E。柱間の平均は桁行2.24m、梁行2.64m。柱穴の規模は直径22~30cm、深さ24~40cm。柱穴より土師器皿が出土。SB 7、SB 10は棟方向、規模、面積など共通する点があり、同時期ないしは同様の機能を持つ建物と考えられる。建物の時期は不明である。

**SB 14 (第8図、図版5)** 1A地区東側に所在する。この地区は当遺跡で最も標高が高い。異なる時期のSB 12、SB 13と位置が重なる。規模は2間×1間である。棟方向はN75°E。柱間の平均は桁行2.22m、梁行2.16m。棟方向東側の間隔がやや狭い。柱穴の規模は直径28~32cm、深さ16~64cm。建物の時期は不明である。

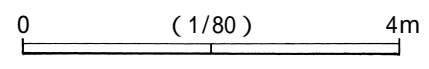
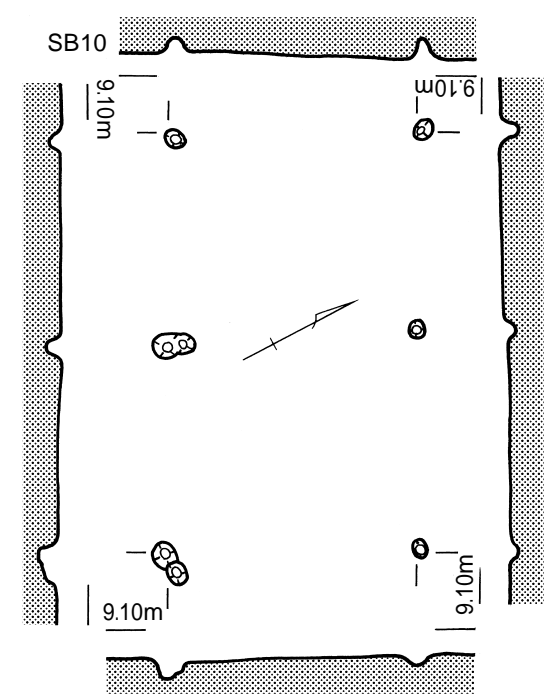
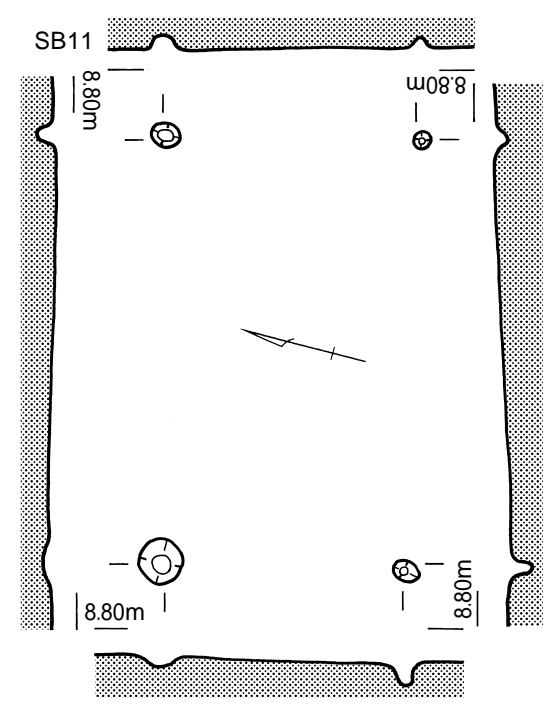
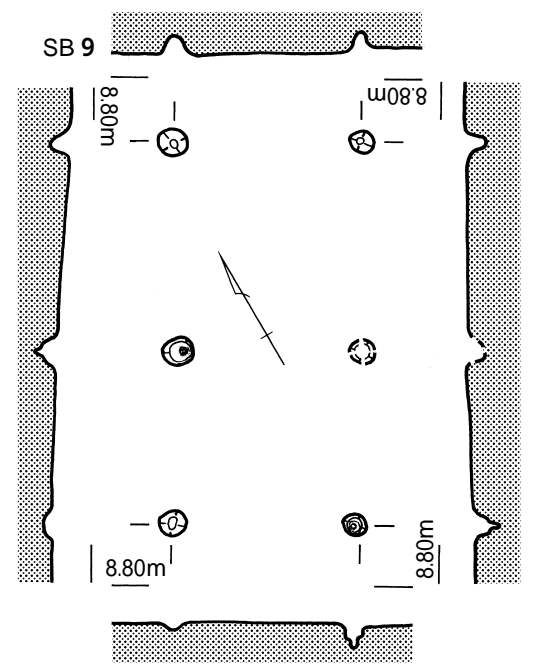
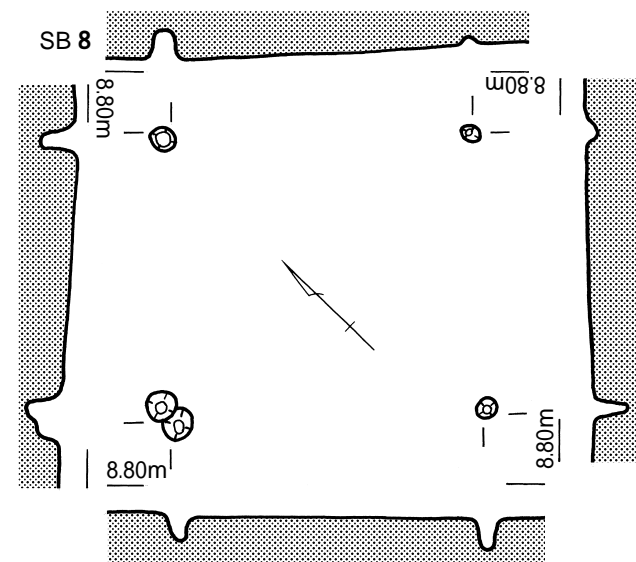
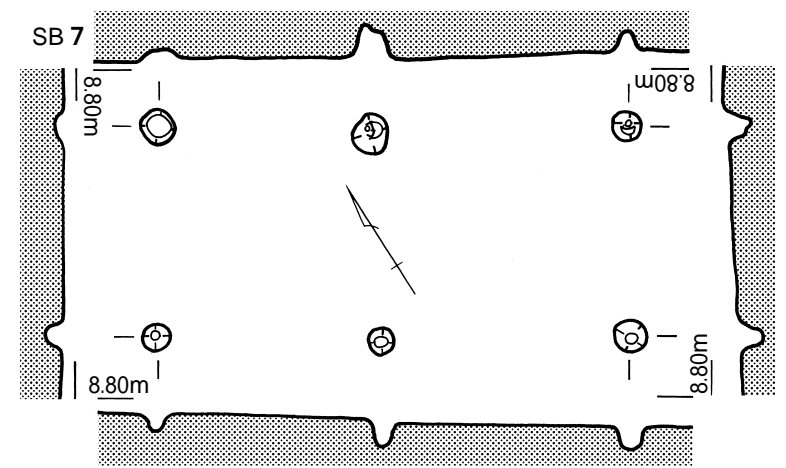
**SB 12 (第8図、図版5)** 1A地区東側に所在する。異なる時期のSB 13、SB 14と位置が重なる。今回の調査で最小規模の建物であり、面積は約5㎡である。小屋のようなものと考えられる。規模は1間×1間。棟方向はN66°E。柱間の平均は桁行2.48m、梁行2.00m。柱穴の規模は直径22~28cm、深さ24~72cm。建物の時期は不明である。



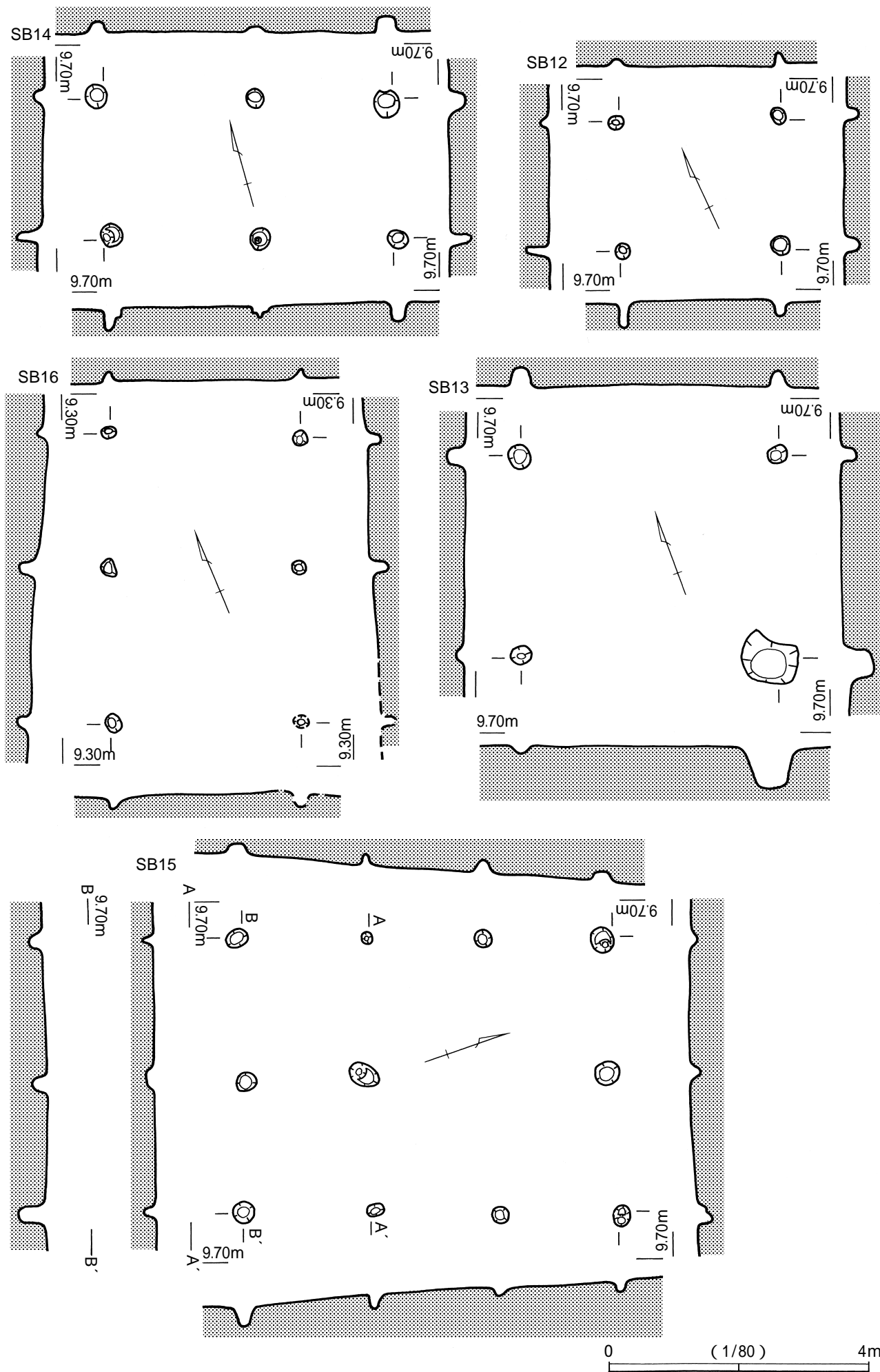
第5図 掘立柱建物跡実測図



第6图 掘立柱建物跡実測図



第7图 掘立柱建物跡実測図



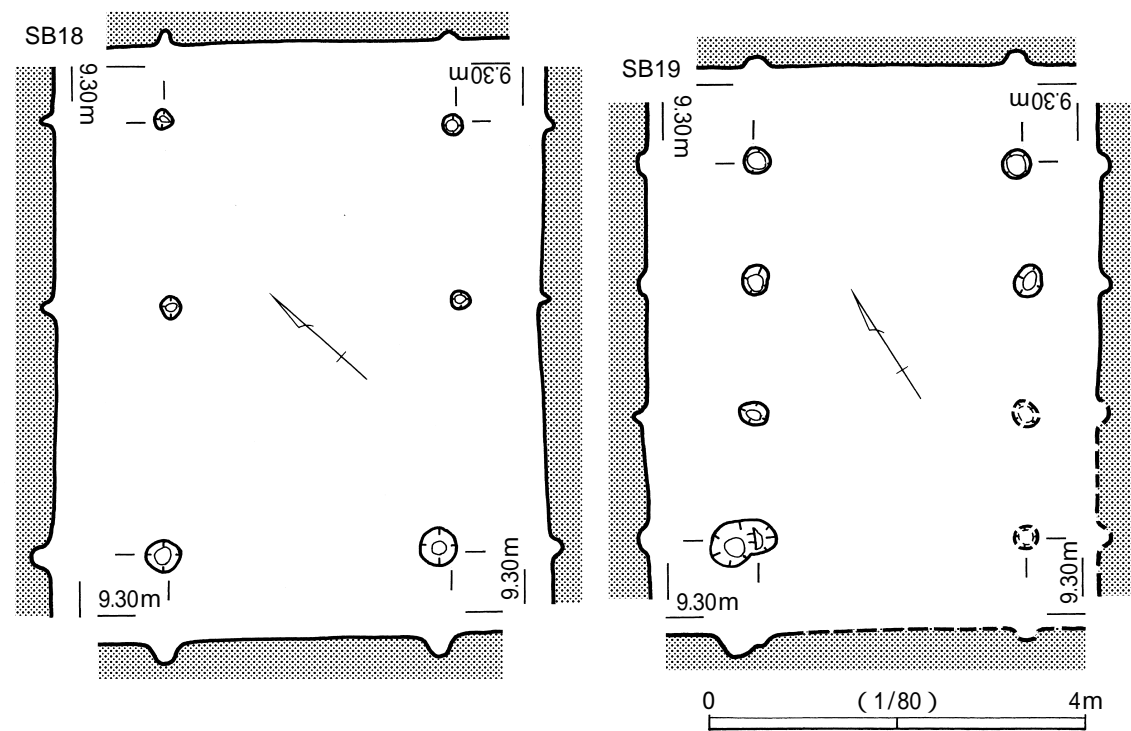
第8図 掘立柱建物跡実測図

**SB16 (第8図、図版5)** 1A地区東側に所在する。南東隅の柱穴は調査区外にあると想定される。SB15とほぼ同じ棟方向である。規模は2間×1間。棟方向はN20°W。柱間の平均は桁行2.24m、梁行2.92m。北側の桁の柱穴間隔が狭い。柱穴の規模は直径22~30cm、深さ40~48cm。この建物の時期は不明である。

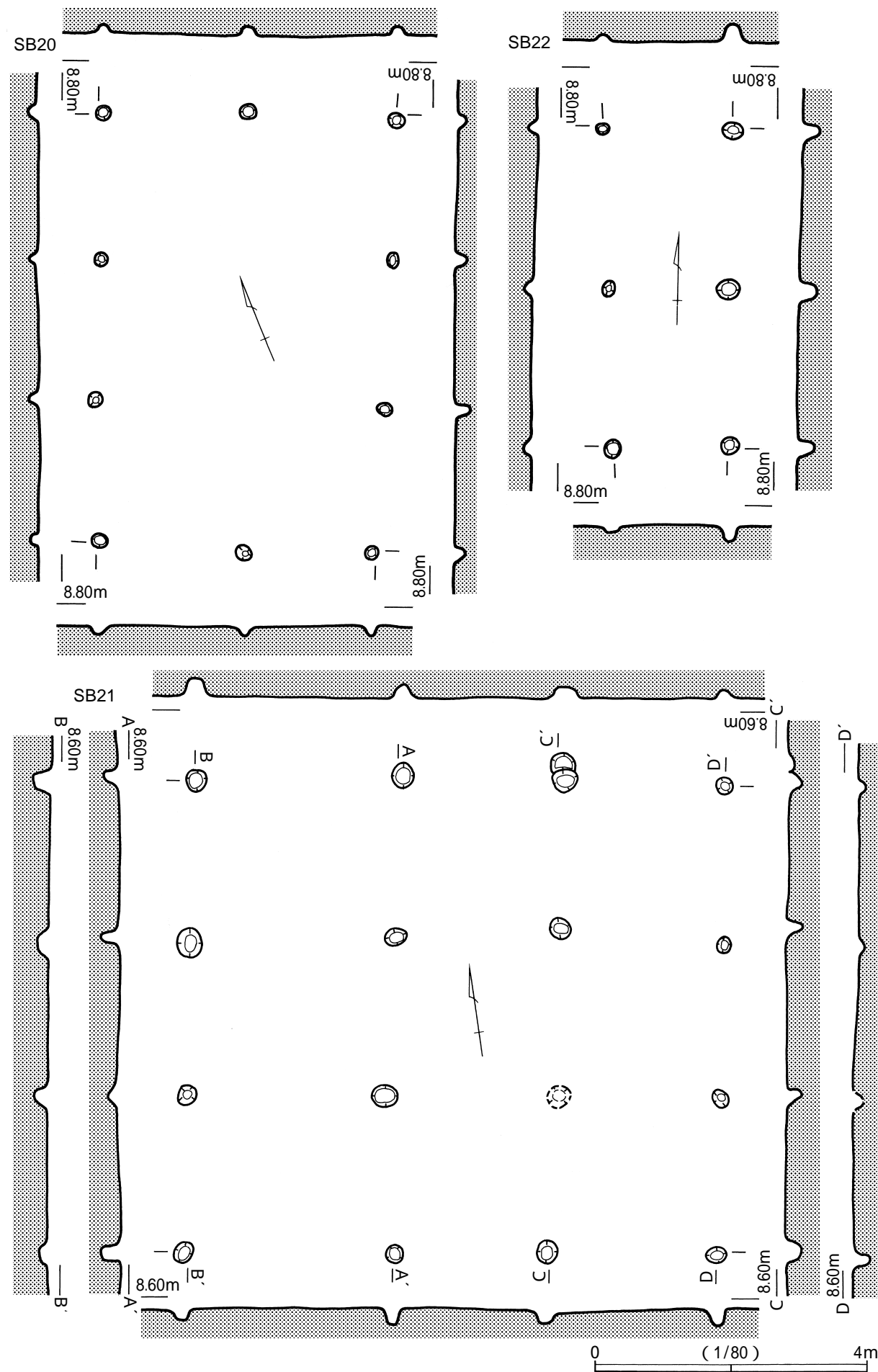
**SB13 (第8図、図版5)** 1A地区東側に所在する。異なる時期のSB12、SB14と位置が重なる。南東隅の柱穴はSK1318によって損壊したと考えられる。規模は1間×1間。棟方向はN72°E。柱間の平均は桁行3.96m、梁行3.12m。柱穴の規模は直径32~88cm、深さ24~128cm。この建物の時期は不明である。

**SB15 (第8図、図版5)** 1A地区東側に所在し、異なる時期のSD1473と位置が重なる。規模は3間×2間。間仕切り利用と見られる柱穴が1個ある。棟方向はN18°W。柱間の平均は桁行1.89m、梁行2.12m。柱穴の規模は直径18~44cm、深さ24~80cm。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は不明である。

**SB17 (第9図)** 1B地区西側に所在し、異なる時期のSD1473と位置が重なる。規模は2間×2間。棟方向はN28°W。柱間の平均は桁行2.04m、梁行1.48m。柱穴の規模は直径22~48cm、深さ16~56cm。この建物の時期は不明である。



第9図 掘立柱建物跡実測図



第10図 掘立柱建物跡実測図

**SB18 (第9図)** 1 B地区東側に所在する。異なる時期のSD1473と位置が重なる。建物内に複数の土坑が含まれるが、この建物に伴うものであるかどうかは不明である。規模は2間×1間。棟方向はN45°W。柱間の平均は桁行2.3m、梁行3.00m。柱穴の規模は直径22~40cm、深さ24~48cm。この建物の時期は不明である。

**SB19 (第9図)** 1 B地区東側に所在し、異なる時期のSD1473と位置が重なる。調査区端に所在するため正確な規模は不明であるが、規模は3間×1間としておく。棟方向はN32°W。柱間の平均は桁行1.3m、梁行2.84m。柱穴の規模は直径26~36cm、深さ16~32cm。後世の削平によって浅くなっていると考えられる。この建物の時期は不明である。

**SB20 (第10図、図版6)** 2 C地区南側に所在し、SB21、SB22と隣接する。規模は3間×2間。棟方向はN23°W。柱間の平均は桁行2.12m、梁行2.06m。柱穴の規模は直径20~26cm、深さ24~48cm。後世の削平によって浅くなったと考えられる。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

**SB22 (第10図、図版6)** 2 C地区に所在し、SB20もしくはSB21に伴う小屋のようなものと考えられる。規模は2間×1間。棟方向はN0°W。柱間の平均は桁行方向2.36m、梁行方向1.68m。柱穴の規模は直径24~36cm、深さ16~56cm。柱穴から土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

**SB21 (第10図、図版6)** 2 C地区に所在する。今回の調査で最大規模の建物であり、床面積54㎡。総柱の建物で3間×3間である。棟方向はN7°W。柱間の平均は桁行2.59m、梁行2.32m。柱穴の規模は直径22~44cm、深さ16~48cm。柱穴より土師器が出土。この建物の時期は古代に比定される。

第1表 掘立柱建物跡一覧表

番号	地区	遺構番号	規模(間)	棟方向	柱間		出土遺物	時代	備考
					桁行	梁行			
1	1 A	SB1	3×1	N61°E	7.20 (2.56・2.28・2.36)	2.36	土師器		北東隅から
2	1 A	SB2	2×2	N42°W	5.08 (2.64・2.44)	4.92 (2.56・2.36)	土師器		
3	1 A	SB3	1×1	N51°E	4.48	2.80	土師器(皿)、陶器(碗)	近世	北東隅から
4	1 A	SB4	2×2	N73°W	4.40 (1.64・2.76)	3.12 (1.72・1.40)	土師器(杯、皿)、瓦質土器	中世	
5	1 A	SB5	2×1	N22°E	3.72 (1.56・2.16)	3.44	土師器(杯)、瓦質土器(鍋、足鍋)	中世	
6	1 A	SB6	2×2	N11°E	6.36 (3.20・3.16)	5.60 (2.80・2.80)	土師器(皿、杯)、青磁(碗)	中世	
7	1 A	SB7	2×1	N60°E	5.00 (2.64・2.36)	2.24			
8	1 A	SB8	1×1	N44°E	3.32	3.08			
9	1 A	SB9	2×1	N32°W	4.08 (1.84・2.24)	2.00			
10	1 A	SB10	2×1	N63°E	4.48 (2.32・2.16)	2.64	土師器(皿)		
11	1 A	SB11	1×1	N76°W	4.60	2.72			
12	1 A	SB12	1×1	N66°E	2.48	2.00			
13	1 A	SB13	1×1	N72°E	3.96	3.12			
14	1 A	SB14	2×1	N75°E	4.44 (2.08・2.36)	2.16			
15	1 A	SB15	3×2	N18°W	5.68 (1.96・1.88・1.84)	4.24 (2.16・2.08)	土師器		
16	1 A	SB16	2×1	N20°W	4.48 (2.08・2.36)	2.92			北西隅から
17	1 B	SB17	2×2	N28°W	4.08 (1.88・2.20)	2.96 (1.40・1.56)			北西隅から
18	1 B	SB18	2×1	N45°W	4.60 (2.64・1.96)	3.00			
19	1 B	SB19	3×1	N32°W	4.00 (1.28・1.40・1.32)	2.84	土師器		
20	2 C	SB20	3×2	N23°W	6.36 (2.08・2.12・2.16)	4.12 (2.20・1.92)	土師器(椀)	古代	
21	2 C	SB21	3×3	N7°W	7.76 (3.08・2.28・2.40)	6.96 (2.36・2.24・2.36)	土師器	古代	
22	2 C	SB22	2×1	N0°	4.72 (2.36・2.36)	1.68	土師器(杯)	古代	

## 2 埋甕遺構（第11～15図、図版7～10）

今回検出することができた埋甕遺構は34基である。大甕が埋設されたままの状態出土した埋甕遺構が15基で、残りの19基は埋甕の抜き穴遺構と考えられるものである。抜き穴遺構は、掘り方の平面形、深さ、断面形、埋土中の出土遺物などを大甕が埋設された埋甕遺構と比較対照して認定した。15基のうち瓦質土器8基、土師器6基、陶器1基である。いずれも甕の大きさより若干大きい掘り方に口縁部を上にして埋設されていた。使用をやめた後、口縁部～体部を打ち欠いて甕の内部に投棄され、後世の削平により埋まったままの体部上半が欠損した状態で出土したものが多い。1A地区の場合には埋甕遺構が同一箇所密集しているのに対し、1B地区では密集している箇所と分散している箇所が併存する。以下代表的なものを取り上げる。

**SK1301（第11図、図版8）** 1A地区で検出された。平面形が83cm×76cmの楕円形、深さ38cmの掘り方に土師質の大甕（13）が埋設されていた。甕の体部上半破片が多数折り重なって出土した。復元した甕の高さから判断すると当時の地表面は約30cm高いと思われる。大甕の体部下半は破損を免れている。埋土より磁器の碗（26、27）が出土していることから、近世の埋甕遺構と考えられる。

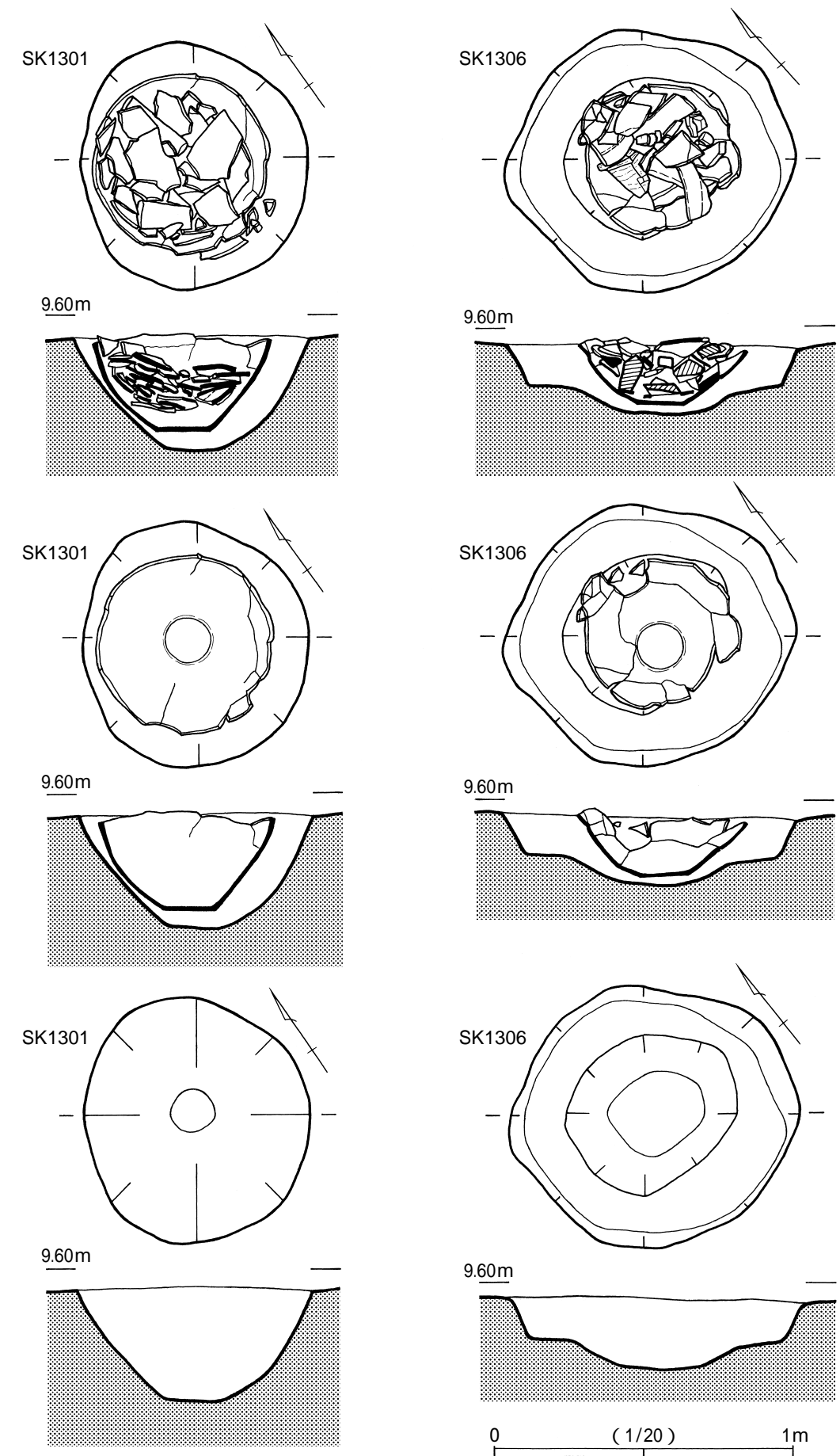
**SK1306（第11図、図版8）** 1A地区で検出された。甕を据えるための土坑は二段掘りの状況を示しており、その中に瓦質の大甕（16）が据えられていた。甕の体部上半は削平されており、甕の口縁部～体部破片が多数折り重なって出土した。復元された大甕より推測すると当時の地表面は50cmほど高いと思われる。埋土より土師器の大甕（28）が出土しており、SK1306内に別個体の大甕が廃棄されたと考えられる。近世の埋甕遺構と比定される。

**SK1492（第12図、図版9）** 1B地区で検出された。SB17に伴うものであるかどうかは不明であり、SD1473の南側に所在する。平面形が72cm×69cmの楕円形、深さ28cmの掘り方に瓦質の大甕（10）が埋設されていた。甕の上半部の一部は削平されており、甕の口縁部～体部破片が多数折り重なって出土した。また、底の中央部が欠損しているが、大甕体部下半の残りはよい。埋土から瓦質土器が出土しており、近世の埋甕遺構と考えられる。

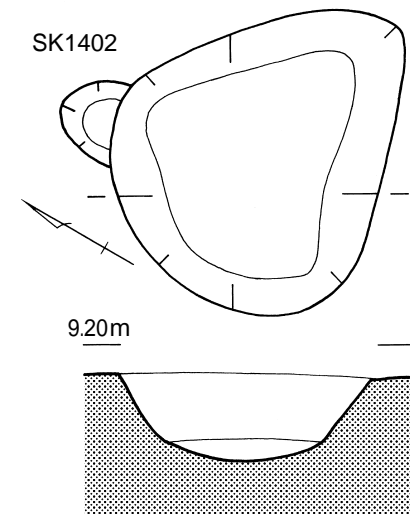
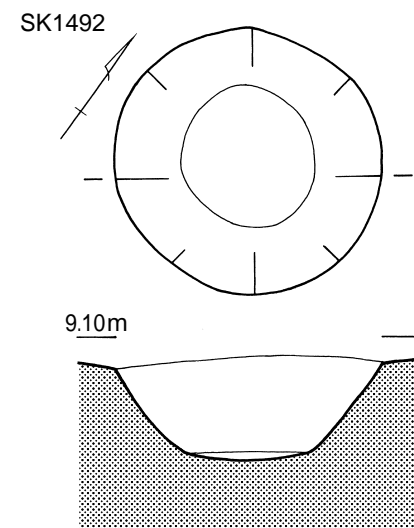
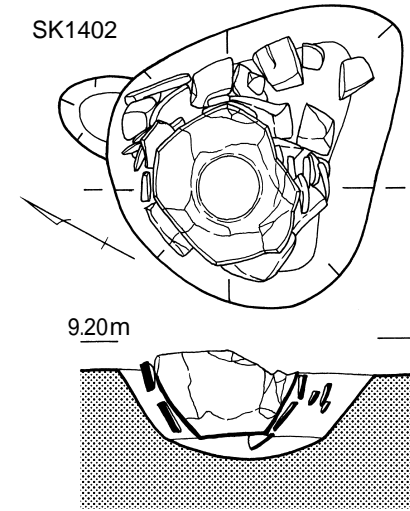
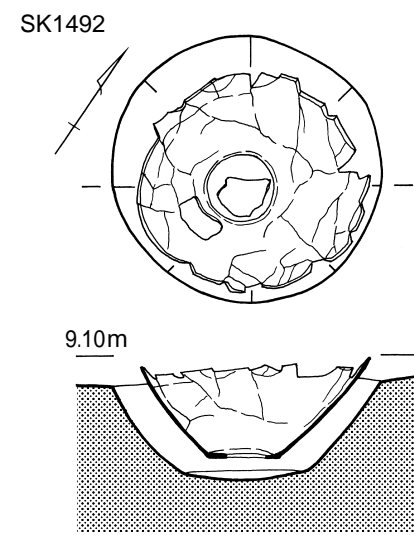
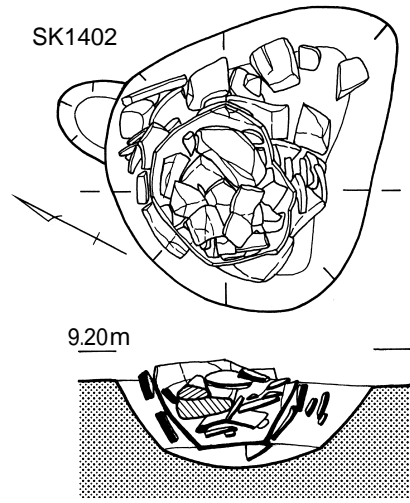
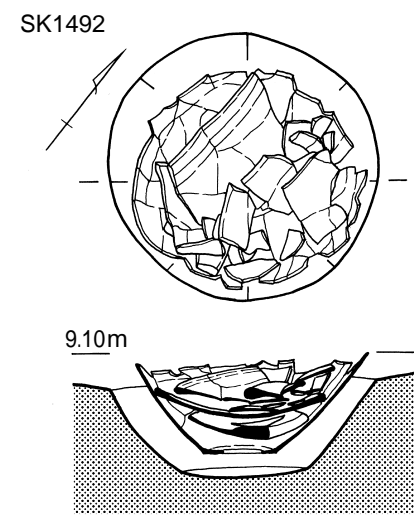
**SK1402（第12図、図版8）** 1B地区で検出されたが、SD1411東側の埋甕遺構密集区から離れた箇所に所在する。平面形が90cm×77cmの隅丸三角形、深さ23cmの掘り方に土師質の大甕（18）が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、土坑内に数個の石が投げ込まれている。甕と掘り方の間に瓦質土器鉢（40）、焜炉（42）、火鉢（43、44、45）を充填しており、裏込めとして用いられたものと考えられる。なお、埋土からは磁器碗（38）、土師器鉢（39、41）が出土している。この遺構は近世に比定される。

**SK1420（第13図、図版9）** 1B地区北側の調査区境で検出された。平面形が直径90cmの円形、深さ47cmの掘り方に土師質の大甕（11）が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、甕の口縁部～体部破片が多数折り重なって出土した。他の埋甕遺構は大甕と掘り方底部の間に隙間があまりないのに対し、大甕と掘り方底部の間隔は約20cmも空いている。埋土より陶器の碗（24、25）が出土しており、近世の遺構と考えられる。

**SK1441（第13図、図版7）** 1B地区で検出された。平面形が76cm×68cmの楕円形、深さ28cmの掘り方に陶質の大甕（12）が埋設されていた。甕の片側体部上半は削平されており、甕の上半部破

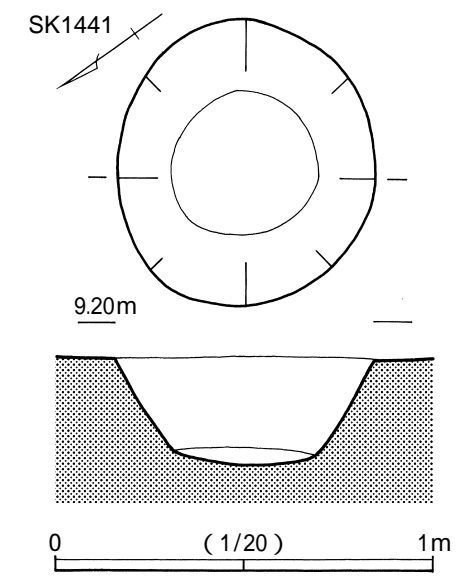
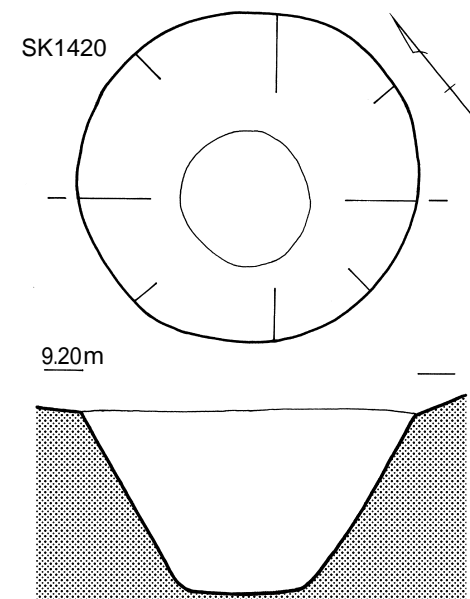
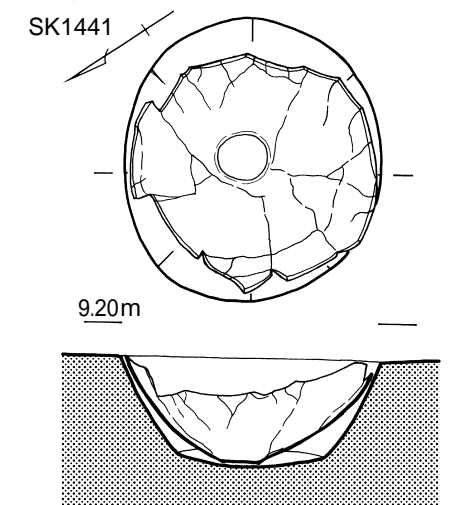
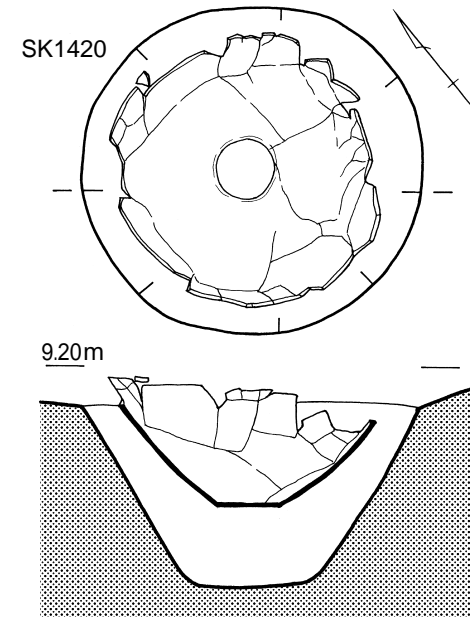
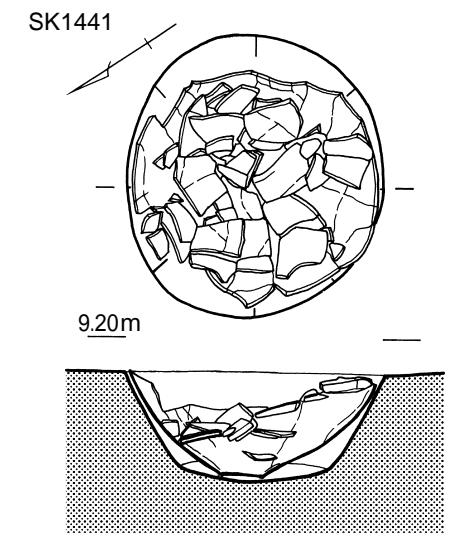
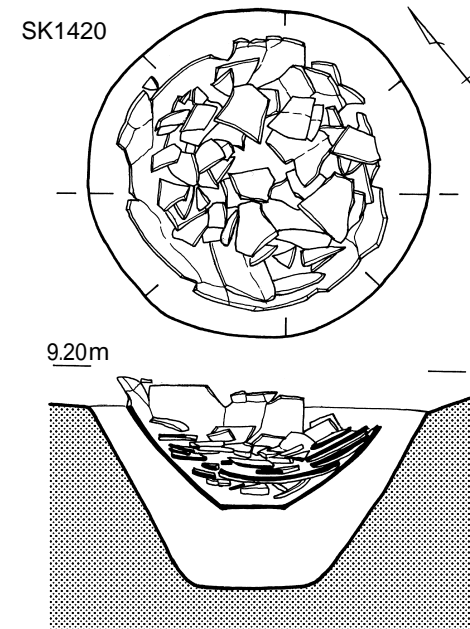


第11図 埋甕遺構実測図



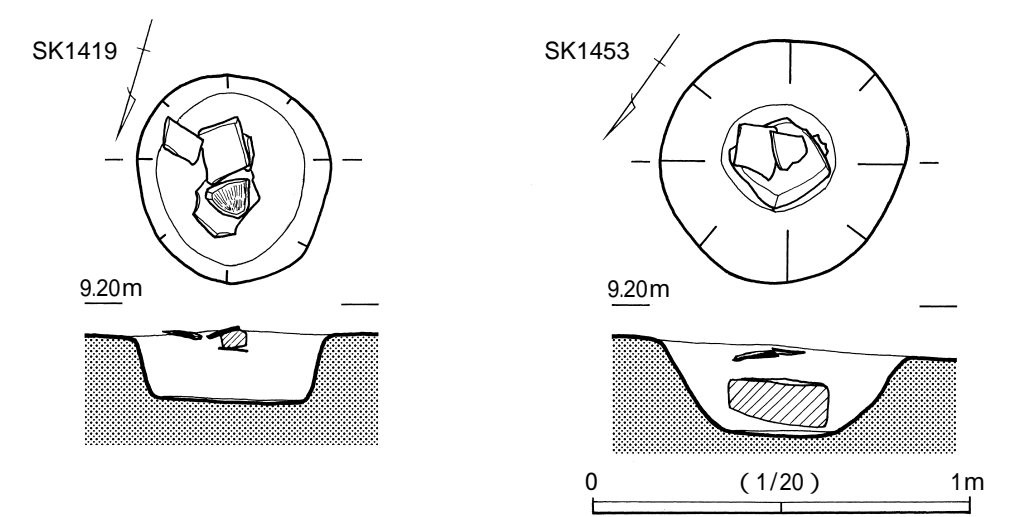
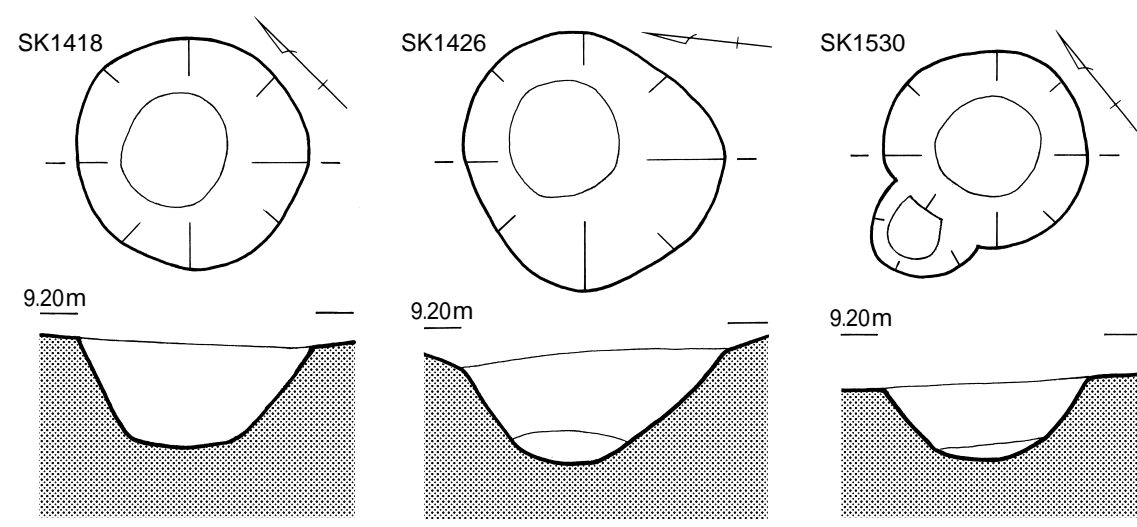
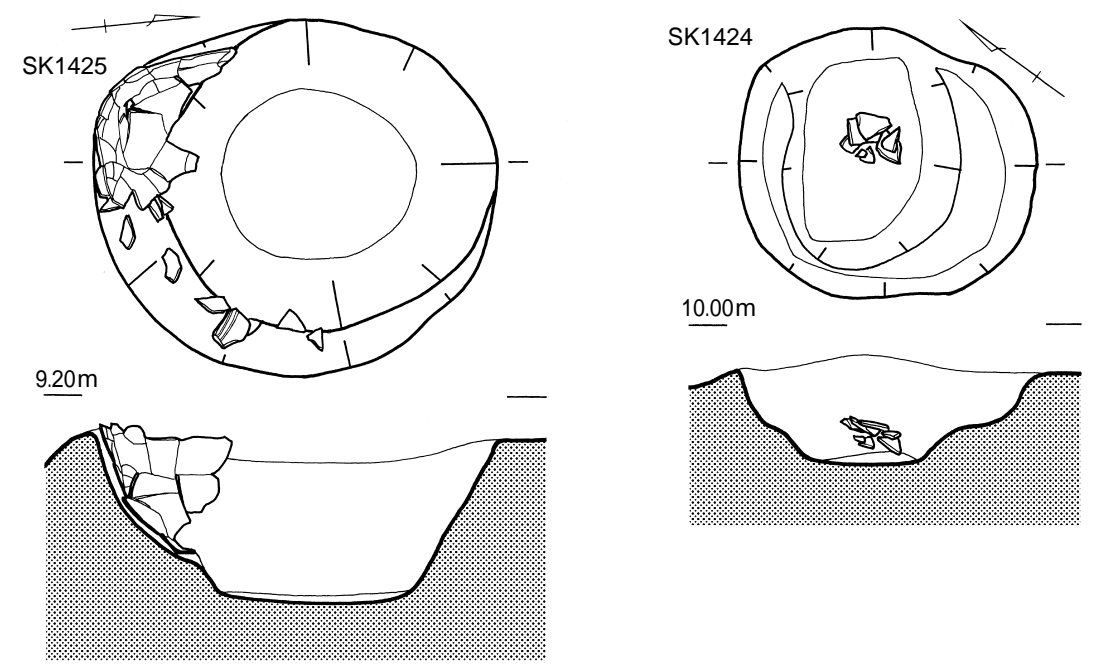
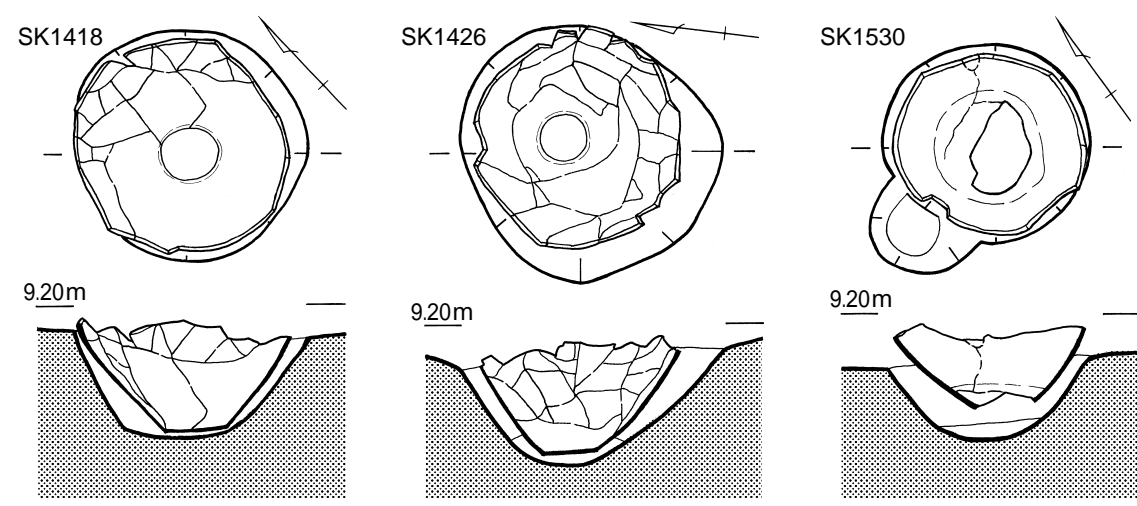
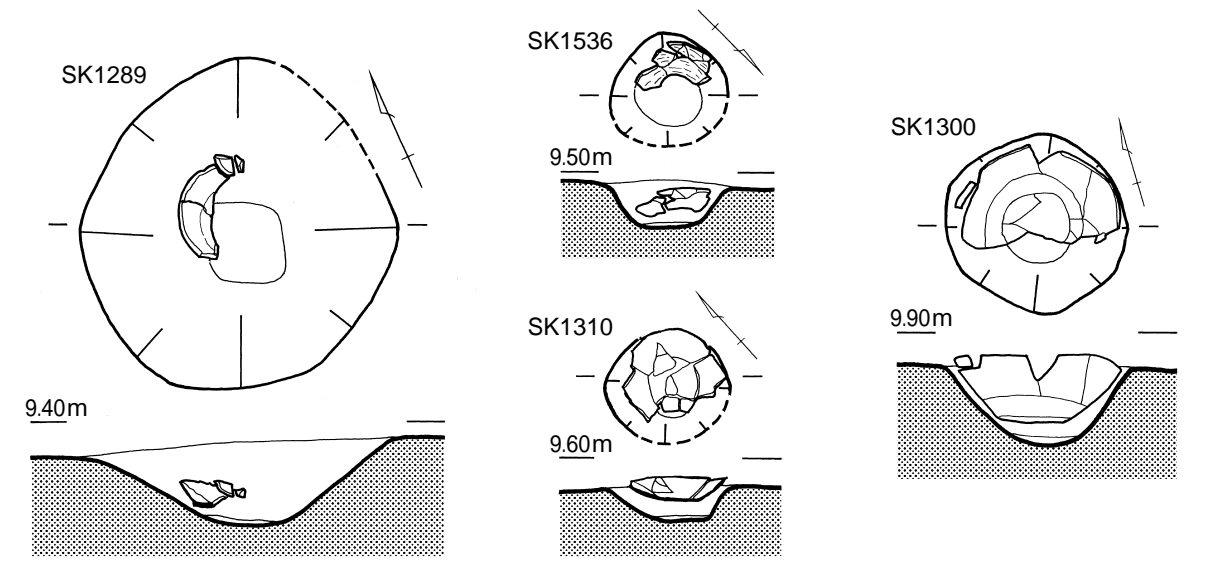
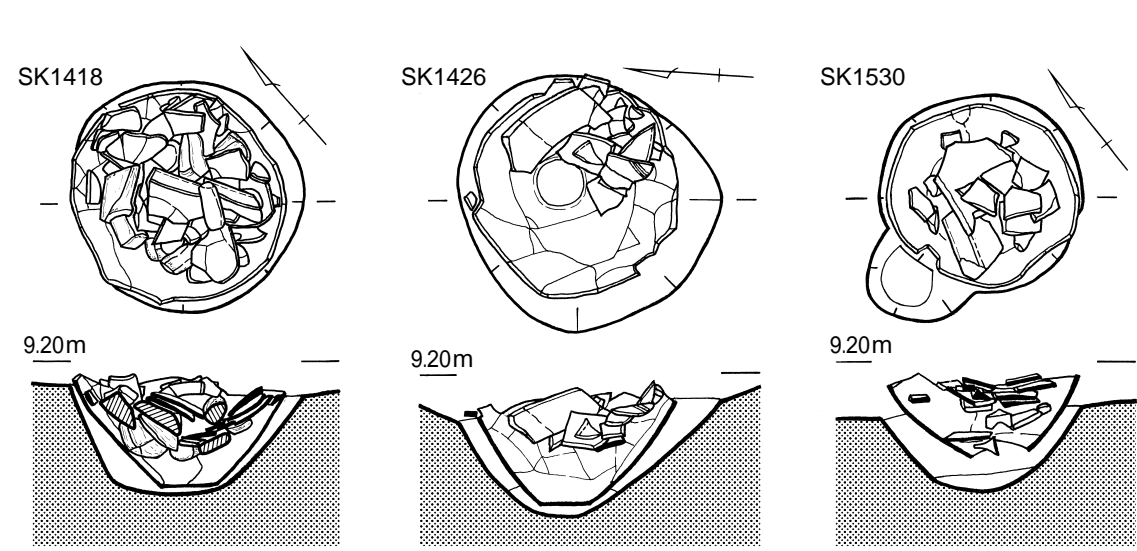
0 (1/20) 1m

第12图 埋甕遺構実測図



0 (1/20) 1m

第13图 埋甕遺構実測図



0 (1/20) 1m

第14図 埋甕遺構実測図

0 (1/20) 1m

第15図 埋甕遺構実測図

片が多数折り重なって出土した。埋土より、陶器碗（33）、鉢（36）、磁器皿（34、35）、硯（185）、瓦質土器の大甕の口縁部（37）が出土した。S K 1441内に別個体の大甕が投棄されたものと考えられる。近世の埋甕遺構である。

**S K 1418（第14図、図版8）** 1 B地区で検出された。S K 1418付近は埋甕遺構が密集する地域である。平面形が直径60cmの円形、深さ28cmの掘り方に土師質の大甕（9）が埋設されていた。甕の体部上半は削平されており、甕の中には多くの石が投げ込まれている。復元した甕の高さより当時の地表面は約20cm高いと思われる。埋土より祭祀用と見られる土製品（179）が出土しており、廃棄に伴う祭祀が行われた可能性がある。近世の埋甕遺構と考えられる。

**S K 1426（第14図、図版9）** 1 B地区で検出された。S K 1418の南西部に位置する。平面形が直径69cmの円形、深さ26cmの掘り方に土師質の大甕（14）が埋設されていた。甕の体部上半は削平されているが、下半部はよく残る。埋土より瓦質土器が出土。近世の埋甕遺構と考えられる。

**S K 1530（第14図、図版9）** 1 B地区で検出された。S K 1402、S K 1492と同様に密集箇所から外れて所在する。平面形が直径54cmの円形、深さ22cmの掘り方に瓦質の大甕（17）が埋設されていた。甕の体部上半が削平されており、底部も大きく欠損している。この掘り方はS P 1617の北東部を切っている。埋土から、磁器碗（29）、陶器土瓶（32）、土師器甕（30）、鉢（31）が出土しており、近世の埋甕遺構と考えられる。

**S K 1289（第15図、図版10）** 1 A地区で検出された。土坑の北西部をS K 1537に切られている。平面形が直径85cmの円形、深さ23cmの掘り方より瓦質の甕の底部（21）が出土したが、甕の大部分が削平によって欠損している。

**S K 1536（第15図）** 1 A地区で検出された。土坑の南西部はS K 1289に切られている。平面形が直径32cmの円形、深さ13cmの掘り方より土師質の甕の破片（23）が出土した。しかし後世の削平によって底部の小破片しか残っていない。

**S K 1310（第15図、図版7）** 1 A地区で検出された。SK1308に切られている。平面形が直径32cmの円形と推測され、深さ9cmの掘り方内に瓦質の甕（15）が埋設されていた。甕の体部上半は削平を受けて欠損している。

**S K 1300（第15図、図版7）** 1 A地区で検出された。S P 1566と共にS K 1299を切る。平面形が直径48cmの円形、深さ20cmの掘り方に瓦質の甕（19）が埋設されていた。甕の体部上半、底部の半分も削平を受けて欠損している。

**S K 1425（第15図、図版7）** 1 B地区で検出された。平面形が直径86cmの円形、深さ46cmの掘り方より瓦質の甕（20）が出土した。しかし、後世の攪乱によって甕の半分が欠損している。

**S K 1424（第15図）** 1 B地区で検出された。平面形が80cm×76cmの楕円形、深さ27cmの二段掘りの掘り方より瓦質の甕の底部（22）が出土した。

**S K 1419（第15図、図版10）** 1 A地区で検出された。平面形が55cm×51cmの楕円形、深さ18cmの掘り方。埋甕の抜き穴と考えられる。陶器播鉢（49）、土師器、瓦片が出土した。

**S K 1453（第15図、図版10）** 1 B地区で検出された。平面形が直径66cmの円形、深さ26cmの掘り方。埋甕の抜き穴と考えられ、中央部に石が置かれている。

**第2表 埋甕遺構一覧表**

番号	地区	遺構番号	平面形	規模			埋甕の種類	埋甕の法量			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ		口径	底径	器高			
1	1 A	SK1289	円形	85	83	23	瓦質土器		復19.8	残5.8	土師器(大甕)、陶器	近世	SK1537に切られる。
2	1 A	SK1298	楕円形	77	71	35						近世	(埋甕抜き穴)
3	1 A	SK1300	円形	48	47	20	瓦質土器		19.2	残16.5		近世	SK1299の中にある。
4	1 A	SK1301	楕円形	83	76	38	土師器	66.4	17.0	72.4	磁器(碗)	近世	
5	1 A	SK1302	楕円形	96	86	50					瓦質土器(大甕)	近世	(埋甕抜き穴)
6	1 A	SK1306	楕円形	99	88	23	瓦質土器	復75.0	18.4	残21.3	土師器(大甕)	近世	
7	1 A	SK1310	不明	32	不明	9	瓦質土器		復17.6	残6.0		近世	
8	1 B	SK1393	楕円形	86	76	45					土師器、磁器(碗)、陶器	近世	(埋甕抜き穴)
9	1 B	SK1395	楕円形	78	72	30							(埋甕抜き穴)
10	1 B	SK1402	隅丸三角形	90	77	23	土師器	復44.0	復17.2	残21.7	土師器(鉢)、瓦質土器(鉢、火鉢、焔炉)、磁器(碗)、土製品(祭祀用具)、棧瓦	近世	瓦質土器、瓦で周りを充填している。
11	1 B	SK1414	円形	52	52	21					陶器	近世	(埋甕抜き穴)
12	1 B	SK1417	楕円形		25	19							(埋甕抜き穴) SK1412に切られる。
13	1 B	SK1418	円形	60	60	28	土師器	復68.4	16.2	55.6	土製品(祭祀用具)	近世	
14	1 B	SK1419	楕円形	55	51	18					土師器(甕)、陶器(播鉢)、瓦	近世	(埋甕抜き穴)
15	1 B	SK1420	円形	90	90	47	土師器	77.2	18.6	69.4	陶器(碗)	近世	
16	1 B	SK1421	不定形	94	70	31					土師器、瓦質土器	近世	(埋甕抜き穴)
17	1 B	SK1422	楕円形	82	68	32					土師器、陶器(播鉢)、棧瓦、鉄釘	近世	(埋甕抜き穴)
18	1 B	SK1424	楕円形	80	76	27	瓦質土器			残3.7	土師器(甕)、磁器(染付碗)、陶器(甕、碗)	近世	
19	1 B	SK1425	円形	86	84	46	瓦質土器		復16.0	残4.9	瓦質土器(足鍋脚部)	近世	
20	1 B	SK1426	円形	69	69	26	土師器		15.3	残29.5		近世	
21	1 B	SK1428	隅丸方形	76	70	26					瓦質土器、陶器	近世	(埋甕抜き穴)
22	1 B	SK1429	隅丸方形	80	72	31					土師器(甕、鉢)、磁器(染付皿)	近世	(埋甕抜き穴)
23	1 B	SK1430	楕円形	64	52	22					陶器(碗、播鉢)	近世	(埋甕抜き穴)
24	1 B	SK1434	隅丸方形	56	40	39							(埋甕抜き穴)
25	1 B	SK1435	楕円形	88	78	30					瓦質土器、磁器(染付皿)	近世	(埋甕抜き穴)
26	1 B	SK1436	楕円形	46	46	12					土師器	近世	(埋甕抜き穴) 石が混入。
27	1 B	SK1439	円形	60	60	28					陶器、石製品(祭祀用具)	近世	(埋甕抜き穴)
28	1 B	SK1441	楕円形	76	68	28	陶器	復75.2	15.6	66.0	瓦質土器(甕)、磁器(皿)、陶器(碗)、石製品(硯)	近世	
29	1 B	SK1453	楕円形	66	65	26							(埋甕抜き穴)
30	1 B	SK1470	不明	66	65	26					土師器(大甕)、磁器(皿)、陶器(播鉢)	近世	(埋甕抜き穴)
31	1 B	SK1492	円形	72	69	28	瓦質土器	72.0	18.2	68.2	瓦質土器(鉢)	近世	
32	1 B	SK1530	円形	54	52	22	瓦質土器	復61.8	復15.0	残22.6	土師器(甕、鉢)、磁器(碗)、陶器(土瓶)	近世	SP1617を切る。
33	1 A	SK1536	不明	32	不明	13	土師器			残4.5		近世	SK1289に切られる。
34	1 A	SK1537	隅丸方形	58	56	24						近世	(埋甕抜き穴) SK1289を切る。

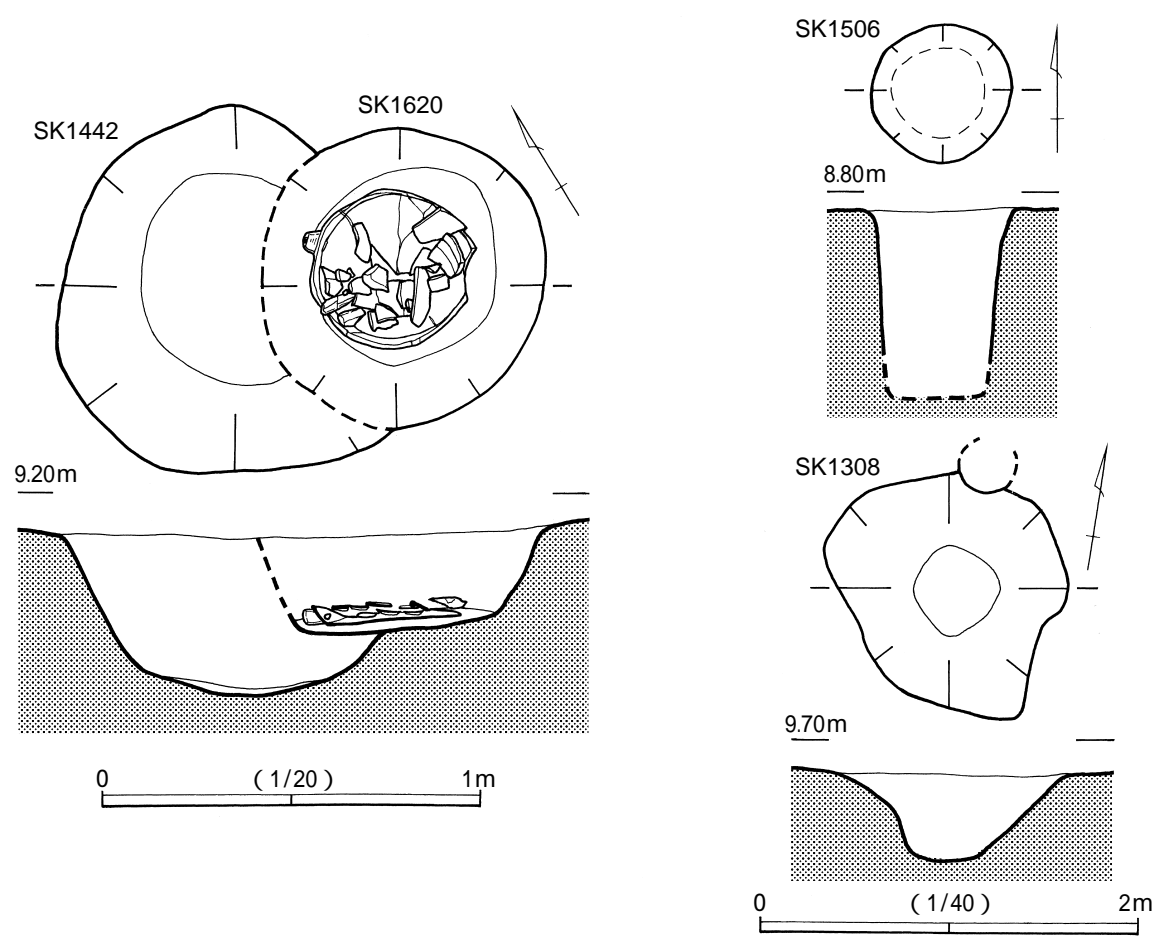
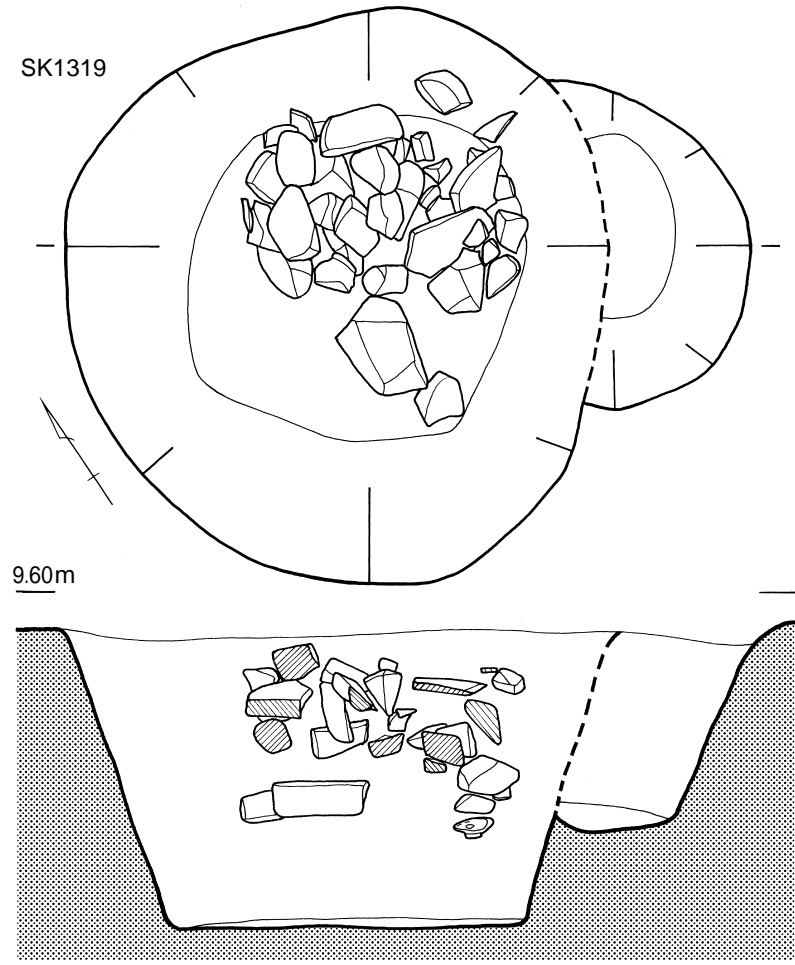
### 3 土坑(第16図、図版10)

今回の調査で、41基の土坑が確認された。内訳は、1地区35基、2地区6基で、平面形は、楕円形17基、隅丸方形6基、隅丸三角形、円形、不定形がそれぞれ2基、長円形1基、不明11基であった。出土遺物から、中世、近世と考えられるものが多かった。以下、代表的なものを取り上げる。

**S K 1319（第16図、図版10）** 1 A地区の東側の本遺跡で一番高いところに位置する。円形の土坑で、S K 1320を切っており、また、上面の一部が、後世の土坑S K 1317によって掘り込まれていた。規模は、直径150cm、深さ80cm。土師器の大甕（55）、皿、瓦質土器の大甕（54）、磁器の碗2点（52、53）が出土しており、その上部では20～30cm程度の石が投棄された状態であった。近世の土坑と考えられる。

**S K 1620（第16図、図版10）** 1 B地区の東側、S D 1473の北側に位置する。S K 1442を切っており、平面形は円形と推定できる。規模は、直径80cm、深さ28cmである。近世の佐野焼（防府市）と





第16図 土坑実測図

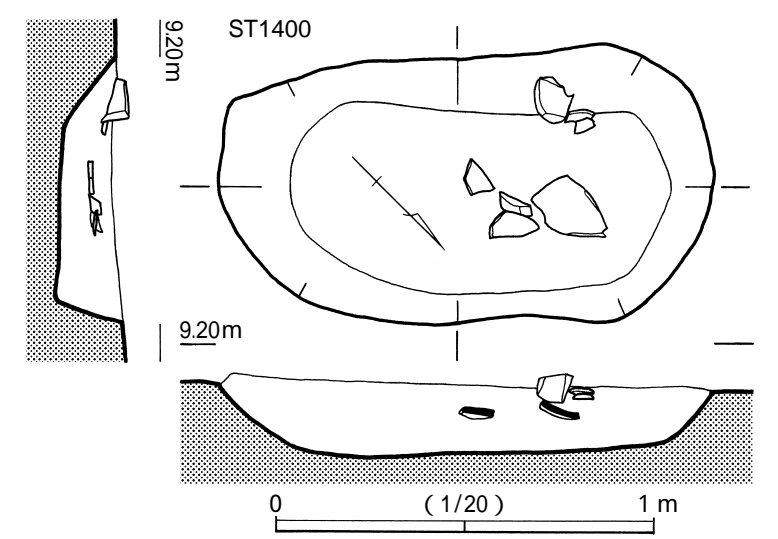
比定される土師器の風呂釜の底部(60)が土坑底面に貼り付いた状態で、また、その上から土師器の焙烙(59)が出土した。近世の土坑と考えられる。同様の風呂釜は、近隣の切畑南遺跡(防府市)からも出土している。

SK1506(第16図、図版10) 1B地区の真ん中よりやや西側に位置する楕円形の土坑である。木製品(キリ製の曲物の底板5点(193~197)、櫛(198)、石製品の砥石(181)、土師器の甕、鉢、陶器の皿、碗が出土している。また、埋土中よりタケ・シダの葉も出土した。近世の土坑と比定できる。

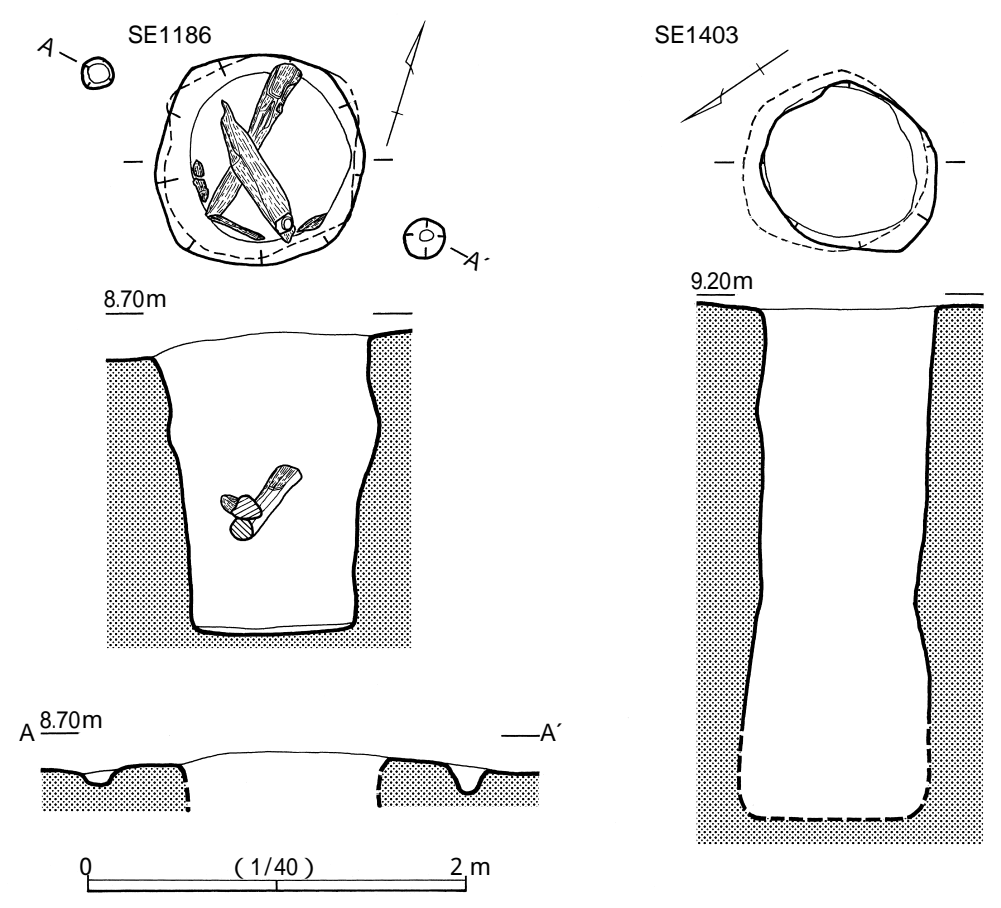
SK1308(第16図、図版10) 1A地区の東側、SK1319の近くに位置し、SK1310を切っている、不定形の土坑である。規模は、長軸150cm、短軸115cm、深さ46cmで、土師器の杯が出土している。土坑の時期は不明である。

4 墓(第17図、図版10)

今回の調査で、1基のみ墓が確認された。



第17図 墓実測図



第18図 井戸実測図

ST1400 (第17図、図版10) 1B地区中央部より、やや北東に位置する。墓坑は、長軸131cm、短軸70cm、深さ20cmの隅丸方形で、後世の削平のため浅い。墓坑の南西側より土師器の皿(61)が、埋土中から瓦質土器の甕が出土している。中世の墓と考えられる。

### 5 井戸(第18図、図版11)

今回の調査で、1地区より2基の井戸が確認された。

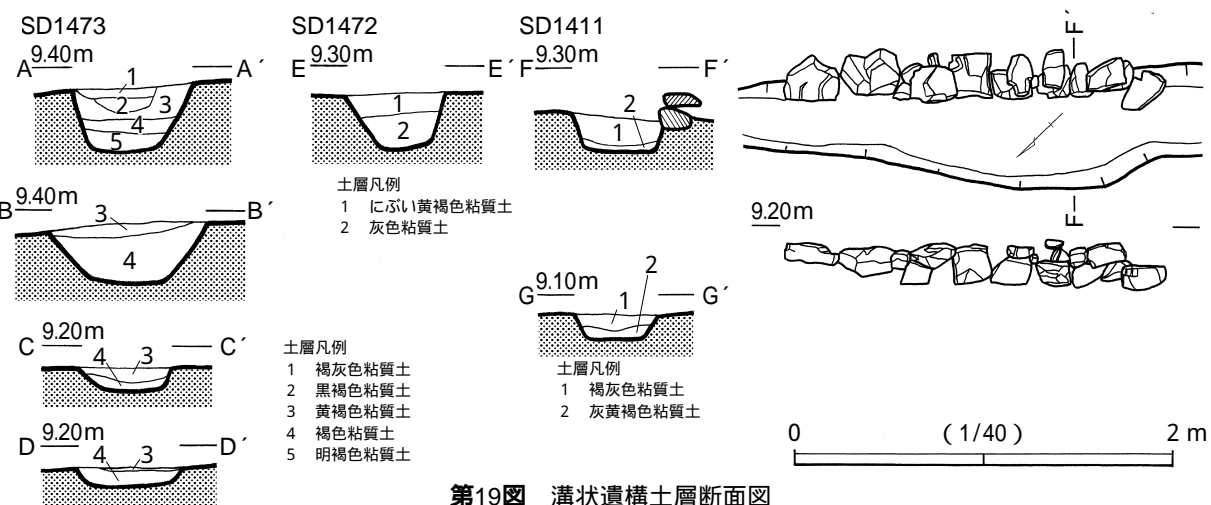
SE1186 (第18図、図版11) 1A地区の南側、傾斜面の一番低いところに位置する円形の井戸である。規模は、直径113cm、深さ153cmで、L=8.00m付近でやや膨らんでいる。また、井戸の東西につるべ柱穴と考えられる柱穴が位置している(SP1159、SP1187)。井戸埋土中層あたりで、長さ1m程度の加工木材(マツ材)が折り重なっており、その上から底部を上に向けた状態で、青磁の碗(63)も出土した。共伴する遺物として、土師器の椀(62)、瓦質土器の播鉢(64)、足鍋の脚部がある。遺物から、中世の井戸と比定できる。

SE1403 (第18図、図版11) 1B地区の中央部より北東側に位置し、SD1405を切っている。深さが2mを越えたので、安全を考慮して底面まで掘り下げなかった。楕円形で上端の長軸97cm、短軸84cm、深さは推定で260cm、やや袋状の断面形を呈する。陶器の播鉢(68、69)、土師器の鉢(67)、大甕(70)、磁器の碗(65)、陶器の甕(66)、火鉢(71)、石臼(188、189)、瓦片、木杭(マツ材)が出土している。井戸の下層埋土中には、木片(カキノキ、アカガシ、スギ、タケ)、種実(ウバメガシ)、葉(イチイガシ)などの植物遺体が多量に含まれていた。近世の井戸と考えられる。

### 6 溝状遺構(第3・19図、図版11)

1A地区西側と2地区には、現代の暗渠排水路が縦横にめぐっている。形状、埋土から判断した。近世以前の溝状遺構は、1地区から6条検出した。そのすべてが、標高の高い台地状の地区に残存していた。以下、代表的なものを取り上げる。

SD1473 (第3・19図、図版11) 1A地区から1B地区にかけて東西に走る溝である。1B地区で、やや蛇行している。検出部分の長さは、1A地区で約17m、1B地区で約23mである。1A地区では、東端は調査区外に延び、西端は傾斜面で消滅する。1B地区では、東西端ともに調査区外に続いている。また、1A地区の途中で、北へと分かれSK1318にぶつかって終結し、1B地区の途中では、SD1411に切られている。幅は、最大で70cmで、深さは、最大40cmである。1B地区では、耕

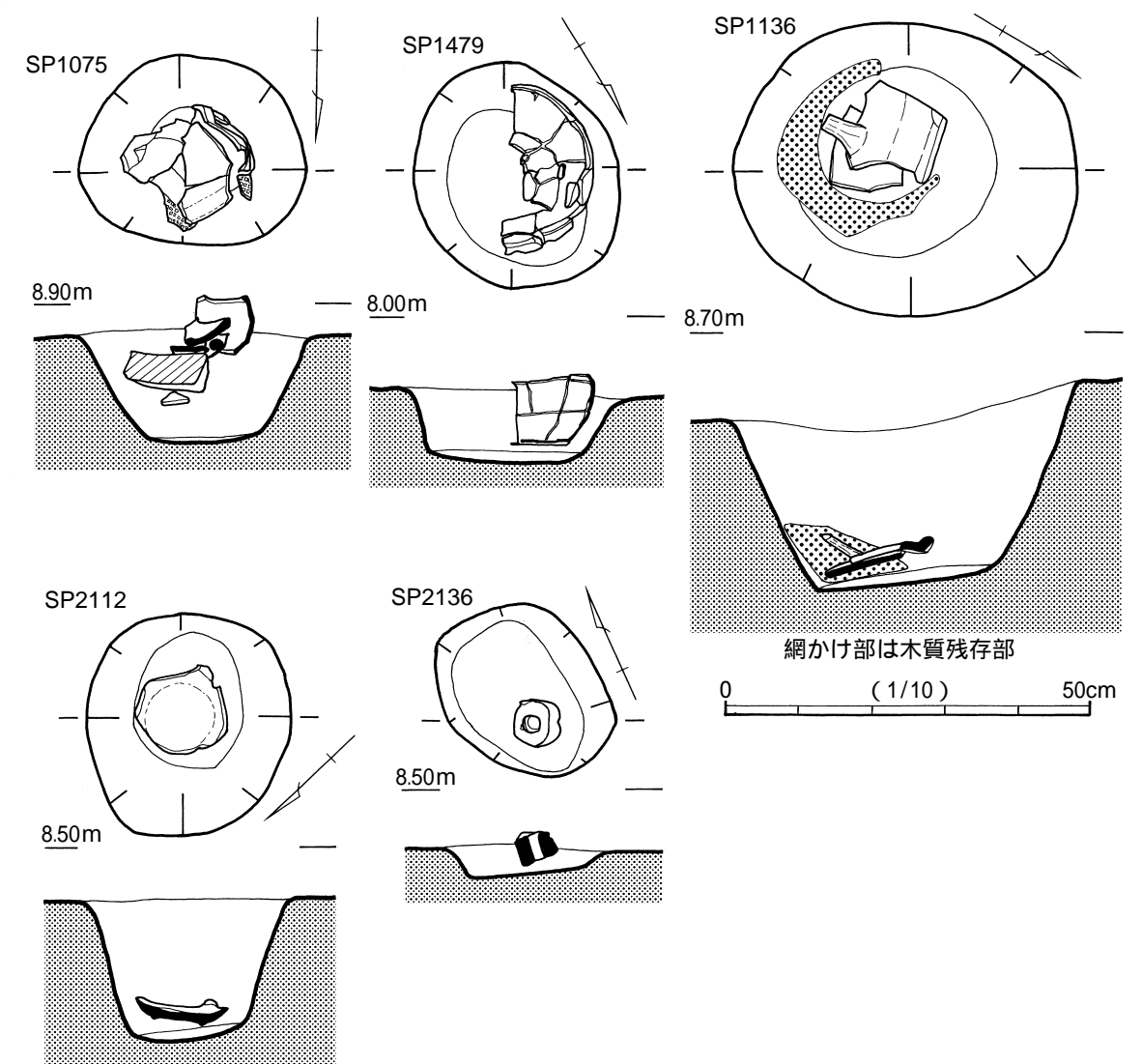


第19図 溝状遺構土層断面図

地化などのため削平が多く、深さは浅く10cm程度である。埋土は、下層に褐色並びに明褐色粘質土が堆積している。磁器の碗(80)、瓶、香炉、陶器の播鉢(81)、土師器の甕が出土している。SD1411との切り合い関係から、中世~近世初頭の溝と考えられる。

SD1472 (第3・19図、図版11) 1B地区の東側、SD1473と平行に東西に走る溝である。溝の両端が調査区で切れ、確認できた部分の長さは、約4mである。幅は最大54cmで、深さは最大32cmである。埋土は、下層に灰色粘質土、上層ににぶい黄褐色粘質土が堆積している。磁器の碗3点(72~74)、土師器の大甕2点(75、76)、鉢、陶器の大甕(77)、鉢(79)、壺、皿、播鉢、瓦質土器の鉢(78)が出土している。近世の溝と考えられる。

SD1411 (第3・19図、図版11) 1B地区の東側を南北に走り、SD1473と直交し切っている。北側は調査区外に延び、南側は傾斜面で消滅しており、SD1473と直交する地点から北へ約1mの地点から西に向かって分かれているが、約1.5mで消滅している。また、さらに北の調査区とぶつかる付近で、SD1622、SD1405を切っている。SD1473と直交するあたりに、石積み遺構が溝の東側だけ、約2mにわたって残存していた。石の大きさは、20~30cm程度で1~2段に積まれている。溝の幅は最大で50cmで、深さは最大で18cmと後世の削平を受け浅い。土層は2層で、褐灰色粘質土の



第20図 柱穴実測図

上に灰黄褐色粘質土が堆積している。陶器の皿（83）、染付碗、土師器の大甕（82）、播鉢、陶器の鉢、播鉢が出土しており、近世の溝と考えられる。

## 7 柱 穴（第20図、図版12）

今回の調査では、掘立柱建物跡を構成するものを含む約700個の柱穴が検出された。内訳は、1地区約500個、2地区から約200個である。2地区の柱穴は、後世の削平の影響が大きく浅いものが多い。検出された柱穴のうち、1A地区の柱穴には、遺物を含むものが多かったが、全体的には、約1割の柱穴から遺物が出土している。以下、代表的なものを取り上げる。

**S P 1075（第20図、図版12）** 1A地区の中央部やや北側に位置し、S B 5を構成する柱穴である。規模は、長軸31cm、短軸26cm、深さ15cmである。自然石に被さるような形で、瓦質土器の鍋（7）、足鍋（8）並びに土師器の杯（6）が出土している。廃絶儀礼に伴う遺物の可能性も考えられる。室町時代のものと比定できる。

**S P 1479（第20図、図版12）** 1B地区の北西側に位置する。規模は、長軸31cm、短軸28cm、深さ10cmである。半裁された土師器の茶釜（91）が埋納されていた。室町時代のもと考えられる。

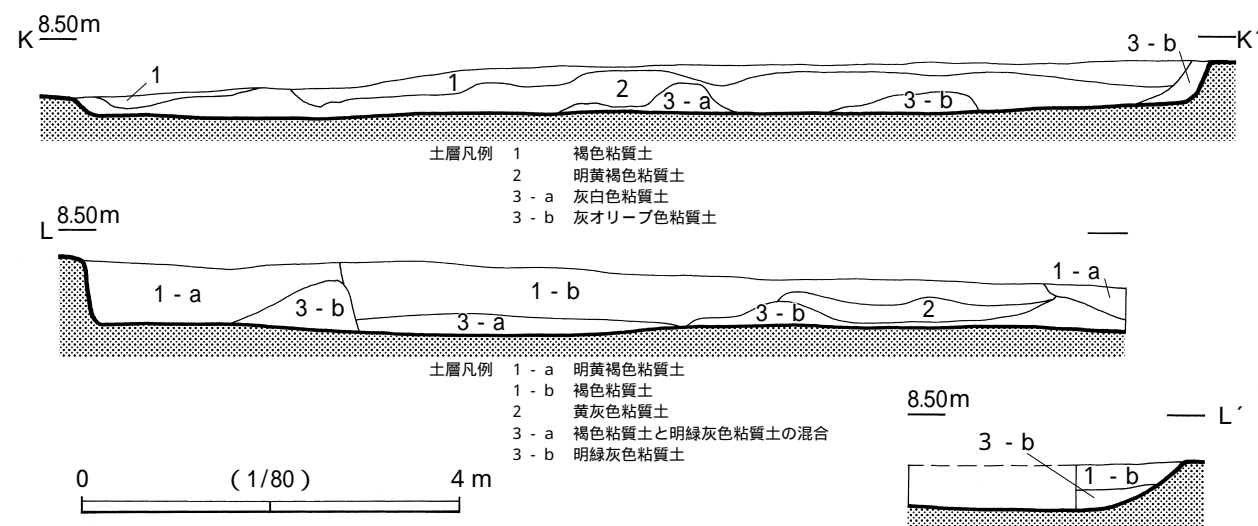
**S P 1136（第20図、図版12）** 1A地区の中央部南側、S B 7内に位置する。規模は、長軸44cm、短軸40cm、深さ29cm。腐植が著しく原形をとどめないが、植物性の有機物に包まれる形で、瓦質土器の足鍋（93）が出土している。室町時代のもと考えられる。

**S P 2112（第20図、図版12）** 2C地区の中央部よりやや西側、S B 21内に位置する。規模は、長軸31cm、短軸28cm、深さ20cm。柱穴の底から、土師器の椀（87）が出土した。平安時代～鎌倉時代のもと考えられる。

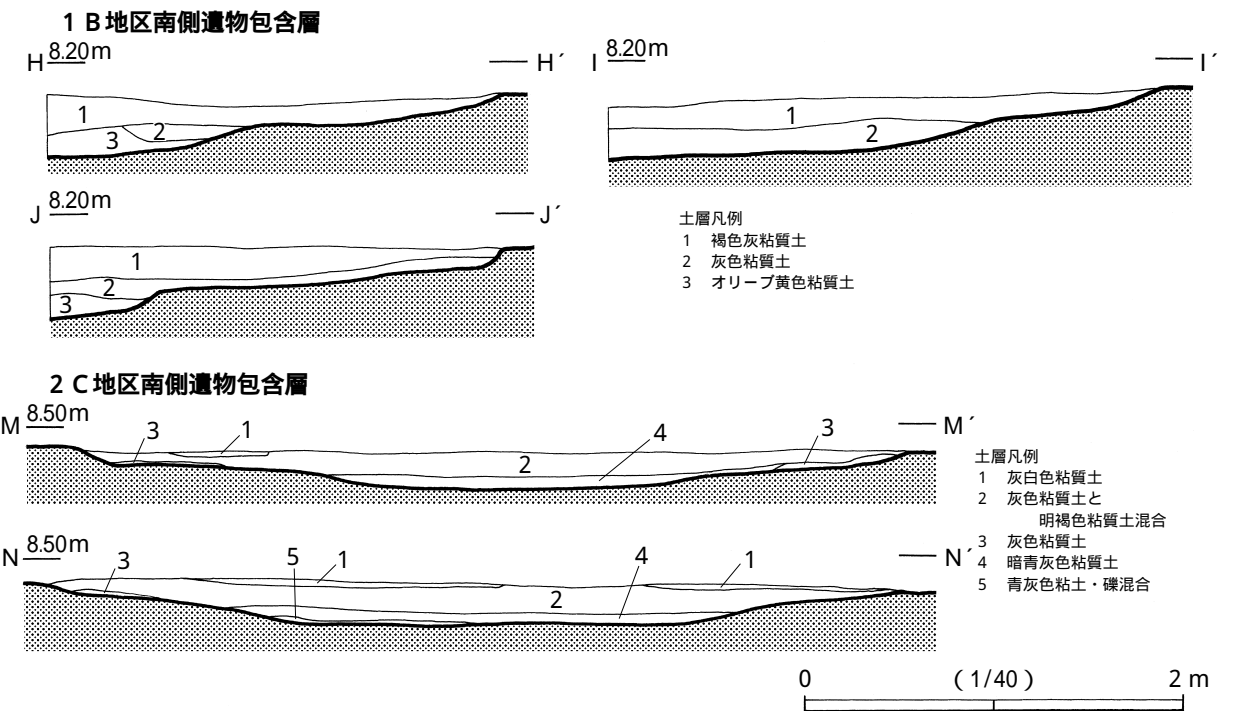
**S P 2136（第20図、図版12）** 2C地区の中央部よりやや北側に位置する。規模は、長軸25cm、短軸20cmで、後世の削平が著しく、深さは5cmである。土師器の有孔台付皿の有孔台部分（84）が出土した。平安時代のもと考えられる。

## 8 粘土採掘坑（第21図、図版12）

調査区内から、5基の粘土採掘坑を検出した。すべて2地区にあり、トレンチ調査で確認した。時代は近世以降のものであると考えられる。粘土採掘坑1は、2A地区南東端から2B地区南西端にか



第21図 粘土採掘坑土層断面図



第22図 遺物包含層土層断面図

けて位置する。調査区外に広がっているため、全体像は確認できない。西端を、粘土採掘坑2で切られていることから、粘土採掘坑2以前のもものと比定できる。粘土採掘坑2は、2A地区南側から2C地区北西側にかけて位置する。やはり、調査区外に広がるが、長軸最大約13m、短軸最大約10mの台形状と考えられる。西端を粘土採掘坑3で切られ、それ以前のもものと比定できる。粘土採掘坑3は、2C地区北西端に位置する。調査区外に広がり、全体像はつかめない。粘土採掘坑4は、粘土採掘坑3の南側にわずかに確認できる。やはり、調査区外に広がり、全体像は確認できない。粘土採掘坑5は、粘土採掘坑2の南東側に細長く延びる。規模は、長軸最大約14m60cm、短軸最大約2m60cmである。粘土採掘坑2に切られていることから、それ以前のもものと比定できる。

## 9 遺物包含層（第22図、図版13、14）

遺物包含層は、1B地区の南側と2C地区の南側に広がっていた。1B地区南側遺物包含層は、さらに南側の調査区外に広がっている。堆積土層は2層あるいは3層で、オリブ黄色粘質土、灰色粘質土、褐灰色粘質土の順に堆積していた。下層から、土師器の台付皿（97）、皿（98）、椀（99～109）、鉢（113、114）、瓦質土器の播鉢（110、111）、足鍋（115）、陶器の播鉢（112）など古代～中世の遺物が出土し、上層からは、磁器の碗（118～121）、小皿（116）、小杯（117）、皿（123）、陶器の茶釜（127）、播鉢（128）など近世の遺物が出土した。また、広い範囲から植物種実、樹皮、樹枝、加工木片が出土した（付篇 植物遺体同定参照）。古代～近世にかけて、長い期間にわたって堆積したと考えられる。2C地区南側遺物包含層は、調査区外の東西に広がる。幅は、最大で約9mである。その南北両側から緩やかに傾斜していること、並びに、遺物包含層の最下層に青灰色粘質土・礫混合層があることから、東西に流れる河川流路跡の可能性も考えられる。下層の暗青灰色粘質土層から、緑釉陶器の椀（129～131）、土師器の椀（132～154）、杯（155～158）、白磁の碗（159）、須恵器の壺（161）など古代の遺物が出土した。また、上層の灰色粘質土と明褐色粘質土の混合土層から、瓦質土器の鍋（160）が出土している。中世以降に耕地化されたと考えられる。

第3表 遺構一覧表

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
1	1 A	SP1003	楕円形	30	28	9			
2	1 A	SP1004	楕円形	50	40	15			
3	1 A	SP1006	楕円形	52	32	8			
4	1 A	SP1008	楕円形	48	40	16	土師器	SB1を構成する。	
5	1 A	SP1009	円形	34	34	19	土師器、瓦質土器	SB1を構成する。	
6	1 A	SP1010	楕円形	42	38	5		SB1を構成する。	
7	1 A	SP1011	円形	28	28	9		SB1を構成する。	
8	1 A	SP1012	楕円形	66	62	16	土師器		
9	1 A	SP1014	楕円形	36	32	80	須恵器(甕)		
10	1 A	SP1015	楕円形	34	26	10			
11	1 A	SP1017	推定楕円形	32	残18	10		SP1015に切られる。	
12	1 A	SP1018	楕円形	60	44	32	土師器(杯)	柱根あり。	
13	1 A	SP1021	円形	36	36	22			
14	1 A	SP1022	円形	28	28	11			
15	1 A	SP1023	円形	28	28	6			
16	1 A	SP1024	円形	20	20	4			
17	1 A	SP1025	隅丸方形	50	32	8		SB2を構成する。	
18	1 A	SP1026	楕円形	24	20	7			
19	1 A	SP1027	楕円形	48	46	21	土師器		
20	1 A	SP1028	楕円形	48	40	18	土師器	SB2を構成する。	
21	1 A	SP1030	楕円形	34	28	36	土師器	SB1を構成する。	
22	1 A	SK1031	不定形	146	68	27			
23	1 A	SP1032	楕円形	48	42	7		SB2を構成する。石混入。	
24	1 A	SP1033	楕円形	30	26	7			
25	1 A	SP1034	円形	28	28	12		SB2を構成する。	
26	1 A	SP1035	楕円形	26	24	5			
27	1 A	SP1036	円形	34	34	4	土師器		
28	1 A	SP1037	楕円形	36	28	33		SB2を構成する。	
29	1 A	SP1038	楕円形	38	36	7			
30	1 A	SP1039	不定形	82	66	22	土師器	SB2を構成する。	
31	1 A	SP1040	円形	22	22	11			
32	1 A	SP1041	楕円形	38	34	16			
33	1 A	SP1042	楕円形	38	34	6			
34	1 A	SP1043	楕円形	38	26	26	土師器	SB2を構成する。	
35	1 A	SP1044	円形	18	18	10			
36	1 A	SP1045	楕円形	38	36	21			
37	1 A	SP1046	楕円形	36	34	33		SB2を構成する。	
38	1 A	SP1047	楕円形	46	44	24		SB1を構成する。	
39	1 A	SP1048	円形	40	40	17		SB2を構成する。板石混入。	
40	1 A	SP1049	円形	14	14	15	土師器		
41	1 A	SP1050	円形	18	18	12			
42	1 A	SP1051	楕円形	14	12	24			
43	1 A	SP1052	楕円形	36	30	33		近世 SB3を構成する。	
44	1 A	SP1054	円形	18	18	13			
45	1 A	SP1055	楕円形	24	22	14			
46	1 A	SP1056	円形	22	22	10			
47	1 A	SP1057	楕円形	16	14	12			
48	1 A	SP1058	楕円形	28	26	9		SB7を構成する。	
49	1 A	SP1059	楕円形	28	26	16		SB9を構成する。	
50	1 A	SP1060	円形	18	18	11			
51	1 A	SP1061	円形	10	10	3			
52	1 A	SP1062	円形	32	32	19			
53	1 A	SP1063	楕円形	32	30	19	陶器(碗)	近世 SB3を構成する。	
54	1 A	SP1064	楕円形	44	42	11			
55	1 A	SP1065	円形	12	12	10			
56	1 A	SP1066	楕円形	38	36	21	土師器(皿)	近世 SB3を構成する。	
57	1 A	SP1067	円形	20	20	5			
58	1 A	SP1068	楕円形	24	20	15			
59	1 A	SP1069	楕円形	50	24	7			
60	1 A	SP1070	円形	32	32	24	瓦質土器、土師器	中世 SB4を構成する。	
61	1 A	SP1071	楕円形	22	20	18		中世 SB4を構成する。	
62	1 A	SP1072	円形	30	30	26		中世 SB4を構成する。	
63	1 A	SP1073	推定楕円形	残12	18	3		SP1072に切られる。	
64	1 A	SP1074	楕円形	32	28	7	土師器(杯)	中世 SB4を構成する。	
65	1 A	SP1075	楕円形	31	26	15	土師器(杯) 瓦質土器(鍋、足鍋)	室町時代 SB5を構成する。	
66	1 A	SP1076	楕円形	14	12	9			
67	1 A	SP1077	円形	22	22	4			
68	1 A	SP1078	円形	24	24	9		中世 SB5を構成する。	
69	1 A	SP1079	楕円形	32	30	13			
70	1 A	SP1080	楕円形	34	32	10	青磁(碗)	中世 SB6を構成する。	
71	1 A	SP1081	楕円形	44	40	9	土師器		
72	1 A	SP1082	楕円形	32	28	12	土師器		

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
73	1 A	SP1083	楕円形	30	28	23			中世 SB5を構成する。
74	1 A	SP1084	楕円形	34	32	10	須恵器(甕)	中世	SB6を構成する。
75	1 A	SP1085	円形	36	36	13	土師器		
76	1 A	SP1086	円形	32	32	25			
77	1 A	SP1087	円形	14	14	23			
78	1 A	SP1088	円形	20	20	10			
79	1 A	SP1089	楕円形	32	28	5		中世	SB4を構成する。
80	1 A	SP1090	円形	24	24	8			
81	1 A	SP1091	円形	24	24	9		中世	SB5を構成する。石混入。
82	1 A	SP1092	楕円形	30	28	11	土師器(皿)	中世	SB4を構成する。
83	1 A	SP1093	円形	34	34	13		中世	SB6を構成する。石混入。
84	1 A	SP1094	楕円形	42	34	20	土師器(皿) 須恵器、石製品(砥石)		
85	1 A	SP1095	円形	14	14	10			
86	1 A	SP1096	楕円形	42	34	20	土師器	中世	SB5を構成する。
87	1 A	SP1097	推定楕円形	残24	24	10	スラグ		
88	1 A	SP1098	円形	20	20	6			
89	1 A	SP1099	楕円形	36	32	36			
90	1 A	SP1101	楕円形	60	46	16			
91	1 A	SP1102	楕円形	34	28	7			
92	1 A	SP1103	楕円形	30	26	6			
93	1 A	SP1104	円形	22	22	4			
94	1 A	SP1105	楕円形	24	20	11			
95	1 A	SP1106	円形	14	14	10			
96	1 A	SP1107	円形	16	16	7			
97	1 A	SP1108	円形	22	22	7			
98	1 A	SP1109	楕円形	38	32	17			
99	1 A	SP1110	楕円形	54	42	18	土師器(皿) 瓦質土器(足鍋脚部)		
100	1 A	SP1112	不明	残36	32	18	土師器(皿、杯)	中世	SB6を構成する。SP1113に切られる。
101	1 A	SP1113	不明	残40	36	26	土師器(杯)、スラグ		SP1114に切られる。
102	1 A	SP1114	楕円形	52	46	22	瓦質土器(足鍋脚部)		
103	1 A	SP1116	楕円形	30	28	18			SB7を構成する。
104	1 A	SP1117	楕円形	30	26	22			SB7を構成する。
105	1 A	SP1118	円形	18	18	15		中世	SB6を構成する。
106	1 A	SP1119	楕円形	32	26	24			
107	1 A	SP1120	円形	28	28	10			SB9を構成する。
108	1 A	SP1121	楕円形	36	30	7			
109	1 A	SP1123	楕円形	30	28	7			
110	1 A	SP1124	不明	残26	34	18			SP1125に切られる。
111	1 A	SP1125	不明	44	40	30	瓦質土器(搗鉢、足鍋脚部)		
112	1 A	SP1127	楕円形	28	26	10	炭化物		
113	1 A	SP1128	隅丸方形	34	34	11			SB7を構成する。
114	1 A	SP1129	楕円形	20	18	5			
115	1 A	SP1130	楕円形	16	12	20			
116	1 A	SP1131	楕円形	24	22	8			
117	1 A	SP1132	楕円形	32	28	9			
118	1 A	SP1133	楕円形	46	40	18			SB7を構成する。
119	1 A	SP1134	楕円形	32	30	19			SB9を構成する。
120	1 A	SP1135	楕円形	24	22	22	土師器(皿)		
121	1 A	SP1136	楕円形	44	40	29	瓦質土器(足鍋)	室町時代	
122	1 A	SP1138	楕円形	32	26	26			SB7を構成する。
123	1 A	SP1139	推定楕円形	残32	30	24			
124	1 A	SP1140	楕円形	22	20	10			
125	1 A	SP1141	楕円形	20	18	6			
126	1 A	SP1142	楕円形	28	26	17			
127	1 A	SP1143	円形	16	16	9			
128	1 A	SP1144	楕円形	38	36	40			
129	1 A	SP1145	円形	22	22	14			SB10を構成する。
130	1 A	SP1146	楕円形	34	30	16			
131	1 A	SP1147	推定円形	24	残20	22			SP1146に切られる。
132	1 A	SP1148	楕円形	22	18	12			
133	1 A	SP1149	円形	26	26	13			
134	1 A	SP1150	楕円形	22	16	23			
135	1 A	SP1151	円形	34	34	21			SB7を構成する。
136	1 A	SP1152	円形	44	44	10			SB11を構成する。
137	1 A	SP1153	円形	20	20	7			SB8を構成する。
138	1 A	SP1154	楕円形	24	20	6			
139	1 A	SP1155	円形	26	26	17			SB9を構成する。
140	1 A	SP1156	円形	36	36	22			SB7を構成する。
141	1 A	SP1157	楕円形	34	30	24			
142	1 A	SP1158	楕円形	32	30	19			
143	1 A	SP1159	円形	14	14	7		中世か?	SE1186のつるべ用柱穴か?
144	1 A	SP1160	円形	22	22	15			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
145	1 A	SP1161	楕円形	24	22	15		SB10を構成する。	
146	1 A	SP1162	楕円形	26	22	17			
147	1 A	SP1163	楕円形	22	18	10		SB10を構成する。	
148	1 A	SP1164	不明	残22	22	15		切り合い関係不明。	
149	1 A	SP1165	不明	30	30	15		SB10を構成する。切り合い関係不明。	
150	1 A	SP1166	円形	16	16	5			
151	1 A	SP1167	楕円形	36	26	9			
152	1 A	SP1168	楕円形	22	20	8			
153	1 A	SP1169	円形	22	22	11			
154	1 A	SP1170	楕円形	28	24	15			
155	1 A	SP1171	楕円形	24	22	10			
156	1 A	SP1172	推定楕円形	残26	22	20		SB10を構成する。SP1171に切断される。	
157	1 A	SP1173	楕円形	24	20	9			
158	1 A	SP1174	円形	20	20	15			
159	1 A	SP1175	円形	26	26	8			
160	1 A	SP1176	楕円形	20	18	3			
161	1 A	SP1177	楕円形	24	22	9			
162	1 A	SP1178	楕円形	34	26	15			
163	1 A	SP1179	楕円形	30	24	10			
164	1 A	SP1180	楕円形	24	22	17			
165	1 A	SP1183	楕円形	24	22	17		SB11を構成する。	
166	1 A	SP1184	楕円形	16	14	15			
167	1 A	SP1185	楕円形	34	30	23	土師器		
168	1 A	SE1186	円形	113	112	158	土師器(碗)、瓦質土器(磁鉢、足跡部)、青磁(碗)、加工木材(マツ)	中世 L = 8.00m付近でやや膨らむ。	
169	1 A	SP1187	円形	20	20	13		中世か? SE1186のつるべ用柱穴か?	
170	1 A	SP1188	楕円形	20	14	17			
171	1 A	SP1189	楕円形	26	22	16			
172	1 A	SP1190	円形	26	26	10			
173	1 A	SP1191	円形	44	44	25			
174	1 A	SP1192	楕円形	20	18	13		SB11を構成する。	
175	1 A	SP1195	推定楕円形	残28	28	13			
176	1 A	SP1196	楕円形	28	20	16			
177	1 A	SP1197	円形	20	20	18			
178	1 A	SP1198	円形	20	20	9			
179	1 A	SP1199	円形	20	20	10	土師器(皿)	SB10を構成する。	
180	1 A	SP1200	楕円形	20	16	17			
181	1 A	SP1201	楕円形	18	16	13			
182	1 A	SP1202	円形	20	20	16			
183	1 A	SP1203	円形	18	18	12			
184	1 A	SP1204	円形	22	22	13			
185	1 A	SP1205	推定楕円形	残22	残10	5		SP1206に切られる。	
186	1 A	SP1206	楕円形	24	14	12	土師器		
187	1 A	SP1207	楕円形	14	14	12			
188	1 A	SP1208	楕円形	18	12	14			
189	1 A	SP1209	楕円形	22	20	30			
190	1 A	SP1210	楕円形	22	20	30			
191	1 A	SP1211	楕円形	34	26	15			
192	1 A	SP1212	楕円形	30	24	15		SB16を構成する。	
193	1 A	SP1213	隅丸方形	24	24	26			
194	1 A	SK1214	不明	残294	88	11		調査区外に広がる。	
195	1 A	SP1215	円形	16	16	6			
196	1 A	SP1216	楕円形	18	14	17			
197	1 A	SP1217	円形	20	20	14			
198	1 A	SP1218	円形	26	26	9			
199	1 A	SP1219	楕円形	26	22	18			
200	1 A	SP1220	円形	16	16	14			
201	1 A	SD1221					瓦質土器		
202	1 A	SP1222	楕円形	24	22	18		石混入。	
203	1 A	SP1223	楕円形	26	22	16			
204	1 A	SP1224	円形	16	16	11			
205	1 A	SP1225	円形	20	20	12			
206	1 A	SP1226	円形	20	20	12			
207	1 A	SP1227	楕円形	18	14	3			
208	1 A	SP1228	楕円形	28	24	31		石混入。	
209	1 A	SP1229	推定楕円形	残24	残18	34		SP1228に切られる。	
210	1 A	SP1230	楕円形	30	28	12			
211	1 A	SP1231	円形	22	22	36			
212	1 A	SP1232	円形	24	24	24			
213	1 A	SP1233	円形	34	34	33		SB14を構成する。	
214	1 A	SP1234	楕円形	18	16	9			
215	1 A	SP1235	円形	20	20	22			
216	1 A	SP1236	円形	14	14	6			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
217	1 A	SP1238	円形	14	14	26			
218	1 A	SP1239	円形	22	22	30			
219	1 A	SP1240	楕円形	26	20	12		石混入。	
220	1 A	SP1241	円形	34	34	15		SB14を構成する。	
221	1 A	SP1242	楕円形	20	18	2		石混入。	
222	1 A	SP1243	円形	16	16	6			
223	1 A	SP1244	楕円形	26	24	30			
224	1 A	SP1245	楕円形	14	12	6			
225	1 A	SP1246	円形	18	18	9		石混入。	
226	1 A	SP1247	推定楕円形	20	残14	14		SP1248に切られる。石混入。	
227	1 A	SP1248	円形	30	30	23		石混入。	
228	1 A	SP1249	楕円形	28	26	29			
229	1 A	SP1250	円形	26	26	15		石混入。	
230	1 A	SP1251	楕円形	24	22	13		SB12を構成する。	
231	1 A	SP1252	円形	22	22	18			
232	1 A	SP1253	楕円形	30	28	29			
233	1 A	SP1254	楕円形	18	16	30			
234	1 A	SP1255	円形	30	30	19			
235	1 A	SP1256	楕円形	42	30	40			
236	1 A	SP1257	円形	24	24	31		柱根あり。	
237	1 A	SP1258	楕円形	26	22	51			
238	1 A	SP1259	楕円形	38	32	28		SB13を構成する。	
239	1 A	SP1260	円形	28	28	36			
240	1 A	SP1261	推定楕円形	18	残12	8		SP1260に切られる	
241	1 A	SP1262	円形	22	22	38		SB12を構成する。	
242	1 A	SP1263	円形	20	20	26			
243	1 A	SP1264	楕円形	20	18	19			
244	1 A	SP1265	楕円形	26	24	33			
245	1 A	SP1266	円形	28	28	7		SB14を構成する。	
246	1 A	SP1267	円形	22	22	40			
247	1 A	SP1268	円形	26	26	24		石混入。	
248	1 A	SP1269	楕円形	26	22	29			
249	1 A	SP1270	円形	22	22	不明		石混入。	
250	1 A	SP1271	楕円形	20	16	24			
251	1 A	SP1272	楕円形	34	28	11		SB13を構成する。	
252	1 A	SP1273	楕円形	32	30	18		SB14を構成する。柱根あり。	
253	1 A	SP1274	楕円形	28	24	15			
254	1 A	SP1275	楕円形	44	38	28		SB15を構成する。	
255	1 A	SP1276	楕円形	36	30	13			
256	1 A	SP1277	楕円形	20	18	13	土師器(碗)		
257	1 A	SP1278	楕円形	28	28	26			
258	1 A	SP1279	楕円形	44	38	28			
259	1 A	SP1280	円形	28	28	13		SB12を構成する。石混入。	
260	1 A	SP1281	楕円形	28	26	19			
261	1 A	SP1282	楕円形	28	24	27			
262	1 A	SP1283	円形	30	30	27			
263	1 A	SP1284	楕円形	26	20	24		SB12を構成する。	
264	1 A	SP1285	楕円形	38	36	12			
265	1 A	SP1286	推定楕円形	残40	44	25		SB14を構成する。SP1285に切断される。	
266	1 A	SP1287	円形	12	12	6			
267	1 A	SP1288	楕円形	20	14	5	土師器		
268	1 A	SP1289	円形	85	83	23	瓦質土器(大甕)	近世 埋裏遺構。SK1537に切られる。	
269	1 A	SP1291	楕円形	42	34	20			
270	1 A	SP1292	楕円形	32	30	29		SB14を構成する。	
271	1 A	SP1293	楕円形	34	30	10	須恵器		
272	1 A	SP1294	円形	30	30	20			
273	1 A	SP1295	楕円形	38	34	16		SB15を構成する。	
274	1 A	SP1297	楕円形	32	28	23		SB13を構成する。	
275	1 A	SK1298	楕円形	77	71	35	土師器(大甕) 陶器	近世 埋裏の抜き穴。	
276	1 A	SK1299	長円形	101	72	20	瓦質土器(甕)	SK1300、SP1566に切られる。	
277	1 A	SK1300	円形	48	47	20	瓦質土器(大甕)	近世 埋裏遺構。SK1299の中にある。	
278	1 A	SK1301	楕円形	83	76	38	土師器(大甕) 磁器(碗)	近世 埋裏遺構。	
279	1 A	SK1302	楕円形	96	86	50	瓦質土器(大甕)	近世 埋裏の抜き穴。	
280	1 A	SP1303	楕円形	28	22	16	土師器(甕)		
281	1 A	SP1304	円形	32	32	9			
282	1 A	SP1305	円形	38	38	27			
283	1 A	SK1306	楕円形	99	88	23	土師器(大甕) 瓦質土器(大甕)	近世 埋裏遺構。	
284	1 A	SK1308	不定形	145	115	46	土師器(杯)	SK1310と切り合い。	
285	1 A	SK1310	不明	32	不明	9	瓦質土器(大甕)	近世 埋裏遺構。SK1308と切り合い。	
286	1 A	SP1311	隅丸方形	44	44	31			
287	1 A	SP1312	推定楕円形	残40	36	22		SP1311に切られる。	
288	1 A	SP1313	楕円形	24	20	11			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
289	1 A	SP1314	楕円形	20	16	12			
290	1 A	SP1316	楕円形	48	34	23			
291	1 A	SK1317	楕円形	88	72	11			
292	1 A	SK1318	不明	88	残64	38		SB13を構成する。	
293	1 A	SK1319	円形	150	150	80	土師器(大甕、皿)瓦質土器(大甕)磁器(碗)	近世 SK1317に切られる。SK1320を切る。	
294	1 A	SK1320	不明	86	不明	52	瓦質土器(甕)磁器(染付碗)	近世 SK1319に切られる	
295	1 A	SP1321	楕円形	36	28	25		SB15を構成する。	
296	1 A	SP1322	円形	38	38	5		SD1473を切断する	
297	1 A	SP1325	楕円形	26	26	14		SB15を構成する。	
298	1 A	SP1326	楕円形	20	18	2			
299	1 A	SP1327	楕円形	24	20	11		SD1473を切る。	
300	1 A	SP1328	推定楕円形	42	残36	25		SD1473に切られる。	
301	1 A	SP1331	楕円形	32	28	16			
302	1 A	SP1332	楕円形	28	24	12		SB15を構成する。	
303	1 A	SP1333	楕円形	18	14	5			
304	1 A	SP1334	楕円形	30	24	6		SD1473を切る。	
305	1 A	SP1335	楕円形	26	22	10			
306	1 A	SP1337	楕円形	32	28	16			
307	1 A	SK1338	楕円形	72	64	15		SD1473を切る。	
308	1 A	SP1339	楕円形	52	40	36			
309	1 A	SP1340	推定楕円形	28	残14	15		SD1473に切られる。	
310	1 A	SP1341	楕円形	28	24	20			
311	1 A	SP1342	楕円形	34	30	30			
312	1 A	SP1343	楕円形	30	24	7			
313	1 A	SP1344	楕円形	22	18	8			
314	1 A	SP1345	楕円形	18	14	13			
315	1 A	SP1346	推定円形	残16	18	6		SB15を構成する。 SP1347に切られる。	
316	1 A	SP1347	楕円形	52	50	29			
317	1 A	SP1348	楕円形	34	30	26		SB15を構成する。	
318	1 A	SP1349	楕円形	28	24	18			
319	1 A	SP1350	楕円形	34	28	19		柱根あり。	
320	1 A	SP1351	円形	18	18	3			
321	1 A	SP1352	円形	18	18	6			
322	1 A	SP1353	不明	38	不明	21			
323	1 A	SP1354	不明	不明	36	15		SP1353に切られる。	
324	1 A	SP1355	不明	24	不明	7		SP1354、SP1356に切られる。	
325	1 A	SP1356	不明	不明	34	15		石混入。	
326	1 A	SP1357	不明	不明	32	23	土師器	SB15を構成する。SP1356に切られる。	
327	1 A	SP1358	楕円形	22	20	27	土師器		
328	1 A	SP1359	楕円形	34	32	23			
329	1 A	SP1360	円形	20	20	13			
330	1 A	SP1361	楕円形	34	26	9			
331	1 A	SP1362	円形	30	30	20		SB15を構成する。	
332	1 A	SP1363	楕円形	30	26	38			
333	1 A	SP1364	円形	32	32	40			
334	1 A	SP1365	楕円形	26	22	19		SB15を構成する。	
335	1 A	SP1366	楕円形	34	28	4			
336	1 A	SP1367	楕円形	30	28	10			
337	1 A	SP1368	楕円形	20	16	5			
338	1 A	SP1369	楕円形	24	20	16		SB16を構成する。	
339	1 A	SP1370	楕円形	34	30	29		SB15を構成する。	
340	1 A	SP1371	楕円形	32	30	14			
341	1 A	SK1372	楕円形	100	94	20			
342	1 A	SP1373	楕円形	14	12	0			
343	1 A	SP1374	楕円形	26	22	12		SB16を構成する。	
344	1 A	SP1375	楕円形	30	26	11			
345	1 A	SP1376	円形	22	22	27		SB16を構成する。	
346	1 B	SP1377	楕円形	50	32	7			
347	1 B	SK1378	楕円形	58	48	23			
348	1 B	SK1379	円形	52	52	29			
349	1 B	SP1380	楕円形	26	22	12		SB17を構成する。	
350	1 B	SP1381	楕円形	20	14	6			
351	1 B	SP1382	円形	30	30	10			
352	1 B	SK1383	不明	152	残54	38			
353	1 B	SP1384	楕円形	22	18	7			
354	1 B	SP1385	円形	24	24	7		SB17を構成する。	
355	1 B	SK1386	楕円形	60	44	11	土師器(鉢)磁器(碗)		
356	1 B	SP1387	楕円形	42	34	9			
357	1 B	SP1388	楕円形	28	22	6			
358	1 B	SP1389	楕円形	38	24	12	土師器(甕)瓦		
359	1 B	SP1390	楕円形	26	20	12		SB17を構成する。	
360	1 B	SP1391	楕円形	20	18	4			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
361	1 B	SK1392	隅丸方形	38	38	10	土師器(土瓶)陶器(播鉢、灯明皿、碗)	近世	
362	1 B	SK1393	楕円形	86	76	45	土師器、磁器(碗)陶器	近世	埋甕の抜き穴。
363	1 B	SP1394	楕円形	36	26	14			
364	1 B	SK1395	楕円形	78	72	30		近世	埋甕の抜き穴。
365	1 B	SP1396	円形	24	24	15			
366	1 B	SP1397	円形	26	26	12			
367	1 B	SP1398	楕円形	18	16	8			
368	1 B	SK1399	不明	残58	残22	19			
369	1 B	ST1400	隅丸方形	131	70	20	土師器(皿)瓦質土器(甕)	中世	
370	1 B	SP1401	円形	18	18	6	土師器(茶釜)		
371	1 B	SK1402	隅丸三角形	90	77	23	土師器(大甕、鉢)瓦質土器(火鉢?)磁器(碗)土製品、棧瓦	近世	埋甕遺構。瓦質土器、瓦で周りを充填。
372	1 B	SE1403	楕円形	97	84	推260	土師器(鉢、甕)磁器(碗)陶器(播鉢)石製品(石臼)瓦、木炭	近世	
373	1 B	SD1405							SD1411、SE1403に切られる。
374	1 B	SP1406	楕円形	20	12	8			SD1411内に所在。
375	1 B	SP1407	楕円形	22	20	34			SD1411内に所在。
376	1 B	SP1408	楕円形	14	12	17			SD1411内に所在。
377	1 B	SP1409	楕円形	20	14	33			SD1411内に所在。
378	1 B	SP1410	楕円形	28	24	13			
379	1 B	SD1411					土師器(甕、播鉢)磁器(皿、染付碗)陶器(鉢、播鉢)	近世	
380	1 B	SP1412	楕円形	30	26	43			SK1417を切る。
381	1 B	SP1413	隅丸方形	18	16	17			
382	1 B	SK1414	円形	52	52	21	陶器	近世	埋甕の抜き穴。
383	1 B	SP1415	隅丸三角形	20	20	18			SB18を構成する。
384	1 B	SK1416	隅丸方形	46	40	16			SP1415に切られる。
385	1 B	SK1417	楕円形	残42	25	19		近世	埋甕の抜き穴。SK1412に切られる。
386	1 B	SK1418	円形	60	60	28	土師器(大甕)土製品	近世	埋甕遺構。
387	1 B	SK1419	楕円形	55	51	18	土師器(甕)陶器(播鉢)瓦	近世	埋甕の抜き穴。
388	1 B	SK1420	円形	90	90	47	土師器(大甕)磁器(碗)	近世	埋甕遺構。
389	1 B	SK1421	不定形	94	70	31	土師器、瓦質土器	近世	埋甕の抜き穴。
390	1 B	SK1422	楕円形	82	68	32	土師器、陶器(播鉢)棧瓦、鉄釘	近世	埋甕の抜き穴。
391	1 B	SP1423	隅丸方形	24	24	12			SB18を構成する。
392	1 B	SK1424	楕円形	80	76	27	土師器(甕)瓦質土器(大甕)磁器(染付碗)陶器(甕、碗)	近世	埋甕遺構。
393	1 B	SK1425	円形	86	84	46	瓦質土器(大甕、足鍋脚部)	近世	埋甕遺構。
394	1 B	SK1426	円形	69	69	26	土師器(大甕)	近世	埋甕遺構。
395	1 B	SP1427	隅丸方形	18	12	19			
396	1 B	SK1428	隅丸方形	76	70	26	瓦質土器、陶器	近世	埋甕の抜き穴。
397	1 B	SK1429	隅丸方形	80	72	31	土師器(甕、鉢)磁器(染付皿)	近世	埋甕の抜き穴。
398	1 B	SK1430	楕円形	64	52	22	陶器(椀、播鉢)	近世	埋甕の抜き穴。
399	1 B	SP1431	楕円形	40	30	20			
400	1 B	SP1432	隅丸方形	16	12	10			
401	1 B	SP1433	円形	22	22	9			SB18を構成する。
402	1 B	SK1434	隅丸方形	56	40	39		近世	埋甕の抜き穴。
403	1 B	SK1435	楕円形	88	78	30	瓦質土器、磁器(染付皿)	近世	埋甕の抜き穴。
404	1 B	SK1436	楕円形	46	46	12	土師器	近世	埋甕の抜き穴。石混入。
405	1 B	SP1437	楕円形	20	16	11			
406	1 B	SP1438	楕円形	18	14	14			
407	1 B	SK1439	円形	60	60	28	陶器、石製品	近世	埋甕の抜き穴。
408	1 B	SP1440	楕円形	22	18	11			SB18を構成する。
409	1 B	SK1441	楕円形	76	68	28	瓦質土器(大甕)磁器(皿)陶器(大甕、碗)石製品(椀)	近世	埋甕遺構
410	1 B	SK1442	不明	96	不明	43	漆片	近世	
411	1 B	SP1443	円形	20	20	15			
412	1 B	SP1444	楕円形	26	24	12			SB19を構成する。
413	1 B	SK1445	楕円形	86	64	18			
414	1 B	SP1446	楕円形	42	36	19			
415	1 B	SP1447	楕円形	32	28	8			SB19を構成する。
416	1 B	SP1448	楕円形	22	20	12			
417	1 B	SP1449	楕円形	24	20	7			
418	1 B	SP1450	楕円形	48	36	15			
419	1 B	SP1451	楕円形	32	28	11			
420	1 B	SP1452	楕円形	34	32	10			
421	1 B	SK1453	楕円形	66	65	26		近世	埋甕の抜き穴。
422	1 B	SP1454	楕円形	22	20	21			
423	1 B	SP1455	円形	28	28	11			SB19を構成する。
424	1 B	SP1456	楕円形	18	16	19			
425	1 B	SP1457	円形	20	20	22			
426	1 B	SP1458	円形	34	34	8			
427	1 B	SP1459	円形	30	30	11			
428	1 B	SP1460	円形	24	24	9			
429	1 B	SP1461	楕円形	36	28	13	土師器		SB19を構成する。
430	1 B	SP1462	楕円形	18	14	5			
431	1 B	SP1463	楕円形	30	28	12			
432	1 B	SP1464	円形	22	22	18			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
433	1 B	SP1465	楕円形	22	20	8			
434	1 B	SP1466	楕円形	32	30	13			
435	1 B	SP1468	円形	18	18	14			
436	1 B	SP1469	円形	26	26	12			
437	1 B	SK1470	不明	残80	残34	34	土師器(甕) 磁器(皿) 陶器(播鉢)	近世	埋甕の抜き穴。
438	1 B	SP1471	円形	18	18	10			
439	1 B	SD1472					土師器(大甕, 鉢), 瓦質土器(磁器(碗), 陶器(大甕, 碗, 皿, 鉢, 播鉢)) 瓦	近世	
440	1 B	SD1473					土師器(甕), 磁器(瓶, 碗, 香炉), 陶器(播鉢)	中世-近世初頭	1 A、1 B 地区を東西に横切る。
441	1 B	SP1474	楕円形	30	26	7			
442	1 B	SP1475	楕円形	28	26	12			SB17を構成する。
443	1 B	SP1476	楕円形	50	42	12			
444	1 B	SP1477	楕円形	40	30	10			
445	1 B	SP1478	楕円形	20	16	15			
446	1 B	SP1479	楕円形	31	28	10	土師器(茶釜)	室町時代	
447	1 B	SP1480	楕円形	38	32	14			
448	1 B	SP1481	楕円形	46	40	24			SB17を構成する。
449	1 B	SP1482	楕円形	32	28	10			
450	1 B	SP1483	楕円形	46	34	20			
451	1 B	SP1484	楕円形	52	44	10			
452	1 B	SP1485	楕円形	50	38	11			
453	1 B	SP1486	円形	20	20	12			
454	1 B	SP1487	不定形	44	36	18			
455	1 B	SK1488	楕円形	54	42	8			
456	1 B	SK1489	不明	96	残40	22			
457	1 B	SP1490	円形	18	18	10			
458	1 B	SP1491	楕円形	28	22	13			
459	1 B	SK1492	円形	72	69	28	瓦質土器(大甕, 鉢)	近世	埋甕遺構。
460	1 B	SP1493	楕円形	48	42	22			SB17を構成する。
461	1 B	SP1494	円形	22	22	5			
462	1 B	SP1496	楕円形	36	34	9			
463	1 B	SP1497	円形	30	30	13			
464	1 B	SP1498	楕円形	32	24	41			
465	1 B	SP1499	楕円形	40	36	13	土師器(甕)		
466	1 B	SP1500	楕円形	22	20	11			
467	1 B	SP1501	楕円形	22	20	17			
468	1 B	SP1502	楕円形	26	22	8			柱根あり。
469	1 B	SP1503	楕円形	22	20	13			
470	1 B	SP1504	楕円形	28	24	11			
471	1 B	SP1505	楕円形	22	20	16			
472	1 B	SK1506	楕円形	76	72	49	土師器(甕, 鉢), 陶器(皿, 碗), 木製品(曲物の底板, 帯), 石製品(砥石)	近世	
473	1 B	SP1507	楕円形	16	12	5			
474	1 B	SP1508	円形	30	30	10			
475	1 B	SK1509	楕円形	172	120	29	土師器(鉢) 瓦質土器(甕) 磁器(碗)	近世	
476	1 B	SP1510	楕円形	54	46	10			
477	1 B	SK1511	楕円形	72	64	22			
478	1 B	SP1512	不明	46	残32	12			SK1511に切られる。
479	1 B	SK1513	楕円形	72	56	18			
480	1 B	SP1515	隅丸方形	40	34	20			SB18を構成する。
481	1 B	SK1517	楕円形	150	38	2			SK1518、1535に切られる。
482	1 B	SK1518	楕円形	76	50	18	陶器(碗) 土製品、鉄釘		SK1517を切る。
483	1 B	SP1519	楕円形	36	30	19			
484	1 B	SP1520	楕円形	34	30	17			
485	1 B	SP1521	隅丸方形	28	28	13			
486	1 B	SP1522	楕円形	34	24	20			
487	1 B	SK1523	楕円形	30	22	21			
488	1 B	SK1524	隅丸方形	56	44	14			
489	1 B	SP1525	円形	20	20	25			
490	1 B	SP1526	円形	20	20	21			
491	1 B	SP1527	楕円形	40	32	11			石混入。
492	1 B	SP1528	円形	40	40	19			SB18を構成する。
493	1 B	SP1529	隅丸方形	28	24	11			
494	1 B	SK1530	円形	54	52	22	土師器(甕) 瓦質土器(大甕) 磁器(碗) 陶器(土瓶)	近世	埋甕遺構。SP1617に切られる。
495	1 B	SK1531	隅丸三角	96	72	22	陶器(播鉢)		
496	1 B	SP1532	隅丸方形	46	46	26			
497	1 B	SP1533	不明	残30	38	12			SB19を構成する。SP1532に切られる。
498	1 B	SP1534	楕円形	32	26	14			SB19を構成する。SD1473を切断する。
499	1 B	SK1535	楕円形	56	40	16			SX1517を切る。
500	1 A	SK1536	不明	32	不明	13	土師器(大甕)	近世	埋甕遺構。SK1289に切られる。
501	1 A	SK1537	隅丸方形	58	56	24	瓦質土器(甕)	近世	埋甕の抜き穴。
502	1 A	SP1539	円形	36	36	27			SB6を構成する。
503	1 A	SP1540	楕円形	40	38	20			
504	1 A	SP1541	楕円形	44	42	28			

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
505	1 A	SP1542	楕円形	42	22	26		中世	SB6を構成する。SP1541に切られる。
506	1 A	SP1543	楕円形	28	26	18			
507	1 A	SP1544	楕円形	34	32	26			SB9を構成する。柱根あり。
508	1 A	SP1545	楕円形	38	26	26			SB8を構成する。
509	1 A	SP1546	不明	不明	38	21		中世	SB6を構成する。
510	1 A	SP1547	楕円形	26	22	18			
511	1 A	SP1548	円形	14	14	14			
512	1 A	SP1549	円形	36	36	14			
513	1 A	SP1550	円形	18	18	9			
514	1 A	SP1551	推定円形	16	16	9			SP1568に切られる。
515	1 A	SP1552	8字形	30	14	11			
516	1 A	SP1553	円形	18	18	11			
517	1 A	SP1554	不明	不明	36	12			SP1555を切る。
518	1 A	SP1555	不明	54	不明	19			SP1554、SP1556に切られる。
519	1 A	SP1556	不明	44	不明	17			SP1555を切る。
520	1 A	SP1557	楕円形	26	20	14			SB9を構成する。
521	1 A	SP1558	楕円形	28	24	20			SB11を構成する。
522	1 A	SP1559	円形	30	30	23			
523	1 A	SP1560	隅丸方形	26	20	13			
524	1 A	SP1563	楕円形	32	26	28			
525	1 A	SP1565	楕円形	28	20	22			SB16を構成する。
526	1 A	SP1566	楕円形	38	33	34	瓦質土器		SK1299内所在。
527	1 A	SP1567	隅丸方形	38	38	30	瓦質土器		
528	1 A	SP1568	円形	20	20	15			SP1551を切る。
529	1 B	SP1569	楕円形	12	8	20			
530	1 B	SP1570	楕円形	52	44	31			
531	1 B	SK1573	隅丸方形	108	90	42	土師器(皿) 須恵器(甕)		
532	1 B	SK1574	不明	残88	残34	131	土師器、磁器(小杯) 陶器(甕)		調査区外に広がる。
533	1 A	SP1575	楕円形	18	16	18			
534	1 A	SP1576	円形	22	22	11			
535	1 A	SP1577	円形	18	18	5			
536	1 A	SP1578	楕円形	34	24	5			
537	1 A	SP1580	楕円形	22	18	12			
538	1 A	SP1581	楕円形	20	18	不明			
539	1 A	SP1582	不明	不明	20	6			SP1583に切られる。
540	1 A	SP1583	楕円形	26	20	6			
541	1 A	SP1584	楕円形	22	20	7			
542	1 A	SP1585	楕円形	20	16	11			
543	1 A	SP1586	円形	18	18	8			
544	1 A	SP1587	円形	22	22	9			
545	1 A	SP1588	楕円形	28	22	7			石混入。
546	1 A	SP1589	円形	22	22	11			
547	1 A	SP1590	楕円形	40	28	8			
548	1 A	SP1591	楕円形	24	22	9			
549	1 A	SP1592	楕円形	46	38	6			石混入。
550	1 A	SP1593	楕円形	22	18	9			
551	1 A	SP1594	円形	12	12	2			
552	1 A	SP1596	楕円形	28	22	14			
553	1 A	SP1597	楕円形	22	20	15			SB8を構成する。
554	1 A	SP1598	楕円形	22	20	7			
555	1 A	SP1599	楕円形	30	28	10			
556	1 A	SP1600	円形	12	12	4			
557	1 B	SP1601	楕円形	26	22	不明			SP1479に切られる。
558	1 B	SK1602	不明	不明	68	25			SK1424、SK1425に切られる。
559	1 B	SK1603	不明	64	残36	22			SK1434、SK1435に切られる。
560	1 A	SP1604	楕円形	34	30	16			
561	1 A	SP1605	楕円形	36	30	19			
562	1 A	SP1606	隅丸方形	22	20	8			
563	1 A	SP1607	円形	12	12	不明			SX1214内に所在。
564	1 A	SP1608	楕円形	20	14	17			SX1214内に所在。
565	1 B	SP1609	楕円形	50	46	23			SD1473を切断する。
566	1 B	SP1610	楕円形	18	16	8			SD1473内に所在。
567	1 B	SK1611	不明	残140	残94	13			調査区外に広がる。。
568	1 B	SP1613	隅丸三角形	20	14	不明			
569	1 B	SK1614	不明	残62	58	22			SK1422、SK1425に切られる。
570	1 B	SK1615	隅丸三角形	42	36	8			
571	1 B	SP1616	楕円形	12	10	26			SK1518内に所在。
572	1 B	SP1617	円形	28	28	37		近世	SK1530を切る。
573	1 B	SP1619	楕円形	24	20	26			
574	1 B	SK1620	不明	80	不明	28	土師器(風呂釜, 焙烙, 甕) 陶器(甕)	近世	
575	1 B	SP1621	不明	21	不明	6			SK1402に切られる。
576	1 B	SD1622							

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
577	2 A	SP2001	楕円形	20	16	9			
578	2 A	SP2002	楕円形	20	18	18			
579	2 A	SP2004	楕円形	16	14	3			
580	2 A	SP2005	楕円形	30	22	7			
581	2 A	SP2006	不明	16	10	6			
582	2 A	SP2007	楕円形	20	14	8			
583	2 A	SP2008	楕円形	20	14	3			
584	2 A	SP2009	楕円形	34	22	7			
585	2 A	SP2012	楕円形	18	16	3			
586	2 A	SP2013	楕円形	20	14	6			
587	2 A	SP2014	楕円形	20	18	8			
588	2 A	SP2015	楕円形	16	12	6	土師器 (杯)		
589	2 A	SP2016	隅丸方形	30	30	19			
590	2 A	SP2017	楕円形	20	18	11			
591	2 A	SP2018	円形	18	18	8			
592	2 A	SP2019	楕円形	44	28	7			
593	2 A	SP2020	楕円形	16	14	20			
594	2 A	SP2021	楕円形	24	22	9			
595	2 A	SP2022	楕円形	28	22	24			
596	2 A	SP2023	楕円形	34	24	8			
597	2 A	SP2024	楕円形	24	22	9			
598	2 A	SP2025	楕円形	残42	40	19		SP2026と切り合い。	
599	2 A	SP2026	楕円形	残18	24	7		SP2025と切り合い。	
600	2 A	SP2027	楕円形	24	20	12			
601	2 A	SP2029	楕円形	26	20	20	土師器		
602	2 A	SP2030	楕円形	16	12	6			
603	2 A	SP2031	楕円形	14	10	3			
604	2 A	SK2032	隅丸方形	72	60	19	土師器		
605	2 C	SK2035	楕円形	80	72	6	瓦質土器		
606	2 C	SK2036	隅丸方形	44	40	15			
607	2 C	SK2037	不明	残111	80	12			
608	2 C	SP2038	楕円形	40	34	20			
609	2 C	SP2039	楕円形	26	18	7			
610	2 C	SP2041	楕円形	36	26	20			
611	2 C	SP2042	楕円形	38	28	16			
612	2 C	SP2043	楕円形	32	28	10			
613	2 C	SP2044	円形	26	26	23	土師器 (杯)	古代 SB22を構成する。	
614	2 C	SP2045	円形	24	24	9		古代 SB22を構成する。	
615	2 C	SP2046	楕円形	36	30	26	土師器	古代 SB22を構成する。	
616	2 C	SP2047	楕円形	26	16	11		古代 SB22を構成する。	
617	2 C	SP2048	楕円形	24	22	15	土師器		
618	2 C	SK2049	楕円形	88	84	16			
619	2 C	SP2050	楕円形	30	24	11	土師器		
620	2 C	SP2051	楕円形	14	12	16			
621	2 C	SP2054	楕円形	40	30	24			
622	2 C	SP2055	楕円形	30	26	22		古代 SB22を構成する。	
623	2 C	SP2056	楕円形	24	20	23			
624	2 C	SP2057	楕円形	26	16	8		古代 SB22を構成する。	
625	2 C	SP2058	円形	22	22	23	土師器	古代 SB21を構成する。	
626	2 C	SP2059	楕円形	30	28	17		古代 SB21を構成する。	
627	2 C	SP2060	楕円形	24	20	21		古代 SB21を構成する。	
628	2 C	SP2063	円形	20	20	14		古代 SB20を構成する。	
629	2 C	SP2064	楕円形	26	20	17	土師器		
630	2 C	SP2065	楕円形	24	18	13		古代 SB20を構成する。	
631	2 C	SP2067	楕円形	26	22	11			
632	2 C	SP2068	楕円形	26	20	20			
633	2 C	SP2069	楕円形	26	22	16		古代 SB21を構成する。	
634	2 C	SP2070	楕円形	24	20	11		古代 SB20を構成する。	
635	2 C	SP2071	円形	12	12	19			
636	2 C	SP2072	円形	12	12	16			
637	2 C	SP2073	円形	18	18	10			
638	2 C	SP2074	楕円形	20	18	10			
639	2 C	SP2075	楕円形	40	32	13		古代 SB21を構成する。柱穴内に石。	
640	2 C	SP2076	楕円形	26	22	10			
641	2 C	SP2077	楕円形	24	22	8			
642	2 C	SP2078	楕円形	16	12	7			
643	2 C	SP2079	楕円形	30	26	22		古代 SB21を構成する。	
644	2 C	SP2080	楕円形	30	28	4			
645	2 C	SP2081	円形	28	28	9			
646	2 C	SP2082	楕円形	18	16	13			
647	2 C	SP2083	円形	30	30	12			
648	2 C	SP2084	楕円形	22	18	6		古代 SB21を構成する。柱穴内に石。	

番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
649	2 C	SP2085	円形	22	22	7			
650	2 C	SP2086	楕円形	24	16	10			
651	2 C	SP2087	不明	残26	34	2		SP2088に切られる。	
652	2 C	SP2088	楕円形	38	32	16	土師器	古代 SB21を構成する。	
653	2 C	SP2089	円形	18	18	12			
654	2 C	SP2090	円形	14	14	11	土師器		
655	2 C	SP2091	楕円形	24	22	11		古代 SB21を構成する。	
656	2 C	SP2092	楕円形	22	18	16			
657	2 C	SP2093	円形	20	20	7	土師器 (椀)		
658	2 C	SP2094	円形	20	20	13	土師器 (椀)	古代 SB20を構成する。	
659	2 C	SP2095	楕円形	24	20	14	土師器	古代 SB20を構成する。	
660	2 C	SP2096	楕円形	30	20	10			
661	2 C	SP2097	円形	16	16	15			
662	2 C	SP2098	円形	20	20	8			
663	2 C	SP2099	円形	16	16	12			
664	2 C	SP2100	円形	18	18	6			
665	2 C	SP2101	楕円形	12	10	9			
666	2 C	SP2102	楕円形	20	16	22		古代 SB20を構成する。	
667	2 C	SP2103	楕円形	20	12	16		古代 SB20を構成する。	
668	2 C	SP2105	楕円形	30	24	13		古代 SB21を構成する。	
669	2 C	SP2106	隅丸方形	36	30	5			
670	2 C	SP2107	楕円形	32	28	20		古代 SB21を構成する。	
671	2 C	SP2108	楕円形	14	12	12			
672	2 C	SP2109	楕円形	44	36	22		古代 SB21を構成する。	
673	2 C	SP2110	楕円形	26	22	23	土師器 (椀、杯)	古代 SB21を構成する。	
674	2 C	SP2111	楕円形	18	14	9			
675	2 C	SP2112	楕円形	31	28	20	土師器 (椀)	平安・鎌倉時代	
676	2 C	SP2113	円形	22	22	18	スラグ		
677	2 C	SP2114	円形	22	22	11			
678	2 C	SP2115	楕円形	32	30	26		古代 SB21を構成する。	
679	2 C	SP2116	楕円形	26	20	13		古代 SB20を構成する。	
680	2 C	SP2117	楕円形	26	20	15			
681	2 C	SP2118	円形	22	22	12		古代 SB20を構成する。	
682	2 C	SP2119	円形	22	22	12		古代 SB20を構成する。	
683	2 C	SP2120	楕円形	24	22	17			
684	2 C	SP2121	楕円形	22	16	13			
685	2 C	SP2123	楕円形	26	16	18			
686	2 C	SP2124	円形	12	12	8			
687	2 C	SP2125	楕円形	24	22	13			
688	2 C	SP2126	円形	18	18	23			
689	2 C	SP2127	楕円形	18	16	14			
690	2 C	SP2128	不明	18	残12	8		SP2129に切られる。	
691	2 C	SP2129	楕円形	38	32	12	土師器		
692	2 C	SP2130	楕円形	20	18	8			
693	2 C	SP2131	円形	14	14	4			
694	2 C	SP2132	楕円形	12	10	10			
695	2 C	SP2133	楕円形	22	20	14			
696	2 C	SP2134	楕円形	26	20	14			
697	2 C	SP2135	楕円形	18	16	7			
698	2 C	SP2136	楕円形	25	20	5	土師器 (有孔台付皿)	平安時代	
699	2 C	SP2137	楕円形	20	16	6			
700	2 C	SP2138	円形	12	12	9			
701	2 C	SP2139	円形	12	12	6			
702	2 C	SP2140	楕円形	20	16	12			
703	2 C	SP2141	円形	14	14	9			
704	2 C	SP2142	楕円形	20	残12	8		SP2143に切られる。	
705	2 C	SP2143	楕円形	20	18	10			
706	2 C	SP2144	楕円形	18	16	6			
707	2 C	SK2145	楕円形	74	60	7			
708	2 C	SP2146	不明	残22	22	3		SP2145に切られる。	
709	2 C	SP2147	円形	16	16	8			
710	2 C	SP2148	楕円形	24	20	8			
711	2 C	SP2149	楕円形	16	14	5			
712	2 C	SP2150	円形	16	16	3			
713	2 C	SP2151	楕円形	22	16	5			
714	2 C	SP2152	円形	24	24	6			
715	2 C	SP2153	円形	20	20	14			
716	2 C	SP2154	楕円形	26	20	14			
717	2 C	SP2155	円形	14	14	10			
718	2 C	SP2156	楕円形	20	16	8			
719	2 C	SP2157	楕円形	20	14	13			
720	2 C	SP2158	円形	22	22	13			



番号	地区	遺構番号	平面形	規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
				長軸	短軸	深さ			
721	2 C	SP2159	楕円形	26	20	3			
722	2 C	SP2160	楕円形	20	14	4			
723	2 C	SP2161	隅丸方形	30	26	12			
724	2 C	SP2162	楕円形	24	20	8			
725	2 C	SP2163	楕円形	14	10	9			
726	2 C	SP2164	楕円形	20	16	10			
727	2 C	SP2165	楕円形	24	16	10	土師器		
728	2 C	SP2166	楕円形	20	18	6			
729	2 C	SP2167	楕円形	18	14	7			
730	2 C	SP2168	楕円形	16	14	11			
731	2 C	SP2169	楕円形	12	9	4			
732	2 C	SP2170	楕円形	16	14	18			
733	2 C	SP2171	楕円形	14	12	7			
734	2 C	SP2172	楕円形	20	16	8			
735	2 C	SP2173	楕円形	30	24	6			
736	2 C	SP2174	円形	20	20	9			
737	2 C	SP2175	楕円形	26	24	10			
738	2 C	SP2176	円形	30	30	5			
739	2 C	SP2177	楕円形	18	16	9			
740	2 C	SP2178	円形	10	9	10			
741	2 C	SP2179	円形	14	14	6			
742	2 C	SP2180	楕円形	14	12	4			
743	2 C	SP2181	円形	16	16	3			
744	2 C	SP2182	円形	14	14	10			
745	2 C	SP2183	楕円形	28	24	3			
746	2 C	SP2184	楕円形	20	16	7			
747	2 C	SP2185	楕円形	14	12	14			
748	2 C	SP2186	不明	40	残16	9			
749	2 C	SP2187	不明	16	残10	9			
750	2 C	SP2188	不明	残16	14	7			
751	2 C	SP2189	楕円形	18	14	15			
752	2 C	SP2190	楕円形	14	12	6			
753	2 C	SP2191	円形	12	12	11			
754	2 C	SP2192	楕円形	19	15	6			
755	2 C	SP2195	楕円形	12	10	6			
756	2 C	SP2196	楕円形	16	14	5			
757	2 C	SP2197	楕円形	16	14	5			
758	2 C	SP2198	楕円形	16	14	4			
759	2 C	SP2200	楕円形	22	20	20			
760	2 C	SP2201	楕円形	18	16	34			
761	2 C	SP2202	円形	20	20	12			
762	2 C	SP2203	円形	12	12	6			
763	2 C	SP2204	円形	16	16	2			
764	2 C	SP2205	円形	12	12	13			
765	2 C	SP2206	楕円形	12	8	11			
766	2 C	SP2207	円形	14	14	8			
767	2 C	SP2208	楕円形	12	8	10			
768	2 C	SP2209	楕円形	30	22	8			
769	2 C	SP2210	楕円形	32	26	35			
770	2 C	SP2211	楕円形	20	16	21	土師器		
771	2 C	SP2212	楕円形	34	30	2		古代	SB21を構成する。
772	2 C	SP2213	円形	10	10	4			
773	2 C	SP2214	楕円形	14	10	7			
774	2 C	SP2215	楕円形	26	18	10			
775	2 C	SP2216	楕円形	16	12	11			
776	2 C	SP2217	円形	14	14	8			
777	2 C	SP2218	円形	12	12	5			
778	2 C	SP2219	円形	10	10	5			
779	2 C	SP2220	楕円形	14	12	3			
780	2 C	SP2221	円形	12	12	6			
781	2 C	SP2222	楕円形	10	8	3			
782	2 C	SP2223	楕円形	22	18	20			
783	2 C	SP2224	円形	8	8	4			
784	2 A	SK2225	不明	残434	152	12			

# 遺物

調査の結果、古代（平安時代）中世（鎌倉・室町時代）近世（江戸時代）の各時期の遺物が出土している。主な遺物の種類としては、土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦質土器・輸入磁器・国産陶磁器、土製品、石製品、金属製品（銭貨）木製品などがある。遺構とのかかわりでは、土坑・溝状遺構・柱穴などの遺構に伴う出土遺物総量は比較的少ないが、埋甕遺構関連ならびに遺物包含層からの出土遺物が、比較的多い。

なお、各遺物の法量や調整・特徴などについては、章末の各遺物観察表に一括して掲載した。

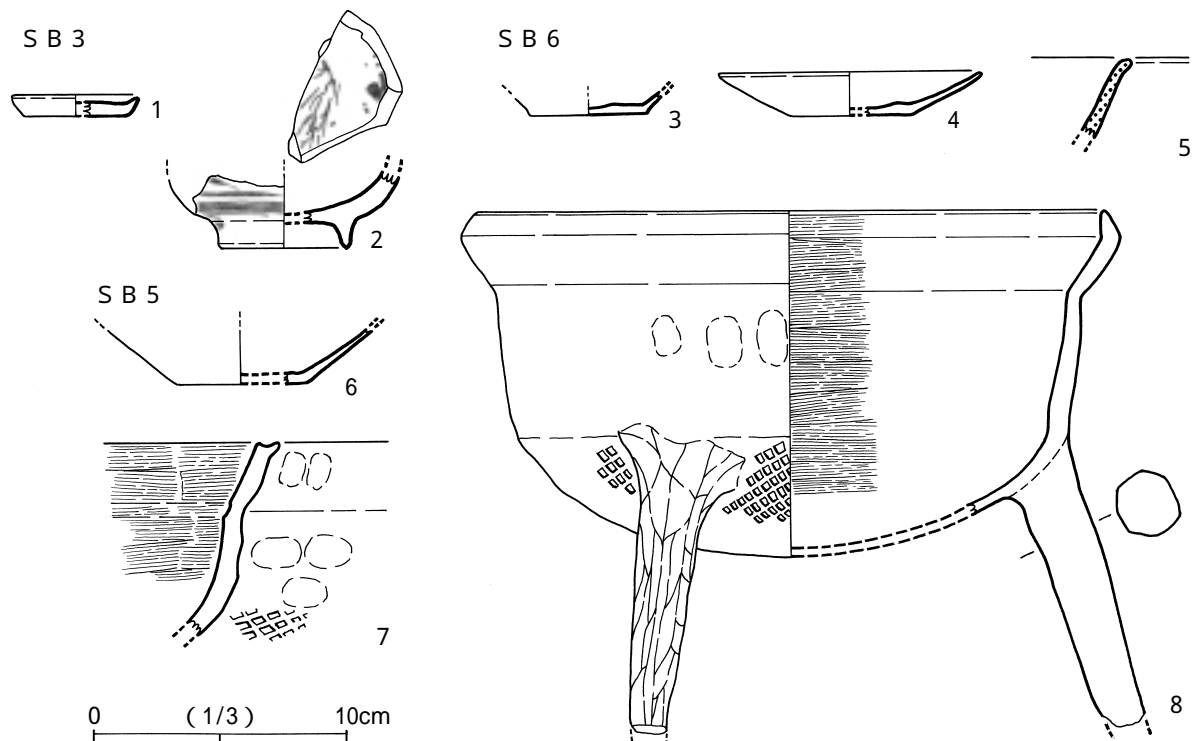
## 1 土器・陶磁器（第23～41図、図版15～25）

### （1）掘立柱建物跡出土遺物（第23図、図版22）

1～2はS B 3出土の遺物。1は土師器皿。2は陶器碗で、内外面に藁灰釉が掛かり浅黄色を呈する。削り出し高台。近世の遺物。3～5はS B 6出土遺物。3は土師器皿。4は土師器杯。室町時代後半、16世紀代。5は輸入青磁碗。やや端反りの口縁部破片で、無文。6～8はS B 5出土。6は土師器杯。4と同様16世紀代。7は瓦質土器鍋で、口縁端部の内側への屈曲がない。8は瓦質土器足鍋。口縁部は内側へ屈曲させ、内面に蓋受け状の段がある。内面は八ヶ調整、底部外面に格子状のタタキメがあり、ススが付着している。

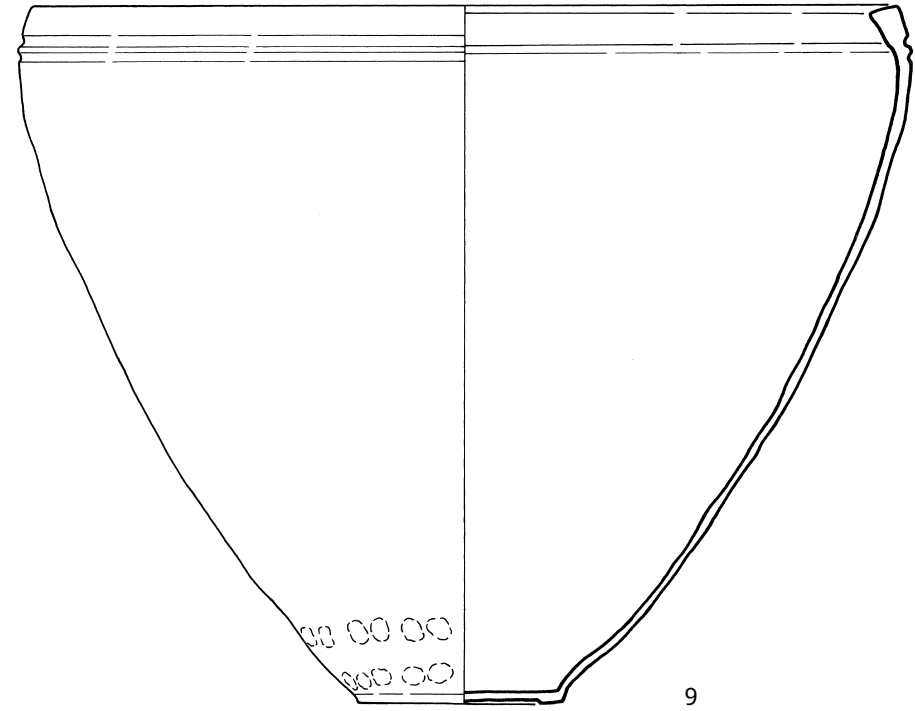
### （2）埋甕遺構出土遺物（第24～31図、巻頭図版2、図版15～20）

**埋甕本体（第24～28図、図版15～18）** 9はS K 1418出土の土師器大甕。体部が底部から外開きぎみに直線的に立ち上がり、口縁外部に巡る2条の沈線あたりで内湾する。口縁端部は厚くなっている。底部外面には底板と粘土帯を接合した指押さえ痕が残る。10はS K 1492出土の瓦質土器大甕。口縁外部に2条の沈線が巡る。内面ナデ、外面指押さえのちナデ。11はS K 1420出土の土師器大甕。出土し



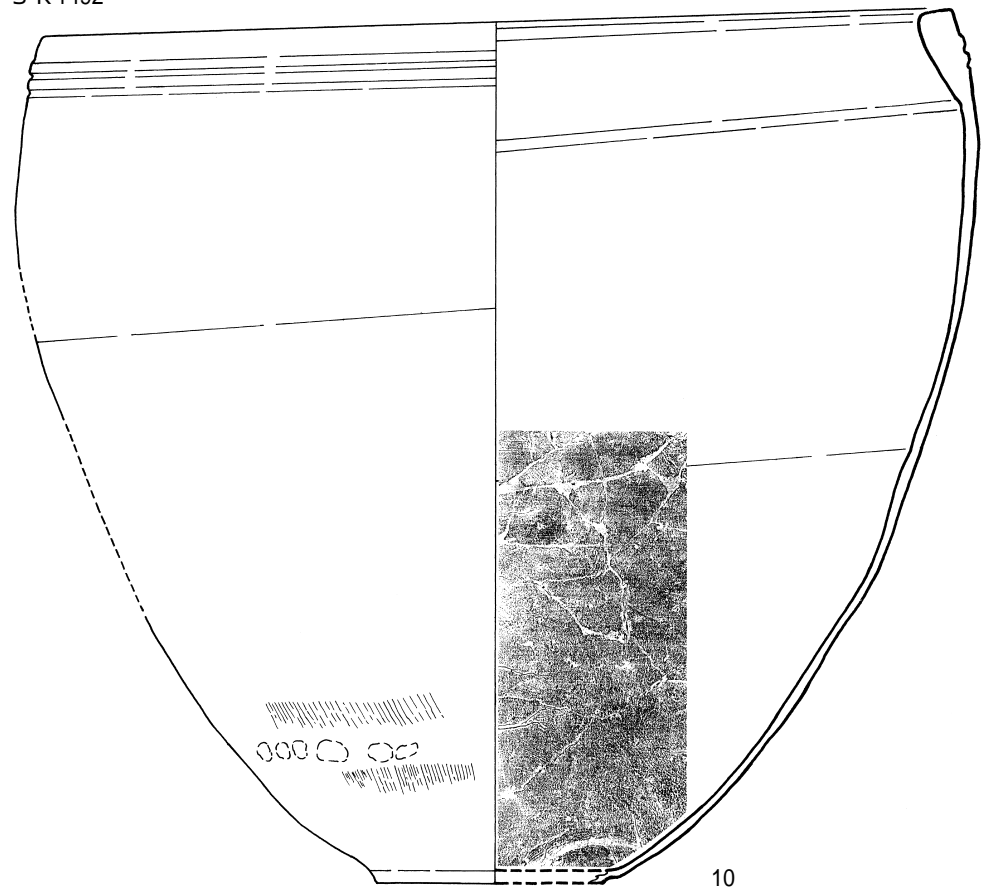
第23図 掘立柱建物跡出土遺物実測図

S K 1418



9

S K 1492

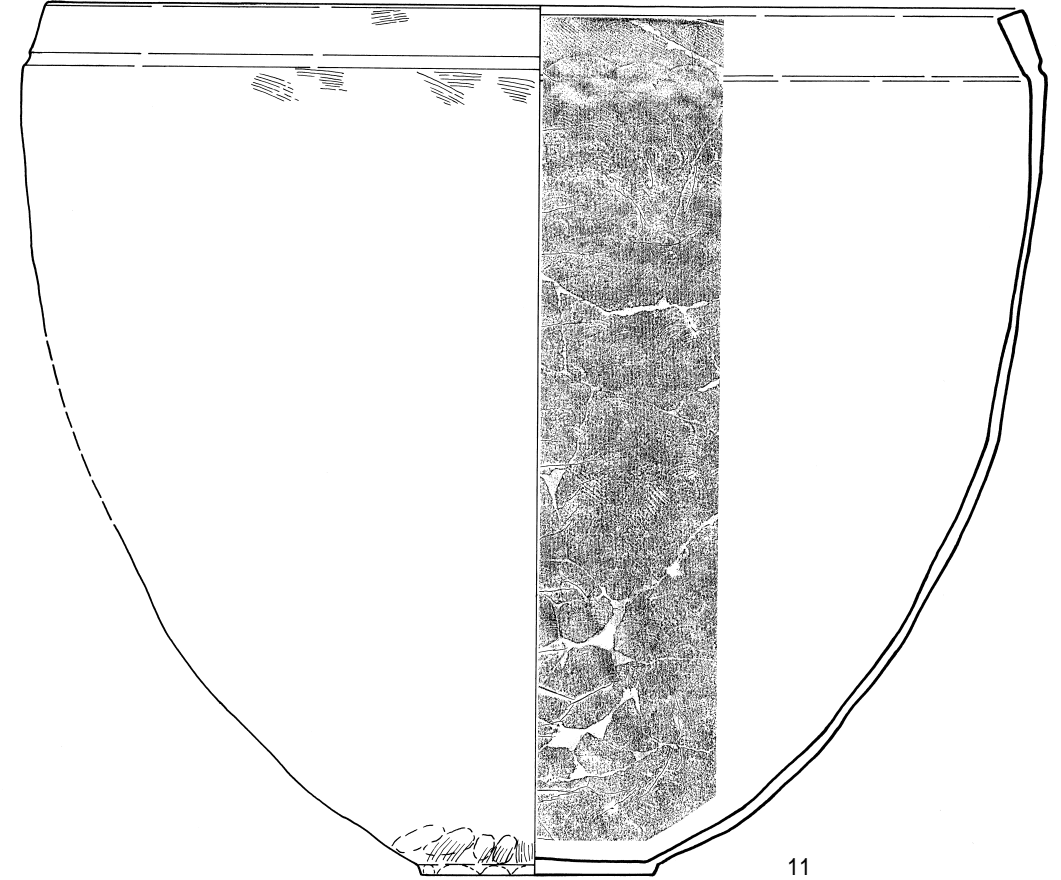


10

0 (1/6) 20cm

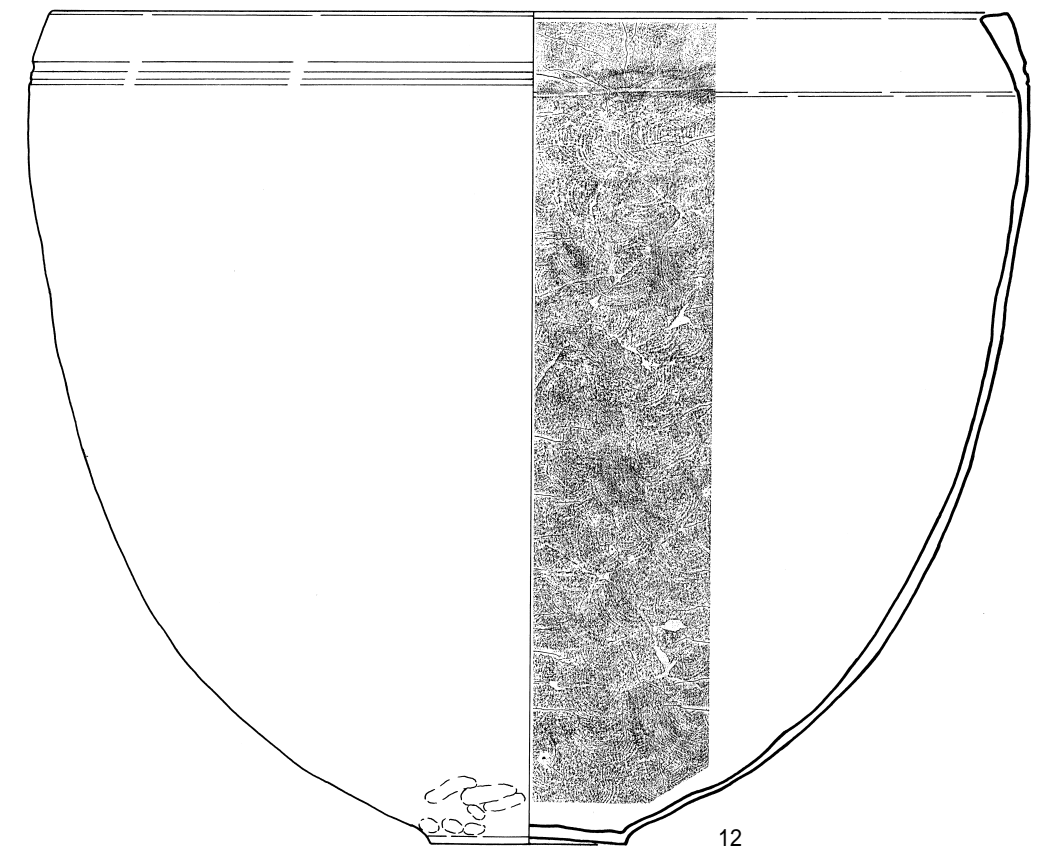
第24図 埋甕遺構出土遺物実測図

S K 1420



11

S K 1441

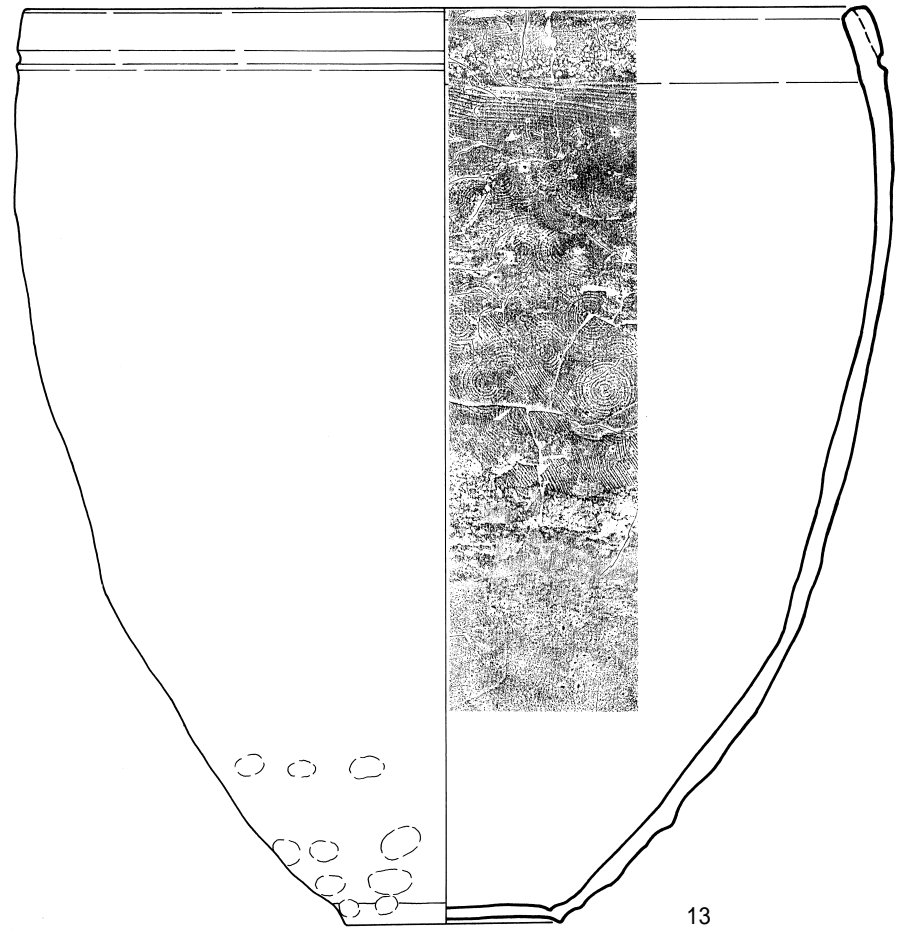


12

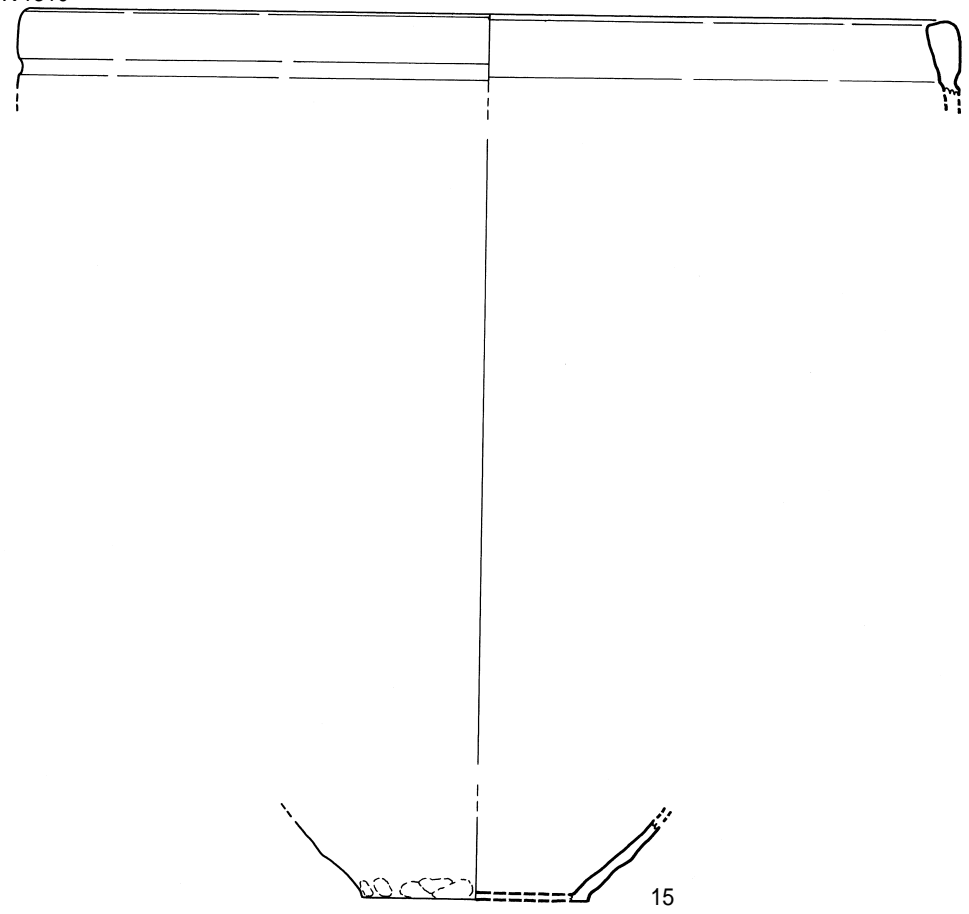
0 (1/6) 20cm

第25図 埋甕遺構出土遺物実測図

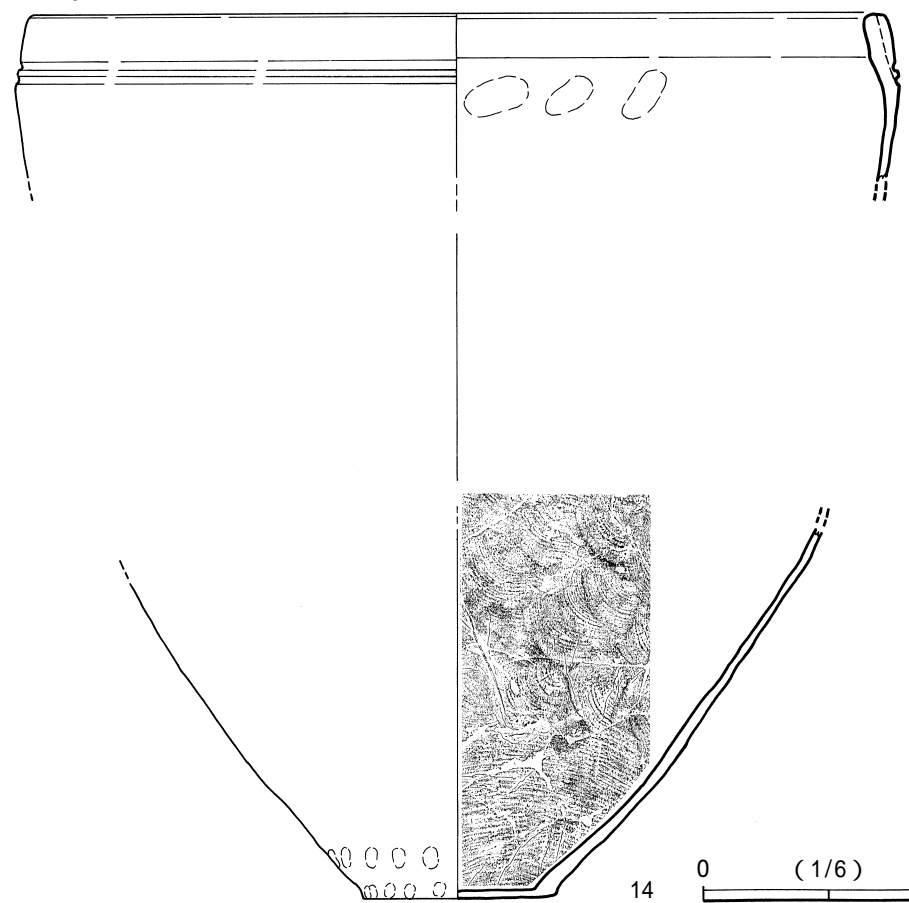
S K 1301



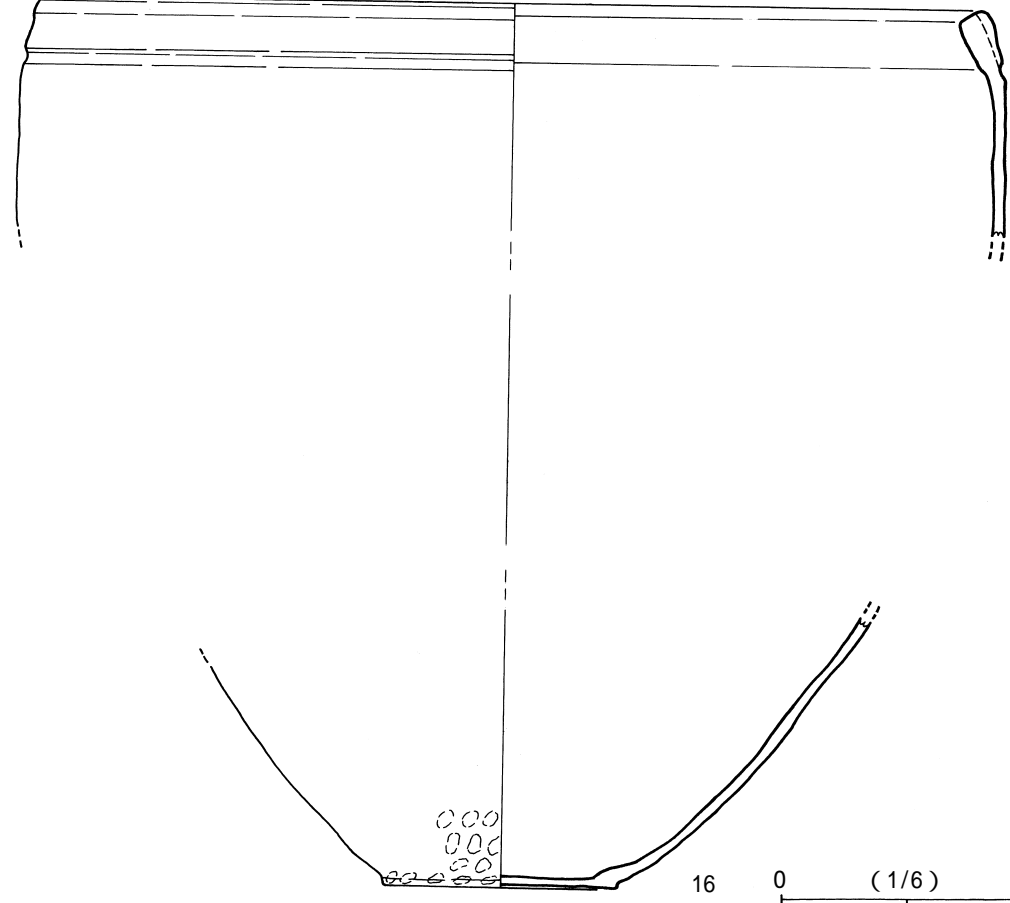
S K 1310



S K 1426



S K 1306

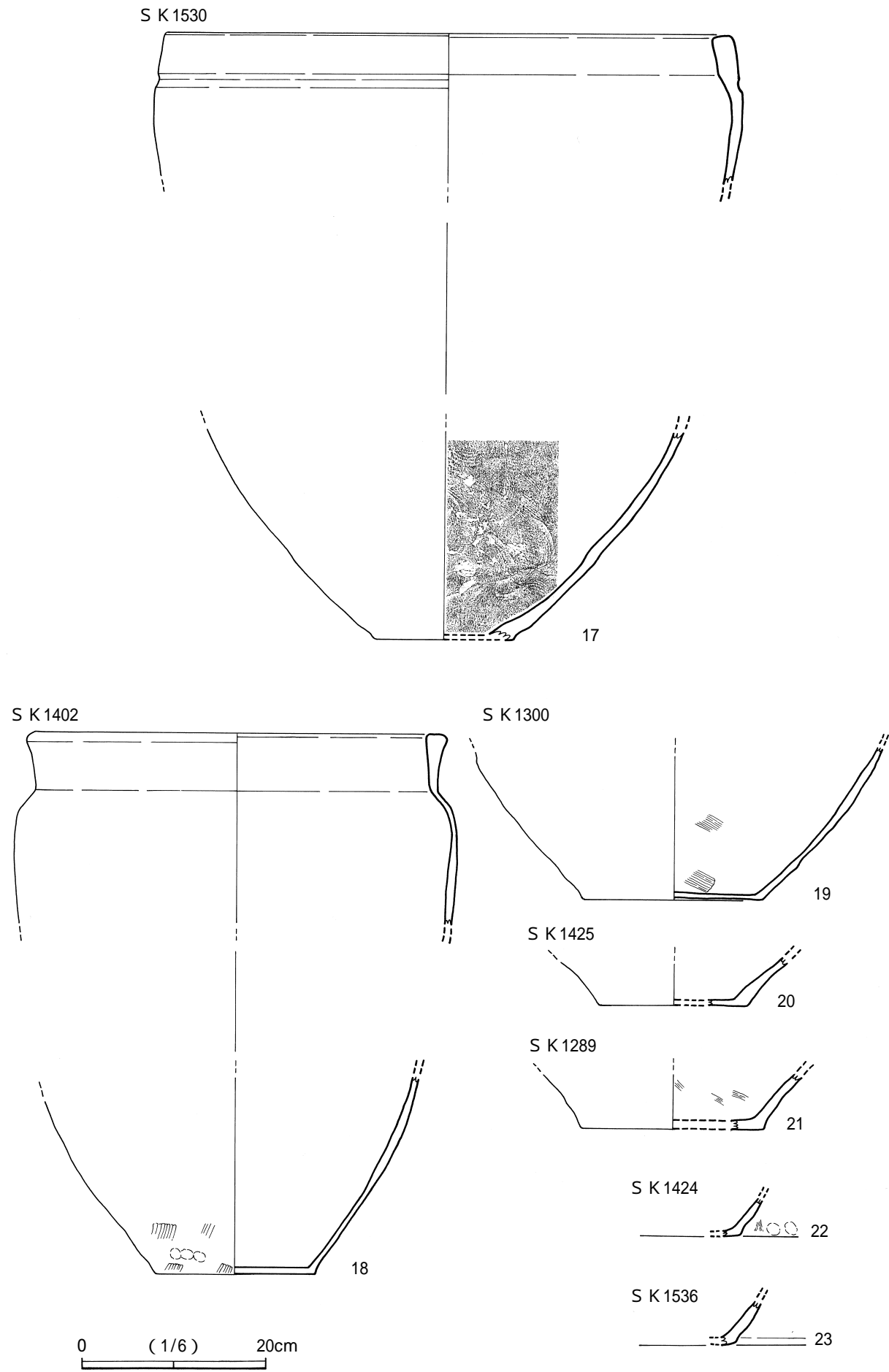


0 (1/6) 20cm

0 (1/6) 20cm

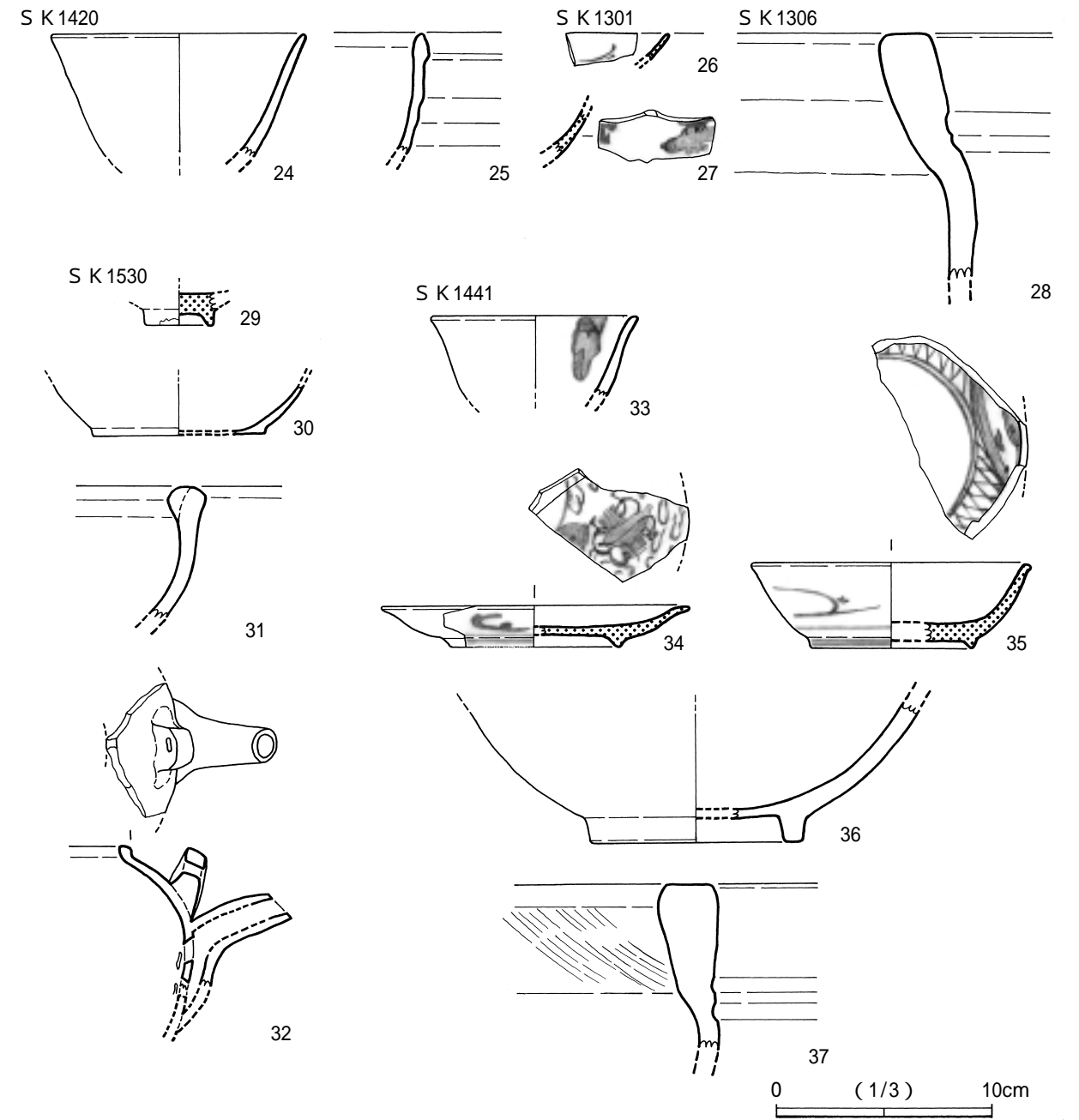
第26図 埋甕遺構出土遺物実測図

第27図 埋甕遺構出土遺物実測図



第28図 埋甕遺構出土遺物実測図

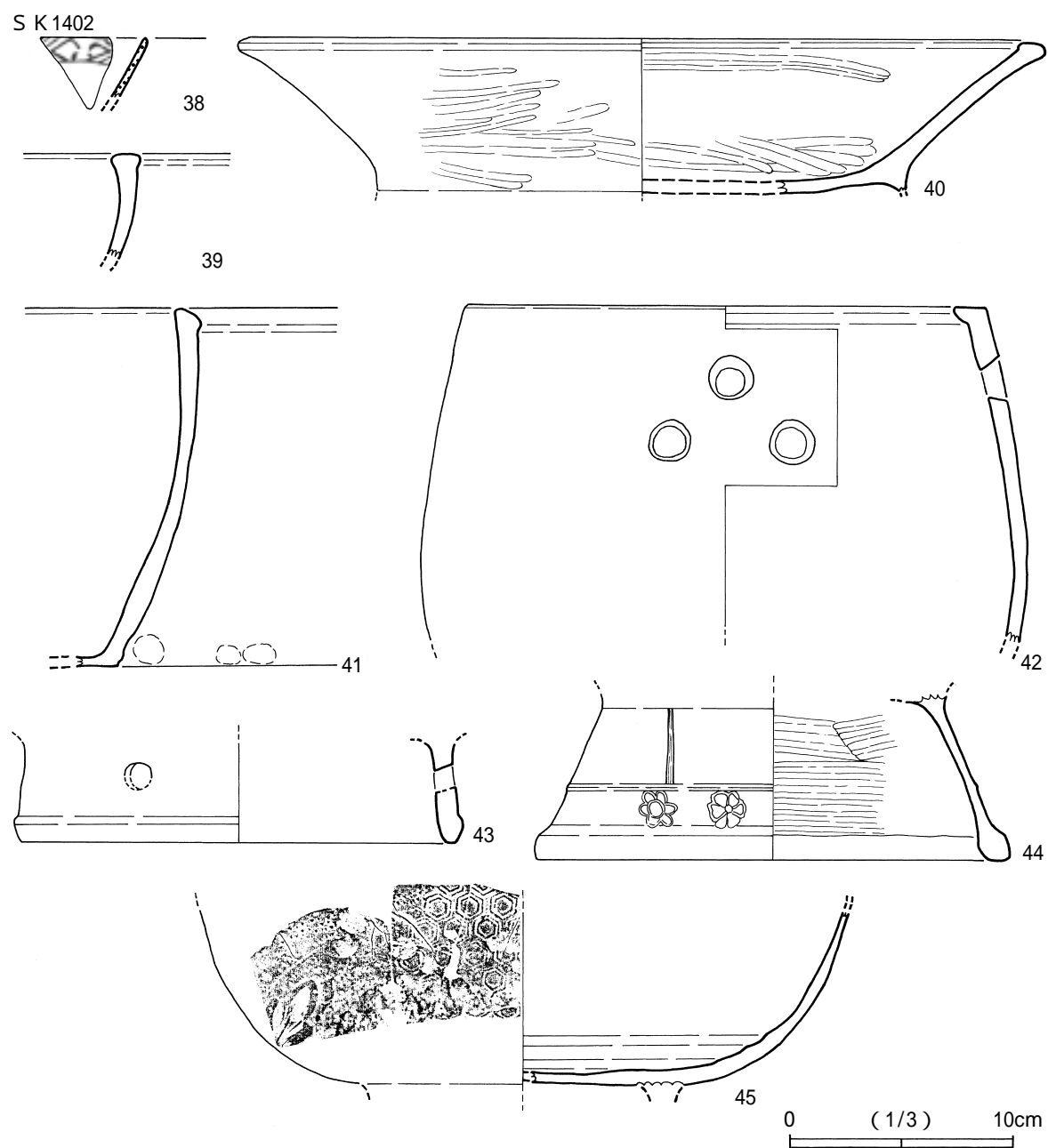
た甕の中で、口径が77.2cmと最も大きい。口縁外部に1条の沈線が巡る。内面に当て具の同心円文タタキメ痕が残る。12はS K 1441の陶器大甕。明赤褐色を呈する。復元口径が75.2cmと大きい。2条の沈線が巡る口縁部はやや楕円形にゆがんでいる。内面に当て具の同心円文タタキメ痕が残る。以上3点は、器高に対して口径の方が大きく、体部が外膨らみでずんぐりした器形を呈する。13はS K 1301出土の土師器大甕。口径が66.4cmに対して、器高が72.4cmと高く、体部の外膨らみが緩やかで、細長い器形を呈する。底部から体部内面下半部にかけてはナデ、体部内面上半部には同心円状のタタキメ痕が残る。底部外面に指押さえ痕。1条の沈線が巡る口縁部外面には粘土帯を貼り付けた痕跡が確認できる。14はS K 1426出土の土師器大甕。口縁外部には2条の沈線が巡り、粘土帯を貼り付けた痕跡が確認できる。体部内面下半部に同心円状のタタキメ痕が残る。体部上半は欠損し、口縁部側との接合面がない。15はS K 1310出土の瓦質土器大甕。体部上半は後世の削平により大きく欠損し、口縁



第29図 埋甕遺構出土遺物実測図

部との接合面がない。16はS K 1306出土の瓦質土器大甕。体部上半は後世の削平により欠損しており、口縁部側との接合面がない。1条の沈線が巡る口縁部には粘土帯の貼り付けが確認できる。17はS K 1530出土の瓦質土器大甕。体部内面下半に当て具のタタキメ痕が残る。体部上半は欠損している。18はS K 1402出土の土師器大甕。体部から頸部にかけてややすぼまり口縁部につながる。他の大甕とは器形を異にする。

14~18では、体部上半と口縁部下半の間の器壁が一部欠損している。これは、土中に体部まで埋めて設置されていた大甕が、使用をやめ廃棄される際に、地上に露出した口縁部から体部上半にかけて打ち欠いて甕内部に投棄された後、後世の削平により地中に残された甕の体部上半が欠損したことによるものと考えられる。19はS K 1300出土の瓦質土器大甕。20はS K 1425出土の瓦質土器大甕。21はS K 1289出土の瓦質土器大甕。22はS K 1424出土の瓦質土器大甕。23はS K 1536出土の土師器大甕。以上の大甕は、基本的にほぼ使用時埋められていた状態で出土した。



第30図 埋甕遺構出土遺物実測図

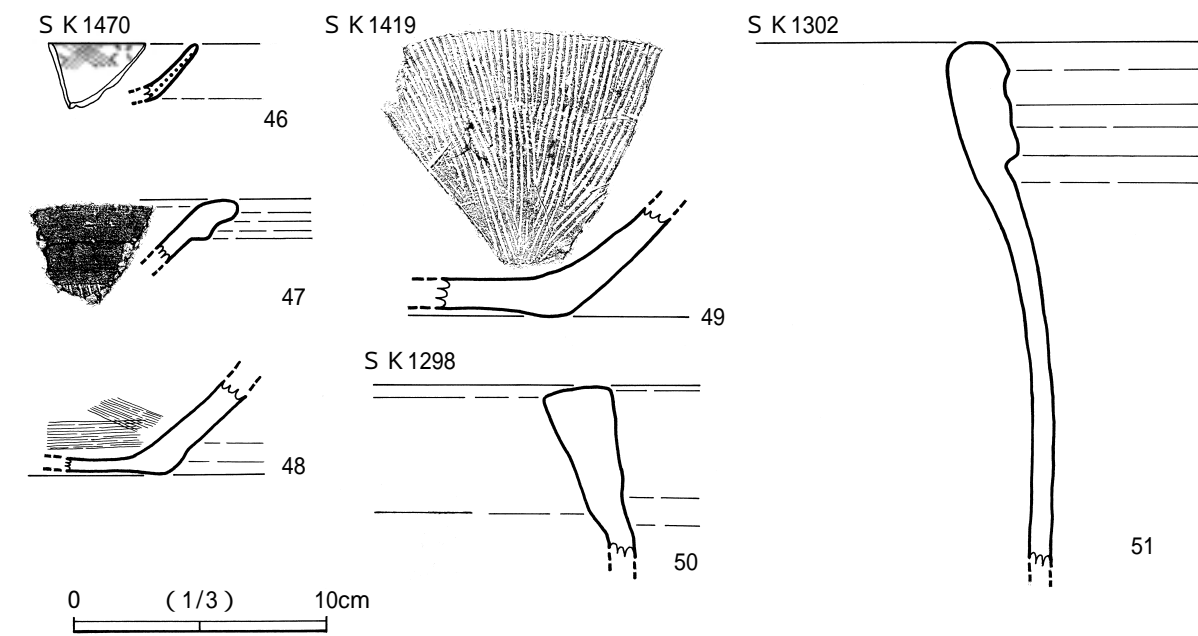
**埋甕内出土遺物（第29図、図版19）** 埋甕の中からの出土遺物で、基本的に埋甕と共伴し、時期決定の資料となるものである。24は陶器碗で白色の釉が内外面に掛かる。口縁端部に褐色の釉が掛かる。25は陶器碗で、S K 1420から出土。26・27は磁器の染付碗。ともにS K 1301から出土。28は土師器の大甕口縁部でS K 1306出土。29~32はS K 1530出土。29は磁器碗の高台部。30は土師器甕の底部。31は土師器鉢。口縁部内面に突帯が貼り付けられている。32は陶器土瓶の注口部。吊り手の取り付け部がある。33~37はS K 1441から出土したもの。33は陶器碗。内面に緑色を呈する釉が一部垂れるように掛けられている。34・35は染付磁器皿。34では見込み部に焼き継ぎ痕が見られる。36は陶器の鉢。高台部を除き、内外面に白色の釉が掛かる。37は瓦質土器の大甕口縁部。外面に2条の沈線が刻まれている。以上、近世の遺物である。

**埋甕と掘り方の間の充填遺物（第30図、図版20）** 38~45はS K 1402から出土。38は磁器碗。39は土師器鉢。40は瓦質土器鉢。内外面にミガキ痕がある。41は土師器鉢。42は瓦質土器の焔炉。上半部に3個の円形の窓が空いている。43は瓦質土器の火鉢。脚部に穿孔がある。44は瓦質土器の火鉢。脚部外面の下部に花卉のスタンプ文様が施されている。内面は横方向のハケメが残る。45は瓦質土器の火鉢。体部に亀甲文様と草木が刻まれている。以上、近世の遺物である。

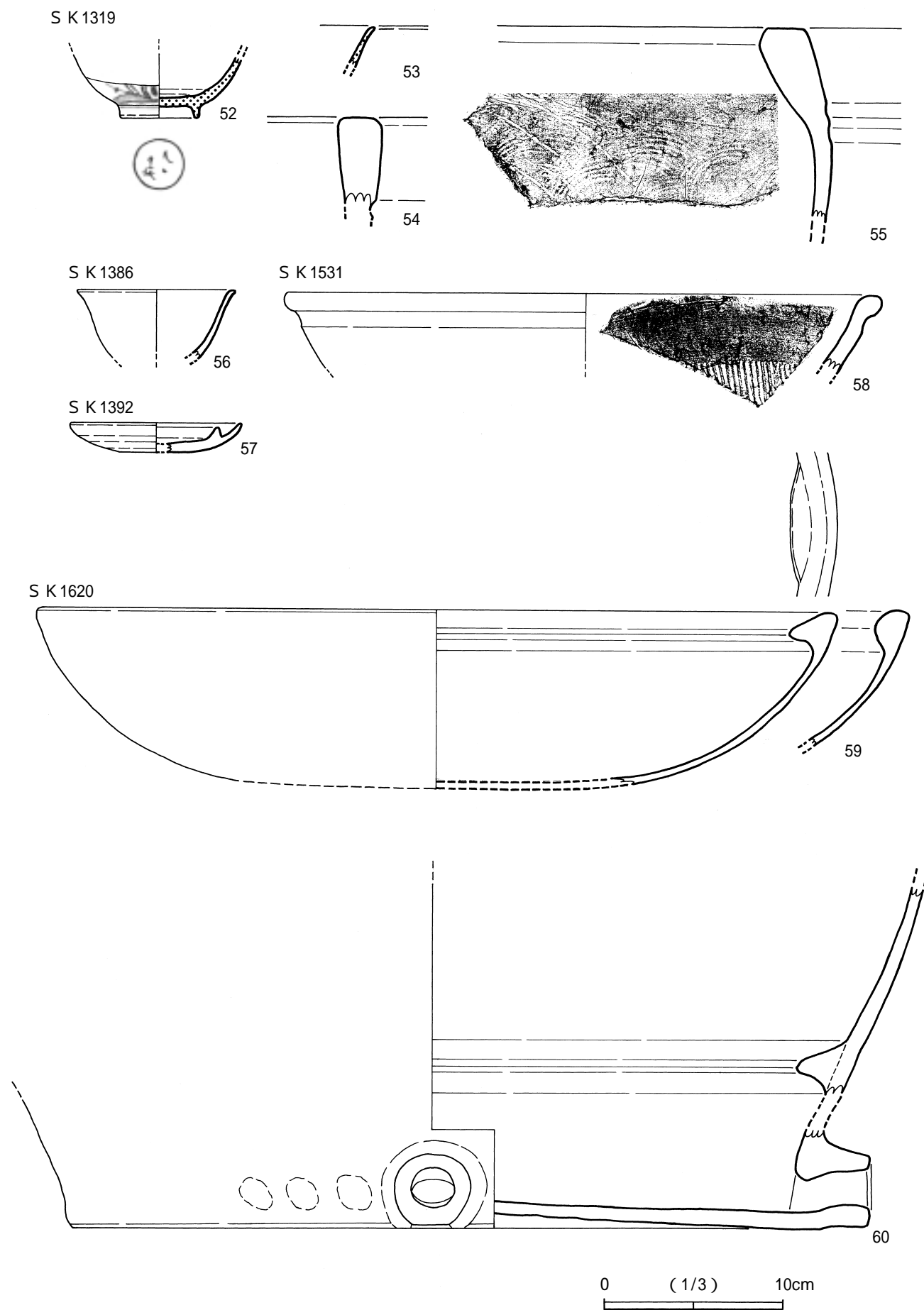
**埋甕抜き穴出土遺物（第31図、図版20）** 埋甕抜き穴の埋土中から出土した遺物である。46~48はS K 1470出土遺物。46は磁器の染付皿。47は陶器の播鉢。オロシメ単位は不明である。48は土師器の大甕。底部内面ハケ調整。49は陶器の播鉢。左回転方向に重ねて8条単位のオロシメが刻まれている。S K 1419出土。50は土師器の大甕口縁部破片。S K 1298出土。51は瓦質土器の大甕。口縁部外面に突帯が貼り付けられ、2条の沈線が巡る。S K 1302出土。以上、近世の遺物である。

**(3) 土坑出土遺物（第32図、図版20）**

52~55はS K 1319出土。52は磁器の染付碗。見込みに蛇の目釉剥ぎ痕、高台内に文様がある。53は磁器の端反り碗の口縁部。透明釉が掛かる。54は瓦質土器の大甕口縁部破片。55は土師器の大甕。口縁部外面に2条の沈線が巡り、内面屈曲部の下方にタタキメ痕が残る。56は陶器の端反り碗。S K

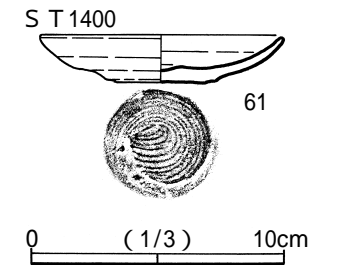


第31図 埋甕遺構出土遺物実測図



第32図 土坑出土遺物実測図

1386出土。57は陶器の灯明皿。S K 1392出土。58は陶器の播鉢。オロシメ単位は不明。S K 1531出土。59は土師器の焙烙。口径44.4cmの大型品である。内面に貼り付けの突帯が巡り、退化した耳が痕跡的に取り付けられている。外面にススが附着している。60は土師質の風呂釜。底径は40.0cmで、器壁は7mm～1cmと比較的薄い。入浴の際に人が乗る「げす板」を置くための突帯状のツメ



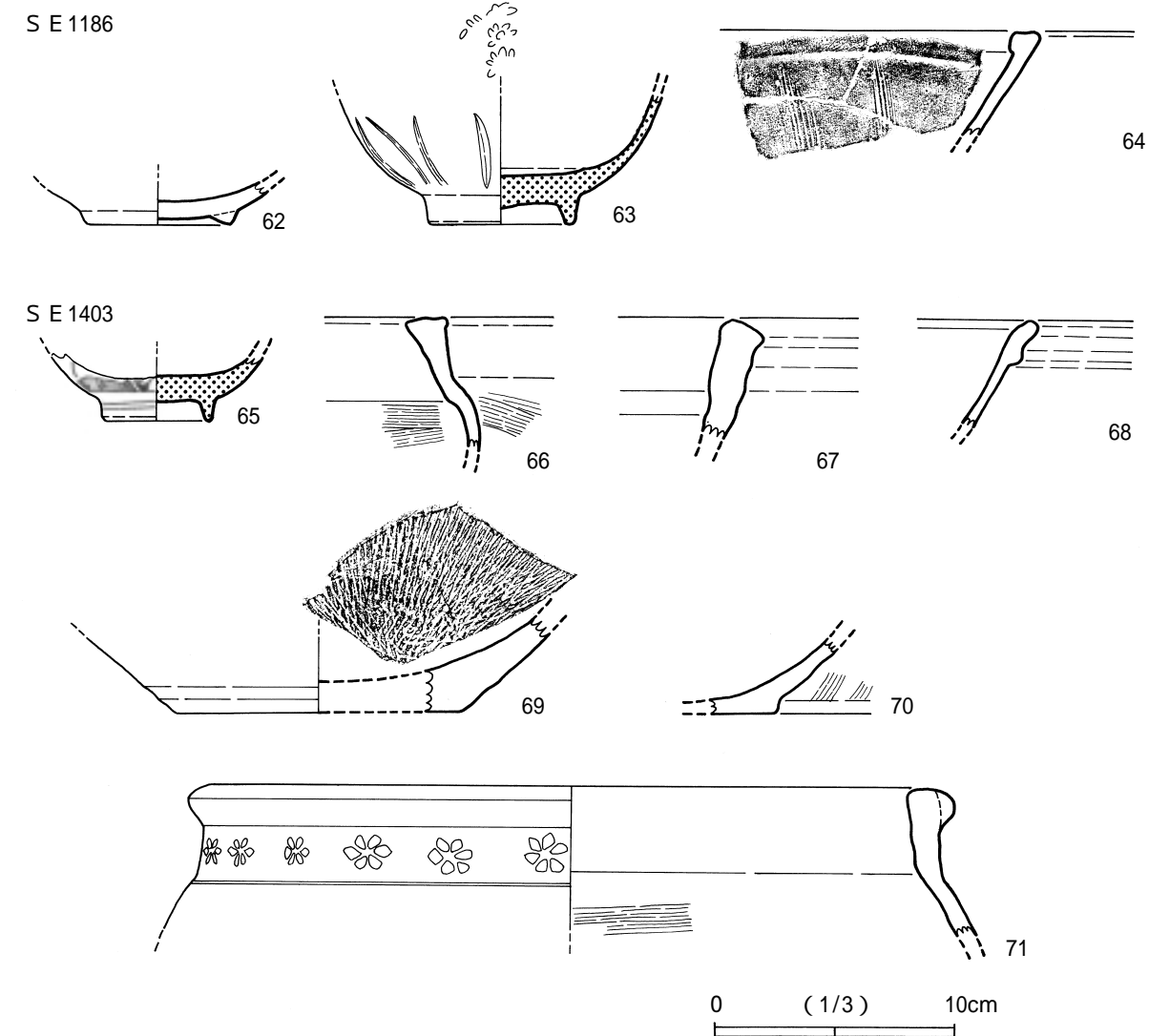
第33図 墓出土遺物実測図

(4) 墓出土遺物 (第33図、図版21)

61は土師器皿。器壁は薄く、内湾ぎみに立ち上がる。底部には回転系切り痕がある。

(5) 井戸出土遺物 (第34図、図版21)

62～64はS E 1186出土。62は土師器椀。高台は退化し、断面は逆三角形を呈する。63は輸入青磁碗。外面にやや退化した片切彫りの蓮弁文様が施され、内面見込みには簡略な花文がスタンプされている。

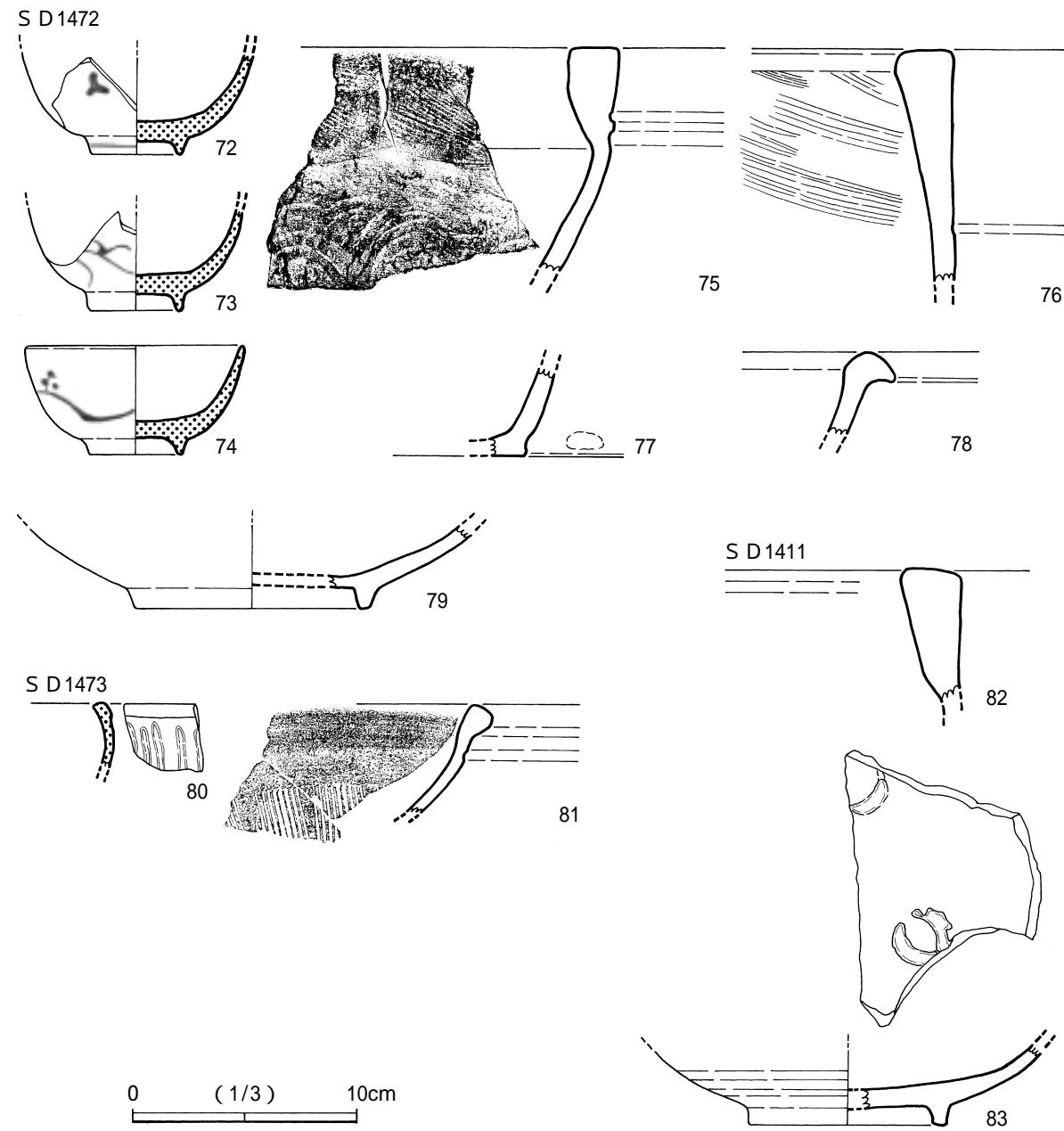


第34図 井戸出土遺物実測図

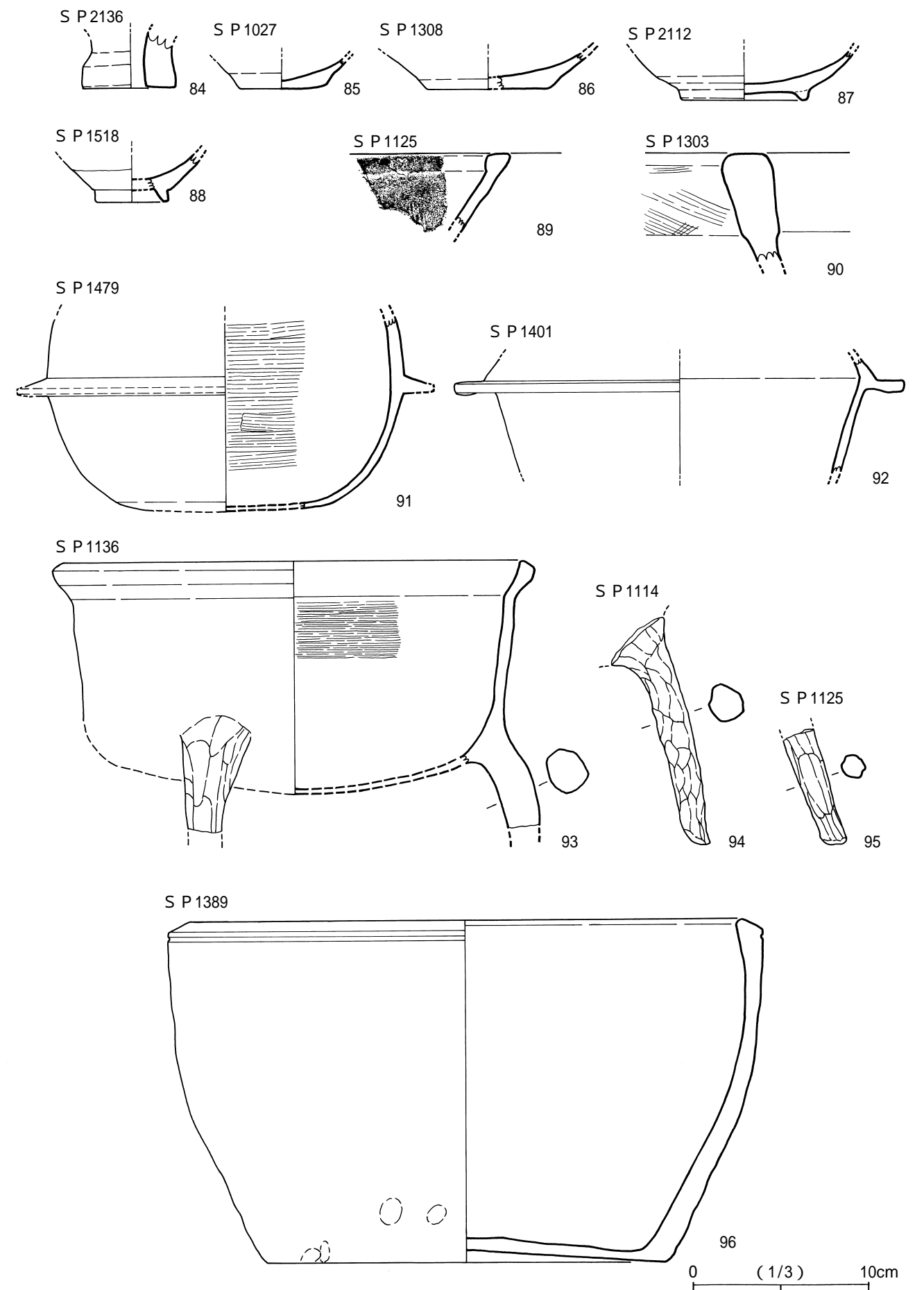
畳付を含めて高台内外面まで釉が掛かる。龍泉窯系で、14世紀後半から15世紀前半の時期に比定される。64は瓦質土器播鉢。オロシメ10条単位で放射状に間隔を置いて刻まれている。以上3点とも中世の遺物。65~71はS E 1403出土。65は磁器碗で、草花文様が描かれている。66は陶器の甕。67は土師器の鉢の口縁部。68はオロシメ部は欠損しているが、器形から陶器の播鉢口縁部と見られる。69は陶器播鉢の底部。オロシメ単位は不明であるが、放射状に重ねて刻まれている。70は土師器大甕の底部。71は瓦質土器火鉢。口縁部下端と頸部の間に花文のスタンプ文様が巡らされている。以上7点は、近世の遺物。

(6) 溝状遺構出土遺物 (第35図、図版21)

72~79はS D 1472出土の近世の遺物。72~74は磁器の染付碗。75・76は土師器の大甕口縁部。75は口縁部外面に2条の沈線が巡らされている。口縁部内面端にハケメ痕、下端から体部にかけて当て具の同心円文タタキメ痕が残る。77は大甕の底部。78は瓦質土器の鉢の口縁部破片。79は陶器の鉢。浅



第35図 溝状遺構出土遺物実測図



第36図 柱穴出土遺物実測図



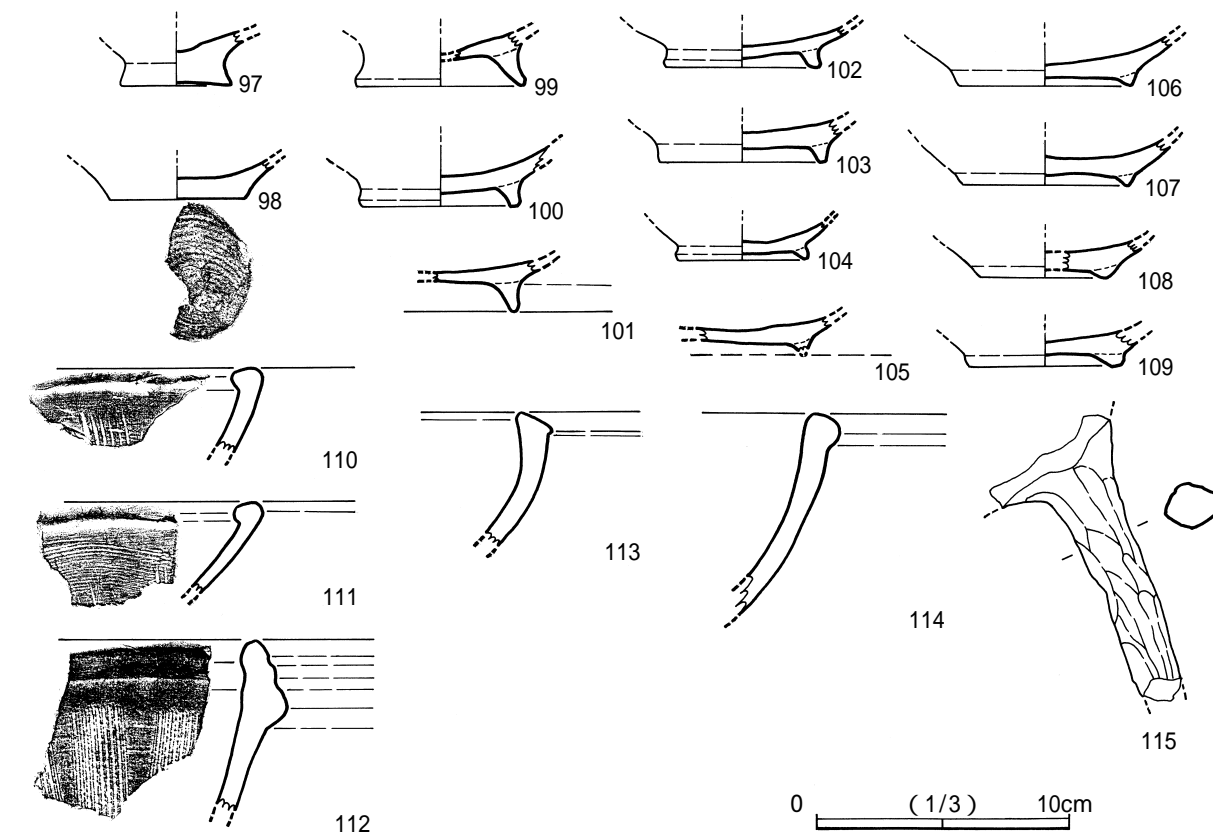
黄色の釉が内面と高台を除く外面に掛かる。80~81はS D 1473出土遺物。80は輸入青磁の碗。外面にヘラ先による細線の線描蓮弁文を持つ。81は陶器の播鉢。8条単位のオロシメが刻まれている。82~83はS D 1411出土の近世遺物。82は土師器の大甕口縁部。83は陶器皿。見込みに胎土目痕が残る。器面は灰色を呈し、透明釉が掛かる。

(7) 柱穴出土遺物 (第36図、図版22)

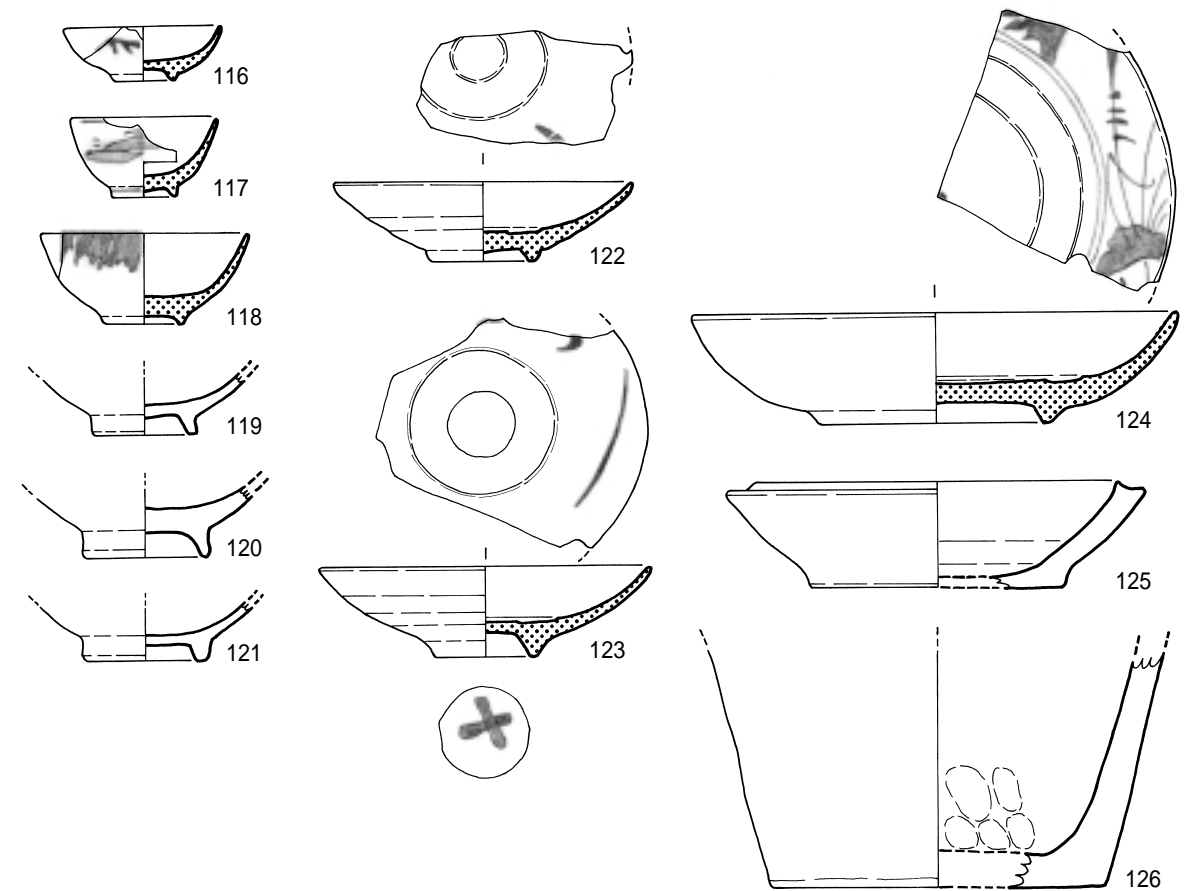
84は土師器の有孔台付皿。85は土師器皿。86は土師器杯。内黒にいぶしてある。87は低い貼り付け高台を持つ土師器の椀。88は陶器碗。外面下部以外は、全面に藁灰釉が施釉されている。削り出し高台。89は瓦質土器播鉢。オロシメ単位は不明。90は土師器大甕の口縁部破片。91は土師器茶釜。内面には横方向の八ケメ痕が明瞭に残る。底部外面にスス付着。92は土師器茶釜。鏝から下部にはススが付着している。93は瓦質土器の足鍋。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は内曲せず終わる。94・95は瓦質土器の足鍋脚部。先端部は獣脚状に外反する。96は土師器鉢。底面は中心に向けてやや上げ底ぎみになる。

(8) 遺物包含層出土遺物 (第37~40図、図版23)

1 B 地区南側遺物包含層出土遺物 (第37・38図、図版23) 97~115は中世の遺物。97は土師器の台付皿。98は土師器皿。底部に回転系切り痕が残る。99~109は土師器の椀で、貼り付け高台。99は高台が高く外側に張り出す。100~101は99に比べて高台がやや低く、102~105はさらに低くなっている。103・105は内黒にいぶしてある。106~109は高台が一層簡略化し、逆三角形を呈する。110・111は瓦質土器の播鉢。それぞれオロシメ単位は6条と不明。112は陶器播鉢。オロシメ単位は9条。113・114は土師器鉢。115は瓦質土器の足鍋脚部。116~128は近世の遺物。116~118は染付磁器。116は染

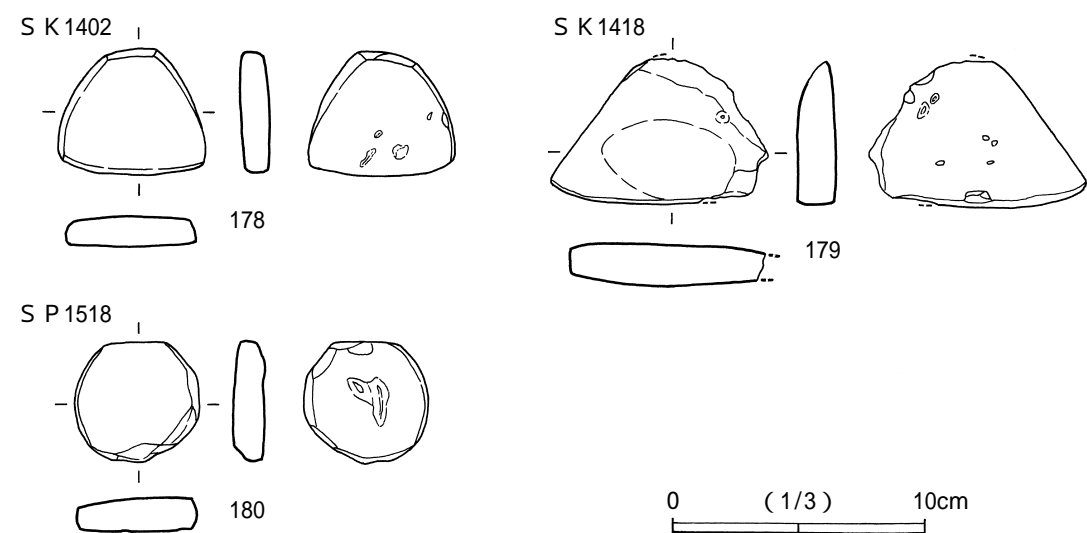


第37図 1 B 地区南側遺物包含層出土遺物実測図



第38図 1 B 地区南側遺物包含層出土遺物実測図





第42図 土製品実測図

## 2 土製品 (第42図、図版25)

178～180は土器・瓦などの再加工土製品である。178は側面を研磨してある。179は瓦片の側面を研磨により、2次加工してある。180は土器片と見られるものの側面を研磨し、円盤状に加工してある。178はS K 1402 (埋蔵遺構)の埋蔵内部(18)、179はS K 1418 (埋蔵遺構)の埋蔵内部(9)、180はS P 1518からの出土で、出土状況から廃絶儀礼に伴う祭祀用具であった可能性が推察される。

## 3 石製品 (第43図、図版26)

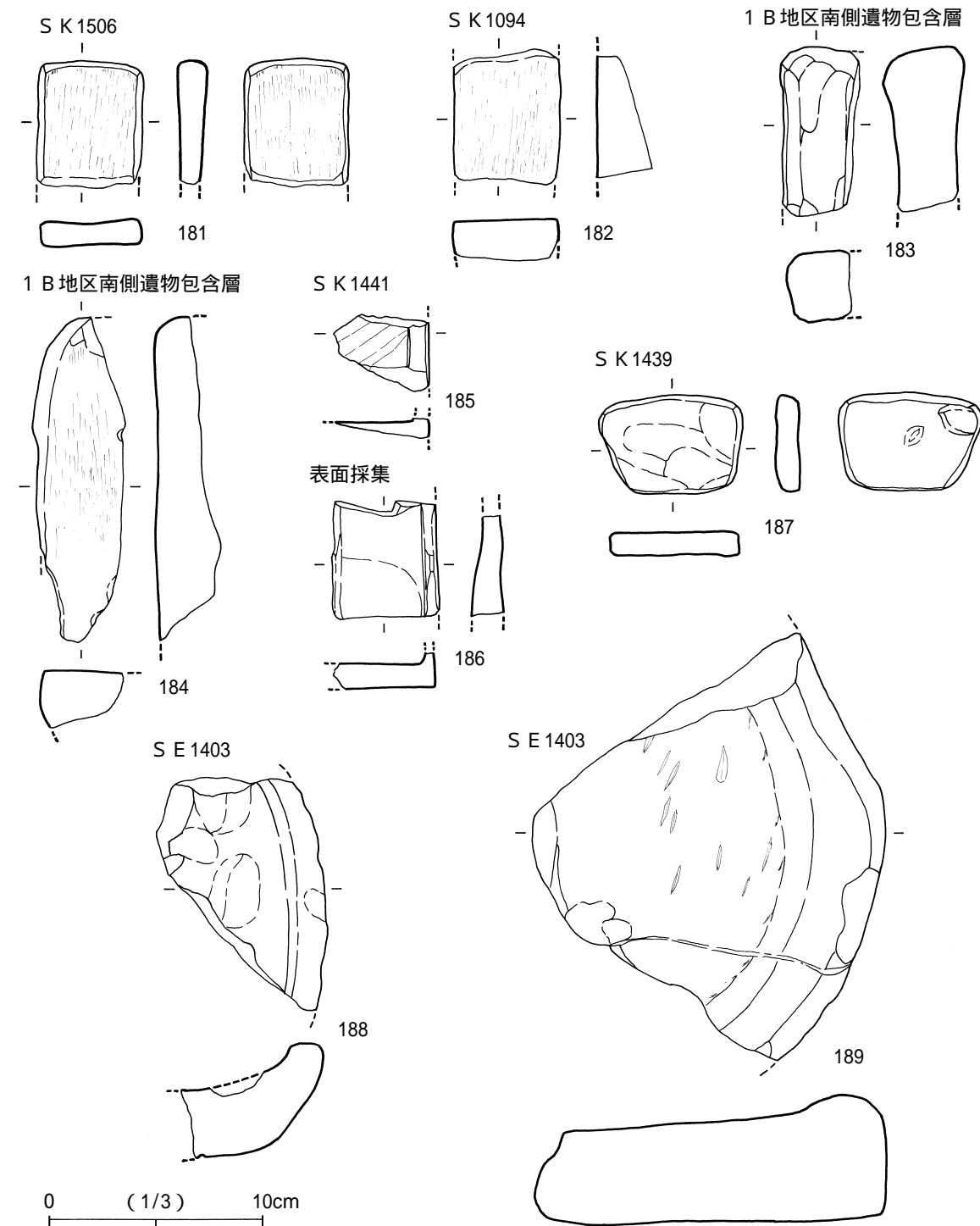
181は砂岩製の荒砥石。182は凝灰岩製の仕上げ砥石。183は泥岩製の中砥石。184は泥岩製の仕上げ砥石。185・186は長門産の赤間硯である。187は泥岩の側面を研磨して扁平な形の石製加工品としてある。S K 1439 (埋蔵遺構)からの出土で、178～180と同様に廃絶儀礼などの祭祀に伴う品である可能性が考えられる。188・189は砂岩製の石臼である。188は茶臼の下臼で、受皿部の破片である。189は挽臼の上臼である。よく使い込まれて磨耗しているため、下面に摺目溝の痕跡はなく平滑な表面になっている。側面の一部に研磨された痕跡が認められ、臼としての使用を終えた後、砥石に転用されたことが推定される。ともにS E 1403から出土した。打ち欠かれた状態で、井戸内に投棄されたものと見られ、井戸にかかわる祭祀行為に伴う遺物と考えられる。

## 4 金属製品 (銭貨) (第44図、図版26)

190・192は新寛永通寶。191は古寛永通寶。

## 5 木製品 (第45図、図版26)

193～198はS K 1506出土遺物。193～197は曲物の円形底板を構成するものと見られる。194は3枚の板をつなぎ合わせるための連結穴が3個あり、それぞれに木芯が残っている。195は3枚の板をつなぎあわせて円形の板にしてある。連結穴が2個あり、1個には木芯が残る。197には連結穴が1個あり、木芯が残る。分析の結果、桐を材料として加工したものであることが判明している。198は柘植製の櫛。199～200は同じく曲物の底板。



第43図 石製品実測図

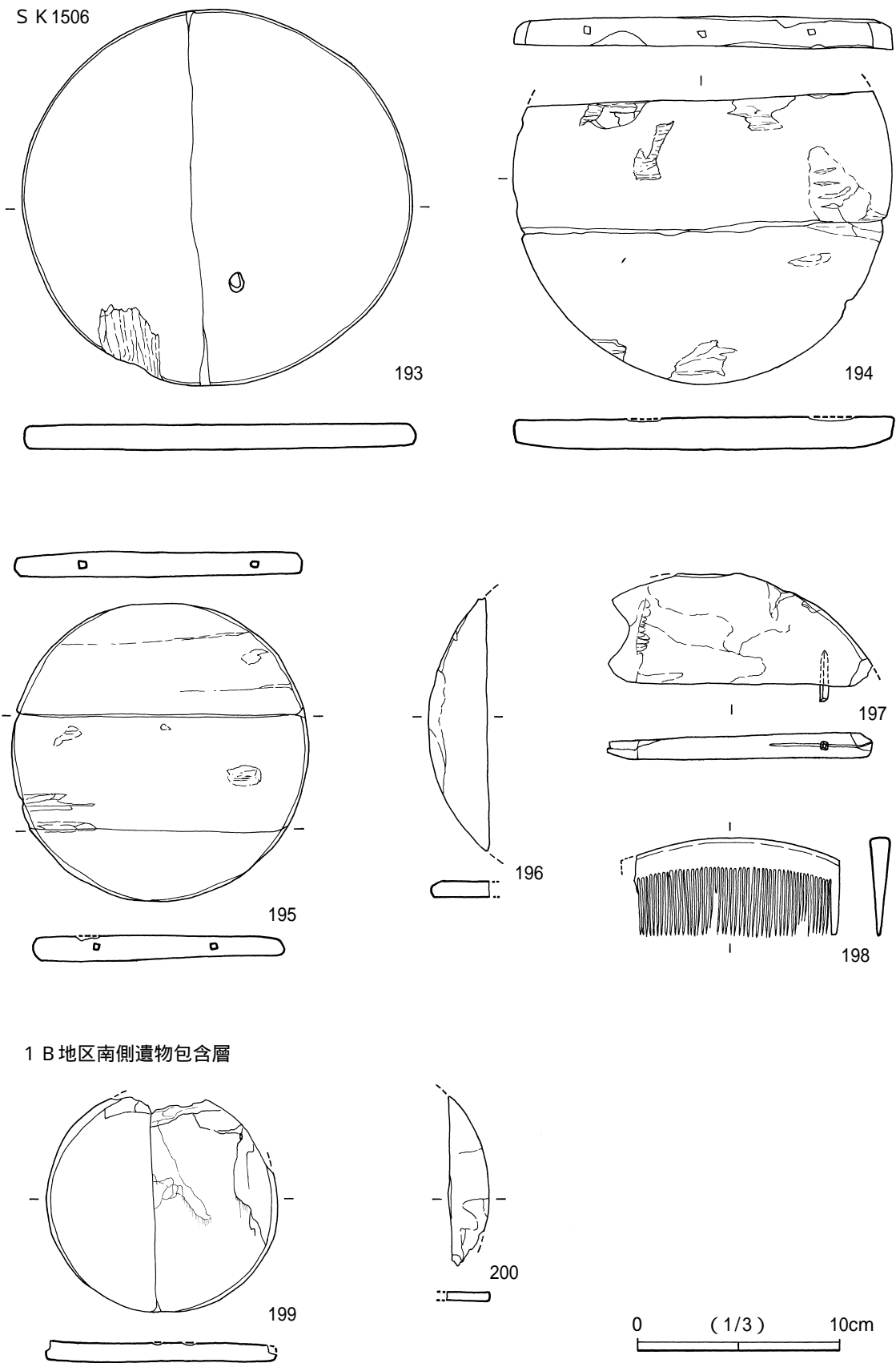


第44図 銭貨拓本

第4表 遺物観察一覧表

土器観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	器種	法量 (cm)				胎土		焼成	色調		色調調整・備考
					口径	胴径	底径	器高	粗密	砂粒		内面	外面	
1	1 A	SP1066	土師器	皿	復4.8		復2.0	0.8	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	SB3を構成する。内外面とも回転ナデ。
2	1 A	SP1063	陶器	碗			復5.0	残3.0	密	硬質	浅黄色	浅黄色	SB3を構成する。削り出し高台。生地は濃い赤褐色。黄灰釉。	
3	1 A	SP1112	土師器	皿			復4.6	残0.7	密	やや軟質	橙色	橙色	SB6を構成する。内外面とも回転ナデ。	
4	1 A	SP1112	土師器	杯	復10.4		復4.8	1.6	粗	含細粒少	やや軟質	淡黄色	淡黄色	SB6を構成する。内外面とも回転ナデ。
5	1 A	SP1080	青磁	碗					密	硬質	灰白色	灰白色	SB6を構成する。口縁部のみ。生地は灰白色。	
6	1 A	SP1075	土師器	杯			復2.5	残2.2	密	含細粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	SB5を構成する。内外面とも回転ナデ。
7	1 A	SP1075	瓦質土器	鍋				残7.5	密	含細粒少	やや軟質	黒色	黒色	SB5を構成する。底部欠損。内面ハケ。外面指押さえ成形のち横ナデ。底部格子タタキメ。下部に脚部欠損の痕跡あり。外面スス付着。
8	1 A	SP1075	瓦質土器	足鍋	復24.6			残20.4	密	含細粒多	やや軟質	暗灰色	黒色	SB5を構成する。内面ハケのちナデ。外面底部格子タタキメ。外面スス付着。
9	1 B	SK1418	土師器	大甕	復68.4		16.2	55.6	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい橙色	にぶい橙色	内面タタキのちナデ。外面ナデ・下部に指押さえ痕あり。
10	1 B	SK1492	瓦質土器	大甕	72.0		18.2	68.2	粗	含砂粒多	やや軟質	青灰色	青灰色	内面ナデ。外面指押さえのちハケ。
11	1 B	SK1420	土師器	大甕	77.2		18.6	69.4	粗	含砂粒少	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色	内外面ともタタキのちハケメ調整をナデ消す。外面下部に指押さえ痕。
12	1 B	SK1441	陶器	大甕	復75.2		15.6	66.0	密	含砂粒少	硬質	明赤褐色	明赤褐色	内面タタキ。ただし下部はハケ。外面下部指押さえ。ゆがみが大きい。
13	1 A	SK1301	土師器	大甕	66.4		17.0	72.4	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内面タタキ。(下部はのちナデ)外面下部指押さえ、他は、タタキのちナデ。口縁部貼り付け。
14	1 B	SK1426	土師器	大甕	復67.8		15.3	残29.5	密	含砂粒少	やや軟質	灰黄色	灰黄色	内面底部タタキのちハケ。体部当具痕。外面底部板目痕。底部付近指押さえ痕。体部ナデ。粘土帯接合痕あり。
15	1 A	SK1310	瓦質土器	大甕	復73.2		復17.6	残6.0	粗	含砂粒多	やや軟質	灰色	灰黄色	内面ナデ。底部側面、接合のための指押さえ痕あり。
16	1 A	SK1306	瓦質土器	大甕	復75.0		18.4	残21.3	密	含砂粒少	やや軟質	暗灰色	灰白色	内面ナデ。外面底部立ち上がり部に指押さえ痕あり。底部に粘土帯接合痕あり。
17	1 B	SK1530	瓦質土器	大甕	復61.8		復15.0	残22.6	粗	含細粒多	硬質	青灰色	青灰色	内外面ともタタキ。
18	1 B	SK1402	土師器	大甕	復44.0		復17.2	残21.7	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内面、タタキのちナデ。外面底部ハケ。外面底部立ち上がり部に指押さえ痕あり。
19	1 A	SK1300	瓦質土器	大甕			19.2	残16.5	粗	含細粒多	やや軟質	青灰色	青灰色	内面指押さえのちハケメ調整。
20	1 B	SK1425	瓦質土器	大甕			復16.0	残4.9	粗	含細粒多	硬質	灰白色	青灰色	内外面ハケメ。底部付近指押さえ痕。
21	1 A	SK1289	瓦質土器	大甕			復19.8	残5.8	粗	含細粒多	やや軟質	青灰色	青灰色	内面ハケ。
22	1 B	SK1424	瓦質土器	大甕				残3.7	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内面タタキ。外面下部指押さえのちハケ。
23	1 B	SK1536	土師器	大甕				残4.5	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色	内面ハケ。
24	1 B	SK1420	陶器	碗	復11.8			残5.7	密	硬質	白色	白色	口縁部には、褐色の釉がかかる。	
25	1 B	SK1420	陶器	碗				残5.6	密	硬質	灰白色	灰白色	底部残存せず。	
26	1 A	SK1301	磁器	碗				残1.1	密	硬質	灰白色	灰白色	口縁部のみ。オリブ灰色の呉須。	
27	1 A	SK1301	磁器	碗				残1.9	密	硬質	灰白色	灰白色	生地は、灰白色。透明釉。	
28	1 A	SK1306	土師器	大甕				残11.2	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。
29	1 B	SK1530	磁器	碗			3.0	残1.5	密	硬質	灰白色	灰白色	底部付近に一部に釉がかかる。	
30	1 B	SK1530	土師器	甕			復15.8	残4.7	粗	含細粒多	やや軟質	黄褐色	黄褐色	内外面ともにナデ。
31	1 B	SK1530	土師器	鉢				残6.0	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。
32	1 B	SK1530	陶器	土瓶					密	含砂粒少	硬質	暗赤褐色	暗赤褐色	注口部と耳のみ残存。ともに貼り付け。内外面に鉄釉。
33	1 B	SK1441	陶器	碗	9.4			残3.9	密	含砂粒少	硬質	灰白色	灰白色	緑灰色釉が、内面一部にかかる。
34	1 B	SK1441	磁器	皿	復14.2		復7.8	1.9	密	硬質	白色	白色	焼き縫ぎ痕がある。暗青灰色の呉須で、草花模様を描く。	
35	1 B	SK1441	磁器	皿	復12.8		復7.4	3.9	密	硬質	灰色	灰色	オリブ灰色の呉須。	
36	1 B	SK1441	陶器	鉢			復9.8	残6.1	密	含砂粒少	やや軟質	白色	白色	貼り付け高台。底部橙色。
37	1 B	SK1441	瓦質土器	大甕				残7.8	粗	含細粒多	硬質	灰白色	青灰色	口縁部のみ。内面ハケ、外面ナデ。
38	1 B	SK1402	磁器	碗				残2.6	密	硬質	灰白色	灰白色	口縁部のみ残存。暗青灰色の呉須。	
39	1 B	SK1402	土師器	鉢				残4.5	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄色	浅黄色	口縁部のみ残存。内外面ともにナデ。
40	1 B	SK1402	瓦質土器	鉢	復36.0		復23.4	6.8	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	黒色	内外面ともにミガキ。
41	1 B	SK1402	土師器	鉢				14.9	粗	含細粒多	やや軟質	橙色	灰黄色	内外面ともにナデ。外面底部付近、指押さえ。
42	1 B	SK1402	瓦質土器	燈炉	復23.2			残15.0	密	含砂粒少	やや軟質	黒色	黒色	上部に穿孔3個。内外面ともにナデ。
43	1 B	SK1402	瓦質土器	火鉢?			復19.4	残4.5	密	含砂粒少	軟質	黒色	黒色	下部に穿孔1個。内外面ともにナデ。
44	1 B	SK1402	瓦質土器	火鉢				21.0	密	含砂粒少	やや軟質	黒色	黒色	内面ハケ、外面ナデ。外面下部に印刻文。
45	1 B	SK1402	瓦質土器	火鉢			復14.4	残7.5	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	黒色	内面ケズリ。外面印刻文。
46	1 B	SK1470	磁器	皿				残2.2	密	硬質	明緑灰色	明緑灰色	暗青灰色の呉須。	
47	1 B	SK1470	陶器	擂鉢				残2.2	密	含砂粒少	硬質	赤灰色	赤灰色	口縁部のみ。内外面ともにナデ。
48	1 B	SK1470	土師器	大甕				残3.1	粗	含細粒多	やや軟質	灰褐色	灰色	内面ハケ。外面ナデ。
49	1 B	SK1419	陶器	擂鉢				残3.9	粗	含細粒多	硬質	橙色	灰赤色	内面オロシメ。8条単位。左回転方向に重ねて刻む。外面ナデ。
50	1 A	SK1298	土師器	大甕				残6.5	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部のみ。内面ナデ。
51	1 A	SK1302	瓦質土器	大甕				残20.7	粗	含細粒多	やや軟質	灰色	灰色	内面ハケ。外面ナデ。
52	1 A	SK1319	磁器	碗			4.2	残3.6	密	硬質	灰白色	灰白色	見込みに、蛇の目釉剥ぎ。青灰色の呉須。	
53	1 A	SK1319	磁器	碗				残2.3	密	硬質	灰白色	灰白色	口縁部のみ。透明釉。	
54	1 A	SK1319	瓦質土器	大甕				残5.1	粗	含砂粒多	やや軟質	暗灰色	暗灰色	口縁部のみ。内外面ともにナデ。
55	1 A	SK1319	土師器	大甕				残10.8	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部のみ。内面タタキ、ハケ。外面ナデ。
56	1 B	SK1386	陶器	碗	復8.8			残3.8	密	硬質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。	
57	1 B	SK1392	陶器	灯明皿	復9.8		復4.0	1.6	密	含砂粒少	硬質	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面ともに回転ナデ。釉のかかり不良。
58	1 B	SK1531	陶器	擂鉢	復32.3			残4.3	密	含砂粒少	硬質	赤褐色	赤褐色	内外面ともに回転ナデ。釉のかかり不良。
59	1 B	SK1620	土師器	焙烙	44.4		復22.0	10.0	粗	含砂粒少	やや軟質	にぶい褐色	にぶい褐色	内面ナデ。内面底部が焼成を受け変色。外面スス付着。
60	1 B	SK1620	土師器	風呂釜			40.0	残7.1	粗	含砂粒少	やや軟質	にぶい褐色	にぶい褐色	底部付近はハケのちナデ。その他はナデ。排水口の外径4.3cm、孔径2.4cm。



第45図 木製品実測図

番号	出土地区	遺構番号	種類	器種	法量 (cm)			胎土		焼成	色調		色調調整・備考	
					口径	胴径	底径	器高	粗密		砂粒	内面		外面
61	1 B	ST1400	土師器	皿	復9.5		復4.4	1.9	粗	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	口縁部にスス付着。底部が内側に湾曲。回転糸切り。
62	1 A	SE1186	土師器	椀			復6.0	残1.8	密		やや軟質	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面ともに回転ナデ。
63	1 A	SE1186	青磁	碗			6.0	残5.4	密		硬質	オリーブ灰色	オリーブ灰色	外面、片切彫りによって蓮弁文を表現。内面の見込みに、花文らしきスタンプ。龍泉窯系。生地は灰白色。
64	1 A	SE1186	瓦質土器	擂鉢				残4.3		含砂粒多	やや軟質	灰白色	灰色	内外面ともに回転ナデ。オロシメ10条単位。
65	1 B	SE1403	磁器	碗			4.4	残2.7	密		硬質	青灰褐色	青灰褐色	青灰色の呉須で、草花模様を描く。削り出し高台。透明釉。
66	1 B	SE1403	陶器	椀				残5.5	密	含砂粒少	硬質	暗青灰色	灰色	内外面ともにハケ、ナデ。
67	1 B	SE1403	土師器	鉢				残5.0	粗	含細粒多	やや軟質	灰黄色	灰黄色	口縁部のみ。内外面ともにナデ。
68	1 B	SE1403	陶器	擂鉢				残4.5	密	含砂粒少	硬質	黒褐色	黒褐色	口縁部のみ。内外面ともにナデ、施釉。
69	1 B	SE1403	陶器	擂鉢			復11.8	残3.2	密	含砂粒少	硬質	にぶい褐色	にぶい褐色	外面ナデ。底部糸切り。オロシメ7条単位。
70	1 B	SE1403	土師器	大甕				残2.7	粗	含細粒多	軟質	にぶい褐色	灰黄色	内面ナデ。外面底ナデ、側面ハケ。
71	1 B	SE1403	瓦質土器	火鉢	31.8			残6.0	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	黒色	内面ハケ、ナデ。外面ナデ。首の部分に印文。
72	1 B	SD1472	磁器	碗			4.0	残4.5	密	含砂粒少	硬質	明緑灰色	明緑灰色	内外面ともに施釉。見込みに、蛇の目釉剥ぎ、オリーブ灰色の呉須。
73	1 B	SD1472	磁器	碗			4.0	残4.5	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面ともに施釉。暗オリーブ灰色の呉須。
74	1 B	SD1472	磁器	大甕	9.8		4.2	4.8	密		硬質	明青灰色	明青灰色	内外面ともに施釉。青灰色の呉須。
75	1 B	SD1472	土師器	大甕				残10.0	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄色	灰白色	口縁部のみ。内面ハケ、タタキ。外面ナデ。
76	1 B	SD1472	土師器	大甕				残10.2	粗	含細粒多	硬質	浅黄褐色	浅黄褐色	口縁部のみ。内面ハケ。外面ナデ。
77	1 B	SD1472	陶器	大甕				残3.7	粗	含細粒多	硬質	赤褐色	黄褐色	内面ナデ。外面ナデ、指押さえ。
78	1 B	SD1472	瓦質土器	鉢				残3.6	密	含砂粒少	硬質	黒色	黒色	内外面ともにナデ。
79	1 B	SD1472	陶器	鉢			復10.4	残3.5	密		硬質	浅黄色	浅黄色	内外面ともにナデ、施釉。
80	1 B	SD1473	磁器	碗				残2.9	密		硬質	淡緑色	淡緑色	内外面ともに施釉。外面蓮弁文。
81	1 B	SD1473	陶器	擂鉢				残4.9	粗	含細粒多	硬質	暗赤褐色	暗赤褐色	口縁部のみ。オロシメ8条単位。内外面ともに施釉。
82	1 B	SD1411	土師器	大甕				残5.0	粗	含細粒多	やや軟質	黄褐色	黄褐色	口縁部のみ。内外面ともナデ。
83	1 B	SD1411	陶器	皿				残3.2	密		硬質	灰白色	灰色	内外面ともにナデ、施釉。内面に、胎土目痕2個あり。
84	2 C	SP2136	土師器	有孔台付皿			5.2	残2.2	密	含細粒少	やや硬質	にぶい褐色	にぶい褐色	高台部のみ。孔径1.7～1.9cm。横方向の指ナデ。
85	1 A	SP1027	土師器	皿			5.1	残1.7	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	底部糸切りの後、板目痕。
86	1 B	SP1308	土師器	杯			復6.8	残2.0	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	灰白色	内黒（いぶす）、内外面ともにナデ。
87	2 C	SP2112	土師器	椀			7.0	残2.8	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともに回転ナデ（内面右回転）。
88	1 B	SP1518	陶器	碗			復4.0	残3.7	密	含細粒少	硬質	灰白色	灰白色	外面回転ナデ。外面下部以外裏灰釉。胎土明赤褐色。削り出し高台。
89	1 A	SP1125	瓦質土器	擂鉢				残4.5	粗	含細粒多	やや軟質	黒褐色	黒色	口縁部のみ。内外面ともにナデ。
90	1 A	SP1303	土師器	大甕				残6.1	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄褐色	にぶい褐色	口縁部のみ。内面タタキ、ハケ。外面ナデ。
91	1 B	SP1479	土師器	茶釜			復12.6	残11.0	密	含細粒少	やや軟質	にぶい褐色	にぶい褐色	内面横方向のハケ。外面ナデ。外面底部スス付着。鍔一部欠損。
92	1 B	SP1401	土師器	茶釜				残5.4	粗	含砂粒多	やや軟質	灰黄色	灰黄色	内面ハケのちナデ。外面ナデ。鍔の部分より下にスス付着。
93	1 A	SP1136	瓦質土器	足鍋	復35.8			残15.4	粗	含細粒多	やや軟質	灰色	黒色	脚部一部欠損。内面ハケ。
94	1 A	SP1114	瓦質土器	足鍋				残12.9	密	含砂粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	脚部のみ。指押さえによる成形。脚部先端が獸脚状に外に反する。
95	1 A	SP1125	瓦質土器	足鍋				残6.9	粗	含細粒多	軟質	灰色	灰色	脚部の一部。指押さえによる成形。
96	1 B	SP1389	土師器	鉢	復31.4		22.8	19.6	粗	含細粒多	やや軟質	黄褐色	黄褐色	内面ナデ。外面ナデ、指押さえ。
97	1 B	遺物包含層	土師器	台付皿			4.4	残2.2	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	内面指押さえ。外面回転ナデ。
98	1 B	遺物包含層	土師器	皿			復5.4	残1.3	粗	含細粒多	やや軟質	オリーブ色	灰黄色	内外面ともにナデ。底部回転糸切り。
99	1 B	遺物包含層	土師器	椀			復6.6	残1.7	粗	含細粒多	やや軟質	灰黄色	灰黄色	内外面ともにナデ。
100	1 B	遺物包含層	土師器	椀			6.2	残2.3	粗	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	高台内回転糸切り。
101	1 B	遺物包含層	土師器	椀				残1.7	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。
102	1 B	遺物包含層	土師器	椀			6.0	残1.4	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	淡黄色	内外面ともにナデ。
103	1 B	遺物包含層	土師器	椀			復6.6	残1.6	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	灰白色	内黒（いぶす）、貼り付け高台。
104	1 B	遺物包含層	土師器	椀			5.1	残1.4	粗	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	貼り付け高台。
105	1 B	遺物包含層	土師器	椀				残1.1	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	灰白色	内黒（いぶす）、内外面ともにナデ。
106	1 B	遺物包含層	土師器	椀			復6.8	残1.6	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。
107	1 B	遺物包含層	土師器	椀			6.6	残1.8	密	含細粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	貼り付け高台。
108	1 B	遺物包含層	土師器	椀			復5.0	残1.2	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。
109	1 B	遺物包含層	土師器	椀			6.0	残0.9	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。
110	1 B	遺物包含層	瓦質土器	擂鉢				残3.3	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	黒色	口縁部のみ。内面オロシメ6条単位。外面ナデ。
111	1 B	遺物包含層	瓦質土器	擂鉢				残3.5	粗	含細粒少	やや軟質	黒色	黒色	口縁部のみ。内面ハケ、オロシメ。外面ナデ。
112	1 B	遺物包含層	陶器	擂鉢				残6.6	密	含細粒多	硬質	赤褐色	赤褐色	口縁部のみ。オロシメ9条単位。内外面ともにナデ。
113	1 B	遺物包含層	土師器	鉢				残5.1	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	口縁部のみ。内外面ともにナデ。
114	1 B	遺物包含層	土師器	鉢				残7.7	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	口縁部のみ。内面ハケ、外面ナデ。
115	1 B	遺物包含層	瓦質土器	足鍋				残11.2	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	脚部のみ。内面ナデ、外面指押さえ。
116	1 B	遺物包含層	磁器	小皿	6.2		2.4	2.1	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面とも施釉。暗緑灰色の呉須。
117	1 B	遺物包含層	磁器	小杯	5.8		2.6	3.2	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面とも透明釉。呉須は青色で、岩波を表現か。
118	1 B	遺物包含層	磁器	碗	8.2		3.2	3.6	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面とも施釉。外面上部に、オリーブ灰色の釉がかかる。
119	1 B	遺物包含層	陶器	碗			4.0	残2.1	密	含砂粒少	硬質	くすんだ灰色	くすんだ灰色	内外面とも施釉。外面底部は露胎、にぶい黄褐色。
120	1 B	遺物包含層	陶器	碗			4.8	残2.4	密	含砂粒少	硬質	浅黄色	灰白色	内外面ともナデ、施釉。

番号	出土地区	遺構番号	種類	器種	法量 (cm)			胎土		焼成	色調		色調調整・備考		
					口径	胴径	底径	器高	粗密		砂粒	内面		外面	
121	1 B	遺物包含層	陶器	碗				4.6	残2.1	密		硬質	灰白色	くすんだ褐色	内面施釉。外面露胎。
122	1 B	遺物包含層	磁器	皿	復11.8		4.2	0.5	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面とも透明釉。高台内露胎。蛇の目釉剥ぎ痕。呉須は、オリーブ黒。	
123	1 B	遺物包含層	磁器	皿	復12.8		4.0	3.6	密		硬質	明緑灰色	明緑灰色	底部に×印の墨書。蛇の目釉剥ぎ痕。呉須は、オリーブ灰色。	
124	1 B	遺物包含層	磁器	皿	復19.2		復9.2	4.4	密		硬質	灰白色	灰白色	内外面とも透明釉。見込みに蛇の目釉剥ぎ痕。呉須はオリーブ灰色。	
125	1 B	遺物包含層	瓦質土器	鉢	復16.2		復9.8	4.2	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内面ナデ。外面指押さえ。	
126	1 B	遺物包含層	陶器	壺			復13.0	残9.5	密	含砂粒少	硬質	青灰色	青灰色	内面ナデ、指押さえ。外面ナデ、ケズリ、指押さえ。	
127	1 B	遺物包含層	陶器	茶釜	復12.0	復28.0		残8.5	密	含細粒多	硬質	黄褐色	オリーブ灰色	内外面とも、ナデのち施釉。全体長33.2cm（鍔部分を含む）。	
128	1 B	遺物包含層	陶器	擂鉢	復39.6			残11.8	密	含砂粒少	硬質	黒褐色	黒褐色	内外面とも、ナデのち施釉。オロシメ19条単位。	
129	2 C	遺物包含層	緑釉陶器	椀			7.6	残1.9	密		やや硬質	黄緑色	黄緑色	内外面とも施釉（貫入あり）。生地は、灰黄色。	
130	2 C	遺物包含層	緑釉陶器	椀			6.6	残1.7	密		やや硬質	淡緑色	淡緑色	内外面とも施釉。内面に施釉ハケ痕が残る。生地は、灰白色。	
131	2 C	遺物包含層	緑釉陶器	椀			復6.4	残1.4	密		やや硬質	緑色	緑色	内外面とも施釉。生地は灰白色。	
132	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復7.0	残2.0	粗	含細粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。	
133	2 C	遺物包含層	土師器	椀			7.0	残2.1	密	含砂粒多	やや軟質	黒褐色	にぶい褐色	外面回転ナデ。	
134	2 C	遺物包含層	土師器	椀			7.2	残2.8	粗	含細粒多	やや軟質	くすんだ褐色	くすんだ褐色	内外面ともにナデ。	
135	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復7.6	残2.0	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。	
136	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復7.2	残3.0	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。	
137	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復6.6	残2.7	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。	
138	2 C	遺物包含層	土師器	椀			7.8	残1.8	密	含砂粒多	やや軟質	黒色	にぶい褐色	内黒（いぶす）、高台内回転糸切り。	
139	2 C	遺物包含層	土師器	椀			5.8	残2.0	粗	含細粒多	やや軟質	黒褐色	灰白色		
140	2 C	遺物包含層	土師器	椀			6.6	残1.1	粗	含細粒多	やや軟質	にぶい褐色	にぶい褐色	内外面ともにナデ。	
141	2 C	遺物包含層	土師器	椀				残2.0	粗	含細粒多	軟質	黒色	灰白色	内黒（いぶす）、内外面ともにナデ。	
142	2 C	遺物包含層	土師器	椀				残1.2	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	浅黄褐色	内黒（いぶす）、内外面ともにナデ。高台内回転糸切り。	
143	2 C	遺物包含層	土師器	椀				残1.5	粗	含細粒多	やや軟質	くすんだ褐色	黒褐色		
144	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復8.0	残1.1	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	灰白色	内黒（いぶす）、内外面ともにナデ。	
145	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復6.8	残1.3	粗	含細粒多	やや軟質	黒色	浅黄褐色	内外面ともにナデ。	
146	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復5.4	残2.5	粗	含細粒多	やや軟質	淡赤褐色	淡赤褐色	内外面ともにナデ。	
147	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復6.0	残1.6	粗	含砂粒多	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色		
148	2 C	遺物包含層	土師器	椀				残2.2	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。	
149	2 C	遺物包含層	土師器	椀			6.3	残2.2	粗	含砂粒多	やや軟質	灰白色	灰白色		
150	2 C	遺物包含層	土師器	椀			6.4	残1.0	粗	含細粒多	やや軟質	くすんだ褐色	くすんだ褐色	内外面ともにナデ。	
151	2 C	遺物包含層	土師器	椀			復6.8	残1.1	粗	含細粒多	軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。	
152	2 C	遺物包含層	土師器	椀			7.0	残2.3	粗	含細粒多	やや軟質	浅黄褐色	浅黄褐色		
153	2 C	遺物包含層	土師器	椀			5.6	残2.5	粗	含砂粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	外面回転ナデ。	
154	2 C	遺物包含層	土師器	椀			7.0	残1.0	粗	含細粒多	やや軟質	くすんだ褐色	くすんだ褐色	内面ナデ。	
155	2 C	遺物包含層	土師器	杯	復13.6		6.4	4.8	密	含砂粒多	やや軟質	灰白色	灰白色	内外面ともにナデ。底部糸切り。	
156	2 C	遺物包含層	土師器	杯	復12.2		5.6	4.9	密	含砂粒多	やや軟質	褐色	にぶい褐色	内外面ともに回転ナデ。	
157	2 C	遺物包含層	土師器	杯			復5.8	残2.3	粗	含細粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面ともにナデ。	
158	2 C	遺物包含層	土師器	杯			5.4	残1.5	粗	含細粒多	やや軟質	暗褐色	くすんだ褐色	内外面ともにナデ。	
159	2 C	遺物包含層	白磁	碗				残4.5	密		硬質	灰白色	灰白色	口縁部のみ。透明釉。玉縁状の口縁部。	
160</															

## 土製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	法量 (cm)			胎土		焼成	色調	備考
				長さ	幅	厚さ	粗密	砂粒			
178	1 B	SK1402	祭祀用具?	5.9	4.9	1.2	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・下面・側面研磨。
179	1 B	SK1418	祭祀用具?	残8.6	残5.7	1.7	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・側面研磨。
180	1 B	SP1518	祭祀用具?	4.9	4.7	1.4	粗	含砂粒多	硬質	灰白色	上面・下面・側面研磨。

## 石製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	石材	法量 (cm)			色調	備考
					長さ	幅	厚さ		
181	1 B	SK1506	砥石	砂岩	5.9	4.9	1.0	灰白色	荒砥石。上面・下面・側面研磨。
182	1 B	SK1094	砥石	凝灰岩	5.8	5.0	2.0	灰白色	仕上げ砥石。上面研磨。
183	1 B	遺物包含層	砥石	泥岩	7.8	3.2	3.1	灰白色	中砥石。側面研磨。
184	1 B	遺物包含層	砥石	泥岩	15.2	4.0	2.2	灰白色	仕上げ砥石。上面研磨。
185	1 B	SK1441	硯	泥岩	残4.3	残3.0	0.9	灰赤色	赤間硯。
186	1	表面採集	硯	泥岩	残5.4	残4.9	1.6	灰褐色	赤間硯。
187	1 B	SK1439	祭祀用具?	泥岩	6.7	4.6	1.2	灰白色	上面・側面研磨。
188	1 B	SE1403	石臼	砂岩	残10.0	残7.0	3.2	灰白色	茶臼の下臼受皿部。
189	1 B	SE1403	石臼	砂岩	残19.4	残16.5	5.9	灰白色	挽臼の上臼部。側面の一部研磨。

## 金属製品（銅銭）観察一覧表

番号	出土地区	銭類	法量 (cm)		備考
			直径	孔径	
190	2 A地区第1面掘り下げ層	新寛永	2.3	0.7	
191	表面採集	古寛永	2.4	0.5	
192	表面採集	新寛永	2.4	0.6	

## 木製品観察一覧表

番号	出土地区	遺構番号	種類	法量 (cm)				備考
				直径	長さ	幅	厚さ	
193	1 B	SK1506	曲物の底板	18.6	19.3	18.7	1.3	連結穴が、3個あり。それぞれに木芯残存。
194	1 B	SK1506	曲物の底板	14.7			1.6	連結穴が、2個あり。1個には木芯残存。
195	1 B	SK1506	曲物の底板				1.2	
196	1 B	SK1506	曲物の底板		残12.6	残2.9	0.8	連結穴が、1個あり。木芯残存。材質はキリ。
197	1 B	SK1506	曲物の底板		残13.1	残5.5	1.2	黒褐色。材質はツゲか。
198	1 B	SK1506	櫛	11.5		4.9	1.0	
199	1 B	遺物包含層	曲物の底板				0.9	
200	1 B	遺物包含層	曲物の底板		残8.1	残2.1	0.4	

# ま と め

## 1 調査成果の概要

東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）の発掘調査の結果、低地部（2地区）では、古代（平安時代後期）から中世（鎌倉時代）にかけての集落が営まれ、丘陵突端部（1地区）では、中世（室町時代）から近世（江戸時代）にかけての集落が構成されていたことが明らかになった。

検出された主な遺構は、掘立柱建物跡22棟、埋甕遺構15基（埋甕抜き穴19基を含めると合わせて34基）、土坑41基、墓1基、井戸2基、溝状遺構6条、柱穴約700個、粘土採掘坑5基である。特に、近世の埋甕遺構は、県内の集落遺跡の中では有数の出土数となり、この遺跡を特徴づけるものとなった。出土した主な遺物としては、土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦質土器・輸入磁器・国産陶磁器、土製品、石製品、金属製品（銭貨）、木製品などがある。緑釉陶器は、近隣の周防鋳銭司跡とのかかわりの点で興味深い資料である。

## 2 遺構について

### （1）掘立柱建物跡

22棟の掘立柱建物跡が確認された。標高約9.0～9.5mの丘陵突端部の1地区に19棟と多く、標高約8.5mの低地部の1地区では3棟である。建物の棟方向は、北東方向タイプ・北西方向タイプ・東西方向タイプの3種類がある。規模は1間×1間が5棟、2間×1間が8棟、2間×2間が4棟、3間×1間が2棟、3間×2間が2棟、3間×3間が1棟であり、比較的小規模な建物が多い。柱穴からは時期決定の根拠となる出土遺物が少ないため、建物の時期を判断できるものは限られるが、棟方向の比較や溝状遺構との位置関係、集落での立地などを総合して建物の時期を推定した（第1表）。

時期決定の上で注目される遺構として、1B地区中央北側に位置するS B 18、S D 1473、S D 1411、埋甕遺構（S K 1422・1424・1425・1453）という4種類の遺構の切り合い関係がある。棟方向北東タイプS B 18とS D 1473は位置的に重なり合っているため、異なる時期の遺構である。また、S D 1473はS D 1411や埋甕遺構S K 1425・1424・1453などの近世遺構によって切られており、それより古い中世～近世初期の遺構である。なお、S D 1411はS B 18の棟方向に沿って流れ、東側の一部に石積列が組まれており、同じ近世期の可能性が高い。また、1A地区北東隅に位置する棟方向北西タイプのS B 12・13・14は一定時期中の建て替えと見られ、その南側を流れるS D 1473と関連する時期のものとも考えられる。以上のように1地区では、中世ならびに近世の建物跡が確認された。

2地区では、S B 21が3間（7.76m）×3間（6.96m）、床面積約54m<sup>2</sup>で最大規模の建物である。出土遺物などから古代の建物と判断される。梁行方向の南側の柱間距離は3.08m、2.28m、2.40mで、南西隅からの柱間距離がやや長い。このため、3間×2間の主屋に庇が付く構造の建物であることも想定される。S B 20・21・22はいずれも棟方向が北東方向で、同時期または近い時期の建物と見られる。

### （2）溝状遺構

主な溝状遺構としては、東西方向に流れるS D 1473とS D 1472、南北方向に流れるS D 1411がある。S D 1473は1地区の丘陵の傾斜転換点あたりに沿うように東から西に流れており、S D 1473の北側に建物が立地していたと想定される。S D 1411は丘陵の傾斜に沿って北から南に流れ、S D 1472は東

西方向に流れる。共に近世の溝であり、調査区外北側で合流している可能性もある。現在の集落は、さらに北側の標高がやや高い丘陵部に等高線に沿うように立地しており、近世の建物も同様に溝の北側を中心に位置していたことが予想される。このように、溝は建物を区画するように流れていた模様である。

### (3) 井戸

1地区で、S E 1186(中世)とS E 1403(近世)の2基の井戸が検出された。標高約9~9.5mの丘陵突端部の1地区に位置し、隣接する建物跡に伴うものと考えられる。いずれも素掘りの井戸である。山口県内の井戸については、素掘り井戸、木組井戸、石組井戸、その他(曲物、瓦、桶、陶器などの井戸側材使用)の種類が検出されている。このうち、西隣の東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査)では素掘り井戸が多いのに対して、下右田遺跡(防府市)では石組井戸が主体を占める傾向がある。本遺跡は素掘り井戸が主体を占めるタイプである。この原因として、遺跡周辺地域は井戸側壁が崩落しにくい地盤であること、地下水位が高く比較的浅くても良いため井戸側を石組で補強しなくてもよいこと、石組井戸より掘削の労力や経済的負担がより少ない素掘りが選択されたことなどが考えられる。下右田遺跡との比較では、集落間の経済力の違いが井戸形態の採用に反映されているのかどうか、住居規模・出土遺物の内容などの視点から検討することも必要と考えられる。

### (4) 足鍋・茶釜の埋納遺構

S P 1075から、石塊と共に埋置された瓦質土器の鍋(7)、足鍋(8)が出土した。S P 1075は、S B 5を構成する北西隅の柱穴であり、建物の地鎮祭や廃絶儀礼に伴うものである可能性がある。S P 1136では、木質が残存し、木箱状のものに足鍋(93)が収納されていたものと見られる。S P 1479には半分に断ち割った土師器の茶釜(91)が埋置されていた。土師器の椀・杯・皿などを柱穴に埋納する儀礼の事例は各地の遺跡で数多く確認されているが、鍋・茶釜を埋納した事例は比較的数少ない。近隣の遺跡では、原遺跡(防府市)のS P 3010、赤迫遺跡(C地区)(阿知須町)のS P 2411に瓦質土器の足鍋が埋置されていた。注目される事例として下右田遺跡(第20次発掘調査)のS X 1200では、柱穴に石で固定した足鍋が据え置かれ、中に和紙に包んだ和鏡が靱殻と共に納められていた。地鎮などの祭祀目的が想定されている。このように、土師器の椀・杯・皿のほかに、中世の瓦質土器の鍋・足鍋・茶釜を使用した祭祀に伴うと見られる埋納遺構の例が増えつつあり、今後さらに、その事例の増加と出土状況・共伴遺物の検討を待って、習俗の内容と意義について考察していく必要がある。

### (5) 粘土採掘坑

2地区の低地部で、焼物や瓦などの原材料用の粘土採掘が行われたと見られる大きな掘り穴が見つかった。平面形は不整形のものが多く、長さ幅が10mを超え、深さ1m以上の大きな規模の掘り込みもある。淡い青灰色のきめ細かい良質粘土を採取した形跡が認められ、後世の耕地化の際に埋められたものである。近隣の防府市台道の原遺跡では、室町時代の瓦質土器生産のための粘土採掘坑とみられる小規模な土坑が検出されており、中世以来、周辺地域が良質の粘土供給地であったことが確認されている。近世末期~近代には、近隣では佐野焼(防府市)や瓦窯などがあり、原材料として採掘されたことも考えられる。埋土中に時期を判断できるような遺物が認められないため、採掘坑の明確な時期決定には至らないが、周辺の聞き取りによると昭和期頃まで、近隣で粘土の採掘が行われており、比較的新しい時期の遺構である可能性もある。

## 3 遺物について

### (1) 土師器

土師器は、時期比定の遺物資料として、椀や杯が出土している。遺構に伴うものは少ない。まとまった資料として、2C地区南側遺物包含層と1B地区南側遺物包含層出土の遺物がある。椀では全体の器形がわかる程度に残っている資料は少なく、高台部と底部周辺が残っている程度の破片資料が多くを占めているため、椀の高台部の形態的特徴を基に分類すると、次のような特徴を持つ。

- A 幅の狭い高台が高く、外向きに「八」の字状に開くもの(132)。
- B 断面四角形の高い高台が、やや外向きぎみに開くもの(99、133~137)。
- C Bより低い断面四角形の高台が、やや外向きぎみに開くもの(100~101、138~143)。
- D 高台がやや高く先端部が尖り、断面が逆二等辺三角形状を呈するもの(102~105、144~148)。
- E 高台がやや低く、断面形が逆正三角形状を呈するもの(106~107、149~152)。
- F 高台がEよりもさらに低く退化して、痕跡的に残るもの(108~109、153~154)。

底部に回転糸切り痕を明瞭に観察できるものを含めて、糸切り後、高台を貼り付けて、高台内の糸切り痕をナデ消しているものが大部分である。時期的には、平安時代後期から鎌倉時代にあてられよう。また、内面をいぶして炭素を付着させたいわゆる内黒の土師器では、椀(103・105・138・141・142・144)、杯(86)が出土している。

### (2) 緑釉陶器

緑釉陶器の椀底部破片3点(129・130・131)が、2C地区南側遺物包含層下層から出土している。同じ遺物包含層からは、上記の土師器椀・杯が共伴している。129は生地が灰黄色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。黄緑色の釉が掛かり、貫入が見られる。高台は断面四角形でやや外開きである。130は生地が灰白色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。鮮やかな淡緑色の釉が掛かる。内面にミガキ痕がある。釉調は長門産の特徴をもつ。高台は断面四角形でほぼ真っ直ぐに立つ。131は生地が灰白色の緻密な胎土で、土師質の焼成である。やや濃い緑色の釉が掛かる。断面四角形でほぼ真っ直ぐ立ち上がる。いずれも貼り付け高台である。

遺跡の約750m西側に位置する周防鑄銭司跡や約7km東側の周防国衙跡など隣接する官庁機関とのかわりをうかがわせる。緑釉陶器を出土した近隣の遺跡として周防鑄銭司跡、八ヶ坪遺跡、下系根遺跡、下北田遺跡、東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査)、上嘉川遺跡(以上、山口市)、周防国府跡、切畑南遺跡(以上、防府市)などがある。山口県内では緑釉陶器を生産した窯跡は、これまで見つかっていないが、東禅寺・黒山遺跡(南若川河川修築に伴う調査)では、緑釉陶器や三叉トチンなど窯道具が出土し、近隣に窯跡が存在する可能性が想定される。このように本遺跡出土の緑釉陶器も他の周辺遺跡での出土と同じように周防国府跡、周防鑄銭司跡に隣接するという立地条件を反映した性格がうかがわれる。高橋照彦編年などに従えば10世紀代に比定されるものと考えられる。

### (3) その他

瓦質土器の鍋、足鍋、羽釜、鉢、播鉢など中世後半の室町時代の遺物が出土している。輸入磁器では、龍泉窯系の青磁碗(5・63・80・164)や玉縁状の口縁をもつ白磁碗(159)がある。国産陶磁器は、近世のものが大部分を占める。土師器・瓦質土器の大甕については、次項で詳述する。



## 4 埋甕遺構について

### (1) 東禅寺・黒山遺跡の埋甕遺構

掘り方は、基本的に大甕本体よりも大きく、平面形がほぼ円形を呈し、上部に対して基底部がすぼまる椀形状の窪みを持つ例が多い。甕は口縁部を上にして、底部～体部下半は地中に埋め、体部上半は地上に露出させた状態で設置されていたものと推定される。これは、使用停止後に甕内部に体部上半を打ち砕いて投棄している出土状況や当時の推定地表面と甕の器高との差から判断される。

大甕の置き方は、甕の底部が掘り方のほぼ基底部に置かれる例が多いが、基底部よりもかなり高い位置に設置される例もある（S K 1420）。また、甕を安定させるために、埋め土のほかに土器・瓦・石などの充填物を掘り方との間に詰めているものもある（S K 1402）。甕の掘り方に切り合いの重なりが見られることから、破損などにより何度かにわたり埋め替えられたことが確認できる。

埋甕内からの共伴遺物は少量ながら、陶磁器の破片など近世の遺物が出ている。石塊が投げ入れられている例もある（S K 1306・1402・1418）。なお、側面を研磨した板状の土製品（178・179）や石製品（187）が、廃棄された甕内から出土し、廃絶に伴う儀礼的意味をもつ祭祀用具ではないかと考えられる。

大甕の用途や内容物については、甕内の土壌分析の結果（付篇参照）、明確な判断を下せる材料は得られなかった。ただし、便器・肥溜めなどの用途を想定させる物質や藍甕などの貯蔵を裏づける成分の高い比率は確認されず、それ以外の内容物が貯蔵されていた可能性が示唆されている。分析結果とあわせて、ア 甕内壁に特別の付着物が観察されないこと、イ 建物跡と時期的に異なる切り合い関係にある埋甕があること、ウ 埋甕を覆う明確な建物構造が確認されなかったこと、などから、本格的な家屋構造内に保存を要する内容物が貯蔵されていたわけではなく、外気に触れても構わない水などの液体や貯蔵物が、屋外に晒されたり蓋などをされた状態で貯蔵されていたのではないかと推定される。

### (2) 山口県内の中世・近世の埋甕遺構

山口県内の中世・近世の埋甕遺構を集成した（第5表）。中～大型の甕が据え置かれたままの状態でも出土した遺構と甕の底部破片等しか残っていても埋設されていたことが確認できる遺構を取り上げた。既に甕が抜き取られた抜き穴の遺構は、その基数を備考欄に示した。

埋甕遺構は34遺跡で186基が確認されている（調査主体が異なり、調査地点が別の場合は別遺跡数として累計）。複数基確認されたのは24遺跡で全体の約3分の2、1基のみ確認されたのは10遺跡で全体の約3分の1となり、遺跡内で複数基が検出される傾向がある。特に高野遺跡（18）、良君城跡（13）、大内氏関連町並遺跡（第38次）（9）、東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）（15）、切畑南遺跡（7）、萩城跡（外堀地区）（63）などで数多くの埋甕遺構が確認されている。集落の数箇所でもとまって出土しており、建物や溝などとの関連がうかがわれる。萩城跡（外堀地区）では、町屋ごとに区画された屋敷地で検出されており、家ごとに便槽・貯水・貯蔵用の大甕として埋設されていたと見られる。調査面積の広さと検出された町屋数の多さが埋甕検出数の圧倒的多さに反映されている。

遺跡の種類は、集落跡が多くを占め、城下町の屋敷地・町屋、寺院、館跡などが少数を占める。

県内での出土遺跡の地域的分布は、山口・防府など県中部にその中心があり、特に山口市域での出土例が多い。山口市域がひとつの消費中心地であったことをうかがわせる。港湾から離れ内陸に位置する山口の立地条件や大甕の運搬の困難さを考慮すると、近隣に生産地が想定され、防府市域の佐野

焼窯や堀越窯などが候補地として考えられよう。

時期については、発掘調査報告時点での所見に従っているが、現時点から見ると年代観が多少変わるものも一部に含まれている。中世の室町時代後期頃から類別が増え、近世の江戸時代に遺跡数・基数ともに最盛期を迎え、広く一般に埋甕が使用されたことがうかがわれる。

県内出土の埋甕の用途については、出土状況から明確に判明している例は少ない。他県の遺跡での事例や民俗例から、便器、肥料貯蔵容器（肥溜め）、貯水容器、醤油・油・藍ほかの染色原料など液体貯蔵容器、味噌・発酵品など長期保存食料品の貯蔵容器、穀物などの貯蔵容器、埋葬用の容器（甕棺）などが想定される。発掘調査で小屋・建物跡などの屋内施設が明確に検出された報告例が少なく、屋内にどのように埋置されていたのか、屋外に設置されていた場合にはどのように管理保全されていたのかなど十分に検証されていない点がある。

一方、複数基の埋甕を出土した遺跡で、2～3基が列状に並ぶ例（高野遺跡、切畑南遺跡、寺内遺跡、萩城跡、今回調査の東禅寺・黒山遺跡など）や間隔を置いて半円形に並ぶ例（良君城跡）がある。このように、1基での使用のみならず、複数基がセットで使用されたものがあり、農業活動用や世帯生活用のほかに、工房や貯蔵倉など製造に結びつく生産活動や商業活動にかかわる用途に使用された場合も想定される。また、平面プランが細長い長方形を呈する掘り方に、椀状の窪みが数基列状に並んで掘り込まれ、大甕が数基据え置かれていたことを推定させる遺構（土井ノ内、坂ノ上遺跡）がある。一条谷朝倉氏遺跡や根来寺坊院跡では、大甕の掘り方が列状や縦横方向に整然と並ぶ遺構があり、藍甕の染物工房や油などの貯蔵倉が想定されている。<sup>(注18)</sup> 県内の遺構では、甕の内容物について不明であるものの、複数基を要する量の貯蔵物や仕分けした内容物が納められていたものと考えられる。

### (3) 山口県内の中世・近世の埋甕型式分類および編年試案

#### 埋甕の型式分類

今回集成した県内の中世・近世埋甕遺構から出土した大甕の中で、口縁部・体部・底部の全体器形が比較的良好に残り、出土状況が明確なものを基準資料として、型式分類ならびに編年試案を示した（第46図）。瓦質、土師質の在り地系と見られるものを対象とし、一部に陶質のものも含まれている。

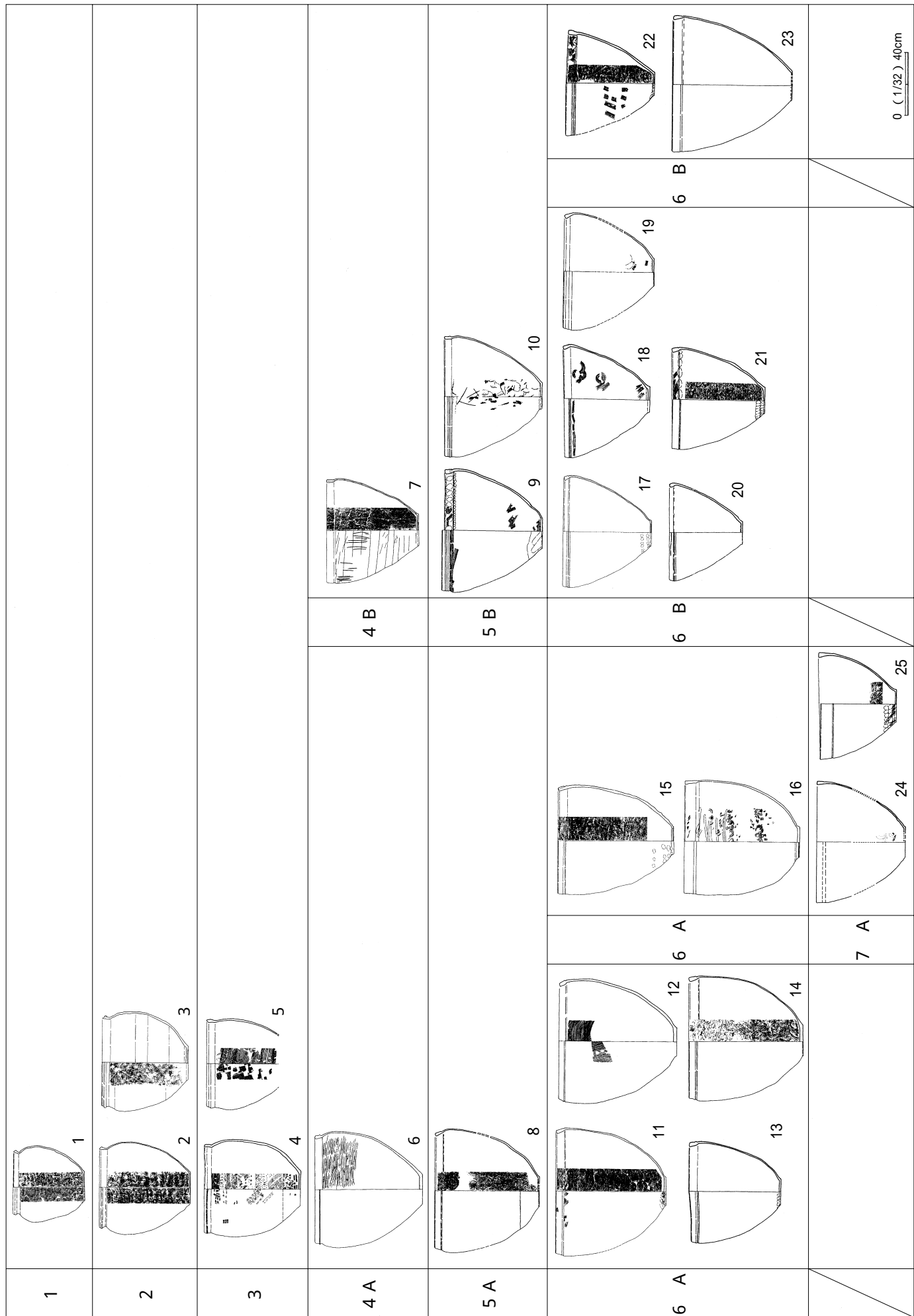
大甕について、各特徴を取り上げて分類すると次のようになる。

#### ア 全体的形態

- |     |          |                              |
|-----|----------|------------------------------|
| i   | 体部の立ち上がり | Aタイプ 体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がるもの |
|     |          | Bタイプ 体部が底部から外開きに直線的に立ち上がるもの  |
| ii  | 器高と口径の比率 | 器高>口径 長胴で細長い形を呈するもの          |
|     |          | 器高<口径 短胴ですんぐりした形を呈するもの       |
| iii | 容量       | 小型、中型、大型                     |

#### イ 口縁部の形態（傾き具合、肥厚帯の形状、沈線の形状）

- 1 口縁部から体部にかけて頸部が内側にくびれ、口縁端部が外側に屈曲する型式
- 2 口縁部から体部にかけて頸部がくびれ、口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式
- 3 肩部から頸部にかけてのくびれが弱まり、簡略化した肥厚突帯が巡る口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式



第46図 山口県内の中世・近世の埋蔵型式分類および編年試案

1 岩淵SK-24 2 岩淵SK-52 3 下系根SX3 4 鹿ST1 5 鹿SK19 6 周防国防府町並(38次)SX12 17 東津寺・黒山SK1418 18 萩城跡1-X地区埋蔵22 19 土井/内SX03 20 高野SX17010 21 萩城跡1-D地区埋蔵3 22 萩城跡1-D地区埋蔵72 23 切畑南SX06 24 高野SX17008 25 萩城跡3-J地区埋蔵1  
 14 切畑南SX01 15 東津寺・黒山SK1301 16 大内氏開運町並(38次)SX12 17 東津寺・黒山SK1418 18 萩城跡1-X地区埋蔵22 19 土井/内SX03 20 高野SX17010 21 萩城跡1-D地区埋蔵3 22 萩城跡1-D地区埋蔵72 23 切畑南SX06 24 高野SX17008 25 萩城跡3-J地区埋蔵1

- 4 肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚帯部が厚い型式
- 5 肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚帯部が発達し、口径が大きい型式
- 6 沈線が巡る口縁肥厚帯部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する型式
- 6 沈線が巡る口縁肥厚帯部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式
- 7 口縁肥厚帯部が簡略化して薄くなり、沈線の位置が口縁部端から下がりぎみで簡略化し、内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式

ウ 製作・調整技法

- i 全体成形 底板製作、体部の粘土帯積み上げ、口縁部肥厚帯の貼り付け
- ii 外面調整 格子目タタキ、ハケ、ナデ、指押さえ痕
- iii 内面調整 同心円文タタキ(当て具痕) ハケ、ナデ、指押さえ痕

以上を基に、形態の特徴と変化が最もよく表れる「口縁部の形態」変化を型式分類の主属性とし、「全体的形態」を副属性として組み合わせ、「製作・調整技法」の特徴を加味して、基本的型式分類を行った。このうち、全体的形態については「体部の立ち上がり(A・Bタイプ)」の区分を分類上の優先属性として取り上げ、「器高と口径の比率」ならびに「容量」については、型式変化全体の時系列の中で、補助的に観察される変化の属性として取り扱った。

1 型式	口縁部から体部にかけて頸部が内側にくびれ、口縁端部が外側に屈曲する。
2 型式	口縁部から体部にかけて頸部がくびれ、口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる。
3 型式	肩部から頸部にかけてのくびれが弱まり、簡略化した肥厚帯が巡る口縁端部がほぼ真っ直ぐに立ち上がる。
4 A 型式	肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚帯部が厚い。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
4 B 型式	肩部に最大径があるが、頸部のくびれが弱く口径が大きくなり、口縁肥厚帯部が厚い。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
5 A 型式	肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚帯部が発達し、口径が大きい。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
5 B 型式	肩部が最大径で、頸部のくびれがなくなり沈線と口縁肥厚帯部が発達し、口径が大きい。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
6 A 型式	沈線が巡る口縁肥厚帯部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
6 A 型式	沈線が巡る口縁肥厚帯部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。
6 B 型式	沈線が巡る口縁肥厚帯部を最大径かつ転換点とし、内側に屈曲する。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
6 B 型式	沈線が巡る口縁肥厚帯部が内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。体部が底部から外開きに直線的に立ち上がる(B)。
7 A 型式	口縁肥厚帯部が簡略化して薄くなり、沈線の位置が口縁部端から下がりぎみで簡略化し、内側に屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる。体部が底部から内湾ぎみに曲線的に立ち上がる(A)。

1～3型式の段階では、外面に格子目タタキが明瞭に残り、4型式以降の大甕では外面ナデ・ハケ調整により消されているのとは異なり、調整技法上での画期が認められる。室町時代の足鍋底部に残る格子目タタキと共通し、3型式以前は中世の特徴を持つ大甕といえよう。埋蔵遺構の時期から見て基本的には、A・Bタイプは時期的に併存することから、3型式から4型式への変化の段階で、「体部の立ち上がり」の点でAとBの2タイプに分かれ、それぞれのタイプの中で口縁部形態を中心とした

型式変化を遂げたものと考えられる。このうち口縁部の屈曲形態から、さらに、内側に屈曲する型式 屈曲せずほぼ真っ直ぐに立ち上がる型式 の2つに分けられる。

「口縁部の形態」変化は、口縁部から体部にかけて頸部の屈曲するくびれがある型式（1 2 3 4） 口縁部から体部にかけて頸部のくびれがなくなる型式（5） 沈線が巡る口縁部肥厚帯を転換点として内側に屈曲する型式（6） ・口縁部肥厚帯が内側に屈曲せず真っ直ぐに立ち上がる型式（6、7）という流れをたどる。以上、型式変化の上では、ほぼ時系列的に1型式から7 A型式への変化をたどるものと考えられる。

「器高と口径の比率」に関しては、器高の増大は相対的に長胴化をもたらし、口径の増大は相対的に大型化と短胴化傾向を促している。時期が下るにつれて、口径比率が増大し短胴化傾向が見られる。

「容量」については、1型式（1）の小型から次第に中型・大型化傾向がうかがわれ、盛行期の定型化した6型式（11ほか）で最大化傾向が見られ、最終段階の7型式（25）で再び小型化している。

### 年代観

1～3型式の岩淵遺跡（1・2）、原遺跡（4・5）の瓦質土器甕は、共伴遺物や他の遺構から判断して室町時代後期（15～16世紀）に比定されよう。外面に格子目タタキが残り、以降の型式では見られなくなる。4型式の周防国衙跡（6）、今宿西遺跡（7）は明確な時期決定の共伴資料に乏しいが、型式変化の上では中世末から近世初頭の時期が与えられると考えられる。5型式の切畑南遺跡（8）、萩城跡（9）は頸部のくびれがなくなり、近世的埋甕の形態が確立した段階で、江戸時代前期の17世紀代～18世紀初頭に比定されよう。6型式の東禅寺・黒山遺跡（11）は盛行期のもので、共伴遺物等からも江戸時代中期の18世紀代を中心とする年代が与えられよう。7型式の萩城跡（25）は、最終遺構面（第1面）からの出土で、江戸時代後期19世紀前後の年代が想定される。

以上の年代観によれば、東禅寺・黒山遺跡出土の埋甕は、型式変化や甕内部から出土した近世陶磁器、他の遺構との切り合いの新旧関係などを合わせて判断すると、その多くが18～19世紀の江戸時代中・後期に比定されるものと考えられる。

## 5 遺跡の歴史的変遷について

これまでの鑄銭司地区周辺遺跡の発掘調査によると、古代には、周防鑄銭司周辺の低地部に集落が広がり、中世には、西側の地区から東側の地区へと移っていき、近世には、低地部の耕地化に伴い、集落は低地部から丘陵部へと移っていく傾向が見られることが指摘されている。<sup>(注19)</sup> 今回の調査でもこうした古代（平安時代後期）から中世（鎌倉時代）にかけての低地部（2地区）での集落立地から中世（室町時代）から近世（江戸時代）にかけての丘陵部（1地区）への集落移動の傾向が確認され、これまでのこの地域の発掘調査の成果を追証することとなった。また、2地区南側遺物包含層からは緑釉陶器が出土しており、周防鑄銭司跡の約750m東側に隣接するという立地条件から見て、その関連性も注目されることである。古代・中世には、遺跡南側の山陽本線や国道2号あたりに海岸線があったと考えられている。出土した植物遺体の同定結果（付篇参照）からも暖温帯の海岸近くに生育する樹種が確認されており、南側は海に隣接する立地条件にあったものと推定できる。

以上のように、東禅寺・黒山遺跡（東大円・上徳田地区）の調査を通じて、鑄銭司地区における古代から中世を経て近世に至る断続的な集落の歴史的変遷と人々の生活の様子が明らかになった。

第5表 山口県内の中世・近世の埋甕遺構検出遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	基数	時期	遺跡の種類	備考
1	高野遺跡 (平成9年度)	豊浦郡豊浦町大字川棚	18	17～18世紀	集落	SX17010ほか
2	土井ノ内遺跡	豊浦郡菊川町大字上田部	5	17～18世紀	集落	SX02～06、他に溝状土坑に抜き穴4基
3	坂ノ上遺跡	豊浦郡菊川町大字岡枝	2	室町後半～江戸初頭	集落・墓地	隅丸長方形掘り方SX-101内に2基
4	長門国府跡 (惣社地区)	下関市長府惣社町	2	17世紀後半～18世紀	屋敷地	LX006・009 他に5基可能性あり
5	勝谷丸山古墳群 (第2次発掘調査)	下関市大字勝谷	1	近世か	古墳丘陵に立地	土坑1
6	神正遺跡(A地区)	吉敷郡阿知須町浜表	2	中世後期	集落	SK120・121
7	領家遺跡	吉敷郡阿知須町浜表	1	室町後期	館跡・集落	中国銭貯蔵
8	城山遺跡	山口市大字江崎	4	中世	城跡	
9	小路遺跡	山口市大字黒川	1	15～16世紀	集落	土壇16
10	西遺跡	山口市大字黒川	2	室町	集落・墓地	F地区第1・2号土壇、常滑焼
11	山口大学吉田構内遺跡 (昭和60・62年度)	山口市大字吉田	5	近世	集落	Dトレンチ第4・5土壇(60年度) 第1～3号埋甕(62年度)
12	屋敷遺跡	山口市大字宮野下	2	近世	集落・墓地	SX-3ほか
13	常栄寺	山口市大字宮野下	3	近世	寺院	埋甕1・2・3、他に石垣前面に甕3基
14	釜山遺跡	山口市大字仁保下郷	3	室町	集落	SK6・7・9
15	良君城跡	山口市大字大内矢田	13	近世	集落	SX-27ほか10基が半円形に並ぶ
16	乗福寺・御堀遺跡	山口市大字大内御堀	2	16世紀	寺院	埋甕遺構1・2
17	大内氏館跡 (第13・14次調査)	山口市大字大殿大路	4	近世以降	館跡	1基(第13次) 1～3号埋甕(第14次)
18	大内氏関連町並遺跡 (第1次調査、野村酒場跡)	山口市大字下野小路	1	16世紀～近世	屋敷地	南区出土の野壺(図版38)
19	大内氏関連町並遺跡 (第38次発掘調査)	山口市大字後河原	9	近世	町屋	SX9・12ほか
20	寺内遺跡	山口市大字下小鯖	3	江戸後期	寺院関連	1・2・3埋甕が隣接
21	畠田遺跡	山口市大字下小鯖	1	江戸末期	集落	SX-5
22	東禅寺・黒山遺跡	山口市大字鑄銭司	1	近世	集落	SK-12
23	東禅寺・黒山遺跡 (東大円・上徳田地区)	山口市大字鑄銭司	15	近世	集落	SK1418ほか、他の埋甕抜き穴19基を合わせると34基
24	桐ヶ浴・尾口山遺跡	山口市大字鑄銭司	1	近世	集落	1号土壇、肥料貯蔵用か
25	今宿東遺跡	山口市大字鑄銭司	1	室町中頃	集落	p-23
26	今宿西遺跡	山口市大字鑄銭司	1	室町	集落	p-4、石塊投棄
27	下系根遺跡	山口市大字陶	2	15世紀後半～16世紀	集落	SX2・3、SX3は石塊投棄
28	周防国衙跡	防府市国衙	1	中世	国衙跡	国衙四至北西隅地区築地基壇掘り込み
29	切畑南遺跡	防府市切畑	7	近世	集落	SX01～07、SX05は風呂釜と見られるSX01～03の3基、SX01～03の3基隣接
30	岩淵遺跡	防府市大字台道	3	中世	集落	SK-24・25・52
31	原遺跡	防府市大字台道	2	室町後半	集落・窯跡	SK19、掘り方に瓦質土器甕充填ST1(甕棺)
32	下右田遺跡 (県教委第1・2次調査)	防府市大字下右田	3	中世	集落	P-118・138・146
33	下右田遺跡 (市教委第20次発掘調査)	防府市大字下右田	2	中世	集落	SJ1430・1420 他に祭祀遺構SX1200(埋鍋遺構)
34	萩城跡(外堀地区) (平成9・10・11・12年度)	萩市北片河町・南片河町	63	近世	町屋	他に埋鉢3基

引用文献（文献番号は第5表の遺跡番号に対応する）

- 1 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『高野遺跡（北地区）』 1999年
- 2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『土井ノ内遺跡・鍛冶屋敷遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1995年
- 3 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『坂ノ上遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1987年
- 4 下関市教育委員会 『長門国府跡（長門国府跡周辺遺跡群第14次発掘調査）』 下関市教育委員会 2001年
- 5 下関市教育委員会 『勝谷丸山古墳群（第2次発掘調査）』 下関市教育委員会 2002年
- 6 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター・阿知須町教育委員会 『神正遺跡（A地区）』・『赤迫遺跡（A地区）』 1998年
- 7 阿知須町教育委員会 『領家遺跡』 阿知須町教育委員会 1996年
- 8 山口県文化課調査係 『城山遺跡発掘調査報告』 山口県教育委員会 1973年
- 9 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『小路遺跡』 山口市教育委員会 有限会社力ナヤ地建 1991年
- 10 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『西遺跡』 山口市教育委員会 井森工業株式会社他 1990年
- 11 山口大学埋蔵文化財資料館 『山口大学構内遺跡調査研究年報』 山口大学 1986年  
山口大学埋蔵文化財資料館 『山口大学構内遺跡調査研究年報』 山口大学 1988年
- 12 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『屋敷遺跡』 建設省中国地方建設局山口工事事務所・山口県教育委員会 1990年
- 13 山口市教育委員会文化課 『常栄寺』 宗教法人香山常栄寺・山口市教育委員会 1997年
- 14 財団法人山口県教育財団・山口県埋蔵文化財センター 『釜山遺跡』 財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1993年
- 15 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『良君城跡』 山口県教育委員会 1990年
- 16 山口市教育委員会文化財保護課 『乗福寺跡・御堀遺跡』 山口市教育委員会 2001年
- 17 山口市教育委員会文化財保護課 『大内氏館跡』 2000年
- 18 山口市教育委員会 『大内氏館跡』・『大内氏関連町並遺跡』 1991年
- 19 山口市教育委員会文化財保護課 『山口市埋蔵文化財年報1 平成12(2000)年度』 山口市教育委員会 1999年
- 20 山口市教育委員会文化課 『寺内遺跡』・『七尾山古墳』 山口市教育委員会 1995年
- 21 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『畠田遺跡』 山口県教育委員会 1992年
- 22 財団法人山口県教育財団 『東禅寺・黒山遺跡』 1996年
- 23 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禅寺・黒山遺跡遺跡（東大円・上徳田地区）』 2003年（本報告書）
- 24 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『桐ヶ浴・尾口山遺跡』 地域振興整備公団・山口市教育委員会 1993年
- 25 山口県教育委員会 建設省山口工事事務所 山口県埋蔵文化財センター 『今宿東遺跡』 山口県教育委員会 1986年
- 26 山口県教育委員会文化課 山口県埋蔵文化財センター 『上辻・鑄銭司・今宿西遺跡』 山口県教育委員会・建設省山口工事事務所 1984年
- 27 山口市教育委員会文化財保護課 『下系根遺跡』 株式会社積水ハウス山口工場 山口市教育委員会 2000年
- 28 防府市教育委員会 『周防の国衙』 1967年
- 29 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『切畑南遺跡』 1999年
- 30 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『岩淵遺跡』 2001年
- 31 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『原遺跡』 2001年
- 32 山口県教育委員会文化課 『下右田遺跡第1・2調査概報』 日本道路公団・建設省山口工事事務所 山口県教育委員会 1978年
- 33 防府市教育委員会・周防国府跡調査会 『下右田遺跡第20次発掘調査報告』 2002年
- 34 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『萩城跡（外堀地区）』 2002年

（参考文献）

- 注1 小林善也「山口県の井戸跡についての覚書」（財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『陶墳第14号』 2001年）
- 注2 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『東禅寺・黒山遺跡』 1996、1997、1998、1999、2000年
- 注3 山口県教育委員会 『下右田遺跡第4次調査概報・総括』 1980年
- 注4 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『原遺跡』 2001年
- 注5 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター・阿知須町教育委員会 『赤迫遺跡（C地区）』 2000年
- 注6 防府市教育委員会・周防国府跡調査会 『下右田遺跡第20次発掘調査報告』 2002年
- 注7 防府市教育委員会 『佐野焼17窯（宮窯）発掘調査報告 遺構・遺物編』 1999年
- 注8 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 注9 山口市教育委員会 山口市文化財センター 『八ヶ坪遺跡』 1992年
- 注10 山口市教育委員会文化財保護課 『下系根遺跡』 2000年
- 注11 山口市教育委員会 『周防鑄銭司跡』 1978年
- 注12 注2に同じ
- 注13 山口市教育委員会 『上嘉川遺跡』 1993年
- 注14 注11に同じ
- 注15 財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター 『切畑南遺跡』 1999年
- 注16 高橋照彦 「防長産緑釉陶器の基礎的研究」（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第50集』 1993年）
- 注17 荻野繁春 「壺・甕はどのように利用されてきたか」（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』 1992年）
- 注18 菅原正明 「甕倉出現の意義 中世経済の一側面」（国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』 1992年）
- 注19 山口市教育委員会 『山口市内遺跡詳細分布調査 鑄銭司地区』 2000年

## 付篇 東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析

### 1 はじめに

本報告は、財団法人山口県埋蔵文化財センターからの依頼により応用地質株式会社が実施した「東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析」について取りまとめたものである。

本業務では、東禅寺・黒山遺跡から出土した埋蔵の用途を推定するための土壌化学分析および出土した木材や種実、葉、不明有機物の同定により当時の古植生を推定することを目的とした分析を実施した。

(1) 調査件名：東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)出土の植物遺体同定および土壌化学分析

(2) 調査地：山口県山口市大字鑄銭司字東大円・上徳田

(3) 調査目的：東禅寺・黒山遺跡から出土した埋蔵の用途および当時の古環境・古植生を推定するために必要な基礎資料を得ること。

(4) 調査内容：土壌化学分析 3 試料  
樹種同定 9 試料(同定点数38点)  
種実同定 3 試料(同定点数37点)  
葉同定 2 試料  
不明有機物同定 1 試料

(5) 担当者：小林 恵(応用地質株式会社技術本部技術センター歴史環境グループ)

### 2 分析試料

#### 2-1 植物遺体

##### (1) 木材

試料は土坑や井戸から出土した木材9試料(試料4~7、9、12~15)である。このうち複数の木片が認められた、試料6から5点(試料6-1~6-5)、試料9から4点(試料9-1~9-4)、試料12から8点(試料12-1~12-8)、試料13から14点(試料13-1~13-14)、試料14から3点(試料14-1~14-3)を抽出した。合計点数は38点である。これらの木材のうち、試料5が加工木板、試料14が加工木片とされ、他は木片、樹皮、葉(?)である。これらの試料について樹種同定を実施した。

##### (2) 種実遺体

試料は1B地区から出土した種実遺体3試料(試料8、10、11)であり、合計点数は37点である。これらの試料について種実遺体同定を実施した。

##### (3) 葉

試料は1B地区から出土した葉遺体3試料(試料3、4、8)3点である。このうち試料4については、葉ではなくタケの稈と考えられたことから木材試料に含め樹種同定を実施し、それ以外の2試料は葉の同定を実施した。

##### (4) 不明有機物

S K 1506から出土した白色の有機物で、土塊中に薄い層状に認められる。一部を採取して試料とし、

光学顕微鏡および落射蛍光顕微鏡による観察をおこなった。

## 2-2 埋嚢内土壌

試料はS K 1492およびS K 1442から採取された土壌2点(試料1、2)と、対照試料としてオーガーボーリングでGL-50cmから採取された土壌1点(試料17)の合計3点である。これらの試料について土壌化学分析を実施した。なお、埋嚢の用途として埋葬用、便所の可能性の有無を把握する目的で、リン酸、カルシウム、腐植の含量測定をおこなった。

各試料の詳細は表2-1に示す。なお、試料番号は山口県蔵文化財センターによる識別番号に従った。

表2-1 分析試料一覧

試料番号	出土地区	遺構名	内容物	数量	分析方法
試料1	1 B地区	SK1492(埋嚢)	土壌	1	土壌化学分析
試料2	1 B地区	SK1442(埋嚢)	土壌	1	土壌化学分析
試料3	1 B地区	SK1506	葉	1	葉同定
試料4	1 B地区	SK1506	葉?	1	樹種同定
試料5	1 B地区	SK1506	加工木板	1	樹種同定
試料6	1 B地区	SE1403(井戸)	木片	5	樹種同定
試料7	1 B地区	SE1403(井戸)	木杭	1	樹種同定
試料8	1 B地区	SE1403(井戸)	種子	3	種実同定
			葉	1	葉同定
試料9	1 B地区	SE1403(井戸)	木片	4	樹種同定
試料10	1 B地区	南側遺物包含層	種子	29	種実同定
試料11	1 B地区	南側遺物包含層	種子	5	種実同定
試料12	1 B地区	南側遺物包含層	樹皮	8	樹種同定
試料13	1 B地区	南側遺物包含層	樹枝	14	樹種同定
試料14	1 B地区	南側遺物包含層	加工木片	3	樹種同定
試料15	2 C地区	南側遺物包含層	樹皮	1	樹種同定
試料16	1 B地区	SK1506	不明有機体	1	有機体同定
試料17	1 B地区	オーガーボーリング GL-50cm	土壌	1	土壌化学分析

## 3 分析方法

### 3-1 植物遺体

#### (1) 樹種同定

剃刀の刃を用いて横断面(木口)・放射断面(柁目)・接線断面(板目)の3断面(図3-1参照)について切片を作製し、ガムクロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートを生物顕微鏡<sup>1</sup> E600(株ニコン製)で観察し、その形態的特徴および現生標本との比較から種類を同定する。



図3-1 木材の基本的3断面

#### (2) 種実遺体・葉同定

試料を双眼実体顕微鏡<sup>2</sup> Stemi2000-C(カールツァイス株製)で観察し、その形態的特徴および現生標本との比較から種類を同定・計数する。

同定・計数後の植物遺体は種類毎にビンに入れ、50%エタノール溶液による液浸保存を施した。

また、試料3については、葉ではなくシダと考えられたことから、横断面の切片を作成し、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製した。プレパラートを生物顕微鏡<sup>1</sup> E600(株ニコン製)で観察した。

#### (3) 不明有機物の観察

採取した白色の有機物をスライドガラス上で薄く伸ばし、ガムクロラルで封入してプレパラートとした。プレパラートを生物顕微鏡<sup>1</sup> E600(株ニコン製)および落射蛍光顕微鏡<sup>3</sup> Y-FL(BV-2Aフィルター使用、株ニコン製)で観察した。

## 3-2 土壌化学分析

### (1) リン酸・カルシウム含量

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105<sup>ふるい</sup>、5時間)により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO<sub>3</sub>)約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO<sub>4</sub>)約10mlを加えて再び加熱分解をおこなう。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計<sup>4</sup> UV-1200(株島津製作所製)によりリン酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計<sup>5</sup> AA-6400F(株島津製作所製)によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g)とカルシウム含量(CaOmg/g)を求める。

### (2) 腐植含量

風乾細土試料の水分を加熱減量法(105、5時間)により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmの篩を全通させる(微粉碎試料)。微粉碎試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを加え、約200の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

## 4 分析結果

### 4-1 植物遺体同定

#### (1) 樹種同定

樹種同定結果を表4-1に示す。木材は、針葉樹2種類(マツ属複維管束亜属・スギ)、広葉樹7種類(コナラ属アカガシ亜属・ヤブツバキ・サザンカ近似種・サカキ・カキノキ・ガマズミ属・キリ)とイネ科タケ亜科に同定された。なお、師部組織のみで木部組織が認められない場合、組織の特徴から樹種を同定することは困難であるため、樹皮と記載した。同定できた各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。なお木材の主な組織構造について、針葉樹材の構造模式図を図4-1に示す。

・マツ属複維管束亜属(Pinus subgen. Diploxylon)  
マツ科

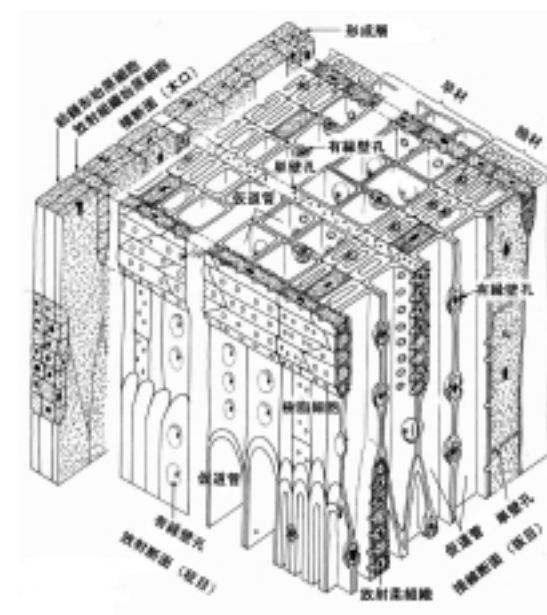


図4-1 針葉樹材構造模式図

軸方向組織は仮道管と樹脂道で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管、柔細胞、樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。放射柔細胞の分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・スギ (Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don) **スギ科スギ属**

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis) **ブナ科**

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・ヤブツバキ (Camellia japonica L.) **ツバキ科ツバキ属**

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性～型、1～2細胞幅、1～20細胞高で、時に上下に連結する。

・サザンカ近似種 (Camellia cf. sasanqua Thunb.) **ツバキ科ツバキ属**

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、段の数は10～30、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性～型、1～3細胞幅、1～20細胞高であるが時に上下に連結する。

ヤブツバキとした試料と比較すると、道管径の変化がほとんどなく、結晶細胞も少ない。現生標本との比較では、ヤブツバキ中には同様の組織が見られなかったが、サザンカには似た組織を有する個体が認められた。そのため、サザンカ近似種とした。

表4-1 樹種同定結果

番号	出土地区	遺構名	内容物	点数	枝番号	樹種
試料4	1 B地区	SK1506	葉?	1	-	イネ科タケ亜科
試料5	1 B地区	SK1506	加工木板	1	-	キリ
試料6	1 B地区	SE1403 (井戸)	木片	5	- 1	カキノキ
					- 2	カキノキ
					- 3	コナラ属アカガシ亜属
					- 4	カキノキ
					- 5	コナラ属アカガシ亜属
試料7	1 B地区	SE1403 (井戸)	木杭	1	-	マツ属複雑管束亜属
試料9	1 B地区	SE1403 (井戸)	木片	4	- 1	スギ
					- 2	イネ科タケ亜科
					- 3	スギ
					- 4	スギ
試料12	1 B地区	南側遺物包含層	樹皮	8	- 1	マツ属複雑管束亜属
					- 2	マツ属複雑管束亜属
					- 3	樹皮
					- 4	マツ属複雑管束亜属
					- 5	マツ属複雑管束亜属
					- 6	樹皮
					- 7	マツ属複雑管束亜属
					- 8	樹皮
試料13	1 B地区	南側遺物包含層	樹枝	14	- 1	マツ属複雑管束亜属
					- 2	カキノキ
					- 3	ヤブツバキ
					- 4	ガマズミ属
					- 5	コナラ属アカガシ亜属
					- 6	カキノキ
					- 7	ヤブツバキ
					- 8	マツ属複雑管束亜属
					- 9	ヤブツバキ
					- 10	マツ属複雑管束亜属
					- 11	カキノキ
					- 12	カキノキ
					- 13	カキノキ
					- 14	サザンカ近似種
試料14	1 B地区	南側遺物包含層	加工木片	3	- 1	サカキ
					- 2	サカキ
					- 3	サカキ
試料15	2 C地区	南側遺物包含層	樹皮	1	-	樹皮

・サカキ (Cleyera japonica Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) **ツバキ科サカキ属**

散孔材で、小径の道管が単独または2～3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・カキノキ (Diospyros kaki Thunb.) **カキノキ科カキノキ属**

散孔材で管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2～4個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で対列状に配列する。放射組織は異性型、1～2(3)細胞幅、10～20細胞高で階層状に配列する。

・ガマズミ (Viburnum) **スイカズラ科**

散孔材で、道管は単独または2個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は異性型、1～4細胞幅、1～40細胞高で、希に単列部が長くのびる。

・キリ (Paulownia tomentosa) **ゴマノハグサ科キリ属**

環孔材であるが、孔圏部はやや不明瞭、孔圏外で管径を漸減させる。横断面では角張った円形～楕円形、単独または2～3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～4細胞幅、1～20細胞高。柔組織は翼状～連合翼状となる。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

試料は円柱状で、中空となる。横断面では維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。

(2) 種実遺体・葉同定

種実・葉同定結果を表4-2に示す。裸子植物1種類、被子植物4種類の種実や葉のほか、種類の特定には至らなかったシダ植物が同定された。種実・葉は、常緑針葉樹1種類(マツ属複雑管束亜属)、常緑広葉樹3種類(ウバメガシ、イチイガシ、ツバキ)、落葉広葉樹1種類(モモ)と全て木本類で、草本類を含まない。以下に、同定された種実・葉遺体の形態的特徴などを記す。

・マツ属複雑管束亜属 (Pinus subgen. Diploxylon) **マツ科**

球果が同定された。黒褐色、木質で円錐状広卵形体。長さ30mm～60mm、径20～35mm程度。長楕円状で矩形の種鱗が、覆瓦状、螺旋状に密着する。種鱗の外部露出部分は、不規則な四角形または五角形で肥厚し、横の稜線とその中央部に短く突起する臍点が見られる。

・ウバメガシ (Quercus phillyraeoides Asa Gray) **ブナ科コナラ属**

果実が同定された。黒褐色、卵形体。長さ20mm、径10mm程度。果実頂部はやや尖り、輪状紋は認められない。基部は突出し、着点は円形、灰褐色で、維管束の穴が輪状に並ぶ。径3-4mm程度と非常に小さい。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。

表4-2 種実・葉同定結果

試料番号	出土地区	遺構名	内容物	種類名	部位	状態	個数
試料3	1 B地区	SK1506	葉	シダ植物	茎・葉身		1
試料8	1 B地区	SE1403 (井戸)	種実 葉	ウバメガシ	果実		3
				イチイガシ	葉		1
試料10	1 B地区	南側遺物包含層	種実	モモ	核(内果皮)	完形 半分	7 1
				ツバキ	果実 種子		4 17
試料11	1 B地区	南側遺物包含層	種実	マツ属複雑管束亜属	球果		5

#### ・イチイガシ (Quercus gilva Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

葉片が同定された。茶褐色、楕円形、先端は鉤状尖鋭形、基部は鈍形で葉柄がある。長さ65mm、幅30mm、葉柄10mm程度。革質、上半部に鋭鋸歯がある。側脈は10本、平行で非常に明瞭、裏面では著しく隆起する。

#### ・ツバキ (Camellia japonica L.) ツバキ科ツバキ属

果実と種子が同定された。果実は球形、径20 - 35mm程度。朔果で3室からなり、種子がみられる個体もある。果皮は厚く木質で、表面は鮫肌状でざらつく。種子は球形、半球形、卵体形など不定形。鈍稜のある個体が多い。基部には臍がある。種皮は硬く、表面は平滑。

#### ・モモ (Prunus persica Batsch)バラ科サクラ属

核(内果皮)が、完形、破片の状態で検出された。灰褐色ないし黒褐色、広楕円形でやや偏平。基部は丸く大きな臍点があり、先端部はやや尖る。長さ30~35mm、幅20mm、厚さ12mm程度。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られ、縫合線に沿って半分に分れている個体もみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状のくぼみがあり、全体として粗いしわ状に見える。内側表面は平滑で、仁(種子)が入る楕円状の窪みがある。

#### ・シダ植物

葉身および茎のみで、葉は残存していない。茎は二又に分岐し、葉身は羽状分岐し、葉は羽状複葉となる。茎の横断面組織は、原生中心柱に似るが、木部が馬蹄形を呈する。

現生シダ植物の茎の横断面組織に関する情報が少なく、種類の同定には至らなかった。

### (3) 不明有機物

試料は肉眼で白色を呈し、触ると粘り気がある。プレパラート観察では、微細な菌糸の集合体に同定された。菌糸を有するものとしては、シダ類、キノコ類、コケ類等があるが、菌糸のみでは種類の同定は困難である。

#### 4 - 2 埋嚢内土壌の化学分析

分析結果を表4 - 3に示す。腐植含量は、対照試料(試料17)の0.21%に対し、試料1が0.40%、試料2が0.74%でやや高いが、腐植含量としては非常に低い値である。カルシウム含量は、対照試料の1.13mg/gに対し、試料1が2.20mg/gで約2倍の値となっているが、試料2では1.49mg/gでやや高い程度である。リン酸含量は、対照試料の0.23mg/gに対し、試料1で2.97mg/g、試料2で2.83mg/gであり、いずれも対照試料の10倍強の値となっている。

## 5 考 察

### 5 - 1 木材利用

表4 - 3 土壌化学分析結果

試料番号	出土地区	遺 構 名	内容物	土 性	土 色	腐植含量(%)	P2O5(mg/g)	CaQ(mg/g)
試料1	1 B地区	SK1492(埋嚢)	土壌	SCL	10YR4/4 褐	0.40	2.97	2.20
試料2	1 B地区	SK1442(埋嚢)	土壌	SCL	2.5Y4/4 オリーブ褐	0.74	2.83	1.49
試料17	1 B地区	オーガーボーリング GL-50cm	土壌	LiC	10YR5/6 黄褐	0.21	0.23	1.13

1) 土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修、1967)による。

2) 土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編、1984)の野外土性による。

SCL・・・砂質壤土(粘土15~25%、シルト0~20%、砂5~85%)

LiC・・・軽壤土(粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%)

樹種同定をおこなった木材のうち、明らかな加工材は試料5の加工木板1点と試料14の加工木片3点の合計4点である。

試料5の加工木板の樹種は広葉樹のキリであった。キリは軽軟な材質で、耐火性等に優れており、板状の加工を施す製品として箆笥等がよく知られている。キリの出土木材はこれまで下駄に多く利用され、他に用途不明炭化物等の例がある(バリノ・サーヴェイ株式会社、1992、1995、2001; 能城、1992; 辻本、1993)。しかし、全体的にみれば出土木材として認められた例が少なく、現時点では過去におけるキリ材の利用状況は不明といった方がよく、今後の資料蓄積が課題である。

試料14の加工木片は3点とも広葉樹のサカキであった。サカキは比較的強度が高い材質で、中国・四国地方の中近世では下駄、挽物、燃料材等に利用された例がある(山田、1993)。

現段階において、当遺跡周辺での中近世の木材利用に関する調査例が少なく、キリ、サカキを含めた木材利用の詳細は明らかではない。

### 5 - 2 古植生および植物利用

種実遺体のうち、モモは中国から渡来した栽培種であり、観賞用のほか、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。今回の結果から、モモが集落内で食されたことが推定され、本遺跡周辺でモモが栽培されていた可能性もある。また、木材で認められた試料のうち、カキノキは果実を食用とする栽培種であり、集落内で栽培されていた可能性がある。

その他の試料では、針葉樹の複維管束亜属(ニヨウマツ類)の球果および木材、スギの木材、イチイガシの葉、ウバメガシの果実、ツバキ(ヤブツバキ)の木材および種実、ガマズミ属の木材、シダ植物、タケ亜科等が認められた。これらの樹種には暖温帯の海岸近くに生育するものが多く含まれ、本遺跡の立地を考慮すれば、遺跡周辺に生育していたことが推定される。これらの樹種のうち、ツバキの花は鑑賞用として、室町時代から多くの園芸品種が作られている。また、種子は油採可能で頭髮用、燈用、食用などに利用される。そのため、栽培種の可能性もある。また、イチイガシは、その果実をアク抜きせずに食用可能で収量も多いため、果実を食用として利用した可能性がある。

シダ植物は種類不明であるが、同様の断面組織を有する試料をこれまでに西日本で2例認めている(未公表資料)。いずれも常緑広葉樹と共に出土していることから、暖温帯常緑広葉樹林内の流路近くによく見られる種類と考えられ、当遺跡周辺にも生育していたと推定される。

### 5 - 3 埋嚢の用途

分析試料の各含量をみると、腐植、リン酸、カルシウムのいずれも埋嚢試料で対照試料より高い値が認められる。しかし、腐植含量とカルシウム含量については、大きな差異は認められない。腐植含量では対照試料も含めて非常に低い値であり、土性や土色の状況も考慮すれば腐植はほとんど含まれていない可能性が高い。またカルシウム含量では、土壌中の天然賦存量が1~50mg/gとの報告があり、変動幅が大きい(藤貫、1979)。今回の結果は1.48~2.20mg/gでその範囲内であり、明らかな富化は指摘できない。

リン酸含量では対照試料の値(0.23mg/g)に対して2遺構とも10倍強の値(2.83mg/g、2.97mg/g)が得られており、ある程度の富化が認められる。ただし、リン酸の天然賦存量(耕作土も含む)は、これまでの調査例(Bolt・Bruggenwert、1980; Bowen、1983; 川崎ほか、1991; 天野ほか、1991)か



ら上限が3.0mg/ g 程度と考えられており、今回の分析値は天然賦存量の範囲内で、著しく高いとはいえない。しかも、埋葬用や便所に利用されている場合には、リン酸含量とともに腐食含量やカルシウム含量も多くなると考えられることから、今回の化学分析結果を総合すると、埋嚢が埋葬用あるいは便所に利用された可能性は低い。

ただし、埋嚢にひびが入っていると、土壌中に含まれるリン酸などが雨水と一緒に流出してしまうことがあるため、このような状況であった場合には、埋嚢外側の土壌の化学分析を実施する必要がある。また、今後さらに多くの嚢内土壌について成分分析をおこない、嚢による成分の差異があるか否か確認するとともに、嚢内面に有機物等の付着が認められれば、その有機物の成分分析による検討なども実施することにより、埋嚢の用途についてより有効な情報が得られるものと考えられる。

## 注釈

### \*1 生物顕微鏡

単眼（片目）でのぞくタイプで、上下が逆になった倒立像（とうりつぞう）で捉えられる。小中学校で生徒に実習させる顕微鏡の多くがこのタイプで、動植物の細胞（さいぼう）や微生物（びせいぶつ）の観察に使用する。

### \*2 双眼実体顕微鏡

双眼（両目）でのぞくタイプで、立体感のある観察ができる。実体というのは上下左右が正常な方向に見えるということである。生物の観察や解剖、精密機械の組み立てなどに使用する。

### \*3 落射蛍光顕微鏡

ある特定の色の光（特定の波長の光）が当たると、その光の波長より長い波長の光を出す色素がある。このような蛍光色素を顕微鏡標本の染色に応用し観察する方法が蛍光顕微鏡法である。蛍光色素を光らせるための光（励起光）を照射する光学系とそれにより発生した蛍光（蛍光放射光）を観察する光学顕微鏡を組み合わせたもので、観察用の対物レンズを兼用して励起光を照射するタイプの蛍光顕微鏡を落射蛍光顕微鏡と呼び、試料の観察する側の面に励起光が直接照射され像が明るくシャープであるなどの理由で一般的に広く使われている。

### \*4 分光光度計

分光光度計（UV-1200）の仕様は以下の通りである。

測定波長範囲	200～1100nm
スペクトルバンド幅（分解）	5±0.5nm
波長表示（波長設定）	0.1nm単位
波長の正確さ	±1.0nm（自動波長校正機能内蔵）
波長設定繰り返し精度	±0.3nm
光源切替え	波長連動自動切替え
測光方式	モニターダブルビーム
測光レンジ	吸光度：-0.3～3Abs 透過率：0～200%T
光源	20Wハロゲンランプ、重水素ランプ、最大感度自動調整機能内蔵
分光器	収差補正形凹面ホログラフィックグレーティング使用
検出器	シリコンフォトダイオード
LCD	バックライト付（320×200ドット）
試料室	試料室内寸法：幅110×奥行230×高さ105mm 仕様セル最大光路長：100mm ワンタッチ着脱可能カートリッジタイプ コンピュータ制御6連装マルチセルホルダ内蔵
所要電源	AC100、115、220、240V切替えスイッチ内蔵
大きさ・重量	幅420×奥行297×高さ160mm、11kg

### \*5 原子吸光光度計

原子吸光光度計（AA-6400F）の仕様は以下の通りである。

分光光度計	測定波長範囲	190～900nm
	測定方式	高速自己反転測光方式（自己反転法によるバックグラウンド補正） 高速2周波数同時測光方式（重水素ランプによるバックグラウンド補正）
	HCランプ	点灯方式：2レベル点灯（低；0～60mA、高；0～600mA） 点灯周波数：自己反転法；100Hz、重水素ランプ；500Hz
	分光器	マカニング：収差補正形ツェルニターナ・マウント バンド幅：0.1、0.2、0.5、1.0、2.0、5.0nm（6段自動切替え） 波長設定：スリット連動自動設定
	検出器	光電子増倍管 R787-04
	所要電源	AC100、120、220、240V切替え器内蔵
制御部	大きさ・重量	幅1080×奥行545×高さ470mm、100kg（ガス制御部含む）
	バーナ部	形式：空冷プレミックス形、10cmスロット バーナヘッド：ステンレス ネブラウザ：Pt-Irキャピラリ、テフロン製オリフィス
	ガス制御部	圧力流量制御による自動流量設定
	ディスプレイ	高分解14インチカラーCRT（640ドット×400本）
データ処理	繰返し測定：最大10回 ベースライン補正、分析感度ドリフト補正、実試料濃度計算機能付き記録計：サーマルドットグラフィックプリンタ	

## 引用文献（引用順に記載）

島地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織．175p．地球社．

ベドロジスト懇談会編（1984）土壌調査ハンドブック．156p．博友社．

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖．

天野洋司・太田健・草場敬・中井信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36, 農林水産省農林水産技術会議事務局．

Bowen,H.J.M.（1983）環境無機化学 - 元素の循環と生化学 - . 浅見輝男・茅野充男訳, 297p. , 博友社 [ Bowen,H.J.M.（1979）Environmental Chemistry of Elements ].

Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M.（1980）土壌の化学．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳,309p. , 学会出版センター - [ Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.（1976）SOIL CHEMISTRY ].

川崎弘・吉田澗・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.23-27, 農林水産省農林水産技術会議事務局．

能城修一（1992）新宿区細工町遺跡から出土した木製品の樹種．「東京都新宿区 細工町遺跡 -（仮称）新宿区立細工町高齢者在宅サービスセンター建設に伴う緊急発掘調査報告書」, p.174-187, 新宿区厚生部遺跡調査会．

辻本崇夫（1993）科学的な分析の結果について．「巢鴨町 東京都豊島区・巢鴨遺跡（区立つつじ苑地区）の発掘調査」, p.178-190, 豊島区教育委員会．

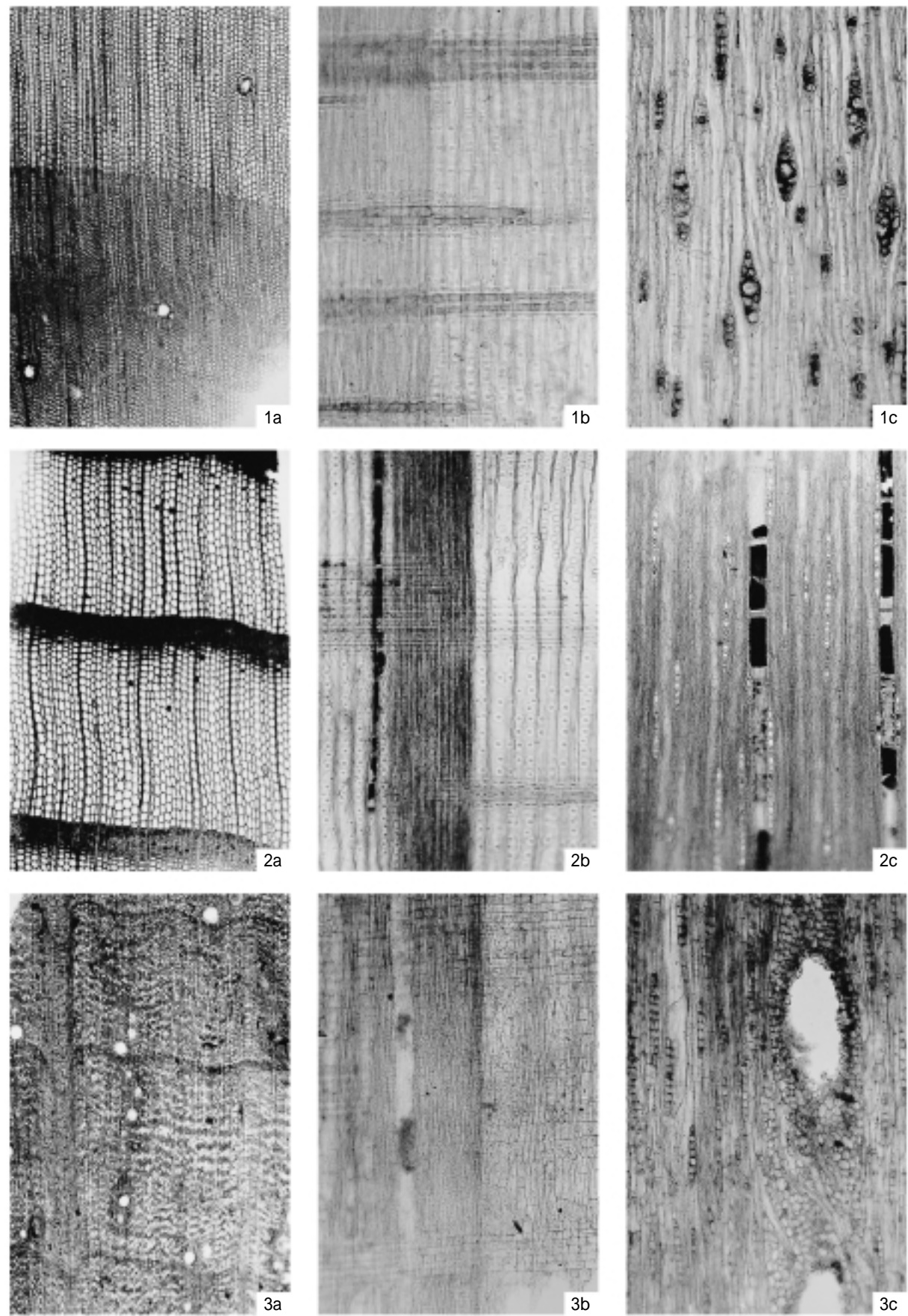
パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）岩倉城遺跡から出土した木製品の樹種．「愛知県埋蔵文化財センター - 調査報告第38集 岩倉城遺跡」, p.119-123, 財団法人愛知県埋蔵文化財センター．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1995）木製品の用材と製作技法．「東京都渋谷区 千駄ヶ谷五丁目遺跡 - 新宿新南口RCビル（高島屋タイムズスクエアほか）の建設事業に伴う緊急発掘調査報告書 - 本文編（第 分冊）」, p.326-366, 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1997）草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種．「草戸千軒町遺跡調査 研究報告5 草戸千軒町遺跡出土の下駄2」, p.15-34, 広島県立歴史博物館．

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 - 用材から見た人間・植物関係史．植生史研究，特別第1号，242p. , 植生史研究会．

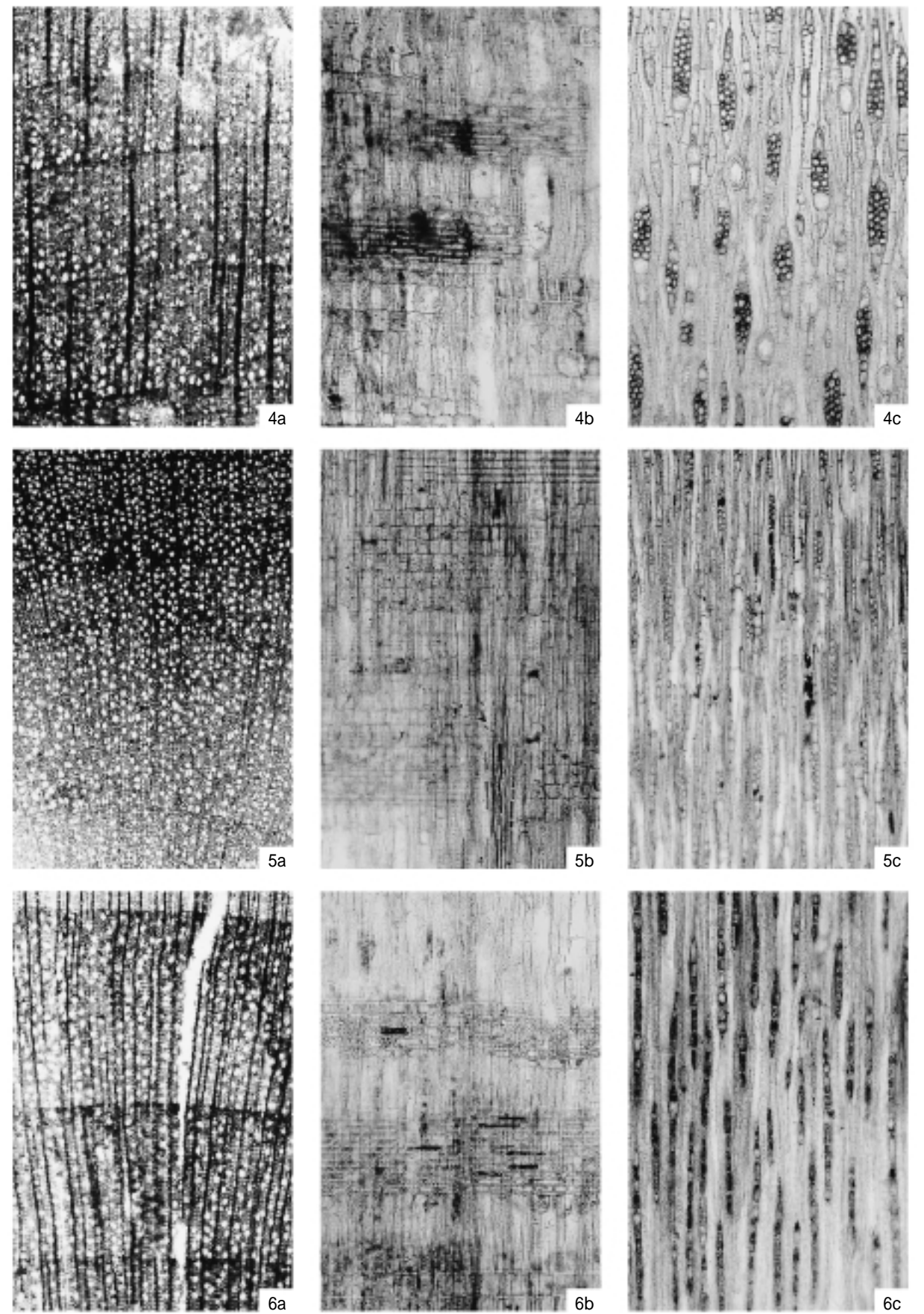
図版1 木材(1)



1. マツ属複維管束亜属 (試料7)  
 2. スギ (試料9 - 1)  
 3. コナラ属アカガシ亜属 (試料6 - 5)  
 a: 木口、b: 柱目、c: 板目

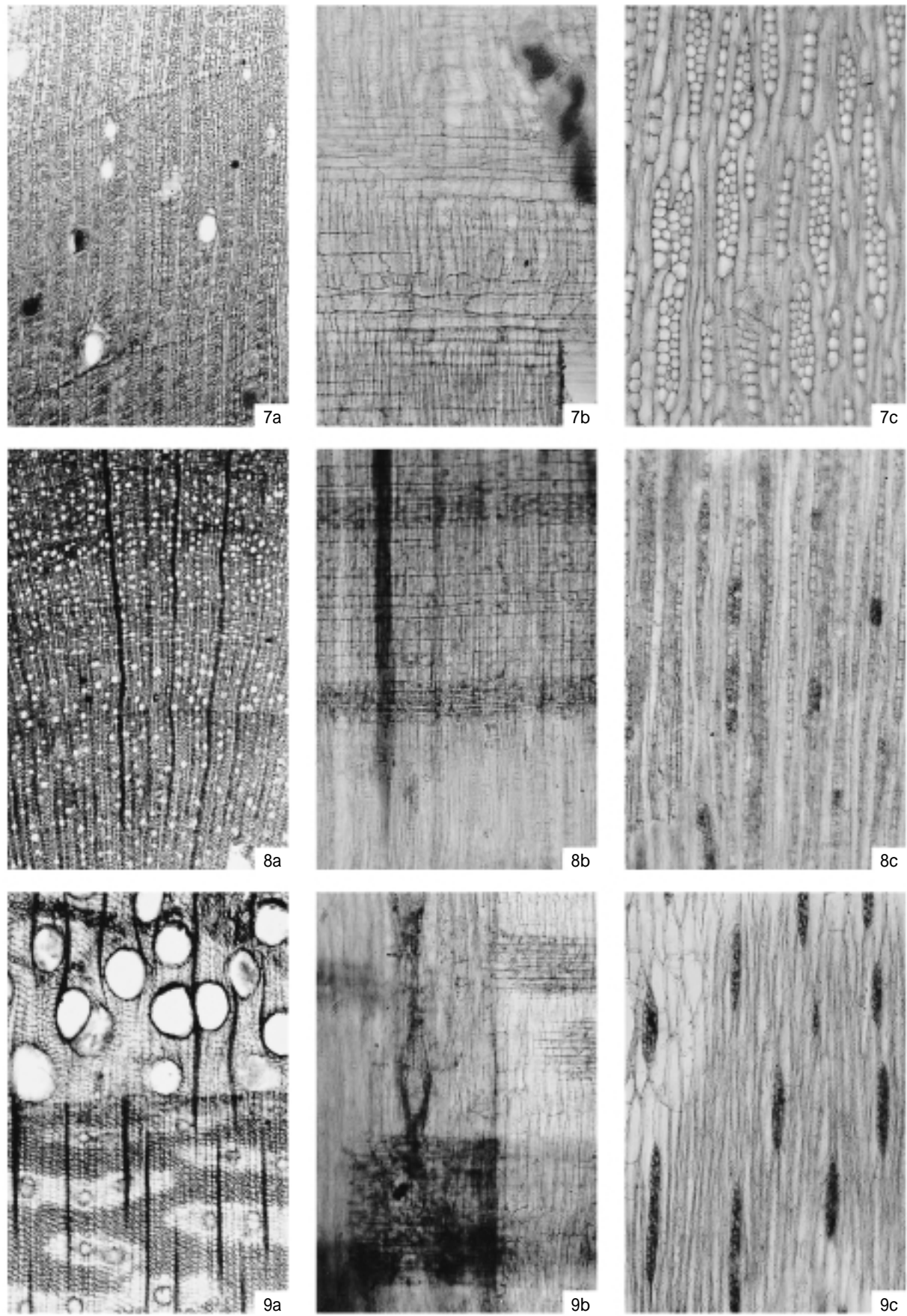
200 μ m: a  
 200 μ m: b, c

図版2 木材(2)



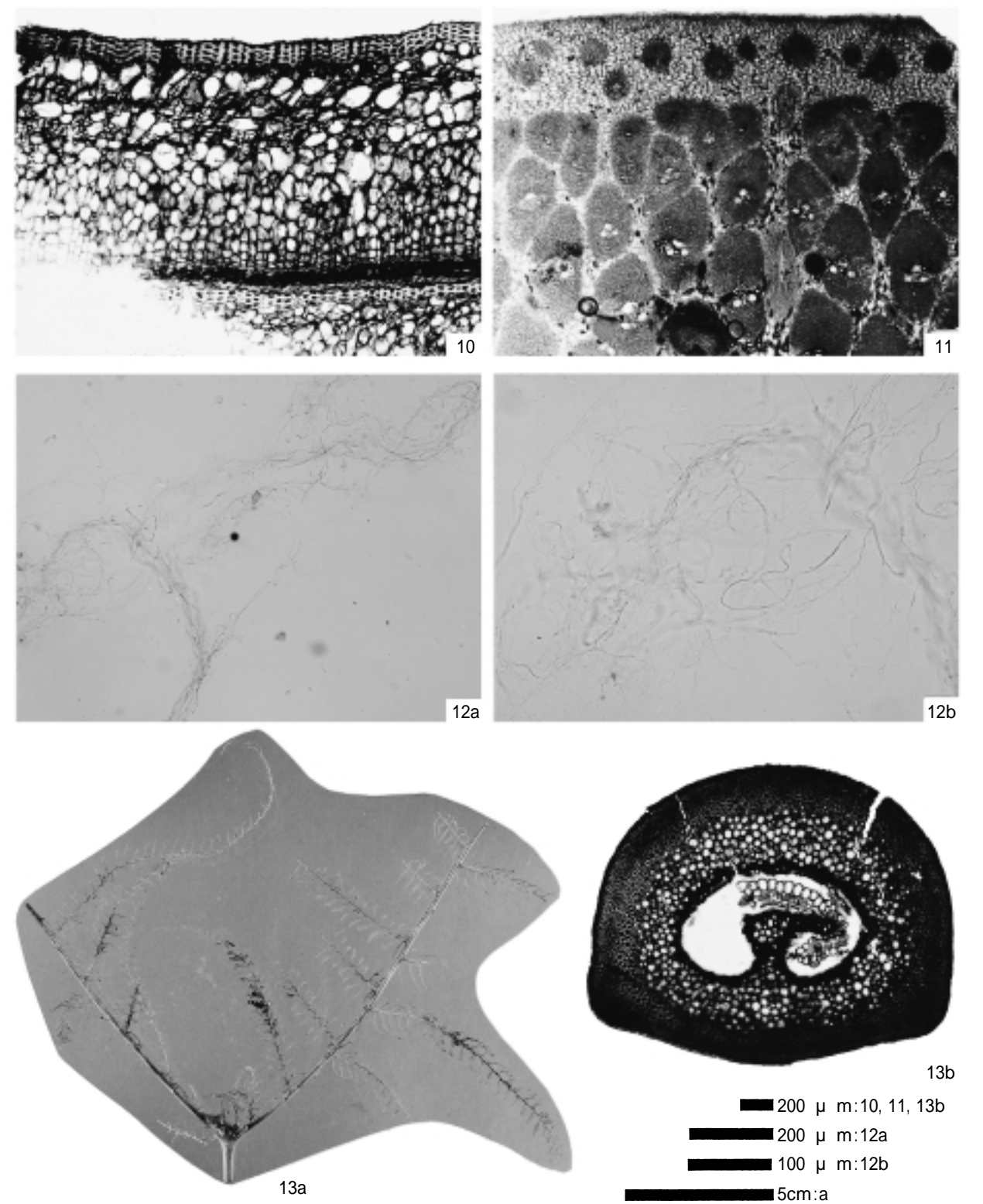
4. ヤブツバキ (試料13 - 3)  
 5. サザンカ近似種 (試料13 - 14)  
 6. サカキ (試料14 - 2)  
 a: 木口、b: 柱目、c: 板目

200 μ m: a  
 200 μ m: b, c



7. カキノキ(試料6-4)  
 8. ガマズミ属(試料13-4)  
 9. キリ(試料5)  
 a: 木口、b: 柱目、c: 板目

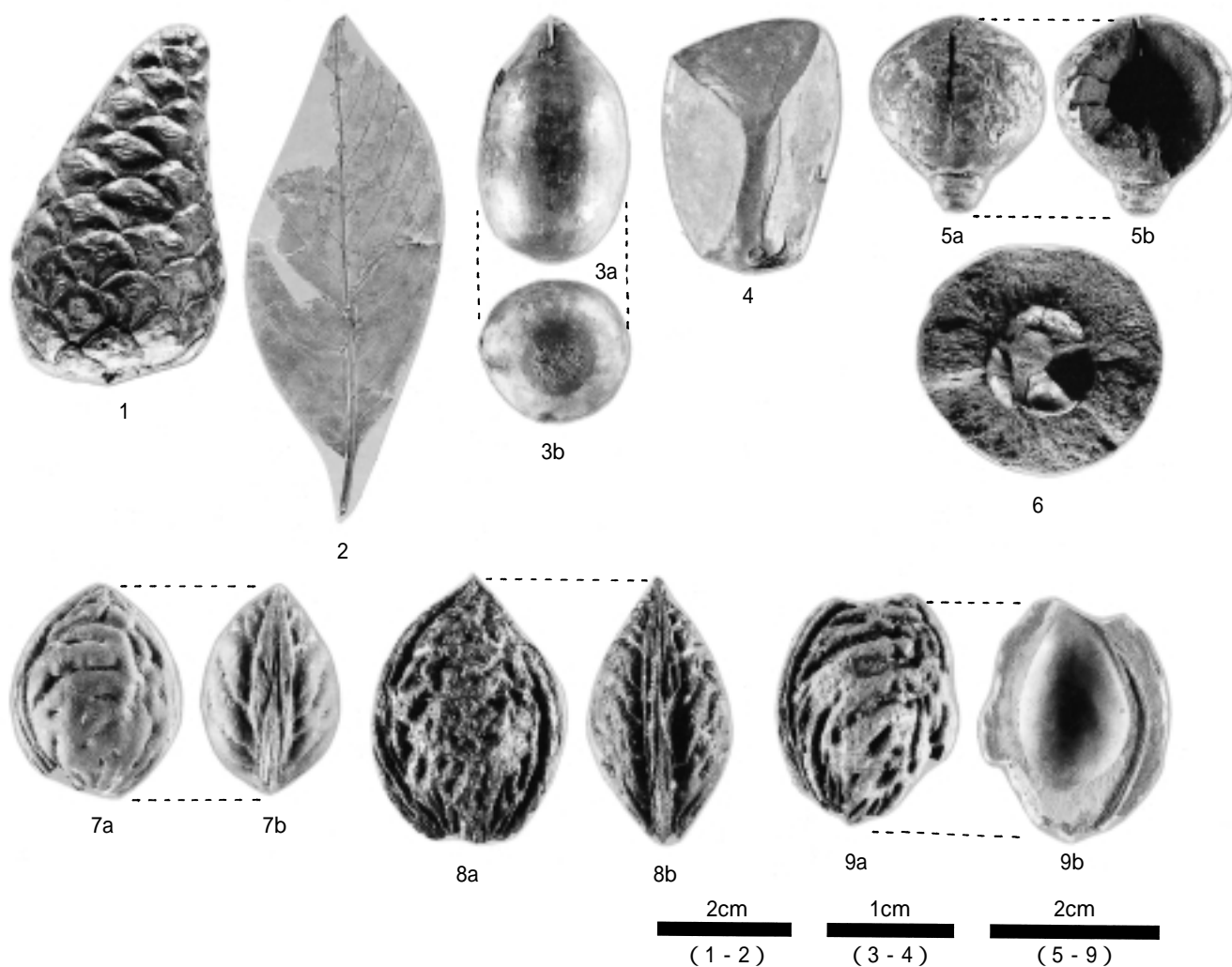
200 μ m: a  
 200 μ m: b, c



10. 樹皮(試料12-8)  
 11. イネ科タケ虫科(試料4) 横断面  
 12. 菌糸(試料16)  
 13. シダ類(試料3) a: 全景、b: 横断面

200 μ m: 10, 11, 13b  
 200 μ m: 12a  
 100 μ m: 12b  
 5cm: a

図版5 種実・葉遺体



- 1. マツ属複維管束亜属 球果 (試料11)
- 3. ウバメガシ 果実 (試料8)
- 7. モモ 核 (試料10)
- 9. モモ 核 (試料10)

- 2. イチイガシ 葉 (試料8)
- 4. ツバキ 種子 (試料10)
- 6. ツバキ 果実
- 8. モモ 核 (試料10)

# 圖 版



1 調査区遠景（南から）



2 調査区遠景（南から）



1 調査区全景



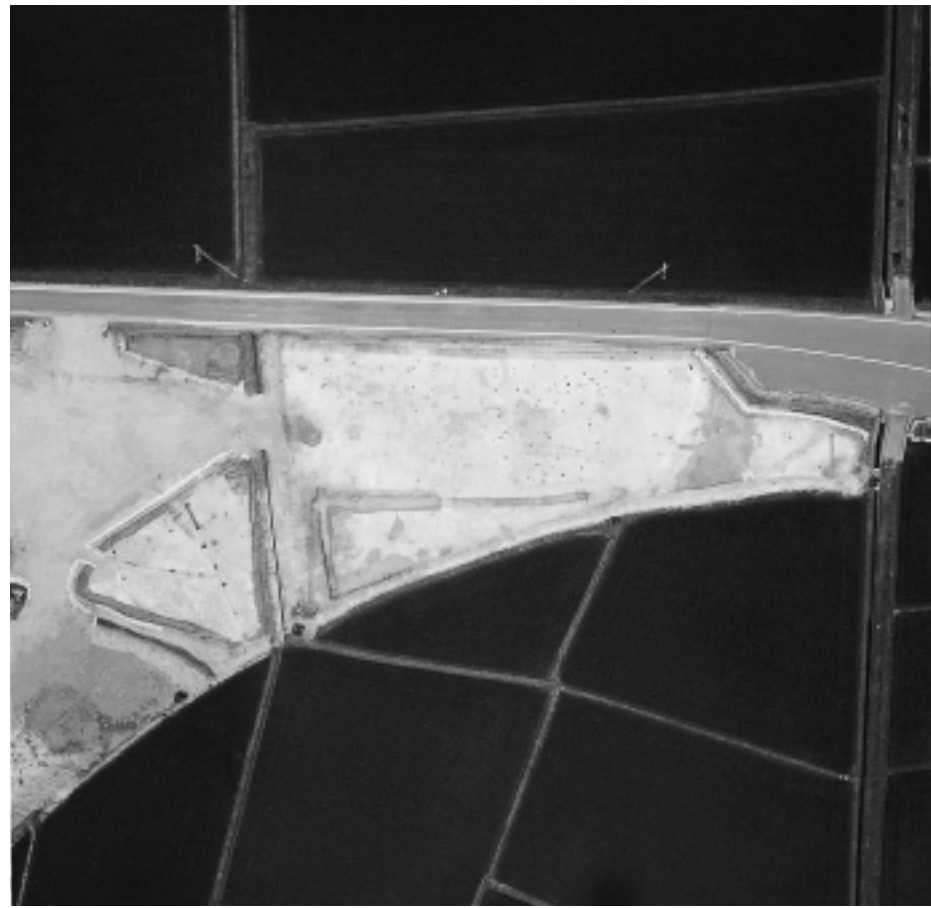
2 1地区全景



1 1A地区遺構群



2 1B地区遺構群



1 2地区全景



2 2C地区遺構群



1 A地区掘立柱建物跡群

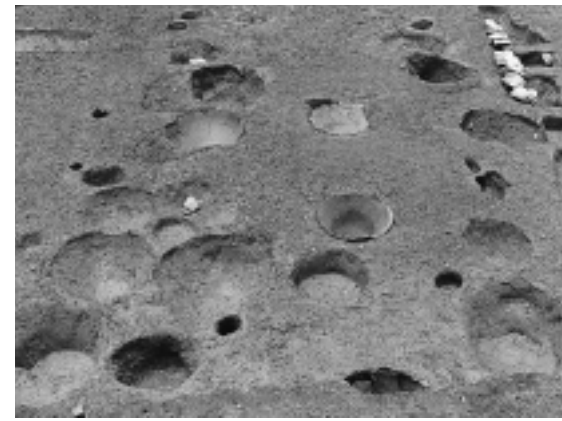




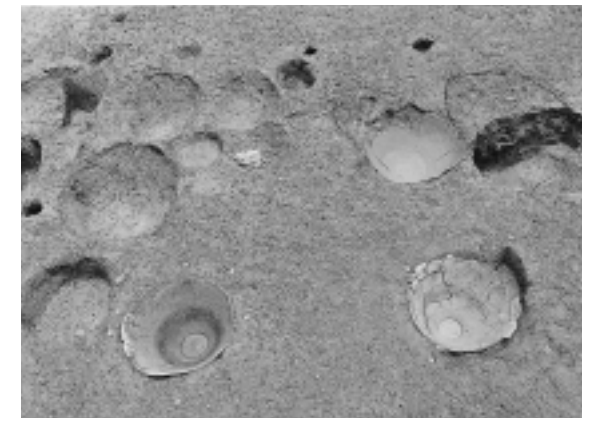
1 2C地区掘立柱建物跡群 (SB20、21、22)(北から)



2 SB20完掘状況 (北から)



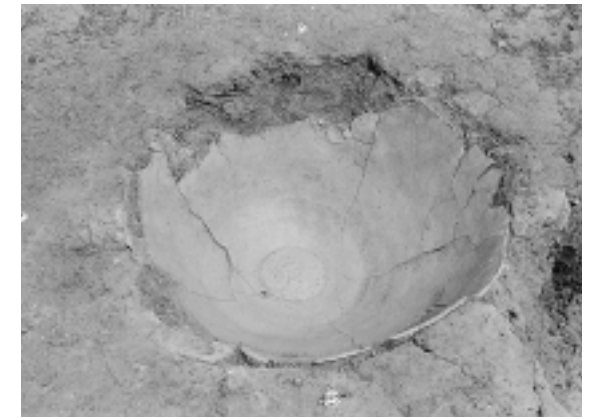
1 1B地区埋甕群 (北から)



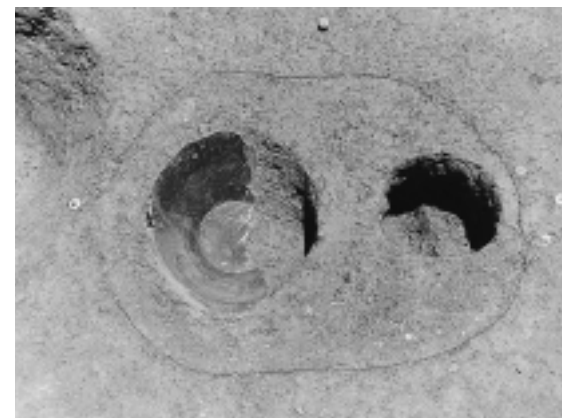
2 1B地区埋甕群 (西から)



3 1B地区SK1441埋甕出土状況 (北から)



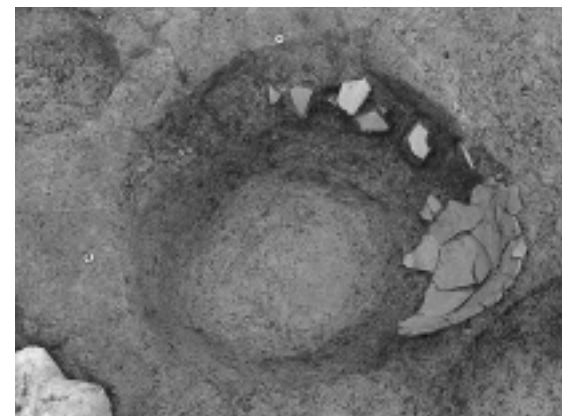
4 1B地区SK1441埋甕埋置状況 (西から)



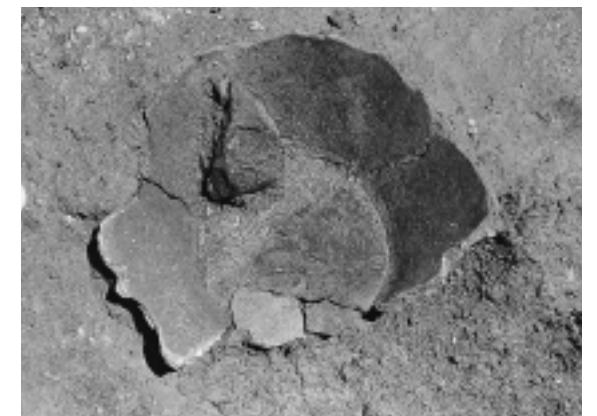
5 1A地区SK1300埋甕埋置状況 (西から)



6 1A地区SK1300埋甕埋置状況 (西から)



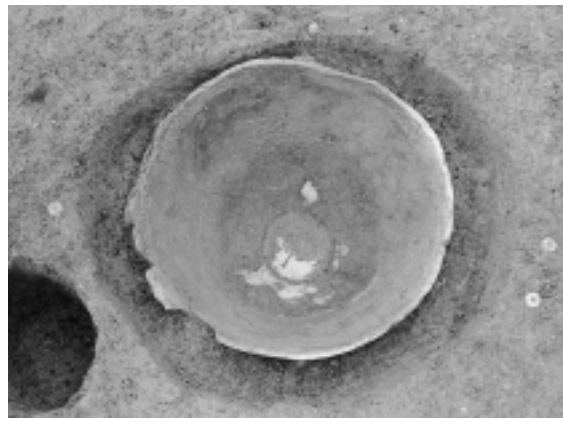
7 1B地区SK1425埋甕埋置状況 (西から)



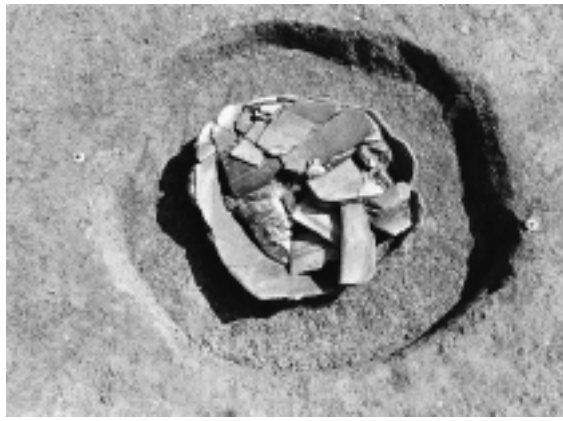
8 1A地区SK1310埋甕埋置状況 (南から)



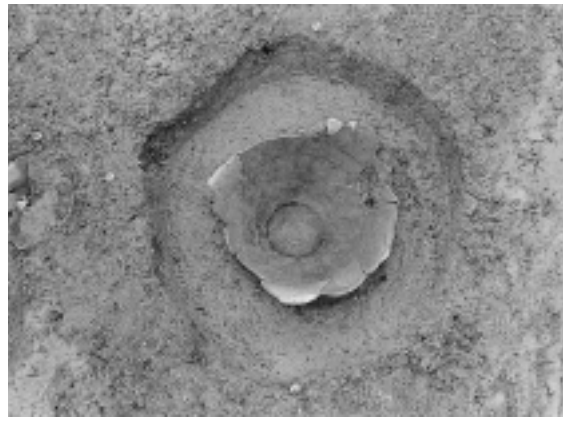
1 1 A地区SK1301埋甕出土状況(北から)



2 1 A地区SK1301埋甕埋置状況(東から)



3 1 A地区SK1306埋甕出土状況(南から)



4 1 A地区SK1306埋甕埋置状況(東から)



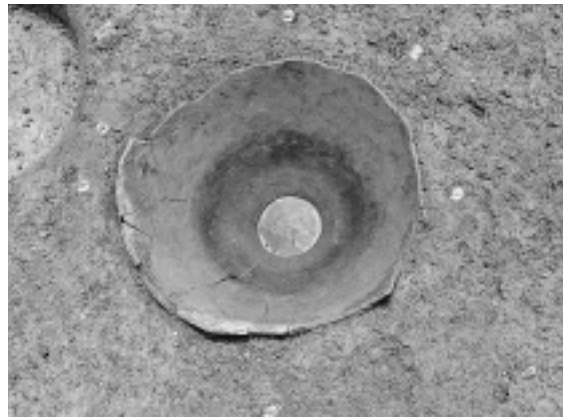
5 1 B地区SK1402埋甕出土状況(南から)



6 1 B地区SK1402埋甕埋置状況(北から)



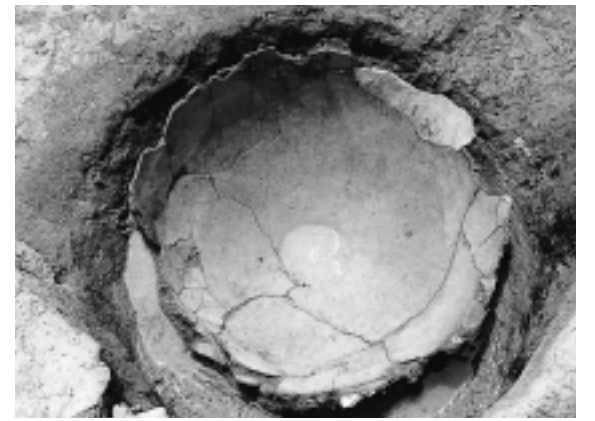
7 1 B地区SK1418埋甕出土状況(南から)



8 1 B地区SK1418埋甕埋置状況(西から)



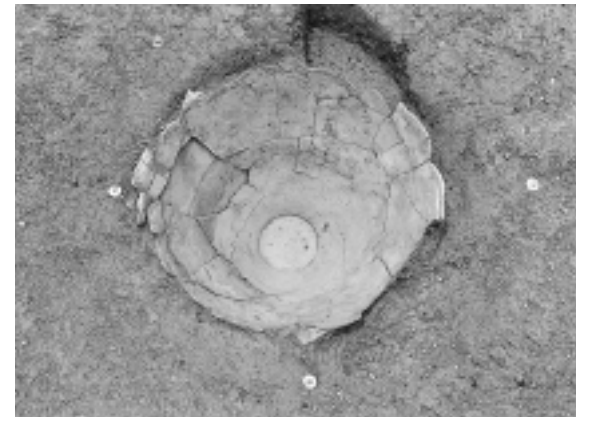
1 1 B地区SK1420埋甕出土状況(北から)



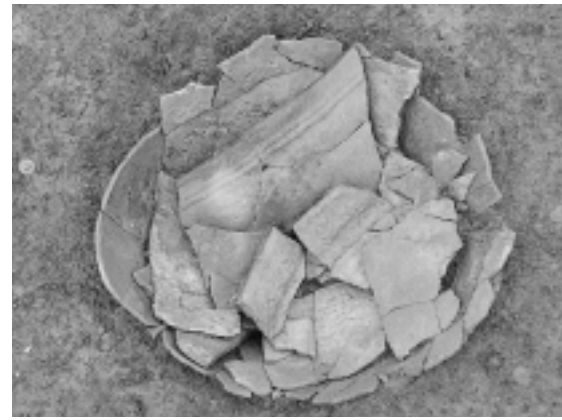
2 1 B地区SK1420埋甕埋置状況(北から)



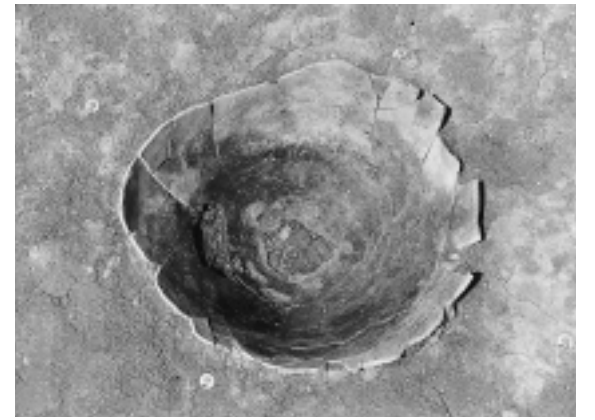
3 1 B地区SK1426埋甕出土状況(西から)



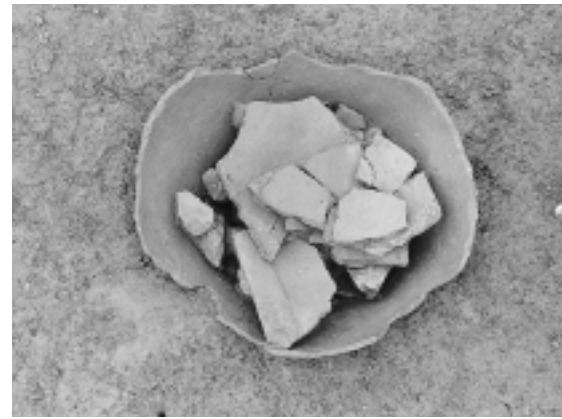
4 1 B地区SK1426埋甕埋置状況(北から)



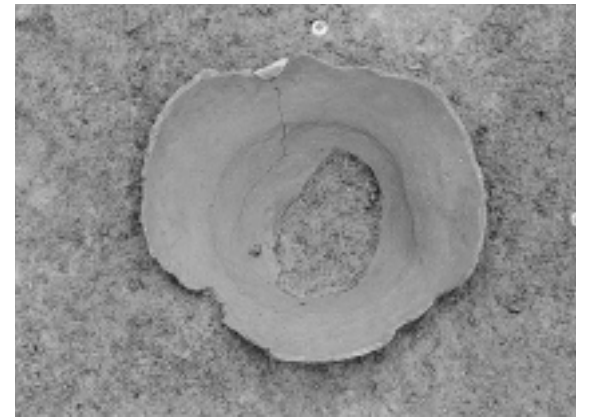
5 1 B地区SK1492埋甕出土状況(南から)



6 1 B地区SK1492埋甕埋置状況(南から)



7 1 B地区SK1530埋甕出土状況(南から)



8 1 B地区SK1530埋甕埋置状況(南から)



1 1 A地区SK1289埋甕埋置状況(北から)



2 1 B地区SK1419遺物出土状況(北から)



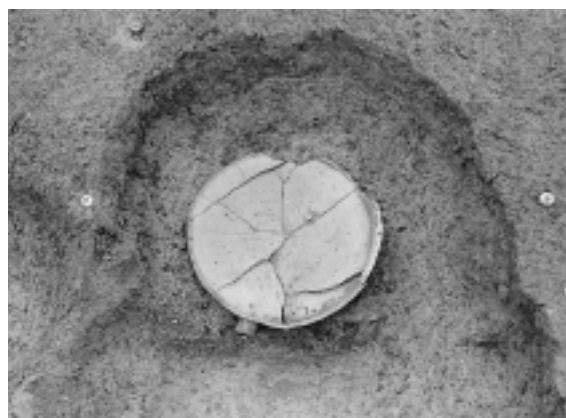
3 1 B地区SK1453遺物出土状況(北から)



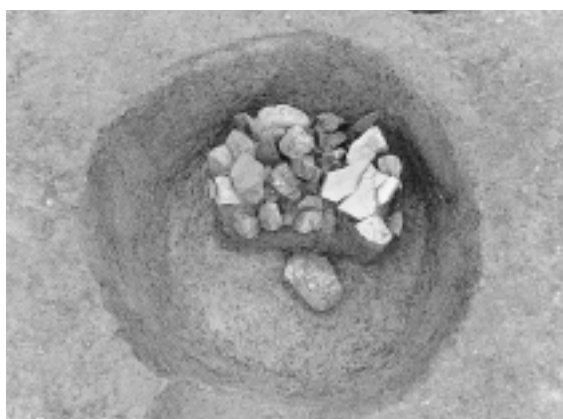
4 1 B地区SK1506遺物出土状況(北から)



5 1 B地区SK1620遺物出土状況(南から)



6 1 B地区SK1620風呂釜出土状況(西から)



7 1 A地区SK1319遺物出土状況(南から)



8 1 B地区ST1400遺物出土状況(北から)



1 1 A地区SE1186遺物出土状況(南から)



2 1 A地区SE1186完掘状況(西から)



3 1 B地区SE1403木杭出土状況(西から)



4 1 B地区SE1403完掘状況(南から)



5 1 A地区SD1473完掘状況(西から)



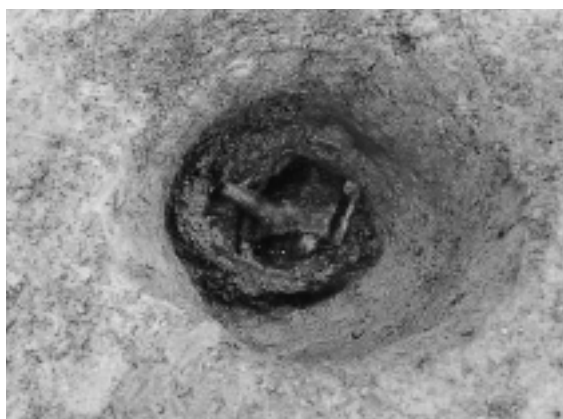
6 1 B地区SD1473完掘状況(東から)



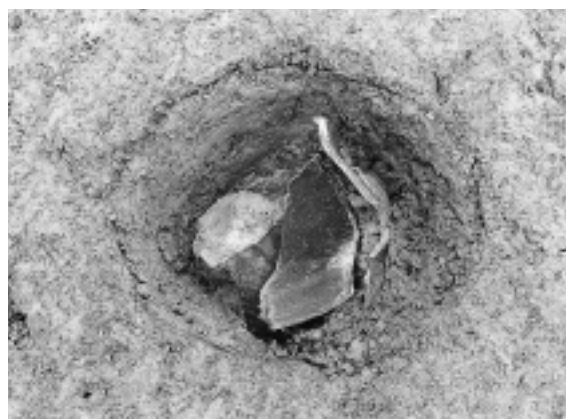
7 1 B地区SD1411完掘状況(北から)



8 1 B地区SD1411石積み遺構検出状況(西から)



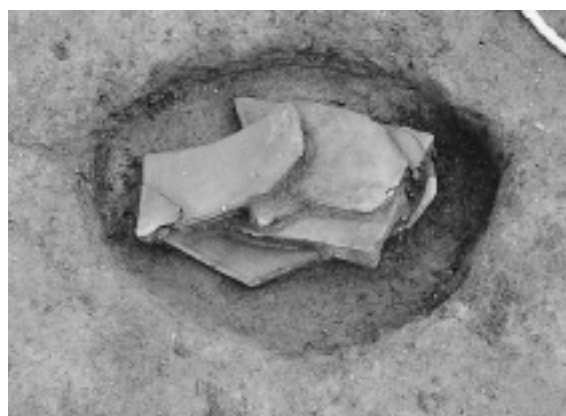
1 1 A地区SP1136遺物出土状況(北から)



2 1 A地区SP1075遺物出土状況(北から)



3 1 B地区SP1479遺物出土状況(南から)



4 1 B地区SP1389遺物出土状況(南から)



5 2 C地区SP2112遺物出土状況(西から)



6 2 C地区SP2136遺物出土状況(北から)



7 2 C地区粘土採掘坑5トレンチ確認状況(北から)



8 2 C地区粘土採掘坑2トレンチ確認状況(東から)



1 1 B地区南側遺物包含層掘り込み状況(東から)



2 1 B地区南側遺物包含層土層断面(東から)



3 1 B地区南側遺物包含層遺物出土状況(東から)



4 1 B地区南側遺物包含層遺物出土状況(東から)



1 2C地区南側遺物包含層掘り込み状況（南から）



2 2C地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）



3 2C地区南側遺物包含層遺物出土状況（西から）



4 2C地区南側遺物包含層遺物出土状況（東から）



5 2C地区南側遺物包含層遺物出土状況（南から）



9



10

埋甕遺構出土遺物（上 SK1418 下 SK1492）



11

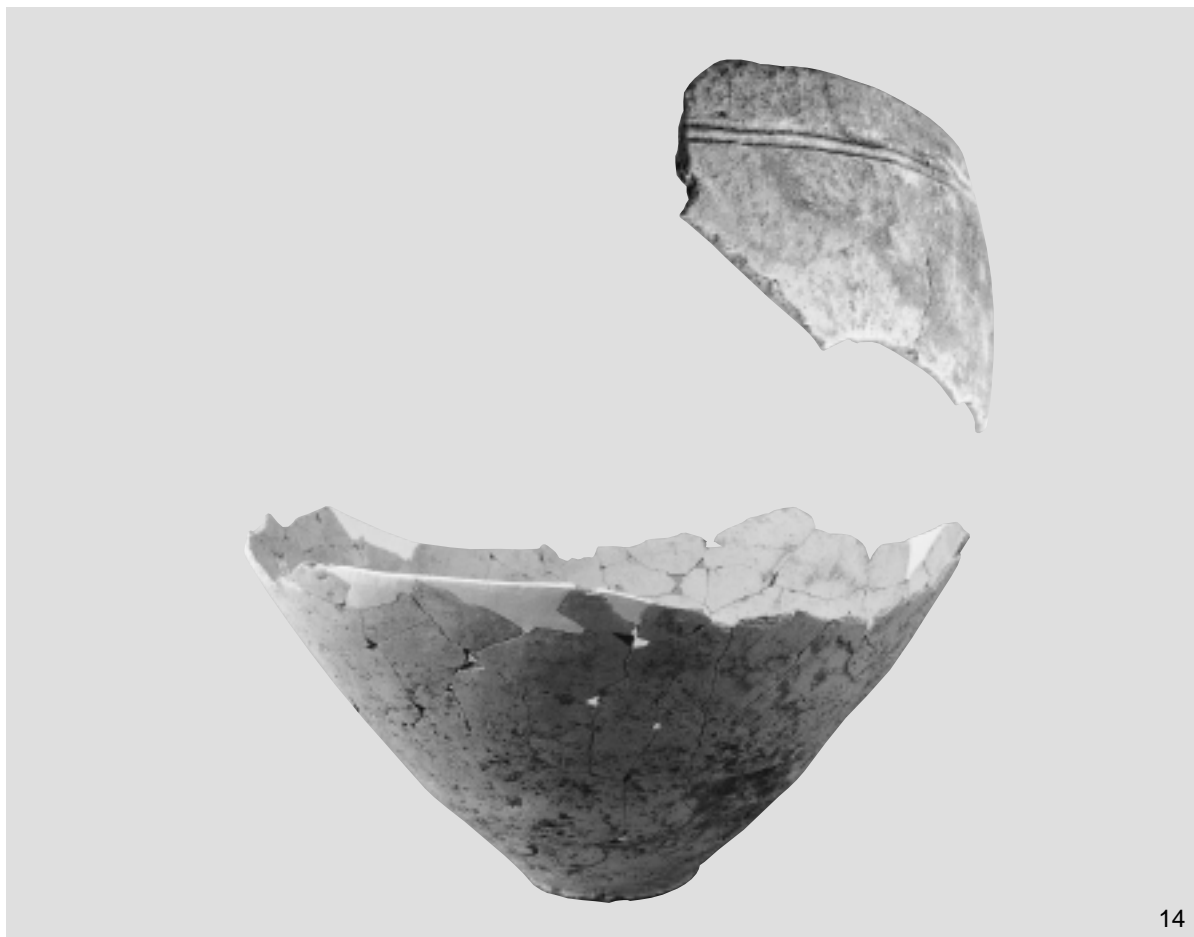


12

埋甕遺構出土遺物 (上 SK1420 下 SK1441)

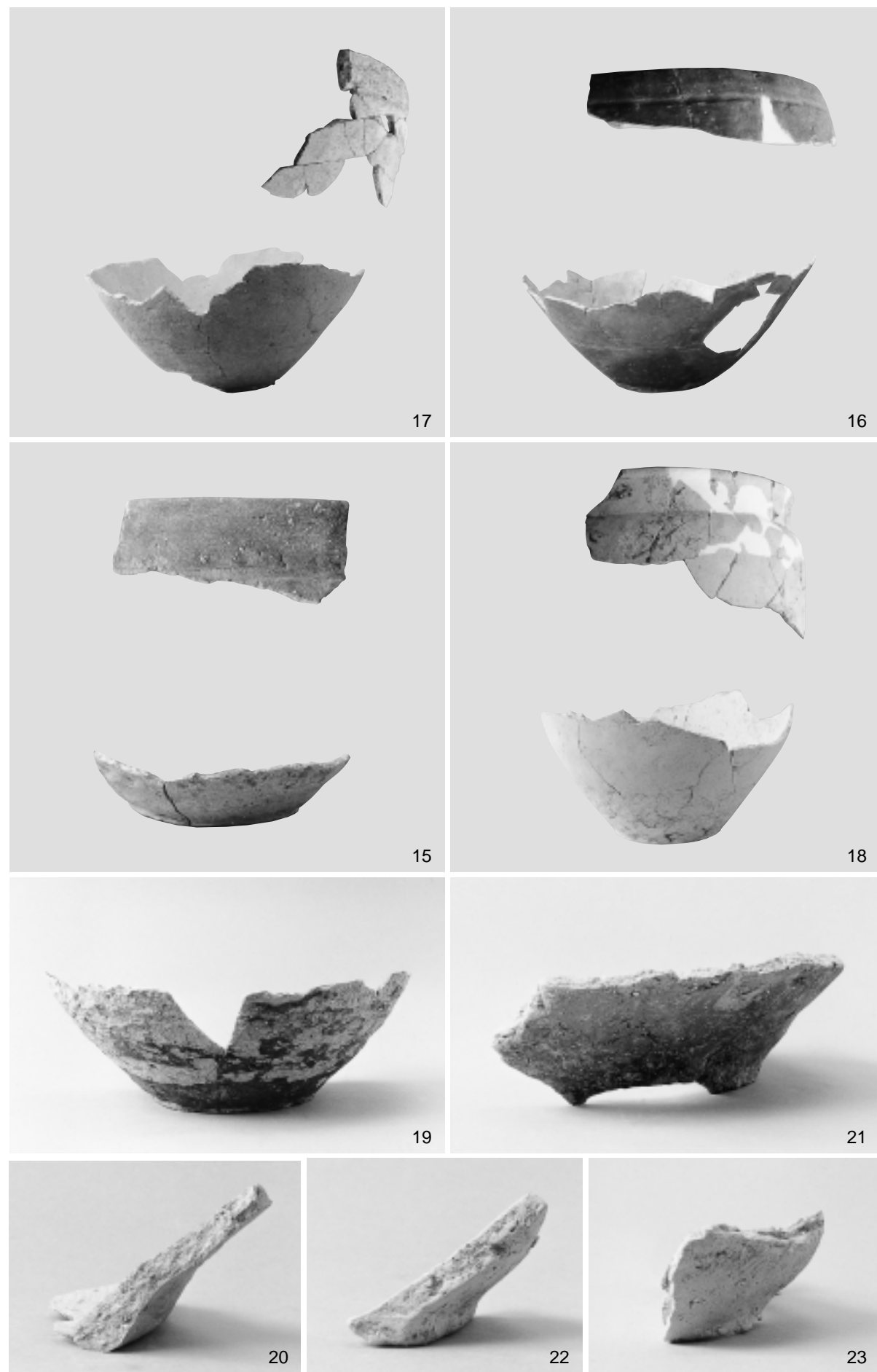


13

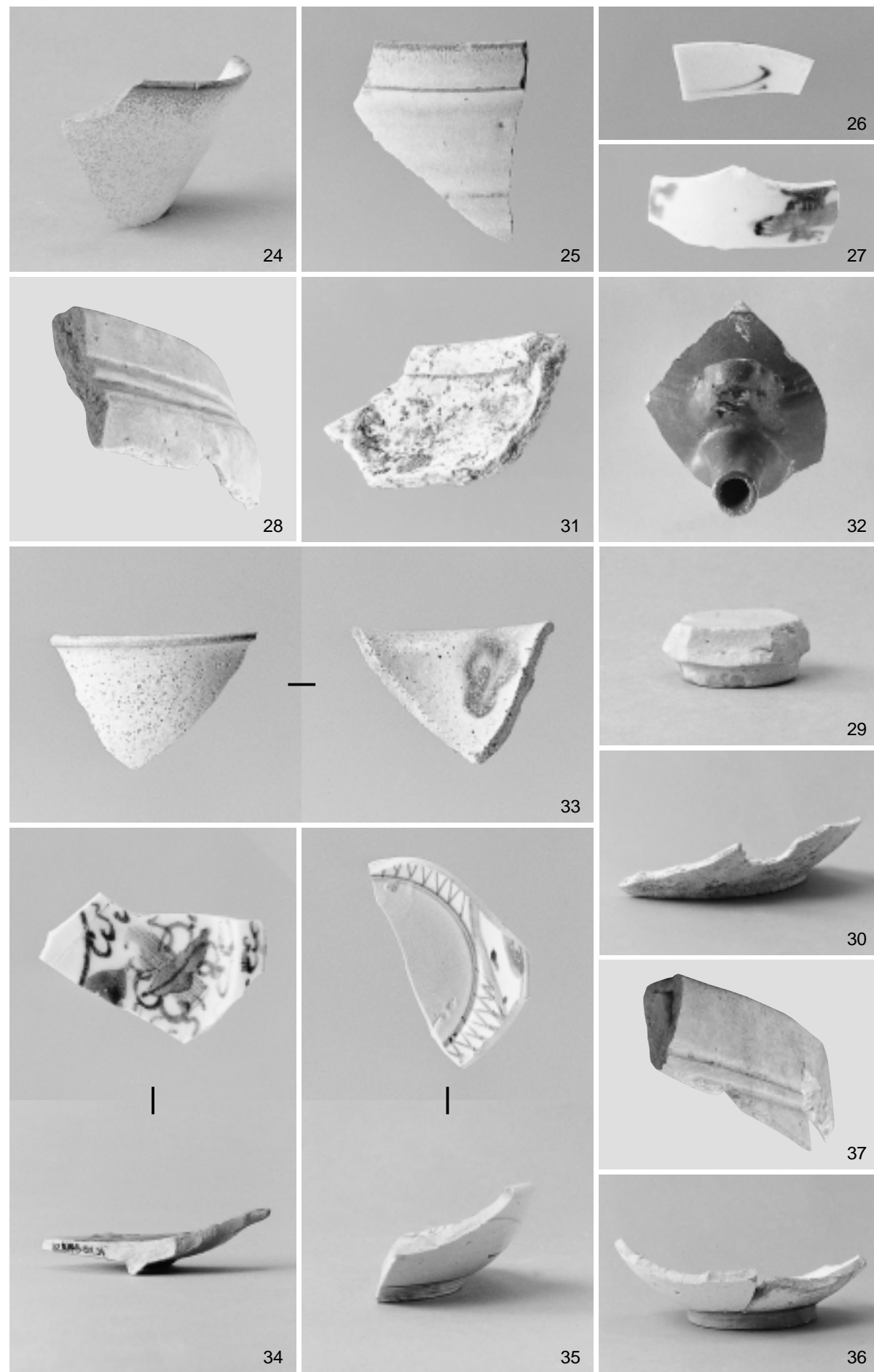


14

埋甕遺構出土遺物 (上 SK1301 下 SK1426)



埋藏遺構出土遺物



埋藏遺構出土遺物

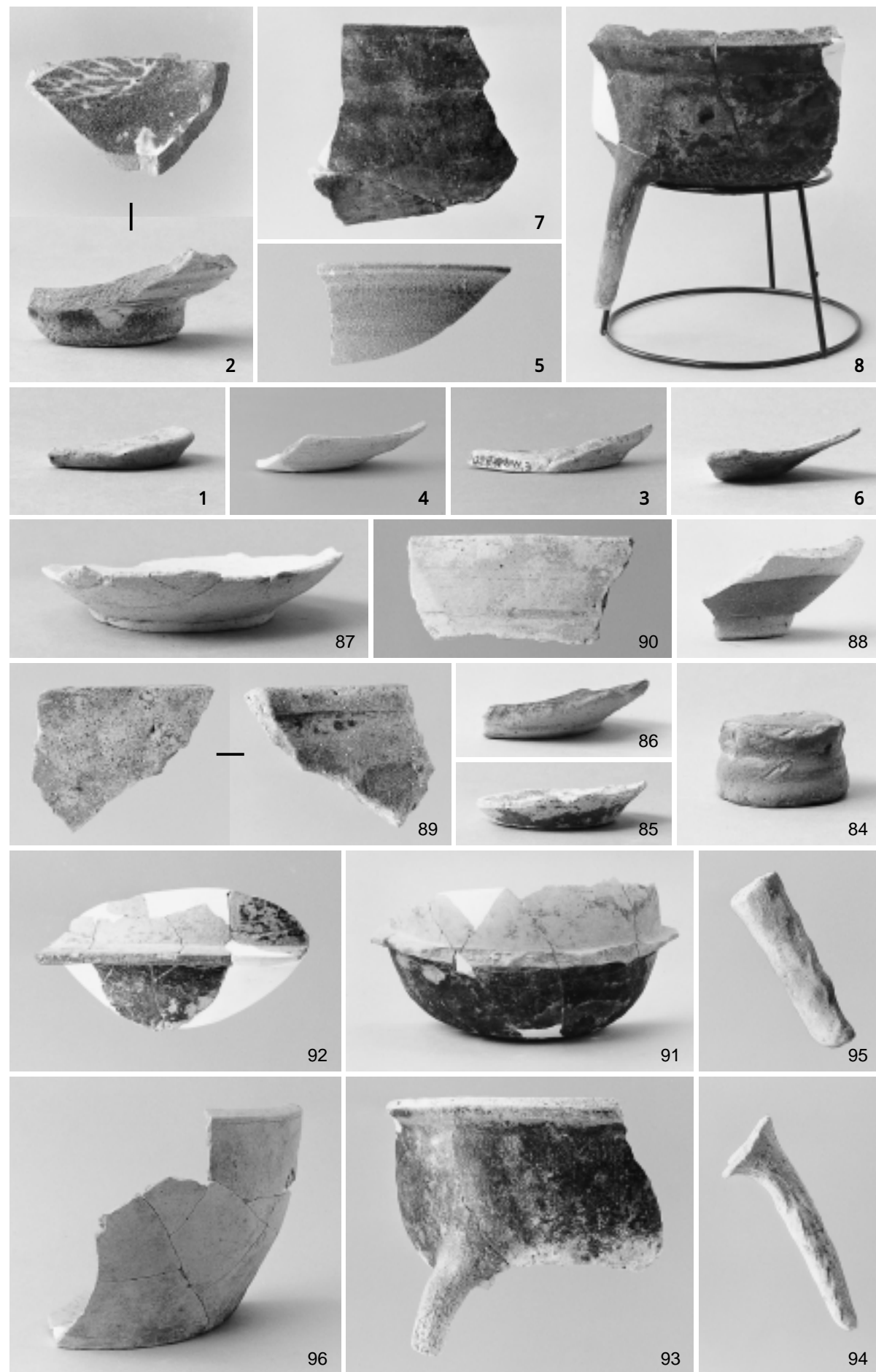


埋藏遺構出土遺物 ・土坑出土遺物

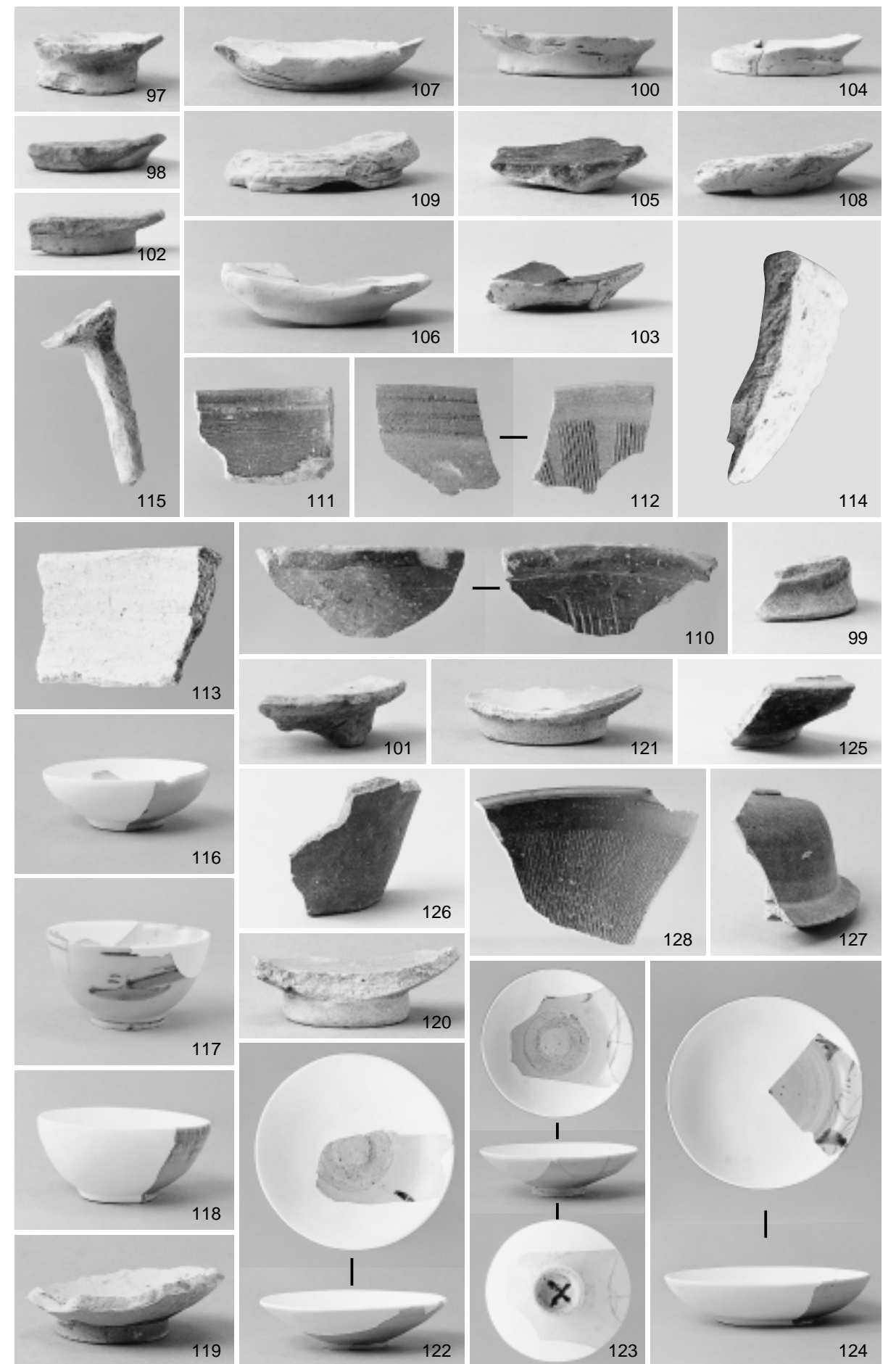


墓・井戸・溝状遺構出土遺物

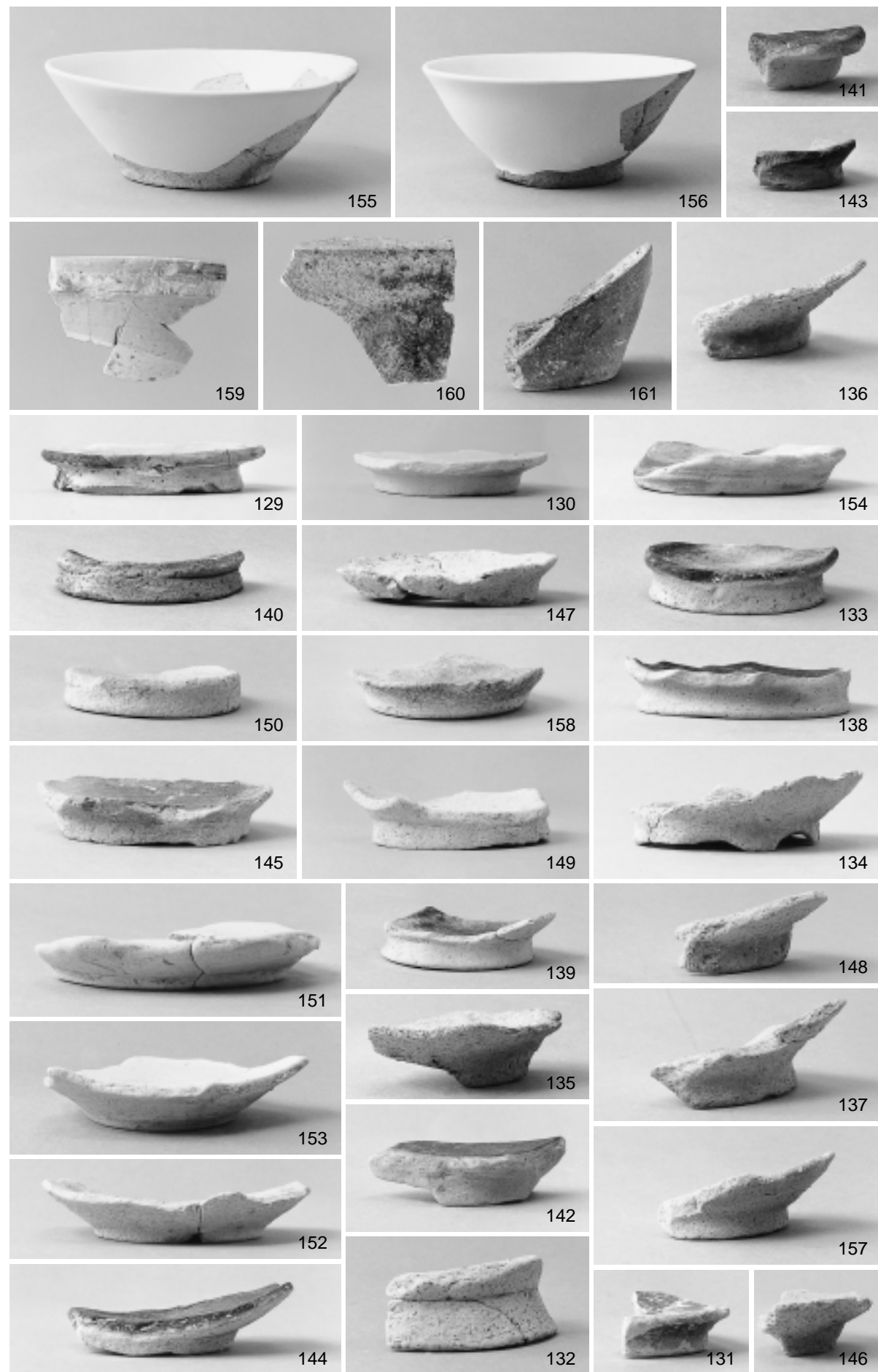




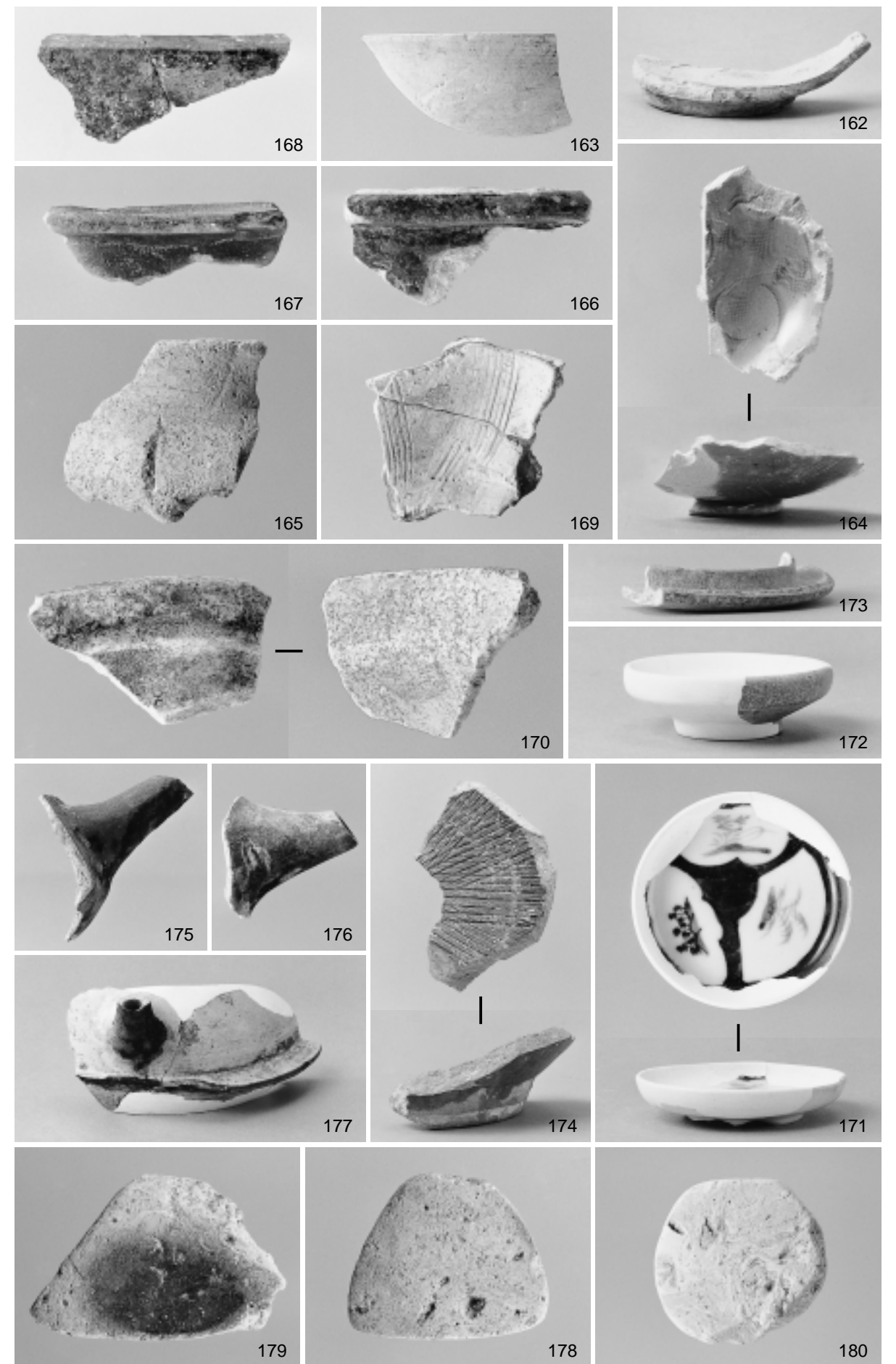
掘立柱建物跡・柱穴出土遺物



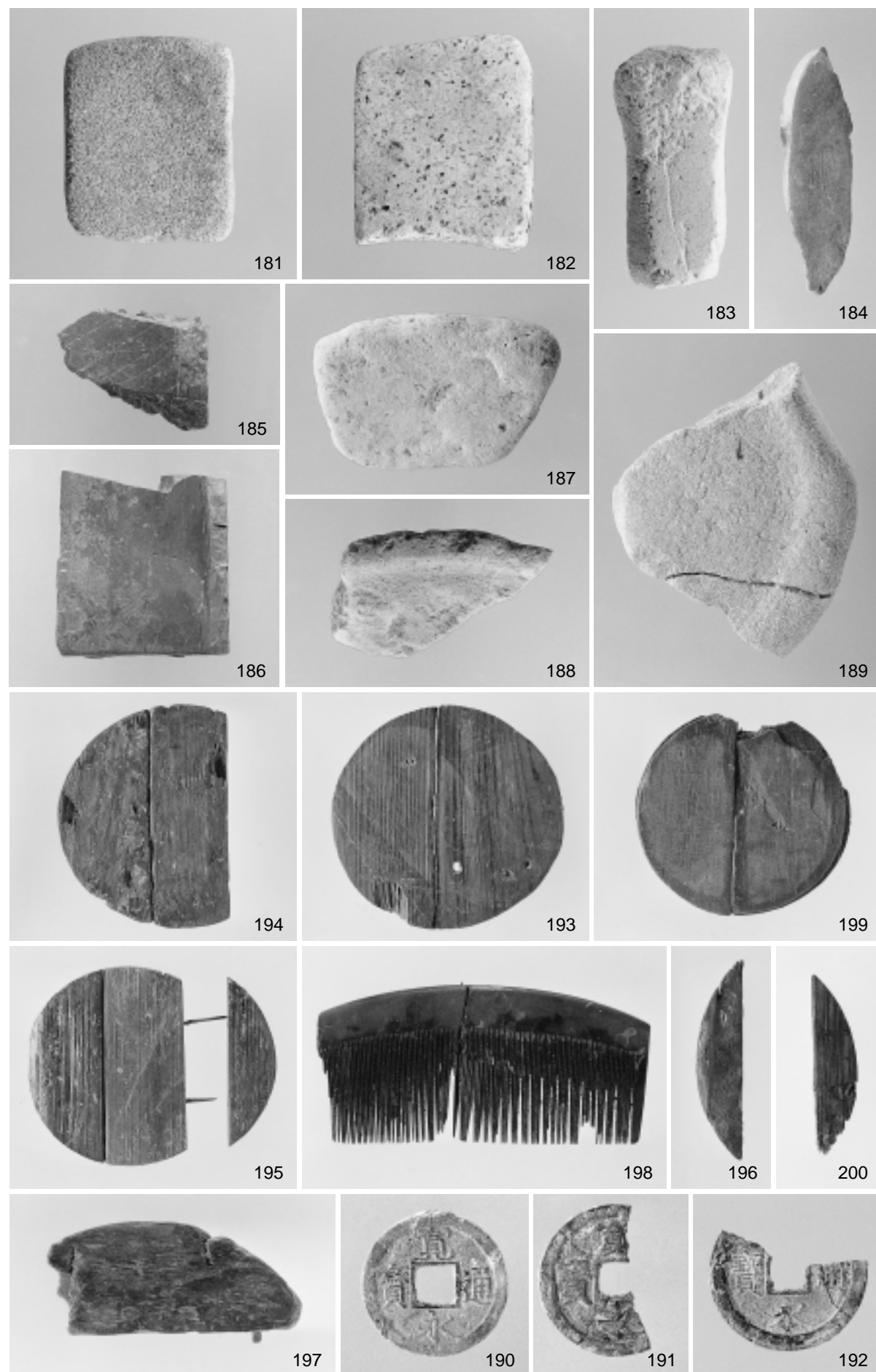
1 B地区南侧遺物包含層出土遺物



2 C 地区南侧遺物包含層出土遺物



2 A 地区第1面掘り下げ層出土遺物・表面採集遺物・土製品



石製品・金属製品(銅銭)・木製品

## 報告書抄録

ふりがな	とうぜんじ・くろやまいせき(ひがしおおえん・かみとくだちく)
書名	東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)
副書名	
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第34集
編著者名	上山 佳彦 林 修司 池山 正
編集機関	財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753-0073 山口県山口市春日町3番22号 TEL 083-923-1060
発行年月日	西暦2003年3月24日(平成15年3月24日)

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°	°		m <sup>2</sup>	
とうぜんじ・くろやまいせき(ひがしおおえん・かみとくだちく地区)	やまぐちけん山口市(東大円・上徳田地区)	35203		34° 4 59	131° 27 4	20020408 20020904	3,100	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)	集落跡	古代 中世 近世	掘立柱建物跡 22棟 埋蔵遺構 15基 土坑 41基 墓 1基 井戸 2基 溝状遺構 6条 柱穴 約700個 粘土採掘坑 5基	土師器 須恵器 緑釉陶器 瓦質土器 輸入磁器 陶磁器 土製品 石製品 銅銭 木製品	埋蔵遺構は、抜き穴と比定できるもの19基を含めると34基にのぼり、県内有数の検出数となった。

山口県埋蔵文化財センター調査報告 第34集

# 東禅寺・黒山遺跡

(東大円・上徳田地区)

2003年 3月

編集・発行 財団法人山口県教育財団  
山口県埋蔵文化財センター  
〒753-0073 山口市春日町 3 番22号

印 刷 瞬報社写真印刷株式会社  
〒752-0927 下関市長府扇町 9 番50号